

座敷並に娼妓營業を出願し同月廿日現在地に許可されてより又漸次繁昌を回復し新堀遊廓と並びて今日に及び

○新町 新町は本市最近の新開地なり之は西汐入川の流末にして藩政時代には船庫の設けありしといふ大正元年港灣の浚渫土砂を以て埋立たる爲二十町一反六畝十三歩の地を得たるが其内甲號埋立地を以て宅地となして一町を設け新開の町なるによりて新町と稱するに至れり(同)

○濱町 濱町は現丸龜驛前面一帯の地にして西方の盡頭は丸龜港口を前にせり西汐入川の水は此濱に至りて海に注ぎたるより此名あり以前は一帯の砂濱にして其一部は墓地なりしといふ故に此地を堀れば其證跡を發見すと(同)

○本町 本町は通町より西多度津街道に通ずる縣道筋にして以前は横町と稱して人煙極めて稀に道路も頗る狭少なりしが享保十九年三月本派本願寺別院たる現市外鹽屋別院の建立して以來信者の參拜する者は悉く此道路に頼るに至り漸次繁盛に赴きて儼然たる市街を成すに至れり横町を今の名に改めて一丁目より四丁目としたるは市制施行後なり(同)

○富屋町 富屋町は昔時兵庫町と稱せしが元祿九年福島橋落成の時に今の名に改む舊城壕の北より舊福島橋筋を本町の角に至る南北の通にして小地名に十軒屋、妙法寺横手の稱あり(同)

○法音寺(同所)あり、日宗海徳山と號す。攝取院京都光明寺

傍に移し後復今の所に移せしなりと(現住龜井山聖濱)

○弘聖寺(富屋町) 眞言宗鹽飽島正覺院末如意山と號す。萬治元年高野山小坂坊増養の再建なりと稱せらる

○妙法寺(富屋町)あり、正因山實相院、天臺宗日光御宮毘沙門堂末寺)本尊大日如來脇士(天臺智證大師、根本傳教大師)鎮守社(山王觀現) 大師堂元三大師貞岳靈神(境内)あり、當藩岡氏靈神を祀るなり)

常寺は初豊田郡觀音寺村にあり今彼地に妙法寺屋敷といふあり其時は日蓮宗なりしが慶長年中今の地に移して今の宗に改むるは東叡山久遠壽院傳記にみえたり爾來東照宮御年忌毎に日光宮御社參の節は彼地より廻狀來りて出勤あり万部讀經御經衆に召加へらる。是例なり。扱此寺は金毘羅金光院へ由緒ありて中興用院王此地に來れる時は宿坊となれり、是に依く今の鎮寺の社は象頭山三十番神社造營の時當寺に送りたるとなり正面の彫物は左甚五郎の作なりといひ傳へり。

往古は豊田郡和田村正因山に在しが長會我部元親の侵略の時兵燹に罹り記録散失せしを以て其詳を知るに由なし文録四年日蓮宗不受不施派となりて同郡坂本郷に移り日眼上人中興の開山となりしか寛文六年同派禁制したるより天臺宗に改たり○蕪村寺蕪村寺は富屋町に在り妙法寺と稱す。天明年間與謝蕪村笈を曳いて此に來り本寺に淹留し興に乗して揮毫せる名畫頗る多し其收藏せるもの時價萬金に上るを以て人稱するに蕪

末寺)本尊阿彌陀佛觀音堂(十一面觀音) 脇士(毘沙門天不動明王)地藏堂

當寺は初播州龍野にありしを壽覺院といふも此地に移せり。寺内に儒者三田義勝、井上通女俳人齊田五蕉等の墓あり。

○宗泉寺(同所)あり、圓龜山詮量院と號す。日蓮宗京都妙顯寺末寺)本尊首題鎮守社(清正公三十番神)

當寺は初播州龍野にありを法音寺と共に此地に移せり。萬治三年十月僧日雄の開山寺内に儒者渡邊柳齋詩人尾池桐陽等の墓あり。

○本照寺(同所)あり、陽而山と號す。日宗 京都本能寺末寺)本尊首題(鬼子母神、栗嶋大明神) 鎮守社(三十番神) 僧日意の開山寺内に醫家宮武器川の墓あり。

○善照寺 善照寺は富屋町にあり往古は眞言宗なりしか慶長年間教雲の代に至り那珂郡中府堂の本に一字を建立して眞宗に歸依改宗し寛永中住僧了圓の時山崎甲斐守築城の事ありし時今の地に移れり(現住職三原俊榮)

○藥師院 藥師院は富屋町にあり往昔此地の海上より一匹の巨龜聖徳太子作彌陀の像を負ふて波越山に登りしより此所に寺を建て、龜寺と呼ぶ慶長築城の際山麓に移したるが此像後に至り朽腐せるを以て行基作の彌陀像を更に安置せり爾後山崎氏築城の際又現今兵營良の隅に移し次で綾歌郡西二村双子山に移し復た市内農人町舊顯性寺即今の南條町玄要寺の南門の

村寺を以てす遠方より騷客俳人の來つて觀覽を請ふ者多しと云ふ。

○鹽飽町 鹽飽町は富屋町と並ひて其西方に在る町にして鹽飽島の魚民が昔時生駒氏に従ふて朝鮮征伐に水夫となりし後初めて移住し來りたるより此名を負へりとの説あるも確たる證左なし富屋町南角より東に通ずるを堀端といひ本通りより南條町に通ずる細き道を本照寺横手といふ(同)

○南條町 南條町は本町三丁目西より南地方に通ずる一條の街にして寺院多し慶長築城の際に今の綾歌郡の一部なりし南條郡の村民の移住し來りし者の草創なれば此名ありといふ往時は上下二條を別稱せるも今はそれを廢せり。

●城乾尋常高等小學校 は南條町に在り明治二十年四月小學校令の改正に伴ひ新築し丸龜高等小學校と稱したるが同三十四年九月丸龜尋常小學校分離して城西城北の二校となり次で同四十一年四月義務教育延長に伴ひ新校舎を中府字景川に起して本校となし從來の校舎を分教場に充て明治四十三年四月より現稱に改め尋常科兒童の一部をも收容することゝなれり(現校長永井愛太郎)

○壽覺院(下南條町)あり、淨土宗京都智恩院末寺) 本尊阿彌陀如來地藏尊鎮守社(稻荷、平賀明神) 當寺は初播州龍野にありしが京極家封を爰にうつしたまふの後此地に移れり

山崎家治の菩提所なり現に家治及其祖母嫡子の牌存す萬治元年京極氏來りて山崎氏の後を襲ふに至りては大夫佐々木氏の菩提所たりき明治五年舊高松城主の廟屋を境内に移し舊金毘羅大権現の本地佛なりし觀世音像を招して安置せり今の觀音堂是なり

○女要寺(農人町にあり、泰雲山と號す。禪宗京都妙心寺末寺) 京都家菩提所、本尊達摩大師、鎮守五社明神)

當寺初は出雲國に有て泰雲寺と號す、大津宰相高次公の御建立なり高次公法名泰雲寺と稱るを以てなり其男若狹守忠高朝臣法名玄要院殿といへるを以て寺號を改め泰雲山玄要寺と云京極家封を移し玉ふ後今の地に移し代々の國君御崇信なし玉ふ(塔頭慈明院、一心院)今廢す

●南條町にあり古は近江國伊吹山下にありて佐々木家の靈祭寺たり慶長九年京極高次月峯和尚を迎請して開山とし大堂宇を建立し爾來屢々京極氏に隨ひて其封地に移れり現今の寺を建立せしは第四世義海なり元祿十一年十二月晦火災に罹り記録散失せりと京極家累世の香火院なるを以て累世の靈牌を納め墓碑も亦た茲に在り山號は高次の諡號泰雲院殿に寺號は其子忠高の諡號玄要院殿に取りて名づけたるものなりと

○地方 地方といふは慶長開市當時より傳はれる稱呼にして元は三浦の濱方といふに對して名づけられたる農家の集團なりき其一部は舊城外壕西手より北方南條町に至る迄を云ひ小地

して教授業を開始するに至れり。

○東福寺跡(中府村にあり、此地は高松見性寺の舊跡なり天正十六年生駒近矩朝臣城を高松に築き玉ふの時今の地に移し給ふより今は田甫となれり。

○會下天満神社 中府にあり。社僧福壽院祭禮九月十八日祭神菅神は中府字景川にある村社なり當社は宇多天皇御宇仁和年間菅原道真公當國の國司たりし時此地に來りて其風影を見鳴呼美しき景色かなと賞したるにより此所を景川と稱したるなりと云ひ又菅公の支廳を置き屢々出張して郷人の疾苦を問ひ給ひし舊跡なるを以て後年公の恩徳を景慕して爰に祠を立て會下天満宮と稱したるなりといふ神徳赫灼たるを以て參賽の人日夕絶えず。維新前迄は神田一石三斗を寄附せられ今に中府地方二村の氏神として信徒頗る多し

○丸龜驛 丸龜驛は濱町に在り明治二十二年五月の設立なり本線の中央部に位し丸龜港との距離頗る近く殆んど臨港驛と選ふことなきを以て全線中交通最も頻繁なるのみならず貨物の集散も亦頗る多し(高松起點より十七哩三二、琴平間十哩三二)

○電車 電車は丸龜驛の南二丁字堀端を起點として琴平町に通ずる一線あり琴平參宮電鐵株式會社の經營に係る琴平參宮電鐵株式會社は富屋町にあり大正十一年十月の開業に係り當時は市内堀端より中府田村原田金藏寺を経て普通寺驛前間を運

名には昔時代官町と稱せし鷹匠町及裏町ありて舊上南條町の一部も現今此町に屬せり以上を上地方と稱す堀南堀西の小地名あり下地方には市の西端の舊鹽屋門船頭町内間高丸の小地名あり(同)

○妙行寺(地方町にあり、法華宗三野郡法華寺末寺、本尊十界勸請曼荼羅(祖師像)

當寺開基未詳初京都妙覺寺の末寺成しを寛政年中今の本寺廿四世日貫上人の時同寺の末寺となれり。

●孝子小太郎塔 玄要寺境内にあり古ひたる五輪にして孝子坊太郎事本名田宮小太郎の分骨塔なりと上下南條町文久以後農人町に併せ單に南條町と稱す

○中府 中府は仁和年間菅原道真公が讃岐の國司として來りし時支廳を此地に置き那珂郡の治府とせるに因みて此名ありと傳へらる。舊名に持筒町餌指町農人町あり持筒町の稱は極めて古く農人町餌指町も以前は獨立せる一町なりしも今は廢せられて大道下、景川、池ノ下、渦池、上十丁など、共に此町の小地名となれり此地は藩政時代の宿驛の一なり(同)

○丸龜商業學校は中府にあり大正七年三月時の市長樋口徳太郎が本市の商業地なるに拘らず子弟學有の便なき爲め遠く他に學ばざるを得ざるを遺憾として熱心これを唱導し遂に設立の運に至りたるものにして開校如來日淺しと雖も逐年著しき發達を示し始め城乾小學校内に併置したるが本年新校舍を建築

轉せしが本年八月より延長して生野大麻を経て琴平神明町に達することとなりしため琴平宮養客は非常に之を便利とし社運頗る隆盛を加へたり資本金百萬圓社債五拾萬圓社長野田儀一郎)

○丸龜郵便局 丸龜郵便局は明治五年七月一日市内通町に創設れせら同十年十月内に電信分局設置あり同二十年三月分局は丸龜電信局と改稱分置し同二十二年七月兩者を併合して丸龜郵便局と稱し同年九月濱町に移轉す丸龜遞信管理局の新設せられしは此時なり同三十二年現在の地に新築移轉し同三十六年四月一日より現時の名に改まる

○丸龜市記念館 本館は一般に記念公會堂と稱し又聖蹟記念館とも呼ばる、明治五年七月 明治天皇御駐蹕あらせられたる廳舎を永久に保存せんため當時御座所に充てられたる用材を中心として修繕建築せられたるものにて大正七年十二月竣工せり本館は一部二階建にて廣さ百八十五坪七合にして階上の一室こそ往時行在所として玉座に充てさせられたる建物を移したるものなり前庭には 東宮同妃兩殿下御手植の松樹あり(總工費二万五千圓を要し大正八年十一月五日落成式を舉行せり)

○龜山公園 龜山公園は丸龜舊城内にあり大正八年五月市か陸軍省より借地して開園したるものにして其廣袤實に全山三分の二を占む開園日未だ淺きを以て諸般の設備完からざるも誠

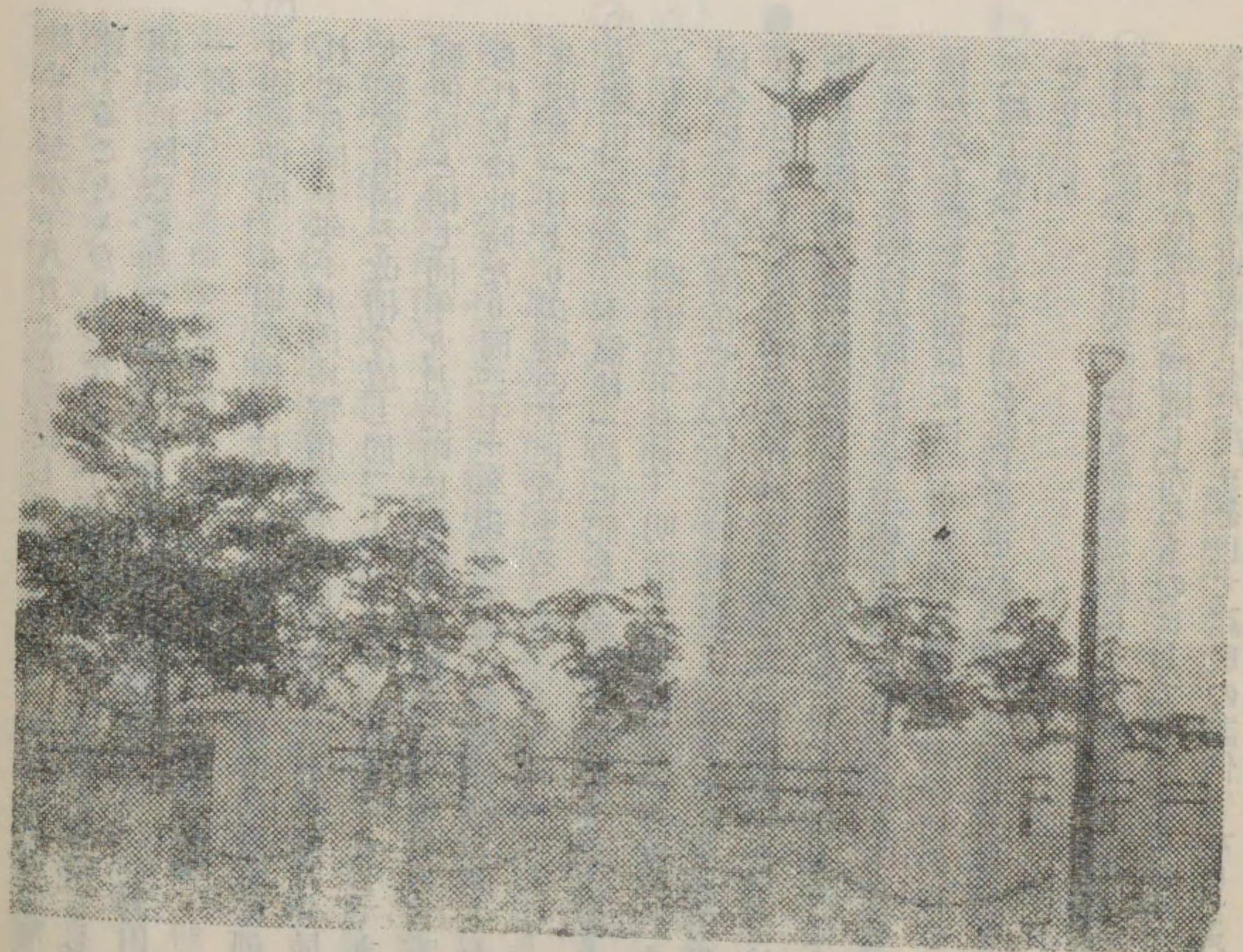
に山上に立ちて北方を望めは一碧萬里測平として際涯なく水
平かにして細波漾々輕舟を弄び軟風習々として空に入るの白
帆遠くして動かす瀬戸の内海正に是れ一青氈に空に過ぎざる
の觀あり又眼を後方に轉すれば遠くは阿讃國境の連山より近
くは象頭雨霧飯山等の諸峰起伏して、其然青螺の如く、平野
の間時に疎林あり疎林盡くる所又人烟を觀るに至りては到底
泉石布置の妙を誇る凡庸の公園と殆んど同一に論ずべからざ
るを感すべし。

●眞島 眞島は丸龜を北に距ること海中二十町上下二島あり上
は土居村に屬き下は中津に屬けり人家なし竹木生茂れり

○眞島遊園は本市土居に屬する離島にして丸龜港を距る約一海
里の北方に在り去大正四年十一月御大典奉祝記念事業の一と
して遊園の設備をなし同五年七月一日より開放せり園内に枕
濤芙蓉放龜仙琴睡仙觀潮沙鷗抱月の八亭ありて風光絶美なる
瀬戸内海の觀大を賞するに饜かしむるに便せり夏期に至れば
遊覽の客頗る多し丸龜十景の一なり

三備如雲橫北空、霧開眞島對西東、潮頭來往千帆影、恰似
浪華翻曉風、

○明治天皇行在所址は丸龜舊城廓内一番丁にあり現今歩兵第十
二聯隊西練兵場の西北部に一株の柳樹の標ある所(今は枯る)
該樹は當時行在所の前庭に在りしものなり明治五年七月明治
天皇畏しくも新設六鎮臺及び分營設立の地理御踏査を兼ね民



明治天皇行在所址碑

情御視察遊はさる思召にて中國西國筋御巡幸あらせられし際
同月四日丸龜港御上陸行幸あらせられ翌五日御駐蹕六日御發
輦遊はされたる聖蹟にして當時の建築物は昨年迄丸龜市役所
廳舎に充られしものにて明治六年陸軍兵營建築の際附近一帯
の民戸と共に拂はれしものにて該建物は聖蹟記念館として地
方に移し規模を大にして永久に保存することとなり大正七年
新築落成し又行在所址碑は東伏見宮殿下に題字の御染筆を仰
き大正十一年六月竣工す碑高さ二十六尺二寸なり。

○忠魂堂 忠魂堂は西練兵場に面し境内地域は偕行社に屬せり
明治三十九年日露戰役歩兵第十二聯隊行屬の軍人軍屬並に本
市出身海軍々人等にして西南役以來國事に殉したる者の忠魂
を祭れる所にして毎年招魂祭を行ふ。

○征清記念碑 征清記念碑は西練兵場の西南に在り明治三十四
年の建設に係る。

○大眞柏 大眞柏は舊城東北四丁餘聯隊作業場の地内に在り舊
藩時代には藩士宮崎某の邸址なりといふ大根幹の太さ八尺五
寸に餘り高さ三十九尺枝葉繁茂して四方に延長せること一の
枝高十一尺南北へ十八尺西に二十尺東に十九尺に及び鬱々葱
々として匹儔罕なる大樹なり

○井上通女宅址 は舊城廓内御手廻長屋にて今六番丁に屬す丸
龜區裁判所と城西尋常小學校の間に宅倉ありて通女は此家に
て呱呱の聲を揚げたるなりといふ、通女は本藩の土井上儀左

衛門本因の女なり母は渡邊氏母は榮萬治三年六月十一日城西
廓内御手廻長屋の邸に生る幼にして穎悟經を本因に學び書を
堀江治部齋に受け十五六歳に至り處女賦及深閨銘を作りて學
者を驚嘆せしめたり年二十三藩侯高豊の母藤堂氏の侍女とな
りて江戸に赴く時東海道紀行の作あり江戸にありては水藩の
儒臣林春齋の門下生等と詩歌を唱和し又た公卿諸侯の懇命を
受けたること數次居ること九年辭し歸るや歸家日記の作あり
元祿二年三田宗壽に嫁し善く舅姑に仕へて二革三絲を生む寶
永七年四月夫歿するや通女九十三歳の舅と八十一歳の姑及び
己か四子を扶養し奉老撫孤の文を草して以て自ら勵ませり元
文三年六月二十三日病で家に歿す遺言により儒禮を以て法音
寺に葬る著す所、往事集正續、秋燈集、和筆記、源語秘訣聞
書外數種あり藤堂氏曾て通女の容姿を評して女三宮と曰ひ貝
原益軒は其才識を稱して有智子内親王以來の人なりと曰ひ室
鳩巢は男子に候はゞ英雄に可相成に惜しき事なりと曰ひ跡部
光海は彼の婦徳を稱揚して閨操の貞正なる世罕に觀る所なり
と稱せり。

○番丁は丸龜城を環りて宅倉の在りし町にして明治初年迄は一
番丁より十番丁迄ありしが同六年廣島鎮臺分營の建設せらる
ゝに至り一番丁より五番丁の一部迄取拂はれ其後陸軍作業場
を設くるに至り又五番丁殘部と六番丁の一部を取拂はれ次で
丸龜中學校を設立するに至り又た七八番丁の大部分も取拂は

れたりし爲に今は僅に六七番八丁の一部と九十番丁を剩すのみとなれり(同)

城西尋常小學校は六番丁にあり明治三十二年十二月一日開校せり校内に御大典記念城西文庫あり大正四年十二月の設置に係れり。

○鶏鳴學館は元福島町にありしが今は玄要寺内にあり同館は明治三十六年十月一日故蓮井麗嚴の創立せる所に係り男子にして義務教育を修了したりし者と否とを問はず既に學齡を超過せる者にして家庭の事情により已むなく他家の被雇人又は徒弟となり居るが爲に學習に志あるも勉學の時間なき者に對し業務の支障とならざる限りに於て國民たるの徳性を涵養し日常必須の學科を慈善的に授くるに在りて佛曉鶏鳴時に於て學を授くる天下一品の學校として其名教育社會に高く毎年内務省香川縣廳及び丸龜市より助成金補助金の名を以て各金額を下賜せらる

○歩兵第十二聯隊讃岐に軍隊を置かれたるは明治四年十二月大阪鎮臺第二分營を高松城内に設置せられたるに初まる當時召集せられたるは岡山名東現本縣兩縣下の壯兵各二小隊なりしが翌年一月更に宇和島縣(現愛媛縣)の壯兵二小隊を召集し六個小隊を編成して十六番大隊と稱せり其廣島鎮臺に屬して高松營所となりしは明治六年一月なりき同年六月十六番大隊は第十六大隊と改稱し次で八月小隊編成を中隊編成に改められ

分立して丸龜聯隊區司令部は更に本市に設置せらるゝ事となれり司令官の姓名(司令官蜂須賀喜信)

○善通寺憲兵分隊丸龜分遣所は明治三十二年四月一日開所せられたるものなるが本市には之より先明治二十九年丸龜憲兵分隊を通町に置かれ多度津琴平高松に屯所を設けたることありしも翌年三月限り屯所閉鎖したり其後善通寺憲兵分隊新設に至りて之に屬して分遣所となり以て今に及べり、所長特務曹長大浦庄太郎)

●縣立丸龜中學校は七番丁にあり明治二十六年四月香川縣尋常中學校丸龜分校と稱し同六月六日開校式を擧ぐ爾後此日を以て記念日と定めたり同三十一年四月獨立の一校となり三十二年四月丸龜中學校と改稱し三十三年三月分校を三豐郡觀音寺町に置けり現稱に改まりしは同三十四年五月一日なり同四十二年三月寄宿舎を校内に置く至誠寮是なり

○丸龜區裁判所は元多度津區裁判所と稱し多度郡多度津村善福寺を借受け明治十年四月二日開廳し同十二年五月那珂郡鹽屋村に移轉し茲に始めて丸龜區裁判所と改稱せり其後丸龜治安裁判所と稱したること有りしも裁判法構成法實施後は依然今の名を稱せり明治十六年六月市内福島町に廳舎を新築移轉し明治二十三年十一月一日より乙號支部として地方裁判所の裁判權に屬する刑事第一審事務を取扱ひ同二十六年九月よりは同しく民事第一審事務をも取扱ふこととなり同二十七年三月

明治七年九月丸龜營所の新築落成すると同時に第二十四大隊を編成し高松の兵は此に轉營することとなり此地か軍隊衛戍地となりたるは此時を以て濫觴とす。明治八年五月從來の第十六大隊を第一大隊に第二十四大隊を第二大隊に編成せり同明治九年四月十日第三大隊の増設あり而して同聯隊が軍旗を親授の事有りしは是より先明治八年九月九日なりき本聯隊は創設年久しく従つて其戰歴の記すべきもの勝けて算ふ可らず今其要を掲ぐれば左の如し。

○西練兵場は歩兵第十二聯隊兵營の東方に在り舊藩廳舎及び宅倉の在りたる所なりしが明治七年民戸は他に移轉せしめ其地を拓きたるなり現今場内に明治天皇行在所址碑あり用地坪數一万九千四百七十一坪あり近時場内の一部にグラウンドを設けたり。

○東練兵場は舊城外壕を堺として西練兵場の東に在り明治二十年頃土居の民戸を移して拓きたる所なり用地坪數五万四千七百七十二坪なり又場内作業場は一万九千五百八十坪あり

○丸龜聯隊區司令部は明治八年歩兵第十二聯隊編成に伴ひ後備軍司令部を聯隊營内に設置せられたるが明治十九年松山に移轉し次で翌年旅團司令部と共に丸龜城内に移轉して丸龜大隊區司令部と改稱し同二十九年四月官制改正に伴ひ丸龜聯隊區司令部と改まり。同三十六年位置變更の結果善通寺に移りたるも同四十年九月に至り管區改正あり十月三十一日善通寺と

那珂郡丸龜町字六番丁に移轉し同三十一年九月十日より豫審事務をも取扱ひ居りしか大正二年四月二十一日高松地方裁判所丸龜支部を廢せられ同日觀音寺區裁判所廢止の結果同裁判所の管轄に屬せし一切の事務を件合することとなりしが大正八年復た高松支部を置かれて今日に及べり

●丸龜市役所 明治三十二年四月より濱町に設置しありしが後ち上地方に新築移轉せり

●丸龜高等女學校は地方にあり明治三十二年五月十三日私立丸龜女學校を起し市内有志者の醵金と市の補助費とを以て經營したるを以て動機となす同三十八年三月二十七日設立許可を得四月一日より市内地方の民屋を假校舎に充て同月十八日開校式を舉行せしが翌三十九年四月縣立となりて現稱に改め同四十一年十一月今の地に校舎を新築し十一月移轉せり寄宿舎は校内にありて時習寮といふ明治四十五年十一月の設置なり

○井上文庫は高等女學校内にあり此地出身の名媛井上氏通女の遺徳を欽仰するの意味にて其姓名を冠せり明治四十年八月の創立に係る

●井上紀念館女學校前にあり昭和三年五月二十日落成式舉行女學校敷地坪數五、〇〇〇〇職員二七名

○新田新田は又町新田とも稱す相傳に岸本丁郎重綱の裔又右衛門といふ者鹽飽島より來り承應年中に此地を拓けり今に至るまでまだ其名を得ず町新田とも又丸龜新興とも云へりと「西

讚府志に見ゆ(同)

○金倉金倉は上下及び現今の仲多度郡龍川村の内金藏寺と共に金倉郷に屬せり地名の起源は延長年間和氣廣足金藏寺開拓の時數々金銀を掘出したるより此名ありといふ(同)

○八幡神社(村社) 下金倉村にあり、社僧福壽院、祭禮八月十五日

當社は延長五年八月多度郡道隆寺祈善法印詔を奉して五ヶ所に勸請せし其なり康平五年奥州夷安倍貞任征伐の時諸國に詔して神社を造營し放生會を初むといへり。慶長四年八月十四日修理造營迂宮導師は道隆寺良田法印たり、寛永八年九月十四日修理

一説下金倉に在り品陀和氣命外四神を合祀す慶長年間阿波權田村の住人遠山甚太夫の建立と稱せらる。

○西教寺(上金倉にあり、金剛山堅固院と號す。京都奥正寺末寺) 本尊阿彌陀如來

當寺は永正八年玄勝と云者の開基にて金倉顯忠の建る處なりと云

○圓龍寺(上金倉村にあり、金顯山と號す、一向宗京都奥正寺末寺) 本尊阿彌陀如來、金倉顯忠墓境内にあり

當寺の住僧は顯忠の後裔なりとぞ相傳ふ金倉顯忠の弟總左衛門顯久なる者兄顯忠戦死の後髪を薙て一寺を立て金顯山智淨院と號す天臺宗なりしが後蓮如以人に歸伏し眞宗に改め寛永

しと思ひ那珂多度宇多津の邊境をおらしける羽床長尾香川奈良等是を惡みて取ひしくへきと相定ける香川山城守信景西三郡の勢をそろへ二千人を以て那珂郡に打出る香川方より手合として瀧宮豊後瀧宮彌十郎福家七郎二百餘人の勢を以て加勢す。既に合戦はじまり香川方梓田、和田、小田、小野輪佐大平山地等一二百の手組を定めて合戦の備を立てり金倉賢忠諸手の事不構して香川信景の旗本へ打て懸る爰に三野方の勢五百人斗にて働きければ金倉亂て收北する所を香川方福家瀧宮二百人斗にて追討にして荊田の繩手にて賢忠を討取其餘首數多取たり爰に福家七郎か家人岩端與兵衛と云者繩手の勢の中に法師武者に寄合太刀打して終に與兵衛討勝て首を取りたり早軍散じれば鎧甲刀脇指まで分取して從者一人に取持せ我は首と甲を持て歸る。小道にて瀧宮彌十郎行違ひたり、彌十郎其刀をくれよと云與兵衛不及子細不罷成田部彌十郎是非取へと大勢相かさなりて奪ける。福家七郎其場へ馳付何事ぞと尋る。與兵衛は我取たる首を奪取可申とて如此といふ、福家か云其方數多の高名あれば此法師首何にかはせん、相渡し申候へと申せば與兵衛我主の如此と仰上は首斗まゐらす。甲は不成と云て首を渡したる。瀧宮彌十郎其首を香川信景に持來して此度の大将金倉賢忠をば瀧宮討えて候と實験に入たれば信景大に褒美あつて牛の子山の麓にて十二町の所を瀧宮彌十郎へ宛候ひ其後福家瀧宮豊後にも欠所の地五町十町つゝ給り

十二年圓龍寺と號す

○德行寺(下金倉村にあり、無量山と號す、一向宗京都東本願寺末寺) 本尊阿彌陀如來

當寺は昔時堀江村にあり承應年間此地に移す

●金倉川 源を滿濃池に發し金藏寺村を過ぎ下金倉に至り海に入る

○遠津大明神(金倉村にあり、社人中村豊後)

○東坊(上金倉村にあり。無量山一向宗西本願寺末寺) 本尊阿彌陀如來、舊西方寺と號ぐる眞言宗なりしが文明年中賢永なる者蓮如上人に歸伏し今の宗に改む。

○念宗寺(同村にあり。光林山と號す。一向宗京都奥正寺末寺) 本尊阿彌陀如來。

相傳ふ直井光祐と云ふ者承元元年法然の門に入り道場を開き光林坊と號く其後教了本願寺に歸依し寛永十四年寺號を立つ○光明寺(同村にあり、瑞惠山一向宗京都奥正寺末寺) 承元二年淨土宗教了なる者當宗に改む。

本尊阿彌陀如來

○金倉岩跡(同所にあり、其所未詳。)

金倉賢忠爰に居たり。天正元年三月那珂郡金倉の郷に金倉賢忠と云者あり。細川家の士にて晴元朝臣の代迄は多度郡に居住したり三好家に威て三好實休に従ひ一家を立しか今三好家も衰へて面く境を争ふ、平に金倉の近邊を取て大身に成るべ

にき。其後又那珂郡へ香川信景馬を出給ふ時福家七郎も出馬したれば岩端與兵衛事聞及たる間對面あらんとて呼出し金子等給り日比の手揃聞及たり。褒美有て面目をほどこしたる瀧宮彌十郎大祿は請たりといへども貰ひ首取と雖しは面目なき次第也金倉の跡は香川家より仕置し給ひ今度高名の衆又は香川舊功の衆へ割符して加息せよとなり。

●鹽屋と稱するは元和元年三月七日赤穂の住人田中孫六芥五郎太夫外二十七人此地に來り、鹽畦を開て此業を始む遂に村名となれりと云、

●敬愛高等女學校 鹽屋に在り初めシンガー裁縫女學校と稱し後丸龜實科女學校と改稱し創立者室富新輔が慘憺なる苦心を以て經營し來りたるものなるが大正元年十月讃岐佛敎婦人會の經營に移り其組織を變更して今の名に改めたるものなり校地二千三百九十六坪 校舍六百二十二坪七五 職員二十名大正十年以來卒業生五四〇

●鬼屋舖 は中津將監爲忠の墟にして下金倉宇川東にあり爲忠は六孫王經基の五男下野守滿快の遠裔にして父爲景は此地に居りて金倉一原兩郷を領せり、爲忠性勇敢鬼將監の名あり天正三年香川信景羽床伊豆等と戦ひて殺さる延寶年間其故址を開きて田畝となし今猶ほ其名を存す墓は川東にありて鬼塚と稱せり

●火葬場 鹽屋に在り丸龜葬儀株式會社の經營に係るものを第

一とす。

○天満天神社(鹽屋) 宇天満にあり祭神は菅原道真にして鹽屋の産土神なり勸請の年月定かならざれども社傳によれば明曆二年八月再建し寛政十年九月に至り社屋を改築し明治三十三年火災の爲め本殿悉く烏有に歸せるより後に本殿を建造し祠宮岡崎氏御祀の菅公座像を請ふて祭れりと大正二年鹽竈神保食神社春日神社の三座を併合せり。

○今津 此地は昔海水の灣入せる所にして中の津多度の津鵜足の津と相並ひて今の津と名づけられて碇泊の便ありし地なりと故老の傳説あるも確かならず(同)

●城坤尋常小學校 今津に在り元六郷尋常高等小學校と稱せしを大正六年丸龜市に合併せる以來高等科を廢して今の名に改めたるなり

○天神社(村社) 津森字宮浦にあり今津新田津森の産土神なり祭神は天穗日命、正哉吾勝々速日天忍穗耳命、天津彦根命、治津彦根命、熊野樟日命、菅原道眞の六柱を祀れり往古は加治須天神と稱せりと社傳によれば仁和三年春菅原道眞國主として郡内巡視の折吾か遠祖社なりとて奉拜ありし縁由を以て後人相殿に奉祀せるなりと例祭九月廿日より廿七日に至る境内に少名彦神社あり

○八十主神社(村社) 上倉倉字道上にあり、祭神大國主尊往時は道下にありしを寛文四年九月此地に移したるを以て道下に

(現歩兵第十二聯隊營所東南方に明治六年廓内人家取除かる、際標石は他に捨られたり)しが慶長七年生駒一正築城のため神祠を他に奉祠せんとせる時梓原郷王子の森の三枝松の樹上三日三夜異光を放ちたれば一正の此所に移す。今の神社是なり次で山崎京極の二氏來るに隨ひ共に佐々木氏の裔なるを以て尊崇淺からず壯觀に復せり正殿建築入母屋造り本殿九坪五合六勺幣殿八坪七合五勺相殿繪馬堂隨神門等あり神地總計六反一畝十六歩外に宅地五百餘坪あり例祭は陰曆九月十四五日に變更せり(現社掌秋山光壽)本社は例年八月十四五日の兩日を以て執行す而して往昔に於ける祭式の次第は八月十五日寅の上刻に神饌三膳に福酒醴を醸して之を獻し當番の頭人これを調進するの例にして往昔は神饌の御贄は雲雀の炙物を以てせしか後に此に代へて新穀炙り此れを竹器の輪形をなせるものに盛りて供進し其名を燒鳥代といふ是より以來恒例となす供進し終れば宴を設けて盃を賜ふ頭役は六戸ありて何れも山北村下の農家なり毎年各輪番に之を勤むるを以て此六戸を村長と稱せりと

同日卯の上刻に至れば流鏝馬二騎相馳て馬場を縦横馳驅し頭人これを下知す此式終れば巫女神樂を奏す。是れを頭の神樂といふ辰の刻に至れば神輿の渡御あり弓矢、鉾、旗武羅負、駒形、練物等神輿の前を列び行く斯くて未の刻に至れば丸龜の濱福島の假殿に着御あり此處にても亦た神饌神酒等を供進

古宮といふ小祠を存せり

○津森 津森は古昔津の守とあり蓋しこれ津の守人の居りし所なるが故にして古文書には多く此字を用ふと云はる然れども又一説によれば景行天皇の皇子武國凝別皇子の子津森別命兄津森王と共に此地に來りたまひしより今の名ありとも云ふ何れか真たるやは詳ならず(同)

○光善寺(津森にあり、一向宗京都興正寺末寺、光明山と號す) 奈良右内光善と云人蓮秀上人の門に入草庵を結び寛文五年一寺と成 本尊阿彌陀佛

初め光善坊と云ひ草庵を本村田中に結ぶ後三世善宗坊に至り寛文五年寺號を立てた。

○山北八幡神社(郷社) 本市の産土神なれど位置は市外仲多度郡南村大字山北に在り祭神は玉依姫、息長足姫命、譽田天皇にして神靈各別座なり、本社は往昔神功皇后三韓征伐の後筑紫より大和へ御還啓の時風波の爲め御上陸あらせ給ひしに土人敬ひ恐れて土居の靈水を奉りし名蹟にして康平五年源頼義父子か安部貞任を奥州に伐つ時諸國に詔して神社を造營せしめたりし一なりと云ひ又應保年間崇徳上皇此地にて男山八幡宮御遙拜の趾に建しなりとも傳ふ本社は永仁五年修造を加へられ貞治元年七月廿四日海崎元村細川清氏を伐ちて功ありしより謝恩の爲再興を加へし事ありといふ同社の「寶曆略社記」によれば崇徳上皇遙拜の地に建て其位置波越山の北にあり

し巫女の神樂を奏するを以て當日の祭事を終り各自退散すること定例なりと同社「寶曆略記」に見ゆ然れども此祭儀は年々衰へて現今は殆んど當年の盛を睹ること能はず

●福壽院 山北八幡境内にあり、八幡山圓上寺と號す。眞言宗明王院末寺にして永仁以來八幡宮社僧たりしが維新後廢寺となれり

○權堀の井市外六郷村大字鹽屋光明庵境内に在り寺號を正宗寺と呼ぶ眞言宗仁和寺末なり昔時法然上人の讚岐に謫せらるゝや船中水乏しく此地に上陸して飲料水を得んとするも海濱のことゝて水鹹くして飲用に堪へざりしかば上人自ら權を執りて地を掘りしに掘ること一二尺にして既に清水の混々湧出するに至るこれを以て權堀寺の名あり、境内の南方西汐入川の南岸に小井ありて傍に上人尺許の石像を安置す此井潮満ち來れば汐し潮引き去れば現はる而して水に些の鹹味なし寺門に標石ありて南無は船阿彌陀の權で堀る清水末の世までもふつと湧くと刻せり里俗呼んで上人の歌なりと稱するも蓋し後人の詠したるものなる可し此井又た棹の清水とも稱す

●權穿庵(鹽屋村に在り、三野郡伊舍那院末寺) 本尊三尊彌陀○法然堂○鎮守社○管神 昔法然上人當國に左遷の時鹽飽嶋より此地へ船着しけるに水なきを愁ひて此所をかひにて掘たまへは清泉湧き出しを今につたへてかくいふとなむ。當庵初淨土宗なりしが何れの頃よりか眞言宗となりて今の本

寺に属せり

●正宗寺 鹽屋にあり、慧日山と號す。

元光明庵といへり眞言宗仁和寺末寺内に勤王家村岡家の墓あり

○鹽屋別院 鹽屋にあり本派本願寺派の輪番所にして世に鹽屋の御坊と稱し其宏壯なる建物と共に世に名高く四國の二百六十の寺院を總管せりといふ同寺本尊は惠心作阿彌陀佛にして享保十九年三月の創立なり元文以前までは教法寺と稱して村民の菩提所なりしが住職死亡後は本山に收め改築して別院と爲せり西讃の大伽藍にして毎年三月二十八日に尊像會式あり當日は鹽屋市と稱し信者は數里の外より廣集し寺北一帯の海岸は全く歌吹界に變せるの状を呈す境内役寺一字ありて教覺寺といふ

●鹽屋別院 初め讚岐總道場教法寺と稱して居つたが享保十九年住如上人の時坊舎即ち別院となつて一般に鹽屋御坊と稱へるやうになつた。而して本願寺に直屬し崇敬の末寺の三縣香川徳島愛媛三百ヶ寺その信徒四萬を有する全國有數の別院である。

大正十四年四月より幼児保育事業を創設し保育園を經營してゐる

●教覺寺(鹽屋にあり) 眞宗本願寺末寶曆六年十一月建立本願寺別院役寺である。

し北西端より潮水の浸入せる一線の水あれども何れも悪水排除の爲に成されたるが如き觀あり東汐入川は往時舊城外濠の排出する溝川にして西汐入川は市西方の灌漑用剩水を集めて東流して海に注ぐ溝川に過ぎざるの觀あるも往時にありては東川は藩倉米の積卸をなすに利用せられ西川は市の西端なる監屋の仕置場に沿へる爲め其の一部は刑場の構内となり居たるものなり其當時には二川とも川幅廣く東川の如きは小舟の逆航し來るもの絶えざりしといふも今は満潮の時と雖も小舟の外は舟楫を通ずる能はず(丸龜)

○丸龜之人物 (イロハ順)

岩村南里 諱秩字大猷、南里又疎庵と號す通稱半右衛門考諱親房と云幼より靈慧年十三中井竹山の門に學ぶ翁一見神童となす文化元年東遊し尾藤二洲の塾に學ぶ後歸國し正明館教授側儒者郡奉行寺社奉行政事加談等の職に歴仕し天保十三年八月廿七日歿す享年五十九私諡して明哲先生と曰ふ(墓在法音寺)

●入江太郎吉 (徳者)撫松と號す、慶應義塾卒業後丸龜に歸りて家居す常に意を教育に注ぎ頗る功德あり又た財を捨て、公共に盡す徳望全市を壓し人にて仁人の典型となせり明治四十二年歿す、年五十四墓在正文寺

●岩谷光熙 (數學家)本藩の士なり少壯江戸に出て長谷川弘翁に就きて數學の濫奥を極む著書に無極集百題集等あり、明治三年歿す、年五十七墓在顯正庵

●眞相寺(鹽屋にあり) 眞宗本願寺末天保十四年七月眞教開基本願寺別院役寺。

●遍照寺(鹽屋にあり) 眞言宗仁和寺末享保二年八月戒壇なる者創立

●正宗寺(鹽屋にあり) 眞宗本願寺末元光明庵と云ふ天保十四年法群開基。

○萬象園 萬象園ハ市外六郷村下金倉字中津にあり私有公開の一大遊園地なり同園は今を距る二百餘年前元祿元年藩主京極氏が別莊を置きて田獵遊樂の所となし金倉の別館と稱したりしが維新以後は全く廢園に歸し空しく鷓鴣の飛ぶに任せたりしが前年大に土工を起して舊觀に復せしたるのみならず遊樂の設備も整備し海岸には數千坪のトラツクを設け中央は養魚池となしたるを以て境内頗る廣大となれり此園は北方海に瀕し南は遙に阿讃の連峰を望み滿庭悉く松樹にして宛然綠世界の如く曳節の人は全く仙境に入るの想ありと今私人の有となれり

○先代池 丸龜市にあり周圍一里十四町、金倉川源を七箇村大字鹽入に發し下金倉に至り海に入る長さ六里十六町

○河渠 此地に於て河川と稱すべきものは市の西部を貫流せる金倉川の外唯だ一線帯の如き土器川の綾歌郡との境界を爲せる有るのみにして本川は綾歌郡に屬せり、又市内に東汐入川と稱せる市の北東端より潮水の浸入せる一線と西汐入川と稱

●原玉枝 丸龜の人設色花鳥に巧なり天保十五年六月十五日歿す、年五十三

●畑尾茶庵 名は實哉通稱彌三郎丸龜の山水花鳥を畫くに巧なり、明治廿九年六月一日歿す、年六十七

●蓮井麗嚴遍照庵 (志納)松堂と號す幼にして父を亡ひ母に仕へて至孝出て、僧となり釋雲照に従ひて法を學ぶ慷慨にして氣骨あり極めて僧月照の高風を欽會て鷄鳴學館設立者として大日本教育會より教育功勞金牌の賞を受く後母九十餘歳にして歿し次て明治四十五年七月皇上登遐の時悲働遂に殉死せんとせしも侍業嚴戒の爲果すを得ず大正三年四月太后賓天の報を聞くや號泣已まず遂に海を踏んで寂す、年五十八

●日可(直翁) 自ら竹菴と號す丸龜の人なり禪學を學ぶ後禪を棄て法華律を學ぶ寛文紀元病に罹りて終る、年三十有八

●僧日堯日了 (法華僧)義辨院日堯は備前の人上總興津妙覺寺二十世の主にして智照院日了は江戸雜司ヶ谷法妙寺の能化なり共に不受不施派の硬骨として幕府の譴に觸れ寛文五年十月遠流の刑に處せられて丸龜に來り城内の一室に幽閉せられ堯は眞享元年六月六十五歳を以て了は元祿元年八月を以て示寂せり(墓在鹽屋)

堀江治部無は丸龜の人なり書を善くし上代の風を好みり出て京師の留守居たり通女の書道の師なり寶永頃の人

●土肥(大作) 實光幼名猪太郎大作と稱し宇猛輝詩香又甲山と

號す、實光は其諱なり天保八年丁酉九月二日丸龜鷹匠町の邸に生る天性潤達慷慨氣節あり安政四年三月昌平校に入る同六年藩に歸り屢々ば京坂に往來し長士二藩の志士と交り尊攘の爲めに藩論を振起す明治二年十月丸龜藩權大參事に任じ五年正月新治縣參事に轉任す同年五月二十四日夜半屠腹して歿す世人其故を知らず、享年六十六

●土肥七助實忠 舊丸龜藩士、土肥正助實坦の次男にして幼名榮造又庄治、諱は實忠脫藩後自ら七助と稱す天保十四年正月九日生る弱冠にして播州に遊學し歸て四國諸藩に遊び研學す性剛膽にして武技に長す元治以降四方の志士と交り尊王倒幕の爲に計畫する所あり慶應元年七郷の筑前に走るを送る後其終る所を知らず

●里也 丸龜藩主京極氏の輕卒尼崎幸右衛門の女なり、元祿の頃岩淵傳内と云ふ者幸右衛門の妻に懸戀し遂に幸右衛門を殺し逃亡す里也江戸に往き永非源助の家に仕へ武藝を學ひ後遂に傳内の在家を搜り父の仇を報ぜり後藩主は里也を擧げて女公子に屬し永井と改め後永井の局と稱へたりと云ふ

●尾池相陽 諱は繁字は寛翁初め左膳と稱す後相陽と改む醫を業とす少より學を嗜み中井竹山の門に入り經史を學び特に詩學に長す其著に相陽詩鈔あり天保五年七月廿二日歿す、年七十(墓在宗泉寺)

●尾池松灣(亨平) 諱は世璠字は玉民、松灣と號す、別號梅隱

●勝田良延 字を子壽と稱し號を五嶽と云ふ通稱は初め九八郎と稱し後精兵衛と改む享保二年丁酉丸龜藩士の家に生る、文武の聞へ最も高し天明四年正月七日年六十八にて歿す、著述には二考錄、五嶽集、傷寒論、古義解、明詩礎等あり

●勝田鹿谷 字は寧郷、通稱九一郎、丸龜の人なり、嘉永二年十月死す。齡七十三 著す所逸史微考鹿谷隨筆、蕪話、日本詩選、姓名考あり

●加藤梅崖 諱は穀、字は藩士、通稱俊治梅崖と號す。丸龜藩士なり、著す所南雲、搜芳錄、巡封陽秋、及文集等あり天保二年十月二十七日歿す。享年六十三(墓在玄要寺)

●吉田鶴仙 鶴真逸と號す、丸龜の書家安政頃の人墓在正宗寺

●横山關雪 丸龜の人大阪の法橋關月を師とし人物を畫く巧なり文化十二年三月十九日歿す、年四十九

●田岡凌雲 諱は賚字は夢弼、凌雲と號す父を忠眞と云ふ幼より學を好み弱冠江戸に遊び安井息軒の門に學ぶ業成り歸る後藩の嫌疑に觸れ幽囚せらる戊辰の際赦され明倫館教授廢藩後郡書記郷校師等となり明治十八年六月廿二日歿す、年五十三(墓在壽覺院)

●津阪木長 丸龜の人俳諧を以て世に鳴る又畫を能す明治初年に歿す

●中主膳 諱は豹、字は文蔚、清泉と號す丸龜藩士勝村昌方の第三子なり夙に業を渡邊半八に受け後東都に至り尾藤古賀の

舍丸龜藩鑿、尾池桐陽の二子なり作詩に長ず晚年中島棕隱と唱和し覃の韻を疊用し七言律詩百三十首を賦し名家の傳誦する所となれり著す所梅隱詩稿穀似集等あり慶應三年九月二日歿す。享年七十八

●尾崎理左衛門 諱は正漸字は伯鴻車舟と號す。幼にして穎悟學經史を兼ね傍ら詩文を好む勘定奉行寺社奉行等に累遷し維新の際一政に參與し功勞頗る多し明治三年七月廿七日歿す、享年七十八(墓在妙法寺)

●大塚八郎左衛門 諱は長敏字は修甫梅里と號し晩に夢鶴無と號す、經史詩文に通し正明館助教郡奉行寺社奉行勘定奉行等に歷仕し明治二年丸龜藩大參事に任せられ同八年九月十三日歿す、享年七十三(墓在玄要寺)

●若江薰子 (勤王家) 本姓は菅原氏秋蘭と號す、從四位量良の女なり京都の人會て昭憲皇太后御入内以前に漢學を進講したる事あり晩年此地に流寓す著書女四書あり明治十四年十一月十一日歿す。年四十七 昭和二年正五位を賜はる 墓は玄要寺にあり

●渡邊半八 諱は浩、字は以直、柳齋と號す、後丸龜藩士渡邊包雅の養子となる高松藩士にして荒井武太夫の家に生る弱冠稻葉默齋に從ひ後中井竹山の門に遊ぶ又寛政六年八月藩學正明館の教授兼侍講と爲る文政七年十一月六日歿す、享年六十二著す所道體論あり(墓在宗泉寺)

●兩博士に從ひ遂に昌平費の舎長となる既にして國に歸り中氏を嗣ぎ側儒者となる享年六十五。(墓在本行寺)

●井上元固 姓は源儀左衛門と稱す、通女の父文武兩道に達し高豊侯に仕て町奉行となる元祿七年八月三日歿す。歲七十二(墓は寶津寺にあり)

●井上通女 幼名を玉と云ひ、後振と云ひ最後に感通と稱す本固の二女なり幼より學を好て宏才あり博く經史に涉り詩歌筆札を善す頗る婦德あり世に感通と稱せらる著は二度の歸家日記三卷往事集五卷並に世に傳はれり天和の頃より元祿の頃まで京極家の母堂養性院に仕へて江戸にあり後歸國し三田宗壽に嫁し三男二女を生めり長は男にして儀八郎と稱し早世す次は女にして繁と云ふ三は男にして宗衍と云ふ家嗣となる四は男にして義勝と云ふ季は女にして節と稱す。元文三年六月廿三日歿す、年七十九

●井上益本 彌次郎と稱す通女の弟、高豊高或の二代に仕ふ元祿十年十一月十一日に殺害に遭ふ、年三十三

●前川正遠 會八と稱す國學家にして百人一首俳言讚岐名義考等を著せり

●中村正藏 諱は桑、字は子楡醒軒と號し後三蕉と改む丸龜の人弱冠九州に遊び龜井昭陽及帆足愚享の門に學ふて歸りて又病を尾の道に養ひ嘉永二年正明館の儒員となり安政三年藩に請ひ昌平費に入り研學し文久三年侍講となり正明館教授を兼

ぬ廢一置縣後各學校の教員となり二十一年職を辭して私塾を開き漢學を教授せり著す所三教小辨日本外史新論寓芥齋詩文集外拾餘卷あり明治二十八年歿す。

●村田雲和 名は多門本姓高橋阿州古川の人移りて丸龜宗古町に住し繪畫を能くす明治十三年十二月二日歿す。年八十

●村田筆岳 通稱儀八郎雲和の嗣子、藤田南溪の門人にして畫を能くす明治二十年八月十五日歿す。年六十

●村上漁邨 名は薫、畑尾茶庵に學ひ畫を能くす明治三十三年三月廿日歿す。年七十一

●村岡藤兵衛 諱景緝字君瀨、竹所と號す丸龜の人學を好み詩を能くす藩札の出納を掌る嘉永四年九月廿一日歿す、年五十二配小橋氏男二人を生む長は早亡す季甚吉幼にして嗣子となる。

●村岡宗四郎 藤兵衛の季子也母名は箏と云ひ小橋安藏の妹にして國歌を養す宗四郎の代に至り醬油醸造業を爲せり此人伯父小橋安藏の血を受け勤王の志厚く慶應元年四月高杉晋作、井上善心二人訪れ來り庇護せしことあり爲に慶應二年十一月幽囚の身となり同三年正月死幽せり。年廿二 大正七年從五位を賜はる。(墓在正宗寺)

●古鏡 光格天皇寛政元年己酉丸龜に生る俗姓は松村氏、字は月珊と稱す、京都西山の妙心寺の高僧なり安政二年四月九日壽六十七を以て寂す。

臣多加宮内常長に嫁し貞淑の聞高し寛永二十年夫多賀常長歿す。萬治三年四月二十七日愛兒高房(頼母)の十六歳なるを遺して病の爲逝きぬ墓は丸龜玄要寺内林溪院にありて壽昌院護茂林實繁大姉の十字を刻す著す所涙草の記あり(墓在玄要寺)

●宮武器川 (醫家)諱は唯善字は士徳良順と稱す伊藤蘭嶋の門に入り儒を學ぶ高松一に仕へ後歸して侍醫となる著書に脚氣臆説、脚氣辨語、醫事一家言等あり、文化七年歿。年六十八(墓在本照寺)

●杉村宗義 (武術家)通稱清藏本一の士性至孝幼より武技を好み東軍流の堂奥を極め一時に師たり寛政十年歿。年六十五(墓在本行寺)

塩飽嶋

○飽鹽嶋(嶋數廿六、嶋中人數二千七百七十二軒、總人數合せて九千九百四十人、嶋中神社三十七坐寺三十二ヶ寺
與嶋、櫃石嶋、牛嶋、本嶋、廣嶋、高見嶋、手嶋(以上七嶋と云)瀬居嶋、沙彌嶋、岩黒嶋、佐奈木嶋、小嶋(以上十二嶋鶴足郡に屬す)牛嶋、本嶋より長嶋迄の小嶋七つ那珂郡に屬す。廣嶋より佐奈木嶋高見嶋迄の嶋々七つ多度郡に屬す。

島の名の起り

鹽飽諸島は神代の昔から昭和の今日迄我國海軍の發祥地とし

●鮎川一雄 通稱傳八丸龜の人四條派の着色花鳥畫を能くす明治二年歿す年五十七一面燕石の友人として陰に勤王に盡慮あり
●佐久間包照 字文明大華と號す、致仕して文仙と改む學を好て博く經史に涉れり和漢明辨斷復讐論の著あり天明三年十二月十日歿す。

●佐脇秀孝 (馬術家)通稱大學本藩の執政たり多刀寡辯最も兵法と馬術に長ず從政の暇西尾長岡高富等の諸侯を初め福山岡新發田宮津の各侯に禮聘せられ馬術の名天下に轟く文久二年歿す。年五十五(墓在法音寺)

●三田義勝 (儒者)通稱傳左衛門蘭室と號す、三田宗壽の三子にして母は井上氏通女、江戸に遊學し業成つて歸り藩侯の侍從たること前後三十餘年南山奥慶記守成筆録才誌論養子訓の著あり安永七年歿。年七十七(墓在法音寺)

●齋田五蕉 (俳人)名は吉碩四角と號す本藩士なり蒼虬門下の高足にして師より芭蕉翁相傳の視笏金蘭集文豪集の重器及南無庵の號を受く明治六年歿。年七十六(墓在法音寺)

●齋藤碧悟 (書家)名は包容本藩士なり通稱浩造吉良鶴仙に就き書道を學びて出藍の名あら當時名家の墓碑建等其手に成らざるものなしといふ(墓在正玄寺)

●京極伊知子 は壽昌院といふ父は右近衛權少將出雲隱岐及び石州邇摩邑知二郡の領主京極忠高なり才いと儘れ歌よみ文書くことも好めども憤み深く世にはさしも知れざりき長して家

て又國民海外雄飛の根據地として有名なもので其數多い史蹟は雄大なる風光と相待つて海外にまで其名を知られてゐる。潮の八百路の巷で四方に行き通ふと云ふので鹽飽島と云ふのである。普通鹽飽七島と云ふのはハツキリセヌが多分本島、牛島、與嶋、瀬居島、廣嶋、佐柳島、栗島を云ふようである

島の廣袤
鹽飽諸島は全部仲多度郡に屬し左の島嶼の總稱である(西より順に東へ書き並へて見る)

名稱	所屬地	周圍(軒)	面積(平方軒)
佐柳島	佐柳島村	一四、〇	六、七二
高見島	高見島村	一一、六	七、八四
廣嶋	廣嶋村	三六、〇	一四、四〇
手嶋	同	二五、五	三、二〇
本島	本島村	四六、二	一一、二〇
牛嶋	同	三、三	〇、四八
與嶋	與島村	一一、五	三、五二
櫃石島	同	一一、六	一一、二四
黒岩島	同	一、六	〇、九六
沙彌島	同	二、四	〇、四八
瀬居島	同	三、五	三、五二
鍋島	同	〇、三	極小

右が主なる島で與島村には屬島最も多く右の外に木島、大裸

島、小裸島、歩渡島、小與島、羽佐島を始め極く小さいもので三つ子島の三島と小ソワイ大ソワイの岩石島があり本島村に鳥小島、長島、向島、辨天島があり高見島に二面島。廣島村には小手島、佐柳島村に小島あり大小合せて三十餘島を數へこれが岡山縣所屬の島と恭布羅列して瀬戸内海の勝地を作つてゐる。

●鹽飽島史的談片 備讃海峡の西部にある群島にして東は椎の瀬戸より西は箱御崎に至り常航路の南北に散布す今本島村、廣島村、佐柳島村、高見島村(以上仲多度郡)粟島村(三豊郡)の六村とす西北には別に備中に屬する神島白石島の一郡あり本島の沿革大要左の如し

- 一 神武天皇御堂征の時此地に御駐蹕あらせられ此處から備前の高島に進ませらるゝに當つては島民が水夫の役をつとめた
- 一 景行天皇の頃熊襲が叛いたので日本武尊が西征さるゝ途中此島附近で大きな悪魚を退治し給うた
- 一 神功皇后三韓御親征の時も本島宮の原に御駐蹕あらせられ島民をして海路の任に當らしめ給うた
- 一 天慶の亂に平の將門と東西呼應した藤原純友が此島まで来て釜島に城を構へ一時勢力を振つたことがあつた
- 一 源平時代安徳天皇が屋島に行宮し玉ふた頃は一時平の行盛をして此の島を守らしめ航路の要防を嚴にされてゐた
- 元寇の役には相摸太郎時宗、此の島民を使用して得るところが

〳〵風浪を突破して北條氏の膽を寒からしめ多大の感賞を豊公からうけたのである。

文祿元年朝鮮征伐に際し前後七年間よく水運の任務を盡し鹽飽島船方の名聲を擧げた

得意思ふべしである天正五年三月廿五日付で信長から堺港特權の(御朱印)なるものが下附されてゐる。其後豊臣秀吉四國及び九州征伐等に島民は水夫として水軍の爲に大に努力したので此等の島民六百五十名は豊臣氏の船方に任ぜられて鹽飽七島の物高一千二百五十石を與へられ天正十八年二月晦日御朱印を賜はつた

徳川家康が豊臣氏に代つた時、島民は先に朝鮮征伐の時に馴染になつて居た寺澤志摩守を介して家康に「御朱印」の催促をして永久所領と云ふ虫の好い朱印書を貰つた慶長五年九月二十八日附で小笠原佐渡守奉之としてある。

同十一年江戸城修築に付て土木材料を數十艘で運び同十九年の大阪陣にも兵糧米の運輸に盡し寛永十四年例のキリシタンパレンの島原騒動にも板倉内膳に従つて二十四艘の船を以つて兵器糧秣に功績を擧げた。

鹽飽の島政は一風變つて居て面白い。即ち人名列と云ふのがそれである。

昔つて恩賞として得た島地一千二百五十石は同島の水主等六百五十人か領知して之を「人名」と稱して島治に關する權利

多かつた、其後は例の海賊的な状態に陥つてゐたがそれでも彼等は内海沿岸の小賊でなく屢々支那臺灣の沿岸との貿易を營み時によつては腕力に訴へて掠奪もやつた。或は洋中の船舶を襲ひ或は明人と結托して根據地を海岸の要地に構へて大陸諸州を侵した大陸沿岸では此を倭寇と稱し又當時彼等は八幡宮の舟印を立て、大海に出没したので「バハン」八幡船と稱して頗る恐怖してゐた

倭寇以來貿易と海賊とを兼ねたる變態船は膨大な勢力を有するやうに海賊大將軍の勢は東亞の沿岸を壓したので明朝では頗る恐れて屢々幕府に訴へたが當時の中央主權足利氏は之を抑壓するたけのかうした波瀾のうちに鹽飽島民は強力なる水軍の實力と名聲とを勝ち得て事ある毎に海表に雄飛して其功績著しいものがあつた

元龜天正の頃に至て織田信正の命をうけ海運々輸事業に忠勤したので當時の要港であつた。和泉の堺港では鹽飽船に限つて「觸掛」と云ふ特權が許されてゐた「觸掛」と云ふのは船網七十五尋の間自由の權を有すると云ふのである。他船が如何程輻輳してゐても此れ文けは開けねばならなかつた。若し犯す者があれば相當の所分をしたしである。鹽飽船の纜して東進したが、紀州灘で後年の「沖の暗いのに白帆が見える」時のやうな暴風雨に出喰合したのであつたが何がさて勇悍決死の水戸共殊に御朱印貰ひ立ての時であつたので、無二無三とう

義務を有し代々襲した。そして「人名」以外の住民は之を「毛人」又は「間人」と呼んで「人名」に隸屬して、尊卑の階級を作つた(これが後に一つの騷擾の原因となつた)

大阪町奉行直轄であつて島治は「人名」から選舉した「年寄」と名くるのが司る。一種の共和政體であつたが、勢ひ資産名望の家が「年寄」を世襲してゐたのである。彼等は純然たる自治制を布いてゐたので賞罰、訴訟、救恤等の樞府として、役所を設けこれを「勤番所」と稱してゐた。現にその跡は門長家を始め歴然として遺つてゐる。

●松風村雨 鹽飽の大領秦良式(或鹽飽大領時國とも云ふ)の女なり妹村雨と父母に事へて至孝なり母歿し繼母性頑狂之を遠けんとして欲し讒して之を殺さんとす松風の傳某の夫牟禮右兵衛之を恤み之を隠す時國之を聞いて大に怒り郎從を遣して右兵衛の家を圍ましむ、右兵衛、松風、村雨等の寺を遁れしめ自ら鬪死す二女は遁れて船に乗り播州須磨に至り漁人の家に養はる、適々東原行平謫せられて此に在り二女を見て家を問ふ村雨左の歌を以て答ふ。

白波の寄する渚に世を過す

蜺女が子なれば宿も定めず

而して二人は行平の召仕ふ所となれりと云ふ。

●藤山元彦 建永二年丁卯二月二十七日遠流の旨を賜はる同三月十六日配所に赴き給ひ三月二十六日に鹽飽島に着きければ

本來土佐の國幡多か左遷地であはち左の地ぞのに前の關白九條兼實の計い依て鹽飽に變更されたそれより暫くあると讃岐に約一年半云々語をうかつきて勝尾寺へ入られた

丸尾五左衛門 は殆んど徳川時代通じての豪商にして牛島の大船持なり、元九州の人なりしが大阪に至る途次牛島浦邊の良港にして海運に適するを察し當地に來り若干の大船を造り海運に従事せしが元祿年間に至り全盛を極め所持せる千石船の數數かそへされざる程の船成金なりしが榮枯盛衰は免かれぬものにて今より百餘年前衰運に傾き爾後累年衰微し近時その家全く滅び今はその宅地に僅かに門の一部と礎石數箇所残るのみと船成金の末路實に憐むに堪へすと云ふべし

咸臨丸の米國往復

本船役員

- 御軍艦 奉行 木村 攝津守
- 咸臨丸 船將 勝 麟太郎
- 運用方 佐々倉桐太郎
- 同 鈴藤 勇次郎
- 同 伴 鐵太郎
- 同 松岡 岩吉
- 同 天文方 小野 友五郎
- 同 濱口與右衛門
- 同 根津 金次郎

- 同 山本 金次郎
- 同 中濱 萬次郎
- 同 肥田 濱五郎
- 同 赤松 太三郎
- 同 小杉 政之進

外役員醫師共七名

鐵砲方水主等殆鹽飽島人にして云はゞ鹽飽島人が咸臨丸を運轉して大洋を乗切り米國へ往返したのである。而して本船は正月十六日横濱を出帆し二月二十六日桑港へ着す十五日間滞在の上閩三月十二日同地出帆同五月六日横濱へ歸港した

○狹峰嶋 十二島の内

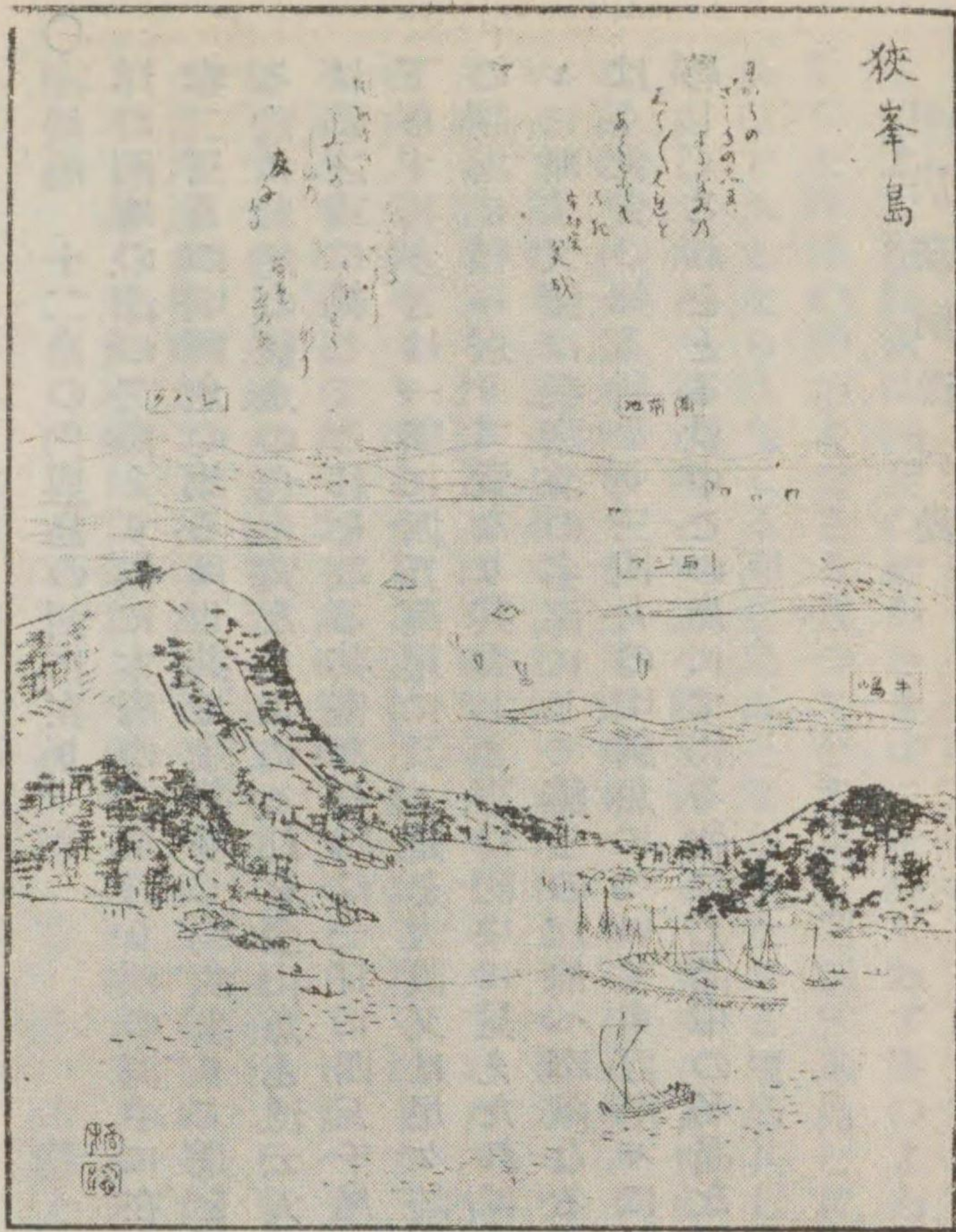
○万葉集讃岐國狹峯嶋視石中死人柿本人麿作歌一首並短歌

玉藻吉讃岐國者國柄加雖見不飽神柄加幾計貴寸天地日月與共滿將行神乃御面跡次來中乃水門徒船浮而吾榜來者時津風雲并爾次爾與見者跡位浪立邊見者白浪散動鯨魚取海乎恐行船乃梶引折而彼此之嶋者雖多名細之狹峯之嶋乃荒磯面爾虛作而見者浪音乃茂濱邊乎敷妙乃枕爾爲而荒床自伏君之家知者後而毛將告妻知者來毛問益乎玉梓之道太爾不知鬱悒久待加戀良武愛伎妻等者

反歌

妻毛有者採而多宜麻之佐美乃山野上乃字波疑過去計良受也
奧波來依荒磯乎色妙乃枕等卷而奈世流君香聞

狹峯島



○天木集

夕されは狹峯乃嶋に嶋千鳥荒磯みちにしつやみつらん

中納言顯盛

○佐美屋山 古義云佐美屋屋宇舊木に乃と作るは屋の年などの草書を誤れるのこしりければ改めて引のしりるを岡部氏考に狹峯とあるを佐美の山とあるによりてサミと訓へしと云るは非なり峯をミ子と訓は御峯の意なれば御を略きて子とのみ云は常のことなり子を略きてミとのみいふ理はさらになきそ

や

○聖寶僧正誕生地(同所にあり、今寺となりて如智山觀音寺といふ。大伽藍にて靈寶多し)

本朝高僧傳曰釋聖寶讚州人 元亨釋書作鶴足郡狹峯嶋人 嵯峨帝之後也天長九年誕生十六投眞雅僧正剃髮得度初就元興寺願曉圓宗二師受學之論次受唯識於東大寺平仁華嚴於同寶玄榮後就眞雅眞然傳受密教元慶八年稟傳法灌頂於南池院源仁僧都顯密二教靡不該貫膺興福寺維摩會講師於三論宗始立賢聖義及二空比量義理論明辨性氣強大不畏邪魅初東大寺東坊有鬼嬖人衆懼不敢居寶請而住鬼出爭拒寶不會屈鬼移他所從爾無崇一夕讀書燈下梁上有巨蛇寶見叱之蛇即滅庭上有磐石相傳寶從金峯山負來常好修練名山靈區歷殆遍金峯嶮徑役君之後榛塞無路寶持斧而開從此苦行者相尋往來貞觀季開醍醐寺演顯密二教又建南都之東南院講三論宗寶有福嚴造丈六佛二十餘尊東寺食堂安金色千手觀音及四天王像開眼之日設大會齋供食衆僧宇多法皇臨幸道場被修諷誦又勤悲濟置衛役於金峯山設渡船於吉野河行人賴之仁和三年敕賜傳法阿闍梨位寬平二年補貞觀寺坐主自延喜初歷任僧官官給月俸二年六月炎旱奉敕修孔雀經法甘露降灑賞任僧正六年丙寅補東寺長者九年己巳賜醍醐爲官寺夏四月寢病於普明寺陽成宇多兩上皇幸寺問疾七月六日遷化壽七十八其管攝處東西二寺醍醐東大興福寺也寶神遊無方朝出醍醐詣吉

野藏王堂至東大寺卻回醍醐值午時齋云寶有所持如意背刻五獅子面雕三鉞杵表顯密並學也滅後歷傳在東大之東南院與福之維摩講師必拈此如意以應演唱雨寺有事則不出之若無如意則齋講會於是朝庭宣東大寺出之以修法事其秘重如此

此僧正は和歌をよく古今集物の名に支那のなかにあらやとてはけ行は心をともふ散ぬへりなる此僧は僧正の詠せしなりと本藩士高橋母理員の考有事長ければこゝに略す

○瀬居島 十二島の内與島の西に在り。

洋の瀬地の瀬の二島あり俱に本府の二里許り西の海中に在り春二三月の頃鯛魚の集る所也其地金氣多し鯛魚來りて是を舐る故に此所の鯛魚の色金黃なり世にこれを金山魚と漁云人或は釣之或は網してこれを取る其盛なる時は一日に四五千尾に下らす其多きは一網に四五萬尾に及ふ是を大阪又は尼ヶ崎等の諸港に積み送りて賣なり其委しき事は記中に見えたればこゝに略す又鱒は我讚海の名産にして鱒子の江府へ奉獻なる事はく世普の知る所なり三四月の頃鯛魚について東西所々にて夥しくこれをとる就中この島にて得る物は名品中の名品なり

瀬居島 鯛魚 與島

○瀬居島と鯛魚に關する詩歌

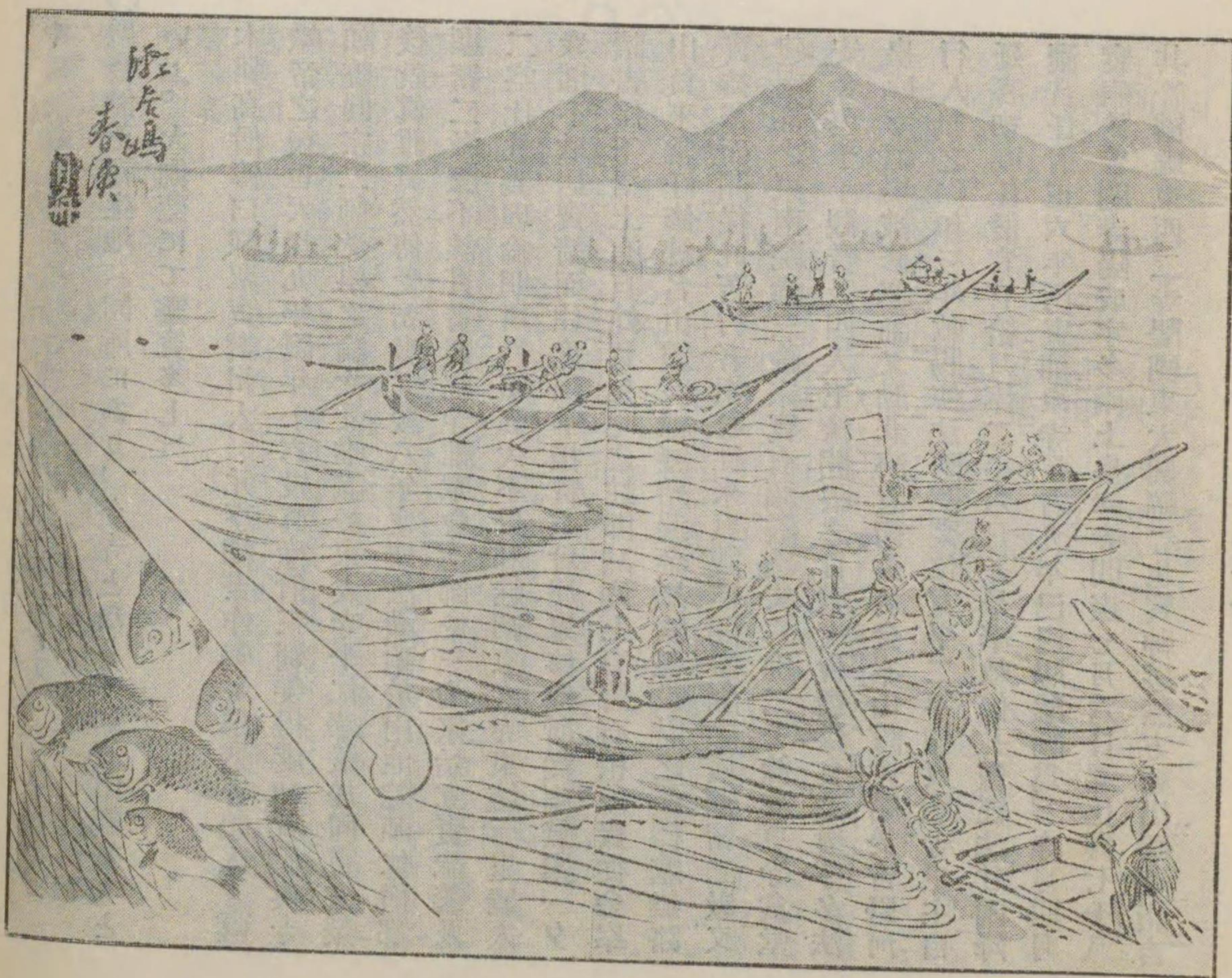
玉藻よし讚岐國は保食の神かさきはにた幾ておす飯のよろしをつた津海の神かよまさる煮つゝをす魚も名細狹峯島とに無かひてふとならひたてる瀬居島ふとならひたてる櫃島其しまをさしてたとへるに櫻といふ小鯛を得んとて春海にあげの木の葉のちれるを小船をうかへその中につりする舟は釣ありやいとまなけなり遠近に網引ふねは一かたによりつをかりつ網とれる數をしられすこゝはくの幸をともしみうちわたす吉備の海人らかくゝり來らへをるとはすれと防きける船をかしこみ退きては敷をらたるおし並の國のうまへしら玉にかへまくなりすうまし魚滿ぬる海を天下四方にもみよと繪出さしもつた津海の春のかさしに櫻たひこゝを潮にして匂ひぬるかもよろしなく君か御熱にひむかしゆ西中あまたの魚もより來ぬ

友部 方升 本藩士

政 徳 幕府士 天野氏

同

なみのあやに櫻鯛をしらかへもや瀬おり島邊に海人にありたつ
顯 忠 幕府士 中田氏
わたつ海の春の色さへ釣出しさくら鯛にそおひやらなく
興 清 江府人 小山田氏



花をみるさかなにせよと海鹿のあたへてつらす櫻たひかも

信古 奥州會津士佐藤氏

みよし野々是や手本の櫻鯛いつ海原に引きうつしけむ

景 樹 稱香川 長門介

よるなみに黄金の色のさくら鯛いつもさはある春の浦人

大海 本藩士 山實氏

むしきみは網ひくたひに海原も紅葉はくりしこゝちこそすれ

春 野 本藩士 中村氏

春の海に數ちる花のしからみはをたひ引なる網のしらなみ

太平 本藩士 深井氏

色艶もあたし種とはみえさりきにほふ瀬しまのはなさくら

鯛正雄京師人稱 吉兵衛

さくら鯛瀬しまの浦にうかひてそ吉備の海邊も春めきにける

延之 京師人稱 河本文助

咲花の名にかほりつゝ日の本のこゝそ鯛よる瀬島なるへし

廣香 京師人稱 林伊兵衛

こゝを瀬と瀬島にむれて浮鯛の紅にほふ春のうなはら

端 木 京師人 小原法橋

引あみのめには紅葉の色みせてむとちりかく櫻鯛かな

保 敬 京師人 大江氏

從瀬居島觀網棘蟹魚

玉藻城西金山陰、蒼海吞天千仞深、七島遙成三備帶、兩椎近

當二讚襟、年々三月桃方開、無數棘蠶自東來、百千成群潛相逐、海水爲之波欲堆、漁人候時結羅網、爭盪集鱸勢快哉、初訝王濬下蓋州、又疑秦伯輸粟舟、建旗分隊圍漸合、扣舷爲聲鼓其儔、忽見水面圓霞映、何知鱗光射波流、大者跋扈離撐網、小者逼促徒沈浮、衆人齋聲牽大網、一舉每得數萬頭、數方何得一船儲、信手投載幾舳舻、爛々熾々地敷錦、潑々刺々天雨魚、我候觀魚非遠地、樓船來泛講事餘、侍臣相擁捲簾觀、候顏對此笑莞如、忽看輕舸衝波至來、獻數筐鬚鬚朱、擊鮮嘗新下輕箸、玉液瓊漿開行廚、君不見金山之下、金氣流此魚、餌之肥且脩、江鯉河魚不足數、他邦何得有匹儔、此時食魚誰不厭、笑他彈鋏長自愁

岡井 蕭 本藩士稱 郡大夫

寄憶讚海瀨居島紅魚

古人慕鄉味獨數、張季鷹口腹自適意取快實難能、憶哉南魚美汕々云何亟、水族推第一、鯉也屬雲仍、春雷方纔動、漁人時可乘、使舟如使臂、截海下長內會、萬鱗閃閃眼、波底紅霞蒸收之如拾芥、積之如丘陵、矢業或可擬、觀者與超騰、割烹不移地、各自暫組登、八珍那足貴、食萬笑何會、我今爲異客、感昔樓空凭、扁舟無歸日、烟波隔月層、此餘我國はいふもさらなり四方の文士雅人の詩歌等多しといへとも一々あくるにいとまあらず

五山池 桐孫 本藩儒員

○觀音寺(御庄にあり、如智山、正覺院と號す。眞言宗醍醐三寶院に隸す。

聖寶僧正誕生之地なり、諸堂伽藍靈寶多し、聖寶僧正(紹運錄)天智天皇、大友皇、葛野王、聖寶四世王なり、天智帝曾孫なり、讚岐國鶴足郡狹岑嶋人其先出光仁天皇以天長九年生歲甫十六歲從眞雅僧正得度學三論于元興寺願曉習圓宗唯識于東大寺平仁傳華嚴于同寺玄榮就金剛峯寺眞然稟密教重從源仁究秘密奧義是以被請與福寺維摩講立賢聖方及二室比量義依茲三論宗弘賢聖義初東大寺東坊有鬼崇僧衆不住聖寶請而居焉、鬼現形爭拒聖寶不屈鬼移他所後崇寢夜挑燈讀書傍置茶爐、覺眠一夕大蛇在梁間影醮茶盞聖寶仰視之叱蛇條套相傳坊庭巨石聖寶從金峯山負回石極大非人力可運也好修練經歷名山靈地、金峯山迷役行者踏開後絕人跡、林木蒙密聖寶難辨荆棘葛藟通路今苦行精修者入峯不絕也、貞觀之未開創醍醐寺說顯密三教、又建南都東南院講三論宗旨、僧正造大六佛像二十餘軀、勤專慈悲敢濟道、故金峯山置使役衛護參詣吉野川設舟濟來往見、聞者感其慈心、仁和三年詔叙傳法阿闍梨位、寬平二年爲眞觀寺座主延喜初大倉月給俸祿、同二年任僧正、同九年賜醍醐爲官寺、於是南北京東寺西寺醍醐寺東大寺與福寺悉受指教、延喜九年四月罹病於普明寺、太上天皇御幸問四地奈何、七月六日遂歸寂享年七十八歲(元享釋書)

●瀨居島八十八ヶ所

瀨居島八幡神社同海岸にあり千歳の松の枝垂て天然の風景を成し遠淺の濱にして海水浴場に適す全島周圍約二里餘人口約二百にして全部半農半漁畑作多く大部分農なるも點々除虫菊の栽培あり砂土岩質にして西浦北浦等の四部落あり人情風俗氣候共良好にして八十八ヶ所を新設せしは大正十年頃と聞けり

●本島村

丸龜市の正北に位し海を隔て、東與島、西廣島、北岡山縣兒島郡六口島を望む屬島として牛島、向島、長島などがある面積は〇、五一四方里昭和二年末の人口二千九百九十四、戸數七百九本村以下他の四島村は舊時所謂天領と稱し何れの國守にも支配されなかつたのであるが明治三年二月高知藩の管治に歸し同年七月倉敷縣に屬し同四年十一月香川縣に屬した。社寺 八幡神社(郷社) 字高無坊に在り仲哀天皇外二神を祀る天平十四年豊前宇佐より勸請したものである。德玉神社(村社) 字藁ヶ浦に在り安徳天皇を祀る。木島神社(村社) 字甲松ヶ浦に在り大國主神外二神を祀る。四社神社(村社) 字宮の小路に在り伊邪那岐命外三神を祀る。三社神社(村社) 字福部に在り天照皇大神外二神を祀る。八阪神社(村社) 字八阪通に在り須佐之男神外一神を祀る。

聖寶僧正平生持如意其背彫刻五匹獅子、面彫三鉗杵、表學顯密僧正後傳東大寺東南院爲交割、與福寺維摩會講師必執此如意講演唱應兩寺苟有故不出如意與福寺停講會法也朝廷宣諭東大寺使出如意其秘藏慎重如此この僧正は和歌をよくし古今集にも入らるゝ物の名にみゆ花のなかに、あくやとてわけ行は、こゝろそ友に、ちりぬへらなる

此歌は僧正の歌なりしと高松藩士高橋母理善考あり末寺。十輪寺。覺城坊 神宮寺並泊浦に在り、寶性寺極樂寺、長徳院(並牛嶋にあり)總光寺、總持院、長徳寺並笠嶋にあり。千手寺、慈眼院、地藏寺、大仙寺、極樂寺並甲生浦にあり。東光寺(世嶋にあり)寶珠院(檀名嶋にあり)持寶寺(大浦にあり)地藏院(福田浦にあり)總持寺(尻濱にあり)長命寺(同所にあり)福當寺(生濱浦にあり)神光院(高見村にあり)阿彌陀院(高見浦にあり)藥王院、醫光寺、地福寺(並江浦にあり)正福寺(茂浦にあり)長福寺(青木浦にあり、山絶頂有、弘法大師護摩窟石像)大聖寺(高見嶋にあり)理性院、善福寺(並同所にあり)乘蓮寺(佐奈木嶋にあり)安養院(牛嶋にあり)蓮花院、金林寺(並手嶋にあり)光嚴寺(笠嶋浦にあり)道場寺(笠嶋浦にあり)前々太平記に曰く中納言藤原行平卿は勅勸を蒙りて津の國須磨の浦に左遷し玉ひて謫居のならひ詫ひ住松の木柱に竹の垣

枕に近く聞なしてしかも夢さへ結はぬ比しも漸く夜も明後の山に人の音なひするかと思へは數十人の汐波海士乙女濱邊に群り出る形勢一行の斜歴雲に連り半天の雲霓地に移るかと思を留奥し見玉へは其中に二人の泉帶乙女衆に後れて足たゆく寄疲れたる粧のみならず何とやらん由有氣也しかは折節御前に候ひける生田庄司に命せられあの二人の海士召て参り聊か洒帯に得させよかし但し鹽屋の長か是抱置ける先ならは克々長に得心せしめ鯛來れかしと有ければ生田本成警固の首領それこそ最安かるへき事なれば是は此後の山の奥に田井畑より郷の名主の召仕ふ女たるへければ某への向ひを申て給仕に捧げ候はんとしてやかて立出てたりけるか其日の暮程に彼二女を連れ即御館に歸り参る田井の名主か方に於て事故なく乞請成る由也行平卿大に悦ひ急ぎ御前に召出され汝等容儀卑しからず鹽波業の身におはす遙に見咎めし間召出せり情も古郷は何地そや又其父母はいかなる者を語り玉へと有しかは二人の女袂搔合せて誠に人数ならぬ賤女を山ある者かと御覽し咎し御情こそ有難けれ申すに付て恥かしく又憚りもさふらへ共御意の捨難さに悉に昔を語り参らせん哀と思召ならは洒帯の員に加へられ情を掛てたひ玉へ抑我れは讚州にて鹽飽の大領秦良式と申者の二人の娘にて候か我等七歳の時母に後れ後二年経て父又新しき妻を語らい一人の男子を儲しかは我等二人は暇を乞尼法師にも身をやつして母の菩提を吊ふへしなと度

々父に望しか是も望に任せずして繼母の讒を信しつゝ兎角憂名の立折もやと年月をふる志餘りに強面かりければ執權卒禮の兵衛に便りいかにもして我等か命を救ひ尼になしくれよと佗しかは兵衛義士にて己は古郷八嶋の浦へ差下し其兄高松左衛門に預け置しかは又繼母讒佞の便よしと思ひ我等兄弟を卒禮高松兩人をして婦妻とし今の宗領後丸か世を奪はんと工み候由まさしくしけに訴へければ父又これを信し先卒禮を何となく屋形へ呼寄て屏風の陰に兵を伏せ無對にこれを搦め捕り嚴く戒め置て後繼母の兄阿波介とて大悪無道の大将に三百餘騎の兵を附高松並に我々を搦捕れとぞ下知しける俄か事にて高松の家防へ支方便もなき上に大軍を引請爲方なく我々に向ひ云ひけるは弓矢取る身は斯る不詳に身を顧ぬならひ某は爰にて矢種の限り防ぎ矢射盡して自害すへし御身連は急き小舟に召て播州か攝州の磯邊に着いかなる人をも頼つゝ命を長らへ後丸か成長の後父母を喪し道を辨へ得らん時迎へ参らんを待玉へ且又我等兄弟か無き後をも盡てたひ玉へと泣々諫めたりしかは我々答て申すやう卒禮か牢獄に籠られしさへ物うき上に御邊も爰にて討死すへしや然らば我等も共に害して同道にと申けるを高松大に首を振てさなきに繼母の讒言にも我等兄弟御身連に密通と沙汰し候はずや然るに今其人々を我手に掛て害し侍るは彌實犯疑なしと世の上人迄風すへし然らば我等兄弟の請淨眞實忠心に忽汚れて世の上に仇名を遺し

候へしケ程の事を女姓なからも聞分玉はぬ者ならは恐なから未來永く迄勘當也と念りしゆへ實にもと思ひ二人潜に屋形を抜け出て海士小舟の便りに詔て漸くと此浦に迷ひ來りつゝ汐波乙女と語りひて今田井の里に候ふなり其後本國のよすかを聞けば高松の軍の最中に卒禮は力量人に勝れ件の牢獄を打破り寄手の後陣を無二無三に驅散しつゝ屏に附て此由漸くに云けれとも唯一人の事なられ心は矢長にはやるとも深手數ヶ所に及ひしかは腹搔切て臥たりしを高松遙に櫓より此形勢を見たりければ今は何とか期すへきとて追手の木戸を押開き敵を四方へ追散し卒禮か死骸の上に於て同く自害し果けりと聞くに心もくれはとりあやしや我等はいかなれば斯愛事を見聞らん急き衣を墨染の櫻はよしや柳の髪も何かとせんと思へとも高松の言に我を汚すなとくれ云しも黙だしかたく田井の長の情ある事も捨難くして一日ノと月日を送る中に於て今日召出されし事恥しなから猶昔の粧ひ残りけるやらんと慰も又涙の種なり君若世に出玉ひなは俸祿には只卒禮兄弟か修羅の苦患を助くへし追善をなさん者と語りしかは行平卿手を摺て感しさせ玉ひ予既に衰老に及ふなれば汝等か若く壯なるは色に愛つゝ召けると世上に人のいはんもつゝまじ唯其高松兄弟を同し蓮と念すへしさてこそ予も又心はかりの追福をなさしめ彼等か修羅の苦患を助得さすへし去にても昨日詠したりし予か歌の中

つぐらはに聞人ならは須磨の浦に藻沙たれつゝ佗とこたへよの三十一字を汝等か代詠として今よりは毎日釋教の歌を詠し二人の亡士に手向へし夫和歌は法心説法の妙文拔苦與樂の靈章たり手習ふへしは此道なるそやことに左遷の身にしあれば供佛施僧の營立塔婆の供養とも成かたければ汝等も口號つゝ手向へし折に觸れたる名なればとて今より後は二人の女を松風村雨とは召れける。此説未詳前に太平記は出所詳かならざる書なれば證となし難く然れ共此婦女の物語地理のひ國傳の事は諸書に記するを以て姑く此に擧て参考に備ふ。○來迎寺（泊浦にあり、聖寶山と號す、淨土宗京都智恩院に隸す。建永二年三月二十六日法然上人被配于讚岐國舟此浦に泊たまへる時駿河權守高階保遠といふ人上人を己か館に請て深く崇信して法を受て其居跡を寺にして來迎寺と名付く數年の後堂庵も破壊せしを和泉國堺津心譽善徳といへる僧來り住して元祿年間下野國足利三寶院住持曉連社汲譽重山和尚祖師の古跡を尋て弘通して専修念佛をすゝめける衆人渴仰して此寺の修造あり中興の人なり靈寶尤多し鎮守社稻荷大明神○專稱寺（笠嶋にあり、源光山と號す、淨土宗京都智恩院に隸す。抑も當時は今を去る七百餘年の昔、建永年中鹽飽の地頭駿河

權守高階保遠入道西忍の創建する所にして、法然上人を以て開山第一世と仰ぐ。

今其の由來を尋ぬるに、承安五年三月上人御年四十三にして他力淨土の法門を高顯せられてより、道俗其の教に歸するごと水の低きに就くが如く。念佛の聲洋洋々として都鄙に充つるに至り。禍は其の末流より起りて。遂に當國遠流の法難に遭ひ給ふ。時に上人七十五歳の高齡を以て建永二年三月十六日都の空を立ち出でて、八重の潮路に日を重ね同月二十六日鹽飽笠嶋の浦に着き給ふ。

此の地の地頭駿河權守高階保遠西忍前夜の夢に満月の光り赫突たるが袂に宿るを見て怪しみ思ひしに、上人の御着船を見て此の事なりけりと感激し、直ちに藥湯を設け美膳を調へなぞして上人の旅情を慰め奉る。

上人即ち西忍のために、懇に彌陀他力本願の教旨を説き給ひしかば、西忍忽ち隨喜渴仰の念内に催して上人の教旨に歸し一向專念の妙好人となり、自己の館側に一字を創立し上人を請して法門弘通の道場とせしもの即ち當寺にして、諸人の教を受くるもの踵を絶たず。念佛の聲所在に漲る。其の後上人同國小松の庄に落ち着き給はんが爲めに、當島を御發船せられんとす。諸人傳へ聞き集ひ來りて、さながら慈母に離るゝが如く、歎き悲しみしかば、上人其の懇情に動かされ、「會者定離は常の習、何ぞ深く歎かんや。同一佛に歸し同名號を唱

二十七日寂せり。

●聖寶理源大師と綾子姫 大師の傳記は左の記で詳かなれども今其大要を前記せんに

大師は天長九年二月十五日鹽飽の與島で生れた父は兵部大丞萬聲王でその先は天智天皇から出てゐる母は右大將金實の娘綾子姫である故ありて流され此島に漂着したのであつた。其時綾子姫は懐妊してゐて間もなく生れた恒陰王が大師なのである。大師は眞雅大僧正に師事して密教蘊奥を窮めた人で眞言修驗道の元祖である。父の萬聲王は後許されて上洛したが母の綾子姫は此島に止まつてゐて遂に天安二年の頃歸省した大師の看護をうけつゝ逝かれた。

●綾子姫の墓 は本島の泊浦から北へ旗坂を上つて山路を行くと小高い所に石をかさねた古墳がある。これが綾子姫の墓であつてその後四つの塚があるのは從者共の墓である。

●甲生浦の奇石 本島の甲生浦の磯邊に二つの奇石がある。それが海龜の形をしてゐるので浦の名が甲生と云ふらしい、その山を龜山と云ふ鹽飽に行つたら見通してはならぬ壯觀である。

●經塚 本島の中央旗坂の東山上に經塚と云ふのがある。理源大師が母公の歿後哀惜のあまり山寺正覺院にして母公を葬りし寺に一つの堂を建て、報徳謝徳のため一字一石の寫德會を勤修し兩部の大經を書いて埋めた跡だと云はれてゐる。今な

へ同一光明の中にありて、同一聖衆の護念を蒙る。南無阿彌陀佛と稱へ給はゞ所は隔つと雖も我に親し。念佛は愚老一代の勸化にして、我も南無阿彌陀佛と唱へ奉るが故なり。念佛を事とせざる人とは、設ひ肩を並へ膝を與むと雖も、源空に疎かるべし。三業皆異なるか故なり」と徐ろに諭し給ひ、有り合せたる石に名號六字を書き遺して、末代結縁の爲めにと授け給ふ此れ即ち眞蹟爪形名號石にして、當山第一の重寶とする所なり。上人御發足の後は西忍入道愈々一向專修の信深く法悦の生を續けたりとぞ。當寺所藏の木製忍鉦は上人御自作の靈寶にして黄金佛觀世音は、西忍年來の念持佛なり。共に相傳へて今日に及ぶ。

上人の御詠

◎西忍の館にて

阿彌陀佛といふより外は津の國の

難波のこともあしかりぬべし。

◎西忍の心づくしの藥湯中にて

極樂もかくやあるらんあら樂し

早や參らばや南無阿彌陀佛。

●長徳寺 眞言宗本島觀音寺の末寺なり牛島の北岸にあり有名なる大船持丸尾長喜屋一門の宅址に隣れる高臺にあり寛文年中彼羽州廻船に従事して大に繁成を極めし時に創立したるものなり當時の住持は宥譽と云ひ後本寺へ轉し享保九年十二月

ほ參詣の者が多い。

●不動石 其處から少し下ると不動坂と云ふ坂に不動石と云ふのがある。延暦十三年弘法大師が西海へ行こうとした時難風に逢つて船を笠島浦につけ寺の前で修法した時不動明王を刻んで冥助を謝し且つ衆生の心垢を洗はんとて傍の岩間から湧泉するやうにしたとのことで一名を清め不動とも云つてゐる

●焦れ松 本島の西北福田浦の海岸にあこがれ松と云ふがあつて翠蓋翁壽としてゐる。其由來を尋ぬれば昔天文の頃代官福田又四郎と云ふ者奇酷無道であつたので島民が怨嗟してゐたが三月節句の日潮干をするに就いて代官を偽り招いて園洲と云ふ淺瀬に誘ひ饗應して泥酔したのを見て遺棄して歸つて仕舞つた。そのうちに満潮になつて代官は溺死したのである。その妻が。これを聞て岸邊の松に縋つて夫の慘死を見哀慕の極終に焦れ死んだその時の松であると云ふ。其後は彼等の怨靈が松にあるだらうとの迷信から誰も樹に觸るゝ者がなかつた。そしてその靈を慰さめる爲めに寛政七年に小祠を建てたのであつたが。文化七年に至つて神祇官領家の許しを得ていよ／＼本ものゝ神社になつたので今の福田神社だとのことである。

●笠島城山及城根 本島の東北海岸にあり南北に延長せる小丘にして其廣袤南北百メートル東西百五十メートル北面に向島を控へ櫃石島岡山縣下津井港に對して二海里五を隔つ備讃海

峽の固めとして重要な地點たれば其經營の跡大に見るべきものあり。

承元年中當島の地頭駿河權守高階保遠の居館西忍館のありし所にして南北朝以後高階氏が居城として經營したるものなり其西麓の小市街を城根といひ當島中最も整へる市區をなせり城麓より東中の浦に達するものを「マキチヨ」といふ更に其中央より南北に達す道路を東小路といふ北端は港に達し南甲甲生及泊浦に達す其他中小路といへるもある惣まで道路は彎曲して見通しの構へ以て防衛に便し特徴を示せり。

與島村

與島、櫃石、岩黒、瀬居、砂彌、其他の島嶼を管轄し南綾歌郡北岡山縣兒島郡の半島、下津井との間に基布して居る面積〇、二四〇方里昭和二年末人口三千五百五十戸數六百二十三與島村は與島を中心として瀬居小瀬居島、砂彌島、櫃石島、岩黒島、小與島、其他二三の孤島が所屬して居る。此の村は鯛の名産地で盛漁期には金鱗躍る金山鯛の美觀を見物する人が多い。此村の教育は與島に尋高校瀬居島に高尋、櫃石に尋高校を設けてゐる明治卅八年砂彌島へ分教場を設け大正七年三月に高等科二年程を併置した。此島は戸數約二百四十戸人口千人主産物は石材砂彌島は戸數廿七戸あつて此島の王様は溝淵氏で

ある。製鹽と漁業が主産物である分教場には四十人の學童が勉強してゐる。

鍋島燈臺 は與島の南にあり。明治五年十一月十五日に初めて點じたもので石油を機械にて壓搾して瓦斯を發生せしめ點火に供するので其光達距離は十五哩であると。

社 寺

- 八幡神社(村社) 瀬居に在り應神天皇外一神を祀る。
- 事比羅神社(村社) 砂彌島に在り大己貴命を祀る。
- 王子神社(村社) 櫃石島に在り日本武尊外一神を祀る。
- 初田神社(村社) 岩黒に在り埴安神を祀る。
- 天津神社(村社) 與島に在り天津兒屋根命外四神を祀る。
- 寶珠寺 櫃石島に在り眞言宗觀音寺末寺。
- 法輪寺 與島に在り眞言宗觀音寺末慶應元年の創建。

人 物

- 理源大師 聖寶と稱し砂彌島の産幼より穎悟年十六にして眞雅に從ひ得度三輪を元興寺の願曉及圓宗に學んだ後玄榮眞然源仁等に事へ顯密共に通し名山靈地に遊歴し貞觀の末年醍醐寺を創立し延喜二年僧正となり同九年七月七十六歳で寂滅した。
- 櫃石島は鹽飽島の東北に在り其大さ與島と伯仲す備前に接近し下津井と相對す其南に岩黒島あり
- 與島尋常高等小學校

- 瀬居高等小學校
- 櫃石尋常高等小學校

廣島村

鹽飽諸島中の巨島で正南に多度津を望み東本島、西佐柳島、正北岡山縣淺口郡玉島に對し屬島には手島小手島などがある面積一方里〇八二昭和二年末人口二千六百四十戸數六百七十六

社 寺

- 廣島神社(村社) 字宮ノ上に在り伊邪那岐命外一神を祀る。
- 加茂神社(村社) 市井浦に在り別雷神外三神を祀る。
- 青禁神社(村社) 字北に在り野槌神外一神を祀る。
- 八幡神社(村社) 立石浦に在り神武天皇外一神を祀る。
- 鹽竈神社(村社) 東通に在り鹽土神外一神を祀る。
- 地福寺 江の浦に在り眞言宗觀音寺末寺。
- 神光寺 立石浦に在り眞言宗觀音寺末寺。
- 醫光寺 江ノ浦に在り藥王山と號し眞言宗觀音寺末寺。
- 正福寺 茂浦に在り醫王山と號し眞言宗觀音寺末寺。
- 長福寺 青木浦に在り岩松山と號し眞言宗觀音寺末寺。
- 龍王寺 市井浦に在り寶海山多聞院と號す天台宗延曆寺末寺
- 金輪寺 手島に在り眞言宗觀音寺末寺。
- 安養寺 手島に在り眞言宗觀音寺末寺。

- 極樂寺 手島に在り眞言宗觀音寺末。

佐柳島村

諸島中の最西に位し東廣島高見島、正南粟島、西北岡山縣眞鍋島に對す面積〇、一六二方里明治十八年一月高見島を管轄して役場を佐柳島に置かれた明治二十三年各獨立の一村となつた

社 寺

- 八幡神社(村社) 野都合に在り應神天皇外一神を祀る。
- 乘蓮寺 本浦に在り眞言宗觀音寺末寺。

高見島村

東北廣島本村、西北佐柳島西南に粟島を望み正南は三豊郡詫間村に對して居る明治二十三年二月佐柳島村の管轄より獨立して一村を爲したもので面積〇、一七〇方里昭和二年末人口八百十四戸數百九十七

社 寺

- 八幡神社(村社) 田ノ上通に在り應神天皇外一明を祀る。
- 善福寺 田ノ上に在り眞言宗觀音寺末寺。
- 大聖寺 字浦に在り眞言宗觀音寺末寺。

●南村

東綾歌郡土器、南本郡郡家、西南龍川、北丸龜市に界す明治二十三年二月田村柞原、山北の三村を合併村制を施行せしもの面積〇、二〇四方里昭和二年末人口二千四百五十七戸數四百九十

○山北八幡神社(山北村にあり、社領十石、供僧、福壽院、禰宜、秋山氏、當所氏神、祭禮八月十五日)

末社王子社、天満宮、春日社、荒神社神馬堂

當社は(延久五年八月多度郡道隆寺祐善法印詔を奉て五ヶ所に勸請せし其なり、康平五年再興夷安倍貞任宗任征伐の時諸國に詔して神社を造營し放生會を初むと云其後永仁五年八月初め山の北にあり依て山北宮と云慶長年中生駒一生朝臣城を今の地に築たまふによりて山の南今の地皇子權現の社に移す此より此地を山北村と云當地の氏神にて御旅所は福島辨財天の社なり。例年八月十五日神輿の渡御はり。

○素盞神社(柞原村にあり、祭禮九月十日、社人宮王中務、社領八斗九升餘土人林の宮といふ。

祭神素盞鳴尊 ○本社拜殿、隨身門、鳥居、末社十二坐

當社は寶龜五年疫病流行天下國民大に煩ひ天聽に達し勅して疫神を諸國に祭る其なり延長二年當國の刺史篠目某當郡柞原郷異に一社を建て素盞鳴尊を祭て素盞權現といふ神德靈驗

再興ありて當村の産神となせり。

○天満神社(村社) 田村にあり。祭神菅原道真公外六神

相傳ふ菅公國內を巡り玉ふの時此地に息ひ玉ふ故を以て。自筆の神影を齋ひ祭ると云祠官秋山上總介。

三十番神祠 田村にあり、國中六ヶ所の一、三十神の木像を安置す。相傳ふ秋山土佐守泰忠當國にて番神の祠を六處に立つ其なりと云。

○常福寺 田村にあり龍泉山と號す。京都興正寺末寺。

龜山玄監と云人尊信す故を以世孫勇監に至出家了願と號し寶永十五年創立す。

本尊阿彌陀佛、行基作

○法華堂跡(同所にあり) 右同所

當寺は秋山土佐守の建立せしなり土佐守は元甲斐の人なり所領に就て當國に來て此所居た其傍に法華堂を建て日仙上人を住しめ本門寺といふ信心怠らざりける正中二年に三野郡下高瀬村に堂宇をうつして法花寺又大坊ともいふ。

○田村池 南村に往昔よりあり周圍十九町面積二十二町

○田村城 田間にあり今秋山屋舗とよべり相傳ふ秋山土佐守泰忠居れりと云秋山氏系圖に秋山太郎光朝の二男左兵衛尉光季弘安元年甲斐國青島より當國に來り高瀬葛原柞原飯田坂本前田嶋部等の諸郷を領せり光季の三男彌三郎朝忠々々の子孫二郎泰忠一寺を那珂郡田村に建といへり(西)

嚴にして國中穩なり其後貞治元年細川清氏兵を起して所々神社佛閣を災燒す其時神寶舊記悉燒失す天文十三年社殿再興せり國祖君源英公社領先規の如く玉ふ。

御證文寫

當社權現於那珂郡柞原村高八斗九升餘之事從古來任附來此度改頼常公御寄附候間全可爲受納者也仍如件
元祿十四年五月朔日

永田四郎左衛門

岡崎平六

宮王伊織殿

○高幢神社(同所にあり、社人同斷、祭禮九月十九日正月十九日射禮の神事有是神功皇后弓箭發句遺意なりといく傳ふ。

祭神底筒中筒表筒神功皇后拜殿

本社幣殿、拜殿、隨身門、鳥居藏、王權現社

祭神息長帶月賣命外十四神

當社は貞觀年中多度郡の人正六位上左少夫讚岐朝臣時雄初而住吉大明神を勸請して高幢明神と崇祭る其後年霜を経て荒廢に及びしを漸く原野に御みたまの圓石僅に相残り然るに西行法師當國順行のとき此地に來り彼件の神石を見て住吉四社也といふを聞て此大神は本朝和歌の大祖なれば特に仰奉るへしと其とき小松三本を掘て手づから此地に植しか程なく此松繁茂して後大樹となり已來此地を三本松といふそのうち社殿

右泰忠此に來りしは明應三年頃の事なり

●郡家村

東綾歌郡川西、南本郡垂水與北、西龍川、北南村に界す明治二十三年郡家三條の二村を合併せしもので面積〇、三四二方里昭和二年末人口三千四百七 戸數六百六十九

○神野神社(郷社) 八幡下にあり、社人多田全之進、祭神天穗日命外五神を祀る。

祭禮二月々々手五月八月十五日

本社幣殿、拜殿、神樂所、神輿藏、隨身門、鳥居 祭神天穗日命、應神天皇拜殿

日命、應神天皇拜殿

○末社(小社十坐所々に在り)

社記曰神功皇后仲姬皇后。

繼體天皇二年當國の國造綾鶴足に

靈現在て我は天穗日命也護國靈驗威身神を告ありたるに依て爰に社殿を建て神野大明神と崇奉る。其後推古天皇五年郡家戸長酒部善里八幡宮を勸請して神野八幡宮と云貞和三年細川刑部大輔頼春朝臣香川備後守と合戦ありたるとき頼春當社を陣營となし祈誓して勝利を得たり。其後足利尊氏頼春をして同國の守護たらしめたるゆゑ再興すと云。天正年中兵火に罹り。社殿及神宮悉く燒失せり社人神體を荷負して今八幡といふ地へ移し置其後元の如く一社を建て遷宮す。正保元年國社

君源英公境内五十間四方の地をたまふ。當社に天穗日命を祭る故に今は神野神社といへりとぞ式内二十四社の一なり。さる事は當社記及眞野郷神野神社跡の條下をよみて知るべし。

○王子權現社(同所馬場先)あり、社人同上。祭禮二月百々手祭五月九月十三日

●興正寺別院 山城葛野郡山内村の別院を移したるもの。

●大西雪溪 本姑高島、郡家村の人畫を中島來章に學ひ之を能くし一機軸を出したが明治二十五年七月七十九歳で歿した

○觀音堂寶幢寺跡 也郡家村にあり。本尊觀音(智證大師作)。

當寺は貞觀年中智證大師草創して醫王院と云ひ觀音像安置せり。大師開基無世檀林中の一ヶ寺なり。堂塔僧坊數多ありしが永正文文の頃兵火にかゝり伽藍燒燼破壊す。今其寺跡地となる塔の基礎今尙存す。池の中より古瓦多く出る。ことありと云、

○寶幢寺池 郡家村にあり周圍十二町

○長福寺跡 同所にあり。本尊地藏尊石像也。

舊は金倉寺の末寺なり。郡家八幡社僧となり。寛永年中住持了翁金倉寺に移轉す。其後此寺燒失せしかば村民草庵を構へ本尊を安置す。今尙存す元祿七年金倉寺再興す。時に此寺の

當社は承和二年和氣道善初木德禁林寺の地に勸請せりといふ又智證大師此神を奉して禁林寺の鎮守とす。神體半身也といへり。

○大明神社(同村)あり、社人六太夫)。

○天満宮(同所)あり。社人秋山氏、祭禮八月廿五日)本社幣殿、拜殿、鳥居

當社肇祀不詳。

○荒神社(同村五條)あり。社人同上。本社 幣殿、拜殿

○樂御前宮同所にあり。

○上宮明神同所四條にあり。社人同上。本社、幣殿、拜殿

當社肇祀不詳。

●和氣宅成傳 原田戸主長者和氣宅成は綾十二世にして智證大師の父なり。人となり寛仁にして郷里是を重んず京師に遊學して經史に涉り佛庵は家の崇信する處なり。父道善の建し自在王堂を宮寺として祖稅を賜ふ事を請とも未詳さす。仁壽元年に至り又奏す時に息圓珍智證大師朝にありて寵遇並びなかりしかば天聽に達し應を下し原田郷道善寺水田三拾二町寄附あり。圓珍護持長吏となりて四海泰平をいのる。宅成老後の望を達し齊衡二年二月十八日沐浴衣を加へ彌陀名號を唱奄爾

事をも告げたりしに公逝去したまひ其の事ならず止む惜むべし。

人物 酒部良里傳

郡家戸主酒部善里(後九世)舒明天皇の九年丁酉正月十八日妙見尊の託宣あり。源同郷に移るべし。是より此地郡家といふ郡主の家有故なり。善里かつて沙門佛教を聞き深く因果の説を信じ又彌陀の小像二寸九分を常に髪の中に安し往生の志を勒たまひ白鳳三年正月十三日に歿す。壽九十三才

○春日神社(郷社)原田村に有社人多田清守。

祭禮正五九月八日祭神鐘津主命、武甕槌命、比伴大神。天兒屋根命、相殿 本社、幣殿、拜殿、隨神門。鳥居

社傳曰貞觀年中當村の人正五位下右衛門之尉藤原有貞讚岐守に任せられたる時深く信仰有て社殿を建て勸請す。其後天文十一年に平尾周防守といふ者再興せり。又貞觀四年智證大師誕生のとき勸請すともいへり。

○天満宮(同村三分一)あり、社人同上、祭禮

●禁林寺 三條にあり本尊枇杷藥師(此像原本徳戸主和氣善茂の所にあり)天正の兵火に燼し觀音堂のみ存せしが文政年間に至り其堂も亦廢す

○日吉神社(村社)三條村にあり。社人秋山半太夫、祭禮二月百年祭五月中ノ申日九月中申日。祭神(素盞鳴尊大己貴命)本社拜殿○末社(十四座所に)

として逝す。壽九十八才

十三世を原田長者和氣善甄と云人となり。仁孝にして父の志を繼てける天安二年の秋のころ智證大師唐より歸朝ありて道善寺に寓住せられければ。善甄寺を營造して宏現を謀る大師唐の青龍寺の制に倣ひて伽藍を造り貞觀三年に工成りて大に僧齋を設て落慶ありける今の金倉寺是なり。

○妙見社(同所)あり。妙院に。

當社は推古天皇五年丁巳正月十八日夜半郡家戸長酒部善里に夢想あり。妙見出現して曰早く宮を原田東里に遷し奉れと云てこゝにおいて當社を造營せり。

○寶正寺 原田にあり。一向宗三木郡常光寺末寺。

本尊阿彌陀如來 祖師聖人眞影七高祖眞影、聖德太子眞影、良如上人眞影

當寺は天文年中横田某(法名淨在)剃髮ありて草創なり證如上

○西福寺 同村にあり。一向宗西本願寺末寺。

本尊阿彌陀如來 祖師聖人眞影七高祖眞影 聖德太子眞影 良如上人眞影。

當寺は天正年中鹽田八郎といふ者出家して淨玄と號し一字建立す。准如上人より本尊を給ひ元祿五年十二月木佛寺號免許

往古の本尊藥師如來座像一尺五寸。○善茂自作と傳ふ。世に枇杷藥師と云、今木徳村新羅明神の社内に有。

當寺跡は木徳戸主和氣善茂草創の地也朱雀年中庄田十二頃を寄附して勅願寺となる。開基仁徳和尚は綾十一世和氣道善か次子なり性英俊にして幼より梵儀をしたひたる故父ゆるして傳教大師にしたがひ延暦年中剃髮して天台教法を學ぶ。弘仁十三年大師入滅の後國に歸りて當寺に住して台教を弘む貞觀元年に寂せり。

木徳戸主和氣善茂は(綾十世也)性仁慈にして貧民を賑給す二男一女あり。白鳳十四年乙酉正月朔日妙見尊女子に托して急々原田の西郷に移りて經營すべしとて不日に彼地に家を求め園中に精舎を建て自ら藥師の立像を彫刻して安置す。堂の傍に枇杷十二株を植て瑠璃世界七寶行擣に表す。朱鳥元年丙戌五月に國民疫病流行して死するもの多かりしかば善茂深く藥師如來に懇祈して堂前の枇杷の實を摘て病者に授れば病氣立所に癒て一人も死亡にいたらず。此奇特あるゆえ朝廷に奏して枇杷の實を奉る。天皇叔慮ありて和氣の姓を賜ふ。善茂靈木の徳によりて名を顯し、ゆゑ時の人木徳公と呼ぶ。其精舎を金林寺と勅號ありて庄田十二頃を給ふ。天平十三年辛巳十二月十日善茂病無して逝す此寺の廢せし事詳ならず。

●那珂郡尋常高等小學校

證大明神)觀音堂(珂利寺出現所に在)○塔跡(境内にあり)當寺は寶龜五年に原田戸主和氣道善といふ。人等身の金輪如意の像を造りて先祖酒部益甲の感得の明珠を其内に納め又善里か目刻の彌陀の像を頂上佛として一字を營て安置し自在王堂と名づく。其子宅成奏請して官寺にせんといへどもいまだ許れず仁壽元年に子圓珍智徳大師護持僧となり寵遇盛なりしかば此年十一月廳宣を下したまひ讚岐國原田郷道善寺といふ田園三拾二町を寄附あり自在王堂如意輪精舎には曩祖善茂の建造又道善の營構なり從是佛供燈明料吏侶衣食の資等充實して國役被下免除せられ宅成の遺意を達し皇祚長久四海泰平を祈る靈場なり。天安二年秋智證大師唐より歸りて道善寺に在りけん和氣善甄其地に移して造營を宏大にせんといふ。貞觀三年造營訖りて大齋會を設け大師を請て落慶す。當寺の唐門堂は唐青龍寺を模すと云。延喜五年十二月二十七日勅賜智證大師號同六年正月道善寺を改め金倉寺と云、初和氣は跡茂寺を此地に建るの時金銀の類土中より出る故に郷名及寺の號とす。

詔に依て法華八講仁王講を修す。金倉原田眞野垂水岸上等の租税を寺産として僧綱を置いて檢擁せしめ僧徒の房舍百三十字講衆一千人ありといふ九月二十九日祖師會を修するに三井寺の衆徒を屈請する永式なり。十月の正當には三井寺にて修薦あり。

龍川村

東郡家、南與北、西善通寺、北丸龜市に接す明治二十三年原田、金藏寺、木徳の三村を併せ龍川と稱するに至れるもの面積〇、三三五方里昭和二年末人口三千九百八十一戸數八百十八

●新羅神社(村社)木徳に在り素盞鳴命外七神を祀る仁和元年智證大師の勸請である。

○春日神社 原田村にあり

○寶正寺 原田村にあり、眞宗氷上常光寺末寺。

○西福寺 同上眞宗西本願寺末寺。

○金倉郷 寛永十八年以來東讚に屬するものを金倉寺と稱し西讚に屬するものを金藏寺と稱す。

○金倉寺 金倉村にあり。雞足山寶幢院と號す。四國八十八ヶ所の一、七十六番札所(道隆寺産里)天台宗京都聖護院末寺寺領三十石、金比羅より百丁丸龜より一里半。善通寺より二十丁。農具市三月十五日十六日。

本尊藥師如來(座像長貳尺壹寸智證大師作)脇士(日光月光)常行堂(阿彌陀如來立像五尺慈覺大師作)奥院祖堂(智證大師座像、貳尺九寸。唐濟律師作)不動明王(右額立像三尺智

文永年中三井寺衆徒母像を移す。神像舊二軀あり懇に求て當寺の訶利帝共に大師の造なり。

弘安四年三月公文職を置いて寺産庶務を總ふ。此年蒙古賊襲來る勅ありて降伏の法を修す。建武二年に逆賊細川定禪此國に來りて鷺田庄にて旗を擧て國民を誘惑して寺社の領所を劫道し庶民の産を奪ひたる惡徒響應して國中を蹂躪せしかば僧徒離散して堂庶も頽圯すれ共猶十餘の堂宇二十七の僧房は残りたるに其後兵革百餘年に止まず國中も互に侵掠攘奪して僧俗共にあさましき業を常とせしかば天文年中に兵火に罹りて堂宇も灰燼となり僅々尊像重寶を携へて散逸して其後茅堂を造りて尊像の雨露を凌くばかりに在し天台宗に此庵を守る人なく密宗の僧來りて此寺を守る、百餘年なり舊儀頽廢衰乏の極と申すべし。寛永十九年壬午の夏左近衛權少將源頼重朝臣此國の守護と成り給ひ國に就たまふ前に天海僧正に會し給ふとき彼僧正ふかく智證大師の舊跡の廢せしを哀て懇に再興を乞たり。朝臣諾して此年の秋時の住持了翁を召て天台宗に改めて此寺御再興を諮り玉ひ其後追々御修造あり。貞享四年伽藍修覆料として材木百五十本を給ひ大師八百年御忌を修行す。此年十月に大師眞筆不動尊像を御寄附有天和中新料として山林一丁四方を給ふ。元祿六年二王門御建立同九月堂供養の莊嚴甚嚴なり寶永六年國君源惠公より訶利帝母社御祈禱仰付られ享保二年金銀拾貫目を給ひ國中勸化仰付られ同社御建立(此

時出現の所より境内に移す。同十三年境内において戲場免許
其後追々御修葺料を給ふ。

御證文の寫

金倉寺領於那珂郡金倉村本寶の外以興高三拾石令寄附之訖
全可有收納候狀如件

寛文六年九月朔日

少將頼重判

金倉寺

制札寫

於金倉寺境内諸殺生禁之並不可伐竹木事右堅可相守者也
寶物 智證大師正面御影 絹地堅四尺五寸横二尺八寸智證大師
入唐のとき母上の求に依て自影を寫し給ふ所なり。勸學院章
海僧正裏書有。

西界曼荼羅式幀(絹地五尺五寸横貳尺八寸智證大師唐國より
持來) 般若十六善神 絹地堅四尺三寸、横貳尺六寸慶安四年
辛卯四月住持了翁聖護院道晃法親王當寺傳來の智證大師親寫
の肖像並唐土持來の兩界曼荼羅十六善神四幀後水尾院東福門
院御所叙覽に供ける御崇敬のあまり磐加へたまひ御親王に勅
して三井寺の大衆法會を修して供養有觀學院の章海僧正此始
末を裏書にして當寺へ納たる。右四幀元文五年聖護院三宮忠
譽法親王裏書を給ふ。
不動明王(絹地堅三尺壹寸横壹尺三寸餘智證大師筆貞享四年

十月源英公御裏書をなし御寄附したまふ。

五大虚空藏繪(延寶年中御寄附) 智證大師御影(鶴州筆享保
八年寺門法明院) 智證大師正面御影新寫延享 三年聖護院
義瑞贊忠譽御親王御頌。笈不動尊(並添翰之寫圓滿院門室染
筆) 十一面觀音(立像壹尺五寸弘法大師作。愛染明王(座像
壹尺二寸源英公御寄附) 鎮守社額(堅貳尺二寸横一尺四寸慶
安年中源英公御筆) 當寺緣記四卷(享保二年三井寺長史圓滿
院門主媛及名印あり。同序跋二幅(長崎福濟寺住支那禪巖禪
師筆) 大般若經(全部) 山鳩繪(聖護院道晃法親王自畫贊慶
安年中親王より給ふ。三幅對(狩野洞雲筆、源英公御寄附)
唐畫牡丹其餘訶利帝社祭器享保十五年源英公御寄附。
寺内に國寶として絹本着色智證大師の像がある

○鎮守珂利帝母社(同境内にあり。社人五太夫六太夫。祭禮九
月廿八日、九日 神像座像一尺七寸智證大師作、愛染像坐像
壹尺七寸同作。本社、幣殿、拜殿
此善神は(大師護法善神といふ) 佛在世の時より十方世界變
現は神力自在の鬼の如し世に傳ふが如く御子一千眷屬七千有
て世間の童男童女を食す是に於て釋尊方便を以て教化し遂に
善神世間の童男童女を守護し又一切の願望成就すといふ抑當
寺出現の事は智證大師五才のとき弘仁九年初て出現有(委敷
事は緣記に有) 其後大師唐國より歸り當寺に寓するの時天安
二年九月又出現大師に謁し今より。己後當鎮守教法守護衆人

祀れり。

○廢寺十ヶ寺 金倉村にあり。

通仙坊跡、道善寺跡、佛名院跡、涅槃院跡、福樂寺跡、不動
院跡(以上六ヶ寺永正年中廢す今名尙存す。久安院跡、地藏
院跡。勸智院跡。多聞院跡(以上四ヶ寺天正年中に廢す。今
地名尙存せり。以上十ヶ寺金倉寺の未寺なり)

○新良大明神(木徳村にあり、社人秋山半太夫。祭禮二月 夏
祭五月申、九月中申祭)

神少彦名尊 本社、幣殿、拜殿、隨神門、鳥居、末社十一坐
所々に在。

當社は白鳳年中戸主和氣善茂勸請又智證大師仁和三年氏神を
奉りて金林寺の鎮守となし藥師如來を配して祀るともいふ。
往古は戸長の郷といひて郡家本徳三條一郷にありしを仁壽年
中郡家本徳兩郷と別れ當社と日吉山王權現社は木徳の氏宮と
なりしが其後寛文中又木徳と三條と別れたるゆゑ山王權現
宮は三條村の氏宮とはなれり。

○本正寺(同所にあり。一向宗正覺寺末寺)。

本尊阿彌陀如來 祖師聖人眞影七高祖眞影聖德太子眞影寂如
上人眞影
當寺は天正年中横田某出家して了信と改め與北村に一字建立
す。其時准如上人より本尊を玉ふ。享保十四年五月本山より
木佛寺號免許寛保元年今の地に移す。

の御誓約あり依て大師出現の所に一祠を建て其母子眷族を祭
祀す。其後大師眞像を彫刻安置す。一像を文永年中寺門衆徒
の需に依て他に遷す今三井寺にあり。委敷は緣記見えたり國
寶指定本寺寶物絹本着色智證大師像有贊三四年内務省告示二
○號爾來近國近在の諸人或は子を求むる願立或は懷妊の帯を
求め或は病を除き官祿を求むるもの多く祈誓す。源英公御耳
に達し御尊敬淺からず御隱居の後御下屋敷へ御勸請あり其度
高松天満宮境内へ引移し享保二年御再興なし給ふ。
○新羅山王社 一内にあり(社人甚太夫、六太夫) 神樂臺社前
にあり。祭禮九月八日、九日、廿八日、九日、本地山王は釋
迦新羅は文珠也

本社、幣殿、拜殿、鳥居

二神は天台宗の守護神也山王明神は曾て智證大師を守護して
入唐なされし大師より戒法をうけ常に影現せり。依て智證大
師呼て山王院大師と云新羅明神は(素盞鳴尊なり) 大師歸都
の時海中に出現誓を立て曰我鎮護神教法至慈氏下生佛法是王
法治具也佛善若衰王法亦衰云云從爾時に影現あり。當寺の兩
社は貞觀三年勸請なり。往古は兩社あり中古燒失の時相殿と
なし祭祀す。源英公御建立の後御自筆の額を給ふ。山王權現
は初め金倉村にありて遠津大明神と稱へ祀れり。貞觀二年の
勸請なり。慶安年中境内に移して後天文二年平尾某西山某修
理造營せり。寛永二年村氏又々修造を加へり。新羅明神と合

○和氣の清鷹屋敷跡(同所にあり、清鷹は孝謙天皇の御宇手呂の筋を抜て當國へ流罪にすと云、此所に遷されしにや。未だ其證を見ず。蓋し清鷹にはあらず。當國和氣氏の人の遺跡なるべし。

○城屋敷跡 同所にあり、綾十一世和氣の遺居か居所也、道善は木徳村の戸主和氣茂の次男也。和氣道鷹は天正年中原田郷に移住す。道善も深く佛法を信し常に法華經を奉讀寶龜五年正月等身の金輪如意像を造りて、先祖益甲が威徳せし明珠を其中に納め又善里が自刻せし彌陀像を頂上佛として一字を造りて是を安置して自在王といふ。大同四年己巳十月長子宅成等にいふやう。

中冬の初我去らん汝等はを記せよ。十月三日端坐合掌して逝く。時年百十二才也

●木徳杷杷 藥師堂和氣善茂一寺を立て藥師を安きせは傍に杷杷十二株を植え其實金鈴の如し味甘露の如し之を食する者は病即ち癒ゆ朱雀元年六月朔杷杷を天武天皇に献す天皇嘉納ましくの和木姓を賜ひ木徳の戸主となす其先綾公より出つ智證は其裔也今は其舍廢し藥師のみ存す。

●木徳城 同上和氣道隆之に居たり

●人物

●智證大師畧傳 智證大師圓珍は和氣氏にして當國那珂郡の人原田戸主和氣宅成が次子なり。母は佐伯氏弘日傳領の女弘仁

師是に従ひ畫師空光に命じて形を寫さしむ。黃不動尊これなり二十七才夏不動尊親ら立印儀軌を授け給ふ。又七月五箇灌頂印並に口訣(古記云師以此法付康濟法印其後師資面授至于今)二十九才五月破地獄三種悉地法を徳圓法師に受く(此法智證流の徒特眼目相傳至于今)三十一才棲山一紀滿つ。三十三才山を出て諸國の靈區を順歴す。同年延曆大衆師を推て眞言宗學頭とす。翌年正月大極殿吉祥寺齊會に預り詞辨微に取て官僚かたなき聽たり。此とき南部の明註決擇大義能勝を取しより其名朝野に播す今年勅ありて定心院十禪師となる。三十六才の時内供奉持念禪師となる。更に紫方袍を賜ふ。夏六月普賢十願澤を撰す。翌年春夢に山王明神入唐求法をすむと見る。三十八才の春復夢みる事前の如し。師兩度の夢を録して奏請す。帝感して勅許有。四月洛を出藤原良相砂金若干を寄附し路資とす。此月當國原田の郷に歸り入唐の行装をなし又母の請に従ひ親ら肖像を寫して留別の贊とす。(金倉寺正面御影是なり)五月大宰府に至り四王院に住して大日經指歸並に心目各一卷を撰述す。四十才の秋唐人欽良輝が舟に乗て唐の嶺南道福州に着す。實に大中七年なり。(宣宗年號)刺史林師準慰勞を加へ開元寺に寓せしむ中天般若多羅三藏に遇て悉曇章を學び秘密法要及び梵莢等を受く兼て存式法師講律俱舍等を聽く。二月天臺山に至り明年度に及ぶ。其間靈跡を巡觀し正定尊者物外講摩訶止觀を聞山家教文三百餘卷を寫取る

四年日輪口に在るを夢みて五年三月二十五日誕生せり生る時空中に聲あり南無大通智勝佛と唱ふ。其形ち疑佐にして眼重瞳あり頂骨隆記して覆盆の如し。父奇相を見て廣雄と名づく二才のとき弘法大師是を見て其凡ならざるを賞す。五才のとき訶利帝母現じ告て曰汝は虚空藏菩薩の權化なり。汝他日佛法を恢興せん。吾汝を衛護すべしと又七才の時雲衣童子現しといふ吾文珠大士の仰にて汝を翼護すと八才のとき父に云内典の中に過去因果經あり。願くは誦習せんと父驚て此の經を求るに十才にして毛詩論語漢書文選等を學ぶ聰敏にして衆にこへたり。十四才叔父仁聰に従ひ京に赴く。十五才叡山に登り座主義眞和尚を師とし事ふ利尙一見して其法器を知り心を盡してよく誘ふ。法華堂光明等の經其餘臺宗章流誦して其奥にいたらざるはなし。十九才天長九年三月十五日剃髮四月八日受戒して沙彌と成る。名は圓珍字は遠藤同月國に歸り山野を經歷して伽藍を創し佛僧を刻む道隆寺、寶幢寺、金剛寺、城山寺、白峰寺、根香寺、吉水寺、鷲峯寺、千光寺等の僧藍是なり古記大師開基讚岐十七壇林淹留する事五ヶ月又京に入る。二十才四月延曆寺戒壇院にて菩薩戒を義眞和尚に受く。朝廷戒牒し給ふ。依例棲山一紀これより始る。十二月初て雜記を撰ぶ。是より撰述年々歳日なし二十五才禪座せしとき金人形を現し我を圖せよといふ。師問誰ぞや。答て曰我は不動明王なり。我汝を擁護せん。汝志操勵し苦海の船筏となれと

七月越州に至り法花論記を勵す。九月智者九世の法孫良一法師に隨て臺教講を聞く。四十二才正月開元寺に在りて法花文句箋科を譜座首に求て騰寫す。二月止觀科節を抄寫す。又減緣行箋を諮詢す。譜座首師の篤學を賞歎せり。四月圓載と上都に赴き本國僧圓覺教藉を繕寫し曼荼羅を繪く五月東都洛陽に至り遂に長安城に至る。六月青龍寺傳教和尚法金を拜し瑜伽密旨を受く。又青龍胎三卷儀軌を請て抄寫す。斯弟三本師初て是を日本に傳ふ。十月胎藏界觀頂壇に入り藏經拜記一卷を撰す。蘇憲地軌上下を全公に請て抄寫す。勘定十月金剛界灌頂壇に入並に諸尊法及び蘇悉記等の法を受く。是より後全師を往復誥微潤辨滯らす。遂に悉く其興旨を得たり。十一月師傳法に阿箬利灌頂法を請ふ。全公難色あり。師承知中不動尊より授る所の密記を出して呈す。全公驚ていはく。密乘秘願子何れの所より得たるや。師其所由を説く。全公大に驚歎じて全公の所蒞底を盡して付囑し遂に三摩耶戒の阿箬型位灌頂法を授く。告て曰汝大毘盧遮那般若母加持遊歩阿字法性の大空を蒙り一切如來最上乘教を受ける金剛を智惠と號す。師歡喜にたへず此日財を捨て大に寺衆に供す。全公も五股鈴五服杆二物をたまひ此物は足傳法の信し。此月又智惠輪三藏に遇て兩部秘旨をうけ兼て新譯持念經を授く。本師に拜辭するとき全公親ら大日經義釋斯十卷を授く。四十三才五月開元寺に至り再び譜座首に謁して臺教の秘要を受く。六月天臺山國

清寺に至り止觀堂を建つ。郷貢進士沈一石に誌す。又藤太師は寄り／＼五十金にて智者塔を修し及び國清大殿を修す。翌年淨名流畧記を述す。四十四才天臺山に在りて再び法華論記を勸す。五月入唐求法總目錄を撰す。六月商人李廷孝か舟にのり歸朝す。同月大宰府に着く八月官使宰府にいたり詔あり藤原良房公また人を使し訪ふ。九月當國道善寺へ歸り母を省し悲歎の榮を盡す。十二月帝都に入る勅ありて出雲寺に寓す師唐に在る。六年傳來は大小二乘經律論傳記並に天臺圓頓教文大總持教曼荼羅幀及び法家の章疏抄記雜碎經論梵英目錄等前後總計四百四十一部冊數一千卷其餘道具法物等都て十六品なり。唐に在るときの順禮記を作るまた師友唱酬詩集十二卷あり。四十六才貞觀元年唐朝より傳來の教籍を尙書省に藏む時に新羅山王の二神の夢告に依て比丘兩人と滋賀郡園城寺に至りて其地勢を見るに宛も唐の青龍寺に似たり。すでに靈地を見定て二僧とともに奏聞して一字をつくる。是れを唐房と云ふ今日尙ほ書省の經書を爰にうつしおく二年二月二十五日勅を奉して新羅社を三井寺に建て主丘等身の神像を置て此年三王三聖を迎へて唐院におく又五月中染殿に在時失脚して蚯蚓を殺せしゆゑ異教を出しめんとて彌陀經三卷を出す。三年家兄善觀か請に従ひて本國道善寺にて大齋を設けて落慶あり新羅山王を寺の鎮守とす。唐朝より將來の胎金まんだらに及び法全傳信の鈴杵等を遺物として此寺につとふ。四年正月二

十日三井寺に在て傳法灌頂を宗眷等に授く。四月珍篁寺にて法花開題を述ぶ。九月三井寺にて大日經義釋を勸治す。六年仁壽殿にて灌頂法を修す。五臣入檀者三十四人又勅を奉して大日經を講す。君臣聽て倦を忘る。七年染殿にて大日經を拜寫生品を講す。八年五月十四日官府宣を降して三井別當は尙ほ盡く師の血脈を用ゆ。甲十一月奏して持念檀を冷泉院に建て祝聖場とす。九年唐の務別詹景全法圖二幀を寄附す。各潤四丈釋迦より惠能にいたる三十四像なり。十年六月三日延曆寺座主に任す。勅使は和氣の範公なり。二十九日勅あり三井寺を傳法灌頂道場とす。十四年四天王寺法華仁王兩部講に最勝王經を加ふ。十五年延曆寺堅義式を定九月三種悉地法を編胎に授く。十七年五月十八日名神の爲法花一万部を講す。十八年天臺山清觀寄詩に曰叡山新月冷臺喬古風情天慶元年。六十四才の時天皇即位初例講仁王百座師御前講師となる。此冬師云圓載滄波に歿す。悲哉涙を拭ふ弟子惑ふ後に智聽か來り語て始て信あり。師叡山の別當被成りてより自書法花八軸又山王新羅の曩祖先誓の爲に親大乘經を書す。二年春大に早す四月二十九日勅て仁壽殿にて雨を祈る。新譯仁王用五重玄を講す。翌日大に雨降五月三日に至る。五年藤公の請に應じて傳教大師行業記を著す。此年唐務州李達大藏欠本百二十卷を贈る。六年僧三慧輪を唐に遣し藏經の欠本三百餘卷を請ひ且書を大興善寺智慧に呈す。七年一日師涙を流して曰唐元璋大

德昨日入滅せり。數月の後又云清灌大德又寂す。數法兄を喪とて哀動に堪へず。又哭して曰我師長謂大和尚遷化せり。追福を延曆寺の講堂に修す。其後唐高桓志貞大宰府にいたる。國清寺諸僧書を寄ていはく。瑋觀兩大德の事越州の師の計に至る。此方哭泪の時と違ひなし十月法眼和尚位に任す。八年二月授決集を撰す。一日大日經の義釋を失ふ。四月勅ありて其舊本を求出して賜ふ。仁和元年七十二才の時天皇即位の列に依り仁王百講又御前の講師となる。二年主上に豫師宮に入て持念宥侍一宿して便愈上日朕師仁酬と思ふ。何事か求ると問れ答奏す。貧道者菩提の外求め難く始山王明神入唐のとき貧道に説して法を求めしむ。庶は年教を賜ふて神德に報せん。三年三月勅して年度二人を賜ふ。四年十一月興福寺の請に従ひ維摩會講師となる六月普賢經の記を撰す。寛平二年七十七才のとき觀心論を勸す。十二月二十日少僧都に任す。圓山大衣の請によりてなり元年一月徒弟に謂ふ。我今才逝ん其葬法木にて柵を造り棺を其上におき薪を積て柵の下より焼へし我身穢れりといへども常に諸尊を心に觀し蓮中薰染猶在輕磯なる事を得され我像を造りて我骨を其内に藏して唐房に安置し灌佛法翊王法也凡佛法十方諸天神其本宮を捨て來て衛護せん。若王臣忽にして寺を法滅せば國土衰弊王法減少質袂日々至病瘡所々に行れん。人民紛亂兵革尋て起是此諸天捨離善神忿怒の故也五月二十一日山王院に在て傳法觀頂を獻憲康

濟二僧に授く。勅命に應ずるなり。十月二十九日門人に謂十方聖衆此房に來り集る。速に房舎を掃灑して香花を排批せよ言訖て左右に拜揖すること再立なれ共諸徒見る所なし。是より。先に涅槃疏十五卷を寫して寺衆をして其義を疏通せしめんと手校す。臨終のときに及びて此疏猶手にあり。又告て曰如來は法を以身とす。比丘は慧を以て命とす法慧苟も傳らば何ぞ死せんや。汝等宜知るべし。此日齋供常の如し。黄昏に定印を結て端座念佛す。五更に至り水を乞ひて嗽き僧伽黎を取て戴き右脇にして逝す。壽七十八才其戴所の衣則枕と次其曉滿山天樂をき、二日を経て葬せんとす。弟子其衣を請其頭自ら擧る。諸徒是を見て悲歎に絶す。其遺誠に依て茶毘は叡山の南峯東埦なり。肖像を造りて骨を藏て唐院に安置す。延長五年十二月二十七日勅して智證大師の號を賜ふ。是の大概なり。其詳なる事は元享釋書本朝高僧傳および弘法大師弟子傳等の書にゆつりて爰に畧す。

河田迪齋 諱は興字は猶興、屏淑又藻海と號す。晩に迪齋と改め八之助と稱す。其先は源三位頼政より出つ幼にして異稟あり。年十五にして近藤篤山に従ひ經史を學ぶ十八歳の時東都に至り昌平齋に入りぬ佐藤一齋の門に遊ぶ後一齋の養子となり仍ほ本姓を改めず安政元年正月米船浦賀に來り通商を請ふ時に林大學既に隨ひ下田に會し往て應接し辨理する所あり同年十二月晶平覺儒員に任せられ大番上席に班す同六年正月

十七日歿す。年五十四

●吉田正達 字は士充、通稱保次、擴齋と號す。金藏寺村人早歳豫州小松の生れ近藤篤山に就き専ら經義を攻究し業成りて郷里に歸り私塾を營み子弟を教育す後香川縣の郷費教官となりし事あり。明治二十四年十一月九日歿す。享年六十有九

●僧屏岳 山地氏名は徵、龍川村の人肥前國琴岳を師とし畫を能くす。明治三十年八月二日歿す。

●僧南洋 名は俊順字は一音初め長尾寺の住職にして後金倉寺に轉住し書及び畫を能くす。明治十七年七月二十一日歿す。年六十三。

○金倉寺看櫻

吉田 擴齋

櫻花雨後一番新。滿院風香二月春。暖日輕傘門外路。相逢半是賞花人。

●金藏寺停車場 村の東にあり高松起點より二十二哩、四鎮龍川尋常高等小學校

●仲多度郡農會模範農場龍川村にあり。明治三十二年郡農事試驗場として創立し後郡農會に移り模範農場と改稱す

●與北村

東垂水、南高篠象郷、西善通寺、北龍川郡家村に界す舊木徳郷中の一村であつた面積〇、二四七方里昭和二年末の人口二千五百四十一戸數四百九十九である。

當寺者天文元年五月沙門正善の草創也寛永四年正月木佛寺號免許

○古城跡 同所にあり、阿波國三好豊前間出城なり、其後長會我部元親之を奪ふ。

○遠津大明神 金倉村にあり、社人中村豊後祭神(大己貴命)本社 幣殿、拜殿、鳥居

當社は貞觀二年智證大師の勸請し天文元年平尾某西山某修造す。寛永二年又々修造せり。

○地藏堂 同村にあり。眞言宗多度郡道隆寺末寺。

●與北尋常高等小學校

●與北城 同上 三好豊前守天霧城を攻めし時の軍營也。天正年中土佐元親更に之を城き中島與兵衛をして成らしめし所なり

●買田池 與北村にあり周圍十六丁面積十五町

與北の人物

●高畑權兵衛 又八郎と稱す。文武兩道に通し兼て騎馬の術に達せり。大麻山境界論及貯水等に盡す處あり。寛文五年三月十日生れ元文二年八月十二日歿す。享年七十有三子孫三本松に住すと云ふ。

●垂水村

東綾歌郡岡田、南本郡高篠、西與北、北郡家村に界す舊垂水

○皇宮大明神社(與北村宮前にあり、社人珀玖瀧之進祭禮九月十八日土人與北の宮と云)

祭神神櫛皇子(或は墳墓なりといふ)

本社幣殿、拜殿、隨神門、鳥居の末社(三十一座所々あり)當社肇祀未詳此地神櫛皇子當國造となり。此國に來り賜ひ後に此地に止り玉ひ。與來所也と宣しより地名とはなりたるとなん。息山彦根勸請して尊敬し奉るといへり。神主白玖氏は其裔なり。

○皇美屋社(村社)宮前に在り大伴武日連命外十五神を祀る。

○持寶院 同所にあり、如意山湊宮寺と云、眞言宗善通寺末寺本堂本尊大日如來坐像。虚空藏菩薩。不動明王像。辨才天像阿彌陀立像。地藏尊(立像弘法大師作)弘法大師像、鎮守若王子權現社。荒神社。寶物皆神像(御自筆)如意石(象形青玉なり)

當寺は寶龜年中弘法大師草創也其後建武年中宥範上人も當寺に住す。寛永年中再興せり。

○源正寺 同村片山窪谷にあり。一向宗京都西本願寺末寺。本尊阿彌陀如來六字名號(蓮如上人筆)

當寺は應永元年一説文龜年間與北喜兵衛と云者出家して了善と改め草創せり。延寶四年本山より寺號木佛免許

○正覺寺 同村にあり、京都西本願寺末寺。本尊阿彌陀如來

郷下の一村であつたが後明治二十三年二月獨立の一村となつた。面積〇二四四方里昭和二年末の人口二千七百七十二である

○五社大明神 垂水村にあり。社人西岡藤次郎。祭禮九月七日祭神 武雷命齊主命姫大神、天津兒屋根命太皇神。

本社幣殿、拜殿、隨神門、鳥居、御旅殿 末社十七座所々に在り

當社は弘法大師外舅阿刀大足勸請し往古は三社にて田心姫瑞津嶋姫市杵嶋姫也弘仁年中弘法大師當社において七日雨請の祈禱有て罔象女命高雨龍神を祭りて五社大明神とす此)神は水徳の神にて神徳嚴重なるゆゑに此地を垂水と云其後歲霜を経て興廢數多ありて天正年中兵火にかゝり、社殿舊記等悉く焼失す其後再興せり。

○垂水神社(村社)行時に在り田心姫命外十四神を祀る往昔武毅王創建せられ後天平勝寶八年再建せられたことがある。頗る古社である。

○西教寺 同所にあり、一向宗三木郡常光寺末寺。

本尊阿彌陀如來 祖師聖人眞影七高僧眞影。聖徳太子眞影。良如上人繪像。彌陀繪像。

當寺は大永四年沙門正圓草創なり。寛永年中木佛寺號免許。眞宗西本願寺末天文中僧淨蓮の創立。

○善行寺 同所にあり。一向宗三木郡常光寺末寺。本尊阿彌陀如來祖師聖人眞影。七高僧眞影。良如上人繪像。

阿彌陀繪像。鐘樓

當寺は文明十五年沙門明誓草創也寛永年中木佛寺號免許。文明年中僧了專の創立。

○西乃坊 同所にあり。一向宗圓徳寺末寺。

本尊阿彌陀如來 祖師聖人眞影。七高僧眞影。聖徳太子眞影。良如上人繪像。阿彌陀繪像。觀音堂。鐘樓。

當寺は天文元年沙門正慶草創ありて西の坊と云天和三年木佛寺號免許其時は龍元寺と云元祿十五年舊號に復し西の坊と云へり

○長西寺跡。同所にあり。當寺は天正年中兵火にかゝり焼亡し今草庵あり。

●安樂寺 垂水村馬場にあり眞言宗大護寺末寺。

大同年間の創立にして往古は左右に萬福常徳の二箇寺を建て一大伽藍なりしが天正の兵火に燼し明和三年再建し今の堂宇は明治五年九月建立せしものなり。

○淨樂寺 同所にあり。古城山と號す。眞宗興正寺末。

本尊阿彌陀如來(惠心僧都作) 祖師聖人眞影。七高僧眞影。聖徳太子眞影。良如上人繪像。鐘樓。寶物阿彌陀繪像(證如上人判あり。同壹幅(顯如上人判有) 名號石。經名三ツ(並親鸞聖人筆) 名號二(實如上人筆、證如上人筆) 彌陀繪像(弘法大師筆) 一切經全部

當寺は文龜二年沙門西國草創なり。慶安四年木佛寺號免許。

又大永中僧正玄の創立。

○願誓寺 同所にあり。垂水樂山と號す。一向宗京都西本願寺末寺。

本尊阿彌陀如來 祖師聖人眞影。七高僧眞影。聖徳太子眞影。良如上人繪像。祖師畫傳。鐘樓。二尊像(蓮如上人筆。親鸞上人筆。三事開帳二十一日より二十八日まで)

當寺は天文年中沙門蓮海建立或者文安年中僧蓮秀創立其後寛永十五年本山より木佛寺號免許。

垂水尋常高等小學校

高篠村

東綾歌郡岡田、南本郡四條、西象郷、北垂水。與北村に界す明治二十三年二月東高篠、西高篠公文の三村を合併村制を布いたもの。面積〇、三五六方里昭和二年末の人口二千六百戸數五百三十二である。

○雲氣神社(村社) 高篠村にあり。社人金關儀太夫。祭禮八月十五日祭神仲哀天神外三神を祀る。古き御立像の隨神あり本社 幣殿。拜殿。隨神門、鳥居、末社十二座所々に在り。社記曰保元元年八幡大神豊前國宇佐より此地に降臨ありて神光を放て當所の長行司官に詫言あり朕は是築紫の國廣幡八幡宮也今此地に現て蒼生を擁護せんとなりしかば行司官敬して神教を蒙りて新に神殿を經營し廣幡八幡宮と崇め當村の氏神

四歩淨土宗高松淨願寺末寺。

此所しはらく吉福寺をうつせし地なり。元祖大師遺廟堂石堂有たる處に世人新黒谷西念寺といふ。

本尊阿彌陀如來(惠心僧都作) 善導大師

圓光大師(御紋付厨子に入る)

源英公逆修尊牌(二品道見法親王筆) 元祿八乙亥四月十二日

本堂に安置す。

開山堂鎮守(辨才天社)

當寺は本寺八世鏡蓮社圓譽上人天正二年本寺を辭して丸龜の草庵に隠れて西念寺といふ。寛文六年國君源英公寺を爰にうつし寺領を給ふ。

當寺於那珂郡高篠村の内田三反二十四歩の事頼重公御寄進此度頼常公御改り前の通御寄附被成候間全可有取納者也仍而如件

元祿十四年五月朔日

永田四郎左衛門

儀 忠 判

岡 崎 平 六

廣 方

西念寺

法然上人舊跡同所境内にあり。

寺記曰往古法然上人左遷のとき小松庄生福寺に止錫し給ひ時

中再興す。

○慈法寺跡 同所にあり。當寺は天正年中兵火にかゝり焼失す

○西念察 同所にあり。仲津山淨上院と號す。寺領田三反二十

當社は寶永五年造營

○富隈神社(村社) 公文村にあり。社人白玖出羽祭禮祭神吉備武彦命外五神本社。幣殿、拜殿、鳥居、末社(八座所在)

當社は延喜年中の勸請也承應年中修造す臣吉備武彦は神櫛王子賊大魚征伐有し時附屬の臣也富熊神社は工費三千五百圓を投して隨神門を建築して昭和三年十二月二十一日竣工式舉行

○吉祥寺 同所にあり。如意山星明院。眞言宗善通寺末寺。

本尊藥師如來。(行基菩薩作)阿彌陀如來虛空藏菩薩。弘法大師像鎮守三寶荒神社若宮大明神並に境内にあり

當寺は開基未詳往古は大地なりしが追々廢頽に及しを正保年中再興す。

々此邊道遙せし處也假に草庵を結び専念佛授法ありしゆる羽間新黒谷といふ。寛文中佛生山御建立のとき當山のうちに銅佛像安置せしをも彼處に遷す。今佛像安置の舊跡あり。當山南境の尾流に蛇淵といへる無盡底淨水の淵あり往古當山に元祖大師降雨修法せられしとき山樅の枝用ひられ畢て草庵の邊に大師自其樅を植玉ひしか花七色に分れ咲たり七種樅といふ往古の木はかれけれど追々若木繁茂して今尙存せり。

○圓淨寺 同所にあり。中津山白紫雲院と號す。仲坊といふ。一向宗京都興正寺末寺。

本尊阿彌陀如來 祖師聖人眞影、七高僧眞影。聖德太子眞影寶物良始上人繪像。住如上人繪像。祖師堂人繪像。阿彌陀立像。(弘法大師作)。日座像(同作)梅檀香木觀音(慈覺大師作)如意輪觀音(惠心僧都作)石叟明觀音(新宮より出現と云)善光寺繪(四幅信州光佛比丘弟子一空當寺へ寄附)地藏菩薩毘沙門像鐙鞍(熊谷蓮生坊當寺へ寄附)觀音堂境内に在り)十王堂(同所にあり)十五十躰(小野篁作)當寺は菅原相國守護たりしとき御建立ありて正福寺と云眞言宗なりしを大永年中沙門了專今の宗に改む天正年中長會我部元親當國へ亂入る時當寺を以陣取りなし今戰のとき堂宇什寶悉燒失せしを後再興万治元年本山より寺號木像佛免許。熊谷堂 圓淨寺北にあり。相傳ふ蓮生坊念佛を修せし所也其邊夏夜に蚊なしと云ふ。

十二月八日法然有勅免而未許入洛故入攝州勝尾寺云々

○吉祥寺 高篠村公文にあり。眞言宗善通寺末寺。

○松太權太塚高篠村字羽間松林中にあり維新前文久三年十一月舊金光院主へ祟りを爲すと云より祠を立てたり

○熊谷墓東高篠村にあり。堂内に五輪を安す其餘古墳數基あり是を祈れば虚疾を除くと古人云へり。

熊谷次郎直實剃髮して蓮生坊と改め法然上人に従ひ爰に來り其後都に歸り承元二年九月十四日東山黒谷に歿すと云へり此墓は後人の造りしものならん。

○劍大明神 同所小川にあり。古き五輪を祭る其故未詳。蓋高篠業宗の墓ならんか。

○鍛冶 同所にあり元祖を高篠三郎太夫業宗と云二代を吉宗正和二年中の人なり。其後越前守國利行利友利心蓮光弘等の名あり。今絶えたり。光弘の短刀取持する者有。

高篠の人物
高篠三郎太夫 諱は清房。佐渡守と稱す建保頃の刀劍師にして高篠村に住す因て氏とす。後世子孫府中。志度。香川郡三木郡に住する者ありと云ふ。

○篠原市造 高篠村の人なり牛山先生の教職となる又農事に努む郷里の子弟に道を講じ或は子弟を率い道路を始め橋梁を修し或は人の土功を助け或は人の耕田を助け年饑ならば穀を收めて粥を爲し以て餓人に啗はす等善行多し天保六年まで山奉

○生福寺跡 同所にあり、淨土宗中健山逆師院遺跡にて法然上人謫居跡なり。建長二年鹽飽島より此地に移る高松入道西恩といふ人の家より爰に來りて彌陀如來を作りて専修念佛を弘通ありたる地なり其後兵火にかゝりたるを寛永年中源英公此遺跡を佛生山に移して檀林としてあと小庵なり。觀音を安置す。

圓光大師畫傳に云讚岐國小松庄におちつき給ひにけり當所の内生福寺と云寺に住して無常の斷をとき念佛の行をすら及びたれば當國近國男女貴賤化導に従ふもの市の如し或は邪見放逸の事業を改め或は自力難行の執狀を抱て念佛に歸し往生をとぐる者多かりき邊土の利益を思へば朝恩なりと欽玉ひたるものにて營傳るかの寺の本尊もとは阿彌陀の一尊にておはしましけるを在國の間脇士を造り加へられける内勢至をは上人自ら造り給ひて法然本地身大勢至菩薩爲衆生故願置此道場を毎日影向擁護歸依衆必引導極樂若此願念不全成就者永最正覺とぞ書おかれける勢至の化身として自から其體を願しなりの申されける誠にいみじくたうとき事にぞありたる。和漢三才圖繪曰

法然改に藤井文彦三月十六日流土佐國畑村讚岐國以月輪殿下所領轉土佐配于讚州船着小松庄生福寺有本尊阿彌陀法然手自作勢至像爲脇士承元元年白川最上四天王院有堂供養行大赦仍

行とも云ふべき職にあり。天保六未年九月三日死す。

●高篠尋常高等小學校

●象郷村

東高篠、南榎井、琴平、西善通寺、北興北村に界す明治二十三年二月上櫛無下櫛無。苗田の三村を合併村制を施行せしもの面積〇、二五七方里昭和二年末の人口二千三百六十七戸數四百五十八

苗田村は維新前迄は公領であつた。

○大歲神社(村社) 上櫛無にあり。社人秋山氏 祭禮九月十五日 祭神鞍五十珍姫命 末社(八幡若宮) 大物主命外十神を祀る。神櫛皇子の崇められしと云ふ社傳に見れば餘程の古社であるらしい。

○五社明神 櫛梨にあり古傳に云阿州大足(大師叔父) 始て祀ると第一武雷命、第二齋大人命、第三姫大神。第四天兒屋根命。第五荒神

○遠津大明神 同上祭神大己貴命、貞觀二年智證大師の創立なりと云ふ。

○惣社大明神 同所にあり。祭禮九月十五日。祭神神櫛王從臣四十二氏神

○櫛無神社(郷社) 同所にあり。社僧善光寺延喜式内二十四座社人秋山氏、神櫛命木像土人大明神と云。祭神神櫛王外二十

三神舟石境内にあり。

當社は弘法大師の勸請なり。或此地神櫛皇子皇居たりともいふ。又神櫛王は當國造となり。此國に來り賜ひ國神をまつらんとて忽二翁來る神櫛王此土に神有やとふ二社あり。大麻の神は太玉の命なり。櫛無の神は大歳の神則己れなりと云早てみえず爰におゐて深く此神を祭るといふ。元和三年生駒壹岐守高俊朝臣臣高木刑部をして再造なさせ給ふ。寛文五年村民修造せり。

郡内二十四座詣記

神くしのみ社近く春風に柳のかみをゆふしてけり坂上道啓

○福成寺 苗田村にあり。法花宗三野郡高瀬大坊。

本尊十界勸請曼荼羅祖師像

當寺は年中三井惣衛何某三野郡法華寺日忠上人に歸依して當寺を創建す開基は信行院日忠上人なり。

○西隆寺 同所にあり。一向宗京都興正寺末寺。

本尊阿彌陀如來(准如上人判あり)

當寺は長祿年中(富田入道沙門圓了草創なり)

○光賢寺 同所にあり、一向宗京都東本願寺末寺。

本尊阿彌陀如來(道如上人判あり)經藏傳大士(普成普連)應仁年中三谷入道興圓の建立なり。

○大念寺 櫛梨村にあり。如意山と號く眞宗興正寺末寺。

善光寺 同上成就院と號く眞言宗。高僧傳に新善光寺とある

○松端城跡 櫛無山にあり。堀家刑部少輔是に居たりし也。

○松浦屋敷跡 同所にあり、松浦藤内是に居たりし也、

○櫛無の人物

●秋山伊豆 諱は惟恭字仲禮嚴山と號し櫛梨神社の祠官であつた。詩文和歌を善くし嘗て頼山陽の門に居つた。後丸龜侯の命を受け西讃府志六十一卷を撰したのである文久三年四月五十七歳で卒去した。

●象郷尋常高等小學校

○宥範 僧正傳一曰姓は岩野父諱金光

宥範僧正は讃岐國那珂郡櫛無郷の人なり。文永七年出生拾七才にして出家し大貳坊といふ。弘安九年或夜の夢に老僧廣堂の上にて曰兩眼を塞て此經を取るべしとありしゆゑ是を探して一卷を得たり。梵字なり是を問は汝は眞言教に縁ある人なりといふ。夢醒て眞言の明師を尋るに香川郡無量壽院の覺道師有憲と申を師として彼寺に入て金剛界を學び詠く翌年同國如意谷新善光寺は幼少よりの師匠なれば此寺に行て淨土の學をなす廿一才のき又無量壽院に行て胎藏界及護摩を學び灌頂を思ひ立て永仁元年四月廿日は實賢方三寶院の灌頂を遂たり其後花嚴經を學び又同國にし三谷におゐて俱舍學文有同二年又無量壽院にて靈夢あり一葉の白蓮花を授て渡唐の事を告ぐ夢さめて唐渡までにも及ず。我朝高野山こそ密教流布の靈地あり。此山に登りて學問せばやとて櫛無の神は生土の社なれ

は是れ也善通寺末寺。大歲神別當

●櫛梨山城 同上堀池刑部少輔之に居たり。

●松浦城 同上松浦藤内之に居たり。

●船磐神社 下櫛梨にあり

●王墓 同北浦にあり

○石井神社(村社) 同所にあり。祭禮五月十五日、社人金關縫殿祭神足仲彦尊外七神。

本社 幣殿、拜殿、隨身門、鳥居、末社、(荒神天神社、土産古川權現)

當社 初愛宕山にあり。肇祀未詳石井彈正の鎮守の社なりしを天和年再興せり。修繕を加へ三井守屋此處に移せり。

○稻荷社 同所にあり。社人同上。不植稻御供田也。

當社肇祀未詳此神爰に鎮座ましますとき稻穂を持來給ふなりとぞゆゑに人力を用ひずおのづから其時に生して秋ことにみのりしかば、御供米となし來れりと土人いへり。

○片岡伊賀墓 同所にあり。伊賀守は長尾大隅守支族にて天正年中長曾我部元親櫛無社に陳所をかまへし時五月二十八日夜討せんとせし所土佐の國金子何某元親の援兵として來る時爰に出合討死せしといひ傳へり。

○起法寺 同所にあり、金蓮院と號す、眞言宗京都仁和寺末寺本尊觀世音。

○櫛無山城跡 同所にあり。長曾我部元親度々爰に出張す。

ば七日參籠して滿七の夜社檀の扉開て衣冠正しき神出て小櫛を以て宥範が首を叩く事三度退て又進み叩く事三度は是に示して日事信あらばならん信あらば幸あらしめんと又立寄て三度打續さまに社に入玉ふと夢覺て信力強盛ならば志ならざらんやと心中に祈念し是より高野山へ登りける又備前人觀藏坊と云僧同道して高野山にゆく折節彼の山に本寺と別所と確執の事起りて今戰に及折なれば諸院談議等もなく各門を閉ぢて入れざれば奥の院に參籠して祈誓せしに滿七の夜夢想に汝が求る所當山にてはかなひがたし早く去て求べしとあれば夢さめて不思議なる哉我朝にて當山をはなれて何處にか學問すべきと思へど三度まで此靈夢有此上は力なしとて觀藏坊へ此告を話して蓮花谷の宿坊を出立ける觀藏坊は此山に留りて學問すべしと立別れて山を出ける是より學匠を求て東國へ下りける下野國小候難足寺の學頭頼尊と申は其聞へ高き家匠なり。彼寺は宗相教相の學問有願密兼學の所なるゆゑ叡岳の宗旨相双てあり永仁三年廿六才の時彼の地に至り三寶院成賢方の灌頂行れ受るもの五人其内に入られ可賢坊といふ同心の衆五人みな無縁なるゆゑ左右なく遂難き所折節を越後國より客僧出來り灌頂を望たり。六人は成すして可賢は除れたり可賢悲て祈誓したれば不思議に越後の人母死せりと告來りて灌頂して國に返り元の如く可賢加りたり。此時所傳一流相傳して今に至る天台教の三大部大都出調前不慮に談議所火起り燒失す。此と

きよりて天台宗は拾られける同國國衣寺妙祥上人とて聞え有明匠御座したる事を傳聞て五年六月小俣より彼の寺に行大日經の奥疏の事を望申し其時妙祥上人仰には努て可し其故は先年願行上人公家武家崇敬の明匠なり。東大寺大勸進を以て五重塔四面垣外廊僧房以下造營し訖て誠に五百の僧坊の内に銅を以て鑄祇塔を五尺に鑄て其前にて大日經の疏を談すへしとて願行上人と妙祥互に師資たりし程に妙祥を東寺に於て疏を談せしめ給ふべきよし。勅使を立てられ仁和寺醍醐の碩學連もみな聽聞あるよし披露せしめたる所に四月十七日願行上人忽然と圓寂ありし衆力を落し我佛法も是まで成と思ひ西八條に置たる聖教等も寄て走り下りける此後は隱居の體にて有故談義の事はゆめ／＼かなふましと仰付られける尙より／＼は望て申ければ實に左様に懇望ならば陸奥國御垣郡如法寺の信日坊の弟子道性房といふ者奥疏を讀なり尋往て聞べしと仰ける下野國より路程九十里餘りなり何とてそれまで參るべきやと歎申ければ上人仰に佛法を求るものは身家を捨て釋尊の仙人に仕へ上古祖師は入唐渡天するもありしぞかし僅日本の内道遠しと思ふは其志しが薄きなりとさま／＼に教訓したまへは彼求法の詞に驚きていかにも彼處へ參るべしと申ければ上人感涙を流し喜び給ひけるすでに奥州へとおもひ立廻る同國赤塚寺の衆從三河阿闍梨淨乘坊と云僧有我も多年其志し有とて同道して行ける其比天下大旱にて人民餓死するなどの時な

れば赤塚寺の寂靜坊にて妙祥上人の附法の弟子なりたるかあまりに二人の遠路を行く事痛敷事と思ひて大成申柿二連を取出し兩人に給ひ此柿を道すがら松の葉を食て下られたる比は永仁五年六月下旬の事なり行程十三日にして妙法寺に下りえて奥疏の事を請ければ道性坊云住心品と其外御作分は少も談せらるれども奥疏はさらに傳へずといふ。我々は奥疏の爲にして下り來りしなれば少し休息して下野國に歸り登りたる。其道すがら大旱の中なれば宿かす人もなく草行露宿にて野ふきを食として身命を助け其難苦何にたとへかたなし。炎天に照され色黒くなり體はやせて餓鬼の如なり漸七月に小俣寺に着たれば人も見違ほととの姿なれば國衣寺に參て上人にかくと申せば上人驚きて扱も人は空言を申ものかな此人々の斯の如く信心堅固の志有者を奥陸まで行て徒に歸り此なん苦を嘗させし事のいたはしさよとて此上は御邊たちの爲に疏を讀へしと許されければ初て此間の辛苦をも忘て喜悅の涙を催したる去程に八月頃より此疏を始て讀給ふ事風聞せしかは小俣より阿日房と云人五六人伴ひ來る永仁五年八月より初て六年に一遍聽聞終たる正安元年武藏國廣同寺の釋迦堂にて第二遍の聽聞終る同年伊豆山の衆徒式部阿闍梨玄海といふ僧來りて伊豆の密嚴院の別當より上人を招請して奥疏を聽聞せんとなり此冬武藏國廣同より湯走山に登られたる宥範も相從ひ第三遍の講讀聽聞し終る上人仰に此疏において更に抄物なし貴僧は三

度まで講を聞く功學と云必此抄を作るべしと仰らる再三辭すれども重て仰らるればたとへ文辭はつたなくとも義理に於て相違なくは末代まで法遺を傳るなれば記すべしとて其日聽よりして是を記して次の日談義は是れを高聲に讀上げ終に功終る。此抄物を阿瑠法雨抄と名く此とき上人御讚有て文言を造るは安けれと題號を付る事大節なりとて其後妙印抄と名付べし印は此經に説く秘印し渾て三十五卷なり永仁五年廿八才より。嘉吉三年にて其中間九年に三遍講談の内風氣にて一旦傍において聰聞し其餘は一日も欠席なく晝は談義を聞て筆を取夜は師の前にて疑を正して數年の光陰師の傍をさらす宗の大事をうけ或は靈夢に感し或は師資互に靈夢を蒙し事聞また幼名を師と同名なるも不思議なり嘉元三年鎌倉より上人を招請して觀音寺の塔供養有此ときにも一同具せらるべき由なれ共西國に父母の老たるあり。久しく定省せざれば彼地に行て拜し度由を申せば上人許して我は鎌倉に行くべし汝はしばらく當山密嚴院に留り別當阿野營典僧正未た學文熟さざれば此人に事を傳て後に國に歸るべしとて口訣等を授け給ひ僧正へ傳へたる徳治元年宥範三十七才のとき年來の若干の聖教等何とて隨身すべきと思ひ湯走山權現へ祈誓ありたれば或夜の夢に湯走山權現神幸の儀式あり。神官神人俗人等前後に従ひたれば何方へ神幸なりと問へは是こそ讃岐の國へと答ふ心に喜しに我も從ひ奉ると云へは御邊は太鼓の役に從ふべしと有

程なく國に着て無量壽院觀音堂の前に至ると見て夢さめたりかゝる靈夢あれば國にかへる行路も恙なかるべしと聖教書抄の書を隨身して京都まで着しける。夫よりにしの宮に行て便舟に乗りて讃岐國香川郡野原庄に至り八輪嶋觀音堂の前に着けり。○此觀音堂と善通寺の金堂は龍宮三傳大師建立也。師匠覺道上人へ謁して數年の弊潤を語らひの眉をひらき是れより境内常福寺に移り住けり徳治二年那珂郡櫛無保宮内正覺寺へ通ひ御座したる二親へ定省怠らざらん爲とそ聞こへけり善通寺へも通ひ寂園坊に暫く住給ふ是は高祖大師への報恩謝徳の爲とぞ、西へ東へと御勤有ける世の中煩敷事有て隱居の志あり。修練苦行を宗とせばやと乞ければ營道師の曰隱居の志神妙なれば住所を撰こと肝要なりとて無量壽院の靈地なる事をしり高祖大師の作り給へる前記秘記緣記三卷を出して是を示す。是において無量壽院の靈地に感じて奥の院に小庵を結び精修の勤をば遂られける元徳三年七月廿八日善通寺東北院より移住して誕生院を修造す。其後所々の堂塔供養の大導師となりて勤行有嘉聖二年京都に登りて鳥羽殿御檀所において唯受壹人の法を受給へり。其後歸國して小松の小堂に閑居したる鎌倉の妙祥上人の御弟子是叫坊とて上人寂後まで隨身せし人上人の遺言にて此國へ尋ね來り當院の疏を他事なく營び此人三十五卷の妙印抄を再治の事を勧め中によりて又思ひ

立て八十卷の妙印抄を作り給へり。此草案本を中書請書筆に功を道誕生院の正本は是呼坊の筆跡也原本は無量壽院にあり則僧正點を加へ今尙彼所に存せり。觀應三年六月廿五日病にかゝり七月朔日圓寂す。享年八十三應安四年三月十五日權少僧都宥源奏請して贈僧正となる。宥範僧正の事は無量壽院及善通寺の條下にも見えたり。

榎井村

東四條、南神野、西琴平、北象郷村に界す舊小松郷下の一村で往古天領であつた。明治二十三年獨立して村制を布いた。面積〇、一四二方里、昭和二年末人口二千七百七十九戸數六百五十七

○公料又俗に天領 五條榎井苗田の三村を公料とし又池御領と云ひ寛永十九年より代官を置き治めしなり始め治所は苗田にありて初代の代官を守屋與三兵衛と云ふ其子日助之進相嗣て代官たりしが元祿三年に罷められ後は備中國笠岡同國倉敷但馬國生野等の治所より領り又高松藩松山藩等より兼領りし事ありしと云。

○玄龍寺 榎井村にあり、千部堂と云一向宗京都興正寺末寺。本尊阿彌陀如來(作者不詳古佛)七高祖聖德太子畫像六字名號(並蓮如上人筆)當寺は初玄要寺と稱し眞言宗千部供養の道場也しが曆應年中

兵火にかゝり破壊に及しを康永二年榎井の人沙門了玄再興して今の宗に改む。

○淨願院 同所にあり。醫王山成福寺、眞言宗京都仁和寺末寺本尊藥師如來(弘法大師作)鎮守社(三寶荒神)當寺は延曆年中弘法大師の草創也○寶物毘沙門天(弘法大師作)正觀音同作唐繪羅漢藥師(三幅)

○興泉寺 同所にあり。一向宗京都興正寺末寺。

本尊阿彌陀如來(古佛准如上人判あり)七高祖聖德太子良如上人畫像(並准如上人判あり)六字名號(蓮如上人判あり)阿彌陀如來(惠心僧都作)毘沙門天文二年榎井僧祐善の開基昔なり文明二年泉州人和田小太郎正則なる者此邦に來り能勢大内藏の弟子となり姓を泉田と改め後剃髮して本願寺に歸し祐善坊と號し寺を立てたりと云ふ。

○法藏寺 榎井村に在り眞言宗仁和寺末寺。

○長法寺 同上

○春日神社(村社) 同所にあり。出井の宮とも云井あり。御手洗水也社人金關氏、祭禮九月十六日

本社、幣殿、拜殿、隨神門、鳥居、妙見社(同所にあり、御神體石あり。祭神大日靈命外七神荒神二産金毘羅にあり。祭禮十月十五日)。

當社肇祀未詳初小社なりしを此地追に繁榮せしかは度々修造を加へて大社となれり。

達せず文久二年正月廿八日歿す。享年七十有七

○日柳燕石 諱政章字士煥福長次郎後耕吉と變名赤松劍吾と稱す其別號を柳東又燕石戲號を猿石と云其先は草薙隼人の後也(父の代に日柳に改む)幼より讀書を好み博覽強記特に史學に富む故に詠史の作最も長す性豪放任俠にして氣節あり夙に勤王の志を抱き四方の有志と詩酒交を訂し(高杉晋作等を庇護せし事あり)爲めに嫌疑を受け慶應元年閏五月四日幽囚の身となり四年の後明治元年戊辰の春免され出獄し京師に至り大總督仁和寺宮の史官となり北越に赴き疾に罹り同年八月廿五日柏崎驛に没す享年五十二賜諡大櫻定彦と云ふ著書數部あり附記慶應元年四月高松晋作紅屋喜平と變名し燕石の許に來り暫く止宿せしか同年五月僅に身を以て脱し歸國するを得たりと云。

哭柳東先生

黒木 薫 圃

浮沈身世若波瀾。出處知君隨地安。蠖屈三年日月暗。鷹揚萬里乾坤寬。詩名籍甚非公志。義氣奮然殉國難。惆悵王師奏凱日。孤墳長駐栢崎于。

○日柳三舟 名は政翹字は終吉通稱復太郎燕石の男玉城と號す詩及び畫を善くす壯年大阪府の學務課長となり後退て北桃谷町に住し浪華文會を起し文事に親しみ居りしが明治三十六年七月廿三日没す。年六十五。

●長谷川佐太郎 名は信之字は忠卿號松坡戲號小巴榎井村の豪

○大屋敷跡 同所にあり。石川將監是に居たりしなり。今の地を小城ともいふ。

○割季分城屋敷跡 同社にあり。能勢大藏といふもの是に居たり。今此地を本庄といふ。

○泉田屋敷跡 同所にあり。和田小太郎兵衛正則と云者是に居たり。正則は泉州和田和泉守が孫なり。又和泉氏と改む。天文年中剃髮して釋の祐善坊といふ源一向宗に歸依して一寺建立す。今の興泉寺是なり。

贈從四位 日柳君 追思碑榎井町有志篠原卓吉等相謀り大正十年十月同碑を同町春日神社境内に建設したり。大正十四年十一月廿三日除幕式を舉行した。

●榎井尋常高等小學校

○小國牛山 諱は蕃主通稱は彦四郎那珂郡羽間の人なり其の先は源頼行より出づ天明三年九月高松侯松平欽公始めて教職を置き牛山教職と爲る是に於て五典天職儉道を以て教ゆ

○奈良廣葉 松莊は其の號なり字は洗心僧名を義立と名づく後義立を以て通稱と爲す天明六年丙午の歲榎井村に生る初め牧石潭翁に學び年十二のとき自村の興泉寺に入り僧となる後一士人に就き和歌を學び已にして寺を脱し京師に遊び牧招郷の門に學ぶ後菅茶山に經史詩文を受け業成り國に歸り生徒に授く文化以來露英の軍艦我邊海を犯すに際し大に尊王攘夷の大義を唱へ字内を匡正するを以て己が任とせしが遂に其素志を

農なり早くより村の公職となり又神野神社の祠官となる夙に
天室の式微を患て燕石君内の徒と心を協し尊王愛國の説を唱
へ勤王の有志を庇護す安政元年七月滿濃池の一部漏水し人畜
の死傷するもの多し氏大に之を憂ひ官廳に請願し修築の策を
献し明治三年六月竣功を告げたり其他公益の爲に盡瘁し成績
顯著なるを以て明治廿七年正七位に叙せられ同廿九年十一月
十四日藍綬褒章を下賜さる。明治三十一年一月七日没す。享
年七十二。

四條村

東高篠、長炭、吉野村に接し南神野、西榎井、北象郷高篠村
に境す明治二十三年二月吉野下。四條の二村を合併せしもの
面積〇、一八〇方里昭和二年末人口二千二百二十九 戸數四
百五十五

- 最勝寺 眞宗本願寺末往古阿波三好郡増川村に在つたが中古
三野郡財田村に移し明治十五年七月更に今の地に移轉した。
- 城福寺 眞言宗仁和寺末由緒不詳。
- 藥師庵 四條村にあり。淨願院末庵なり。好安寺の跡にて會
ふ。堂堂に往古の鎮守社(辨財天)本尊菓子如來安置す。
- 行基菩薩作なり。土人立藥師といへり。
- 牛頭天神社 同所にあり。此地左柳中納言卿是に居給ひしと
なり。今社後に櫻の木にして花の杵の土人は八房の梅ともい

- ふ此眞木殺の墓所なりと言ひ傳へり。
- 八幡神社 祭禮十月四五日
- 眞槲寺 四條村旗岡にあり。一向宗京都東本願寺末寺。
本尊阿彌陀如來(古佛淨如上人判あり)親鸞上人七高祖聖德
太子蓮如上人畫像(並淨如上人判あり)阿彌陀如來(惠心僧
都作)六字名號蓮如上人筆
本寺は初め淨土宗なりしが後今の宗に改む中古堂宇頽廢せし
を寛正中再興す。
- 弘宗寺 同上行基法師の創造なりと云今はして小庵たり。
- 旗岡神社 旗岡にあり。
- 大井八幡神社(郷社) 五條村にあり。五條苗田榎井四條金昆
羅氏神。祭禮八月四五日。社人金岡縫殿。社僧金光院。十月
四五日。井あり。大井といふ御手洗水也。
- 祭神 彌都波能賣神外七神。
末社、神明宮龍王社、濟緒神(社人門前にあり)稻荷社(社
人も地にあり)。
- 四條尋常高等小學校

神野村

東吉野。四條。南七箇西。十郷。北榎井村に界す明治二十三
年二月五條、岸上、眞野、東七箇の四村を合併村制を實施せ
しもの面積〇、四二一方里昭和二年末人口三千六十四 戸數

六百四十三、五條村は維新前迄は天領であつた。
●神野神社(村社) 東七箇に在り天穗日命外二神を祀る大同年
間の勸請である。

- 久保神社(村社) 岸上に在り市村島姫命外二神を祀る。祭禮
十月十二三日
- 龍松寺 五條に在り眞言宗仁和寺末最め行基疫病退散祈念の
爲め延命地藏尊を祀つたのであるが延享三年寺號を建てた。
- 願淨寺 淨華山と號し眞宗本願寺末一時廢類したが明治十八
年再興せしものである。

○諏訪神社(村社) 眞野村にあり。社人朝倉權之進。祭禮九月
十九日木邑大明神ともいふ建御名方命を祭る。十月十八九日
諏訪神社(村社) 祭神建御於命外四神
本社、幣殿、拜殿、隨身門、鳥居○末社八座所々に有
當社は弘仁三年九月十八日信濃國諏訪より降臨ありしを山上
大膳宗久と云者勸請せり。其後應安六年天正十七年元和九年
並修造明曆三年大風によりて宮殿破壊す。其後其嗣の兩興せ
り。

○眞野郷 此地初め神野郷と書來りしが嵯峨天皇御諱神野と申
し奉りしかば字音の同しきなる眞野と書改めしならん。其事
楮記なしと雖日本記略大同四年九月二日己改伊豫國神野郡
爲新居郡以觸上諱也と見えたり其後弘仁十二年當國より奏請
依て弘法大師をして萬濃池を築しめ給ふの時の上書にも神野

郷と記さん事を憚りて眞野と書あらためし物ならんか今其事
を出して後人の考をまつ。

○光教寺 眞野村にあり。吉井山と號す。一向宗垂水村願誓寺
末寺。
本尊阿彌陀繪像筆者未詳天正年中兵火に係り堂宇燒失ありし
處不思議に鎮守吉井大明神の杵の枝にかゝり光をはなちしと
云傳へり。

六字名號(蓮如上人筆)祖師聖人眞影。七高僧眞影。祖師聖德
太子眞影。良如上人眞影。寂如上人眞影祖師聖人繪像(四幅)
地藏尊(行基菩薩作了觀守本尊)

當寺は文明年中草創なり初足利家の臣伊井伊勢守貞親こゝに
來り吉井左衛門了親と改め住居せしが應仁年中京師兵亂の時
息伊勢太郎玄親討れける故終に出家して了玄と改め一字を建
立せり。今の寺是なり。天和三年本山より寺號木佛を許す。

○神野寺跡 同所にあり。相傳ふ弘法大師萬濃池を築し時當寺
を草創す。其後廢せり。十市池とも云年月不詳今も此地に廢
瓦多く残り。

○萬濃池 同所にあり。池の廻り三里半當國第一の池なるに依
て萬濃太郎と云中頃廢して山口と成堤長四拾五間上廣さ六間
高さ拾貳間堤根六拾五間三面は山なり。周圍四千五百間漑田
三萬五千八百拾貳石貳斗間長十八間座さ四尺二寸高さ貳尺八
寸穴壹尺六寸槽五ヶ所なり。

弘仁十年四月より七月まで諸國雨ふらざりしかは公より郡國に令して池を掘らしむ當國も所々溝渠をさらへ池を築ける同十一年より此地を築初しかど目に餘る大池なれば十二年に至れ共ならず。諸人大に疲勞れ如何ともすべからず。爰に人あり沙門空海今都に有今人皆彼高德をしとふ事枯草の濕雨を待が如し此時來らばふるにらん是において時の刺吏其言を朝廷に奏す。同六月沙門空海治を奉して爰に至る民大小欽び彼も亦日ならずしてなる十三年勅して空海に新錢二萬貫を給ふ治安二年又堤防を修す爰に獨眼龍あり。此池に住むと傳へ云寒川郡志度村の當影と云をのゝ化する處なり。後此池を去て海に徒る其時堤防大に壞ると云へり。

日本紀略曰弘仁十二年五月壬戌讚岐國言始自去年隄萬濃池公大民少成功末期僧空海此土人也山中坐禪獸馴鳥狎海水求道受往實歸因慈道俗欽風民庶影居則生徒成市出則追從如雲今離舊土常住京都百姓戀慕實如父母君聞師來必倒履相迎伏請宛別當令濟其事許之
今昔物語曰

今はむかし讚岐國那珂郡に萬濃池とて大成な池あり高野大師其國の人を愍みて人を促して築たまへる池なり。池のまはり遙に遠く堤はなはた高かりければ池とは覺へず海などのやうに見えたり廣さはかなたに居る人のかすかに見ゆるなとなれは思ひやるへし池築て後くすれすして久しければ其國の人田

は今に見ゆるとなにかたりつたへたとや。

寛永三年丙寅閏四月七日大風雨にて其後七月に至りて七十八日雨なく大旱して秋穀不作して民餓死に及ける京師も井水涸て草葉萎く糸によれるほとなりける此年生駒家の老臣西嶋八兵衛之尤といへる人萬濃池を再び築きける普請奉行福家七郎右衛門下津平左衛門なり其後度々御修造あり事莊觀なり今永世の利益となりたり。或は此池を十市池といふ。

民部卿爲家

新後拾遺集

今ははや十市の池のみくり繩くるとも知らぬ人にこひつゝ。同書云、讚岐國那珂郡に萬能の池と云猛く大きな池あり。其池は弘法大師の其國の衆生を哀しかり爲に築きたまへる。池なり池の廻り遙に廣くして堤を高築きまはしたり池など、は見えすして海とそ見えける池の内底井なく深ければ大小の魚ども量なし亦龍の檀としてありける然る間其池に住ける龍日に當らんとおもひけるにや池より出て人離たる堤の邊に小蛇の形にて蟠り居たりけり其時に近江國比良山に住ける天狗鶏の形として其池の上を飛びまわるに堤に此小蛇の蟠て有を見て鶏反下て俄に搔き抓て遙に空に昇ぬ龍ちから強き者とといへ共思ひがけす程に俄に被抓ねれば更に術盡て只被抓て行に天狗小蛇を抓碎て食せんといへども龍の用力強に依て心にまかせて抓み碎と散ん事に能して遙に本の栖の比良の山に持

を作るに早魃のときといへども此池にたすけかりければ國の人よろこひあひけり殊更上より數川のかゝりたれば池の水常に湛へ絶る事なく大小の魚おびたゞしく有國の中の人は是をとる事多といへども池にはますく魚満てたえざりけり然に其國司にありける國中の者共館に集りて物語なとしけるつゝてにあはれ萬濃池には限なく多き魚かな三尺の鯉などもあらんと語けるを侍聞てほしくおもひかして此池の魚をとらせはやと思ふに池はるかに深ければ人をいれて網を置事あたはず所せん池の堤に大きな穴を通し夫より水を洩して水の落る處に魚のいるへき物をかまへて取らんとてかくはからひければみず走り出るにしたがひて其穴より多くの魚いづるを數計もなく捕てけりかくてのち穴を塞しかとも水の出る勢つよくして塞き得ず穴次第に廣くなる内に雨ふりて池の上より流來る河水まさりて池に滿て其穴よりして堤遂にくすれて池の水國中の田島人家を損しぬ多の魚は流出て彼是にて人にとられけりかゝりし後は池の水少くなり雨降ことに土埋りて池のあとかたちもなかりけり。是を思ふに此人の欲心ありて池を失ひたりけるやんとなき權者の人を憐みて築たまへる池を失ひしたにはかりなき罪なるに此地の崩によつて多の人の家をそこなひ多の田島を失ひたる罪いかばかりぞやましていはんや池の中に有そはくの魚をとりたる罪誰人の負んや極て益なき業したるやと國人は其守を悪くみ許ける其池の堤の形

行ぬ。狭き洞の可動くもあらず所に打籠置ければ龍狭破死くして居たり。一滴の水も尤は空を翔る事もなく亦死なん事を待て四五日あり然る間此天狗比叡の山に行て短を伺て貴き僧を取らんと思ひて夜東塔の北谷にありける高き木に居て伺ふなどに其匂ふに造り懸たる房あり其の房に有僧椽に出て小便をして手をあらはんがため水瓶を以て手を洗ふて居るを此天狗木より飛來て僧を搔抓て遙に比良の山の栖の洞に將き行て龍の有處に打置僧水瓶をしながら我にもあらで居たり我いまは限と思ふほとにて天狗は僧を置まゝに去ぬ其時に暗き處に音有て僧に問て云く汝は此誰人を何より來るそと僧答て云我は比叡山の僧なり手を洗はん爲に坊の椽に出たりつるを天狗の俄に狐み取て將來ればなり龍は水瓶を持なから來れるなり柳かくいふはまた誰そと龍答へて云く我は讚岐國萬能の池に住龍なり堤に這出たりしを此天狗空より飛來て俄に抓て此洞將來れり狭くて爲玉方無と雖も一滴の水も無ければ空をも不翔と僧のいはく此の持たる水瓶に若し一滴の水や掛りたらんと龍是を聞て喜で云く我丹所にして日來經て既に命終なんと爲るに幸に來會ひ給て互に命を助く事可得し一滴の水あらは必汝本の栖に可得云と僧又喜て水瓶を傾て龍に授るに一滴斗の水を受く龍喜て僧に教て云く努々怖る事無しと目塞て我に負れ給ふへし御恩更に世々にも難忘と云て龍忽に小童の形と現し僧を負て洞を蹴つて出る雷電霹靂して空陰り雨降る甚恠

し僧身振ひ肝迷て怖しと思ふといへども龍を睡ひ思ふかゆゑに念して被負て行く程に須臾に比叡山の本の坊に至る僧を椽に置いて龍は去る彼房の人常の霹靂して庇に落懸と思ふほとに俄に坊の邊暗夜の如く成ぬしばらく斗有ける時に見は一夜俄に失にし人の椽にあり坊の人々奇異て問に事有様と委しく語る人みな聞て驚き奇異かくせる其後龍彼の天狗の怨を報せん爲に天狗を求るに天狗京に智識を催す荒法師の形を成て行けるを龍降て蹴殺してけり。然は翼折れたる屎鴉にてなむ大路被踏ける彼の比叡山の僧は彼龍の恩を報せんかために常に經を誦し善を修しけり。實に此龍は僧の徳に依て命を存し僧は龍の力に依て山に返る是もみな前生の機縁なるべし此事は彼僧の語り傳へを聞繼て語り傳へたるとかや。

○十市里 同所にあり。

南海國史

清少納言

爰なからほとふるたにも有ものをいと、十市の里な聞をそ
●満濃池 摘要(満濃池史要による) 位置、神野村大字東七箇村に在り元は眞野村に屬し幕領たりしが明治維新當時池所及附近の一部分を劃して七ヶ村と稱し更に東七ヶ村と改め後神野村に轉屬せり。

創 築

本池は文武天皇の御宇大寶年中國守道守朝臣の創築せしものにして我讃岐最古の一大名池とす。

年五月にみゆ。

●其後荒廢に及ひしかは寛永年間池の再興に當り三社を合して今の地に祀れり邦内廿四社詣記。

神代あふく跡も十市の池の宮野上の花をき手向ん。

○池乃宮 同所堤にあり。

祭神 萬濃池神、神野神社、加茂明神。

當社は寛永二年萬濃池普請の時生駒壹岐守高俊朝臣往古の社地の未詳か故に爰に御再營あり其後萬治二年國祖君源英公御修造なし給ふ天明年中池普請のとき廢瓦を多く掘出せり往古の社地是なるべし。

●加茂神社 池の東方の山上今カモドウと云ふ處に鎮座せり。

大銅年間の勸請なりと云ふ(今は神野神社に合祀す)

●村社神野神社 附松嶋神社 満濃池の堤上に鎮守す天穗日命別雷命、嵯峨天皇を祭れり、當社は萬濃池神社、神野神社、

加茂神社の三社を合祀せしものなり。

萬濃池神社 上古満濃池所に清水の湧出せし所ありて其邊りに水波賣神を祭りたりしか大寶年間池を築くに當り堤上に遷座し池の守護神と崇め土人池の宮と唱へたり。

●松崎神社 本社の西方にあり祭神松崎佐敏彦、長谷川佐太郎の二靈を祀れり。明治三年池の再興功勞者にして毎年初稔拔日を以て祭儀を行ふ。

●萬濃池 神野村にあり周圍二里二十五丁面積八十一町神野七

修 築

大寶年中の創築以後百十餘年を経て弘仁九年堤防破壊の厄に遇ひ國守清原夏野其狀を朝廷に奏聞し同十一年築池使路の眞人濱纏えか修築にかゝりしも施工進まず成功を期する能はざるを以て當國多度郡の人高僧空海上人を招請して別當と爲し農民を懷勵して遂に本池再築の大功を竣へたり。

仁壽元年秋大雨あり池水溢れて堤防を流失せり。弘仁年間再築後約三十年にして此の災厄を見しも國守弘宗王刺命を蒙り翌二年破堤を修築せり。

治安二年又堤防修築の事ありしが長曆年間故ありて堤防大破し容易に復興すること能はず廢絶約六百年にして池底遂に聚落を成し池内村の稱あるに至れり寛永三年雨降らざる事百餘日に達し生駒侯大に之を憂ひ奉行西島之尤に命し萬濃池を營築せしめ同五年敏初同八年二月築造成る。

安政元年又本池尤破の災厄に遭ひ遂に十有六年間廢絶したりしが明治三年之を再築した。

○神野神社跡 其所不詳延喜式二十四座の一

祭神(天穗日命加茂大明神) 三代實錄曰元慶五年十一月戊午

○正六位上。授讃岐國、萬濃池神從五位下。

當社跡は弘法大師萬濃池築しとき勸請して鎮護を祈る又大同三年造營せしともいへり。此神社は嵯峨天皇(御諱賀美野)也此御代に萬濃池築けるに依祭れるなるべし日本記略弘仁十二

簡吉野の三ヶ村に跨り周圍三里六町水面百町六反歩を占め一市十六ヶ町村三千五百町歩餘の田地に灌漑せる縣下最大の溜池なり。

藤井 高尙

まの、池よ池とはいわしうなはらに 八十島かけて見る心地せり。

滿濃池上作

黒木 薫 圃

水烟方醜鏡光齊。吟詠獨登百尺隄。最愛天心一痕月。影分十九長溪。

鯉獻上

大正十一年十一月陸軍大演習に付善通寺町へ行啓の際本池の産貳貫目以上のもの五尾獻納せしに御嘉納あらせられたりと本池の名譽と云ふへし。

●齊火明神 同所岸上にあり。社人秋山權太夫祭禮九月九日本社幣殿、拜殿、鳥居○當社肇祀不詳。

○三社大明神 岸上村にあり。社人朝倉吉太夫、祭禮九月十日本社幣殿、拜殿、隨神門、鳥居○末社(荒神五座)幸社(三座)當社は永正元年兼丸右衛門兵衛と云ふ者勸請也應永年中燒失其後再興せり。

○三寶荒神社 同所眞福寺の境内にあり。社人同祭禮九月廿八日。祭神武雷命齊主命姫大神天津兒屋根命太皇命也當社肇祀不詳。

○眞福寺 同村に在 淨土宗佛光山頂岸院寺領五拾石、京都智恩院末寺。

本尊阿彌陀如來(惠心僧都作) 普導師、圓光大師(各木像) ○鎮守荒神社、辨財天社(源英公御寄附)

○鐘樓堂○松大樹 境内にあり。往古より長會我部元親朝臣兼丸衛門兵衛尉秀久墓印なりと云。

當寺は法然上人の遺跡念佛弘通の道場也天正年中兵火に係り焼亡ありしを元和年中尾池玄蕃義長と云者上人の遺跡を高篠村に再興せり今四條村に眞福寺森といへる遺跡存せり初當郡坂田郷橋詰にありしが年久しく退轉に及びしを延寶四年國祖君英公今の地に御建立あらせられ寺領山林等を給ふしかしてより以來世々住僧權上人に任し香衣を許し給ふ。

當寺古者那珂郡四條村有舊跡延寶年中此所へ引移改號佛光山吉福寺爲寺領於同郡岸上村額原免中所免兩所以開肥後之地高五拾石之事新令寄附之訖全可有收納傍東之内山林竹木諸役等免除聊不可有相違之狀如件

元祿十四年五月初日

少將御朱命

眞福寺

御代々御證文略之

○圓德寺 照井村にあり。照琳院と號す。一向宗三木郡常光寺末寺。

智恩院末寺

眞福寺住持觀譽權上人

御房

此餘女房御奉書智恩院大僧正添簡略之末庵十王堂 鶴足郡宇多津村にあり。其他當郡四ヶ所其所へ出す。

○藥師堂 同所にあり。同寺末庵淨土宗本尊惠心僧都作往古の本尊自然石

當庵開基未詳今の本尊者初三野郡元山村にありしが靈夢によりて爰に安所すと云傳へり。

○不動堂 同所 山の中にあり金比羅御供田のあと也又尾の瀬山より此所へ移轉し又象頭山へ遷し金毘羅神の古社と云。

是宜祀上人よりは卅目と云住職赤宜四世悉きは金光院記録にあり見るべし。

●神野尋常高等小學校

吉野村

東及北綾歌郡長炭村。南本郡七箇。西神野。四條村に界す元吉野上村と稱したるを明治二十三年獨立改稱するに至つた。面積〇、五八九方里昭和二年末人口二千四百六十五 戸數五百二十四

社寺 大宮神社(郷社) 倭姫命外七神を祀る。祭禮十月十七

本尊阿彌陀如來(良如上人免許) 親鸞聖人木像影(嚴如上人免許) ○寶物良如上人七高僧聖德太子繪傳(四幅) 彌陀畫本(蓮如上人筆) 十九名號(親鸞上人筆) 圓浮檀金彌陀立像(弘法大師作) 思惟正受彌陀(聖覺法作) 白檀香木彌陀小像(惠心僧都作) 觀自在菩薩堆金像(弘法大師作)

當寺は文明五年春江州蒲生郡日野源太衛門正連と云ふ者靈夢に感して蓮枝蓮淳僧都(蓮如上人) 三井寺在番之時武門を捨て弟子となり夫婦剃髮して釋正蓮妙祐と改め念佛者となり永祿年中蓮如上人自筆の彌陀の畫本を笈荷して當國に來り小松庄は法然上人配跡なりとて彼處に止り草堂一字を建立す其後子正意に草庵を附屬し東七ヶ村に移住す。正連直弟五葉に別れて(小松庄眞樂寺同所。光源寺同所西福寺垂水村西の坊生間村法照寺是なり。天正年中兵火にかゝり焼失す)。同十七年同村十市池西に一字を建て追々修繕を加へ遂に寺號に改め寛永十九年再興なりて入佛供養せり。寶物○緣記(源英公御筆) 勸進狀(尾池玄蕃筆) 阿彌陀如來(圓光大師作) 其餘源英公御寄附之品數多有といへども一々擧るに追あらず。繪旨寫

着香衣令參内宜奉祈 寶祚延長者依天氣執達如件

天保二年三月廿二日

光政朝臣

右少辨 花押

八日

八幡神社(村社) 大輶別命外十二神を祀る。祭禮十月十四五日

●常福寺 眞宗興正寺末城前と號す天正中火災に罹り中絶して居つたのであるが明治十五年藤田智なる者再興した。

●吉野尋常高等小學校 人物 良野云之 字は伯耕通稱平助華陰と號す良野村の人江戸に遊び擊劍儒學を學び後京都に講堂を開いたが明和七年四月七十二歳で歿した。

●上里濟 號青節、吉野の人、漢學を三井隆齊後片山冲堂に歌學を奈良松莊に國學を秋山巖山に史學を日柳燕石に國典を松岡調に受く又俳句を能くす後山田村松隈神社々掌に補せられ同所に住し明治三十七年十二月歿す年八十五。

●黒木茂短 字子芳通稱倉太郎薰圃と號し樛舎と稱す秋山巖山に和漢學和歌を日柳燕石に漢詩を學び兩氏の訓育を受け勤王の志厚く尤も和歌に長す明治二年講道館教官後教部省の宣教師。琴平宮の禰宜等となり最後に高松に歸り育英に従事し明治三十八年五月廿六日歿す。年七十四。

●巖崎包滿 包滿字は鼎昌通稱を平藏と稱し野游と號す那珂郡吉野村の人父を信滿と云ひ郷普譜方小頭役を勤む寛政十二年包滿之を繼ぎ郷保となる包滿土木事業に通達し鶴足郡造田村天川堰の改修を擔任し用水の便を開き又滿濃池普請の際監督

となり其の功により賞を受くる事屢々なり天保十一年四月三日歿す。年七十三。

七 箇 村

東綾歌郡造田、長炭及本郡吉野村に接し南徳島縣三好郡、西十郷。北神野村に境す明治二十三年二月七箇及鹽入の二村を合併せしもの面積一方里九九三昭和二年末人口二千九百九十七戸數四百三十三

社 寺

●春日神社(村社) 春日にあり天津兒屋根命外七神を祀る弘安元年の勸請。祭禮十月八九日

●白鳥神社(村社) 葛神にあり倭武命外十四神を祀る慶應四年城丸丹後守の勸請である。

●山戸神社(村社) 鹽入にあり事代主神外六神を祀る永正二年の勸請。

●圓徳寺 眞宗氷上常光寺末永祿五年沙門正蓮の草創である。

○善通寺跡 七ヶ村尾野瀬にあり。往古は大伽藍にて末寺。四十二ヶ寺あり。今皆廢す尙奥院遺跡尙存す。俗曰如意山小野瀬寺と云。

天瀧宮 買田村にあり。社人祭禮六月廿五日
尙社祭祀木御神體は菅神御直作と云傳ふ。

○藥師堂 福良見村に有淨土宗眞福寺末庵 本尊 石像、行基

併せ村制を施行せしもの面積一方里八〇〇昭和二年末人口三千三百十六戸數六百十三。

社 寺

●葛城神社(村社) 買田に在り一言主命外十六神を祀る。

●大山祇神社(村社) 生間に在り大山祇命外二神を祀る。

●高室神社(村社) 帆山に在り木之花咲耶姫命外一神を祀る。

●三所神社(村社) 後山に在り三柱比賣命外一神を祀る。

●三河神社(村社) 大口に在り木花咲耶姫命外三神を祀る。

●鷺尾神社(村社) 新目に在り天日鷺命外四神を祀る。

●木熊師神社(村社) 山脇に在り祭神伊邪那那美命外五神。

●三所神社(村社) 追上にあり祭神三柱比賣命外三神。

●國尾神社(村社) 宮田にあり大己貴命外七神を祀る。

●加茂神社(村社) 佐文にあり祭神別雷外五神天徳二年藤原基雄の勸請。

●惠光寺 十郷にあり眞言宗仁和寺末應安中僧淨願の建立。

●西光寺 宮田にあり法然堂と稱す承元元年法然上人此國に左遷せられし時草庵を結び此所に留錫せりと傳へらる上人の像及墓がある。

●法照寺 佐文にあり眞宗興正寺末寺鶴林山と號す。

○圓宗寺 新目村にあり。一向宗京都興正寺末寺。幽谷山開基西信本尊阿彌陀如來。

○古城跡 同所にあり。新目彈正安光是に居たりしとなり。

菩薩作

當庵開基未詳元祿年中七ヶ村三井某修造を加ふ。

○王子權現 福良見村にあり。社人朝倉權之進。祭禮九月九日祭神大三輪明神

本社、幣殿、拜殿、鳥居

當社は貞享三年造營永祿十年大谷川三郎兵衛修造す。

○春日大明神 春日村にあり。社人同上、祭禮九月九日

本社、幣殿、拜殿、隨神門。鳥居、末社十一産所々に有。

當社は慶安四年修造なり。

五社大明神 鹽入村にあり。社人同上。祭禮九月十八日又三座大明神とも云。

本社、幣殿、拜殿。○末社。山神社。

當社は天正十一年太郎右衛門なる者造營すと云。

阿波の國へ越る道 鹽入村より阿波國へ越るに阿州大刀山を越大刀村にいたる民家百二十軒吉野川邊なり其所より徳島へ十四里なり又鹽入村より阿州足代村に至て民家二百餘其所より徳島へ十六里なり。

七箇尋常高等小學校

十 郷 村

東吉野、七箇、南徳島縣三好郡、西三豊郡財田及神田村、北琴平、榎井、神野に界す明治二十三年二月十郷佐文の二村を

○古城跡 本目村にあり本目左衛門尉正利是に居たりしとなり

○藤目城入古城跡 山脇村にあり山脇左馬亮是に居たりしとなり。

○毘沙門寺跡 良野村にあり。

○八幡宮 同村上村にあり。社人吉田清太夫

●轟の瀑布は山脇にあり高さ四丈餘財田川の水源たり。

○藝目城跡 十郷村にあり。齋藤下總守(或云下野守) 師郷是に居たり。下總守齋藤師郷は細川氏の被官なり阿波の大西某と婚嫁せり。此大西は土佐の長曾我部元親に服従せし故師郷を説て元親に服従せしむ奈良太郎左衛門香川民部少輔長尾大隅守羽床伊豆守兵六千を率て藤目の城を攻め元親に此よしかくと告げればいそぎ加番として桑名太郎右衛門に人數五百餘さしこしける早其内師郷防かねて城を棄て阿波の大西に走る最より藤目の城を新目彈正に授て成兵五百をのこしてかへる時に天正六年三月なり。此冬長宗我部元親今春藤目の城を抜さるを恥て兵を出して藤目の城を圍む新目彈正安光防戦力をつくせども土佐の兵暫時の程に攻め上り熊手を以て堀を引崩し遂に城を攻め破りて城兵悉く戦没すこれより齋藤師郷再び還住す是を土佐兵讚岐に在るの初とす。(元親記)

○王子權現社 同所にあり。社人同上。本社祭祀不詳。祭禮九月八日

○十二社權現社 同所にあり。祭禮九月六日。社人同上。

本社、拜殿。

當社肇祀不詳。

○内裏屋敷跡 同所にあり。其所不詳。土人其地を王堀と云。
○良野大明神 同所にあり。社僧鶴足郡佐岡寺、祭禮九月十八日。

土人良明神或は太宮大明神と云へり。社人黒木民部。

祭神別雷神(太古六観音)幣殿、拜殿、隨神門、鳥居。

當社は延喜五年神童出て和氣隆純に託宣あり依而勸請せり。
元和元年九月十一日延寶五年三月十五日造營棟札今尙存す。

○妙見社 同所中通井にあり。社僧同上。祭禮九月十六日
本社、拜殿

當社は初鎮守地未詳那珂畝首領成善か此所に移せし也今は當村新名助左衛門か鎮守なり。那珂畝成善は緑の七世宣化天皇僧聽三年妙見尊成善か小女に托宣あり我宮を那珂畝良野卿に移さは吉利あらん既に移りて開墾して其功を奏しければ天皇特に那珂畝首領の號を賜敏達天皇賢稱九年庚子正月十五日に卒す。濤百三才

○大宮大明神 同所にあり。社僧佐岡寺。祭禮九月十八日良野明神の事

本社。幣殿。拜殿。鳥居。

當社邊は長尾大隅守か遺跡なり俗にドタン松といふ。

○若林大明神 同所下村にあり。社僧同上祭禮九月十七日

本社。幣殿。拜殿。隨神門。鳥居
當社肇祀不詳。

●十郷尋常高等小學校

●琴平町

東榎井、南十郷、西三豊郡麻村、北象郷、善通寺町に界す明治二十三年二月琴平村を町とし獨立したるもの面積〇、一九三方里昭和二年末人口六千四百八十五戸數一千四百九十三。町は象頭山の麓にあり金刀比羅の賽者絡繹織るが如く旅館の廣大櫛比せる關西稀に見る所である。

○西山城跡 松尾にあり。三井顯正と云者明德二年西長尾屋敷に居たりしを榎井西山に迂る其後廢せしを三井大炊助貞宗再興して其男貞次子なくして家絶たりしかは同所眞樂寺へつほむと云り。

○荒神社 同所にあり。金光院支配。祭禮六月廿八日。同所神の木にあり。同所支配、祭禮九月八日

○古城跡 愛宕山にあり。石井彈正是に居たりし也。

○象頭山金毘羅大權現靈驗碑 同所赤銅鳥居傍にあり。

抑此碑は江人榊原亘といふ人當神を深く信仰し小符を得んことを渴望しけるに不思議に附屬の人あり時に文政九年十一月重病にて危かりしに延命の事を祈りしか程なく快くなりし故其由を朝川鼎に作らしめ三縁山僧顯密に書しめしものなり。

となり怪異の事なからしめんと佛師を召して御身の木像を作らしめ我願成就せば此木像の面體に我の如く瘤顯るべしとのたまひ一百ヶ日御參籠ありて滿願の日内陣より出たまひあら難有や我大願成就せりしか未だ時節到來せず我より三代後に及んで我にひとしき入院主にあらん其時より當山繁昌すべしと仰置れ觀音堂の扉を左右の脇にはさみ南をさして飛去り玉ふ。御言葉の如く御木像の面に瘤顯れる則瘤金剛坊の尊像是也御面貌奇異にして靈驗あらたの尊像なり誠に權化の遺命の如く三代目の後宥典法印の時より御山益御繁昌に至りける神にすらく盛衰あり況や人力の及はざる事早く察すべし今の人の至らざるを知らずして忽に幸を得んとて返て禍の至るをしらざる人多し。

○阿彌陀堂 萬治二年源英公建立なり。

○孔雀堂 孔雀明王(新作)十羅刹女古佛、

○大黒天社 觀音坂にあり

○鐘樓 元和三年生駒正俊朝臣建立なり

○藥師堂藥師日光月光(古佛)十二神將(新作)

○二天門 多聞天。持國天(天正十二年長曾我部元親建立棟札今尙存す。

○燈籠堂 寛永四年建立なり。

○多寶塔 金剛界五佛(延寶元年建立なり)

○神馬屋 慶安三年源英公御建立なり。飼料三十石御寄附

○金毘羅大權現 松尾山にあり。社僧金光院。祭禮三月、六月

十月十日。社領三百三十石

元龜四年再興萬治二年再興今の本社は也御額(二品道晃法親王御筆)本社(神躰直作)脇士(伎藝伎樂)但出家たりといへ共未だ觀頂せざる輩に内陣に入るをゆるさず。神廟(内陣の後に在)拜殿(不動明王愛染明王左右にあり)

○三十番神社 同所にあり。

本社拜殿 當社は秋山土佐守泰忠勸請する所國中六ヶ所の其一なり。正保二年國祖源英公御再興御修造なし玉ふ。

○大行司社

○行者堂役行者

○不動堂(萬治二年再興)不動尊(弘法大師御作)

○經藏 寛文二年源英公御建立。明本一切經 傳大士脇士(普

成普建)釋迦(古物)文珠普賢十六弟子 十六羅漢(作未詳)

○觀音堂(萬治二年再興)聖觀音(弘法大師作秘佛三十三年

に閉帳)○前佛十一面觀音(湛慶作)三十三身。

○金剛坊 觀音堂裏に安置す。

慶長年中の院主宥盛法印と申奉るは大徳の權化にてましくける此ころまでは夜分山中怪異の事とも有て夜中參詣なりかたきを宥盛法印深く是を憂てかゝる靈山には必山鬼住て怪異の事有ものなり然るに此まゝにては往々當山繁榮ならず先主宥盛は學業禮して取を落す我誓願は生なし魔道に入當山守護

安永三年午二月十九日乃夜半の時比佐山御本社にて馬の嘶く聲聞ゆ其夜の當番僧諦忍房是を聞つけ番所の戸を明け見れば黒馬一匹石壇を下かゝる體月あかりに轟くと見へければ詰番の禪門ともを呼起し此處へ馬の上るへきやうなしアレ見届よと下知に従ひもはや石壇を下りたる故觀音坂へ廻りて追かけ下りしにはや二天門までかけ通りしを皆々走り行しところ二王門通りて行方しれすここと尋れと知れされは其儘にて番所へ歸り翌日院内にて此事を評議する人々實とせず諦忍房はしめ其外四五名も睨と見届しといへとも時對といひ殊に御本社前決て馬等は有へからず往古より云傳へし御談かはしめ獸の白猿か毛髮の燈臺にて有へしたまへしを見れば不吉といへはよろしからぬ事なりと却て嘲哂する故是非なく其儘にてやみぬこの燈臺は大鹿にて既に燈臺の如き角壹本あり毛髮は羊の如にして黒き毛の長き獸なりと云傳ふれとむかしより睨を見たるものもなきと也しかるに其年の三月豫州岡市より御神馬奉納とて黒馬壹疋引來れり諦忍房見より先月夜中に見かけしは正敷此馬こといふに奉納の願主曰私は豫州岡市にて馬口勞也祈願の事ありて飼女馬の胎の内此馬安産次第其子を御神馬い奉納すへしと心願仕ほとなく出生す又小馬飼ひて居りしに同商賣の者とも此馬甚宜しき馬なりとて駒の時分より高金の直打いたせしゆへ子圖欲心發り當二月相談成り御神馬に外の馬を奉納いたし此馬は直賣にも致すへしやと申合せ

しに其夜此馬壹疋馬屋に見えず所々尋れとも行方知れず翌日夜明野邊はつれに草を喰ひ居るを見付其儘引かへりも所たれか申出せしや此馬金毘羅山へ參り御守を首にかけ歸り奇瑞の事なりなとゞいろゞの沙汰し毎日人多へなく馬を見物に來りし故つゞと思ひ巡らすほとあさましき欲心おこり代さへ奉納せはよろしき事と心の忽體なく恐して此馬奉納仕り御詫の御祈禱成し下されと初穂をへて奉納せりむかし國君御寄附の木馬の御神馬に子細有て折々生馬の奉納あれと二三日御祈禱の後麓へ下させられ御神馬に生馬はをかれざるなれと此度の事はかゝる奇瑞ありし事故院内に馬屋を建て飼ひ置かれ眞黒なる馬なりしかいつの頃よりか立髪のはづれに少し白毛生出金の字の如くなれり此馬を日々すそあらひする若き衆裸なる馬に乗てはね落されしこと度々あり當山屋根瓦の紋及諸印に丸の内に金の寄附られ金の字は甚恐るゝ事なればかゝる奇瑞の馬いたつらに乘立して怪我なといたさざる様自然と金の字の白毛あらはれしや有かたき御事なり。此白毛生出しよりたれ壹人たはむれにも乗る人なし近き比まで此馬居たりしなり。

○茶堂石燈籠(十二基源英公御寄附)大門(慶安二年源英公御建立)金燈籠(源英公寄附)

○鼓樓 寶永六年建立。
○御祈禱參籠所

○長日護摩堂 不動(智澄作)四大明王二童子八大童子十二天
○祖師御影堂 弘法大師(眞如親王御作)八祖畫像(同筆)毘沙門像(弘法大師作)

○阿彌陀堂 三尊(惠心作)今上帝天皇御代々御位牌安置 高松御代々。地藏尊(安阿彌作)毘沙門天(運慶作)舍利塔年中社頭寺役行事の次第同十日(神前出仕大般若經御讀)

正月一日(長日護摩開日三十番神奉幣)同三日より一七日ケ間神前參籠して天下泰平御祈禱修行。

同 八日(仁王經開日)同十日神前出仕大般若轉讀)同十二日(禁裡御所別勅之御拔御禱祈修行)

同 十五日(日天供)同十八日(神前出仕觀音講)同二十一

日(祖師御影供)同二十三日(月天供)同二十八日(神前出仕本地堂護摩供並不動講)二月一日(神前出仕)同十日(神前出仕大般若轉讀)同十五日(涅槃會供)同十八日(神前出仕觀音講)同二十一日(祖師御影供)同二十八日(神前出仕本地堂護摩供下動講)三月一日(神前出仕)同三日(於神前神事頭に三十番神奉拜)同八日より十一日迄(會式)同十八日(神前出仕並觀音講)同二十一日(祖師御影供)同二十八日(神前出仕不動講本地堂護摩供)四月一日(神前出仕)同八日(佛生會七月八日迄一明舍利講)同十日(神前出仕大般若轉讀)同十八日(神前出仕觀音講)同廿一日(祖師御影供)同二十八日(神前出仕並不動講本地堂護摩供)五月一日(神

前出仕同三日より一七ケ日間(神前參籠天下泰平御祈禱御修行)同五日(於神前神事頭三十番神奉幣)同十日(神前出仕大般若轉讀)同十一日(禁裡御所別勅之御禱祈御修行)同十五日(日天供觀音講)同二十一日(祖師御影供)同二十三日(月天供)同二十八日(神前出仕不動講本地堂護摩供)七月一日(神前出仕)同七日(神前出仕觀音講)同廿一日(祖師御影供)同廿八日(神前出仕不動講本地堂護摩供)九月一日より一七日ケ間(神前參籠天下泰平御祈禱祈修行)同九日(於神前神事頭に三十番神奉幣)同十日(神前大般若轉讀)同十三日(禁裡御所別勅之御禱祈御修行)同十五日(日天供)同十八日(神前出仕觀音講)同二十一日(祖師御影供)同廿三日(月天供)同廿八日(神前出仕不動講本地堂護摩供)十月一日(神前出仕)同八日より十一日迄(大會式神事行列圖畫下に出す)同十日(神前出仕大般若轉讀)同十一日(神前出仕)同十八日(神前出仕觀音

講)同廿一日(祖師御影供)同廿八日(神前出仕不動講本地堂護摩供)十一月一日(神前出仕本地堂護摩供)同十八日(神前出仕觀音講)同廿一日(祖師御影供)同廿八日(神前出仕不動講本地堂護摩供)十二月一日(神前出仕)同十日(神前出仕大般若轉讀並に夜分心經千卷讀誦)同十八日(神前出仕觀音講)同廿一日(祖師御影供)同廿八日(神前出仕不動講本地堂護摩供)除夜(神前出仕同夜星供)晦日(於護摩堂長日詰願作法並に諸神供)每歲正月十一日(從高松依仰五穀成就の御禱祈修行有)一季彼岸中(佛生會一般舍利講あり)

抑も當社の肇祀久遠にして未詳相傳元龜四年に再興し萬治二年に大に修造を加ふ今の社殿是也當山の形ち北高く南低し遠より最を望は象首の如し故に象頭山と名つけたりといふ。

(一説に天竺に象頭山有金毘羅神の宅はとて其名をとるといへり)金毘羅大權現の社は此山上に有て正東に向ふ當山の垂跡はずでに三千年に餘りて釋尊出世の時同く天竺に出現して佛法を守護す則修多羅にいはゆる耆闍崛山の金毘羅神是也又曰此神天竺摩訶陀國にましゝて釋尊入滅の後佛舍利を分得て當山へ轉り來り靈窟に安置し共に御鎮座ましますなり其御本地は不動明王の應化金剛手菩薩なり頭上の戴勝は五智の寶冠なり巖窟は不動の磐石なり左の手に念珠を持たまふは縛索なり右の手に笏を執したまふは利劍なり左右は則技樂

酒を諸神へも供し女頭と申者を極む但十歳より十二歳までの月經なき者を求む夫婦のかたちになすなり。

九月朔日(大神事といふ)

此日は別當代に役僧出る庄内頭勤の家をはしめ其村中家に不殘男女下にまてに朝食を出し神酒の醴酒を拜分す下頭の家は二日なり之を大神事と云ふ。

同八日(湖川の神事を云)

此日多度津より潮を汲せ並に藻葉をとり寄せ金毘羅川の上石淵と云處に入置別當始め頭人並に庄内庄官不殘勿論氏子共も出勤す上頭家よりは赤飯濁酒吸物出る魚類也たなこせいを以て觀式とす下頭家より濁酒並に團子の吸物を出せり右別當も一席にて飲食す濟て右の藻を川上に入て潮を流し別當はしめ男女の兩頭人當頭屋まで稜禊し十月十一日まで固く精進せり(往古は多度津浦にて別當初行て潮垢離をとりしか數百人ゆゑ費多く御圖の上如此なりたり。これを湖川の神事といふ)同九日(建御幣、御幣を建る竹は良野村新名氏の家より出す例なり。神事)

此日別當庄官頭家に揃ひ精進家にて朝飯を出る則御幣を大竹の先に付て精進家の棟より貳三間高く指上遠きへ見せて汚穢不淨の者近不爲也此御幣の串一間斗上に神棚を設け勸請する也札の文言圖の如し此神前にて別當勤あり。此とき頭人御初穂として散米三升三合散錢二十五文新敷ゆりわに入新敷湯次

技藝と名つく金伽羅制呷迦なり

往昔役の小角始て此山を闢く山上に五十の坊舎ありて云々山下に民屋ありて左右にまちをなす逆旅茶店富人大賈屋を比へ瓦を連また東よりいははしめて華表あり此は丸龜より來る路なり。華表を過れば川あり。橋に屋ありて是を覆へり室橋といふ行事百歩ばかりにして道岐あり多度津路也左に折れは小坂有伊豫路なり誠に隱賑たる一都會の地なり。爰に詣するもの本州隣國はいふに及はす四方遠國より貴賤となく少長となく其幾萬人といふ事を知らすかつ琉球朝鮮より唐山に至るまで崇信せすといふ事なし凡是を求めは則得たり瘠人は起つ事を得聲者は聽事を得貧者實を得愚者は智を得たり其感通を蒙る事あけていふへからす。「其委敷事は爰に略す」當山の由來なと縁記に見えたれば爰に略せり。

○金毘羅神祭之次第

前年十月十二日より火を改て穢を忌病を詩す禽獸の肉を不食河魚並に海魚の中にも海糖魚を食す房事を禁す往古より傳へ來りて頭人と石つくる者二人有其家筋極て有て上頭下頭と云て是を勤むるなり。

八月卅日(口明の神事といふ)

別當及兩頭屋(苗田、榎井、四條、五條)以上四ヶ村の中にて(石井、石川、守屋、三井、岡部、和泉、長谷川、庄屋にてはなし。古來の宗なり)又(東條、和泉、田中)寄合て醴

に濁酒を入又土器四つにも濁さけを入榎四枚に餅三十六入並に榎六枚に餅を入男女頭司山百姓五人代僧にて是を戴く(山百姓と云のは神前の御供して當地へ來りし者の子孫也十二家あり。其内五人いづる)まへにいへる精進家といふは(國主より材木給ひ二間に四間の家を新に建わら葺壁の内二間四方疊を敷別當庄官列座の場とす圍爐裏一なり又二間四方にへりとりを敷琉球を敷此方の上に神棚あり高松の公より當家食料として米五十俵をたまへり)

同 十日

此日頭家に別當來り宿す是より兩頭家又寺に一宿ありて三日宛に相廻り勤行せり。

同卅日(口明の大神事といふ)

十月朔日(小神事)

規式大神事に同じ組今日より男女頭人頭司並飯取の姥まで毎日垢離をとる事三度なり以下下頭家はすべて翌日なり。

同六日(指合の神事と云)

此日別當當家より來る庄官不殘揃ひ來年の頭人の下評議をなせり鏡餅を鉢に入神前に供へ又庄内中の氏神荒神へも同前に餅を供へ精進家にて是を行ふ。

此外に餅を供ふ片餅五束(但長一尺二三寸の小板十枚を一束と云)板は檜扇の如く片狭なり、一枚に餅三つ三所に置一束宛重てしめ付る世俗是を板付のかゝみといへり(杵形餅の如

し)三つは別當三日參の時吸物になす三つは頭司三日參の下向の節頭自宅にて吸物になす。三つは山百姓五人(十一日御神事にくばれり)此日苗田村の穢多頭家に來器物持參し食物の品のこらす喰ふ其火を改めまして餅を蒸すゆゑ如何なる神祕にや難有事といふべし。

同日

頭人淨衣に烏帽子ひたれ騎馬にて武家の行列の如くなして參詣す是を出仕といふ行列の先拂は籠取の姥乗馬にて頭上より緋無垢を引被るなり(是を古來あつた女蔭いふ此姥月、經なきものを雇ふ。九月八日より頭司門前に精清宗の勤をなせり)行列の初に頭司平服麻(上下騎馬)にて供をする(御山にて働きあり)此跡は諸國より心願の者(騎馬)其人數定りなし神前にて男女兩頭人新敷上敷のうへに着座初穂として米壹升三合入る紙袋に(是を縫くゞみと云)並に錢五文供へ外に開帳錢壹貫文此代(上頭貳貳分五厘下頭九分七分五厘なり)別當祭文を讀て行事有頭人に奉幣を教て勤しむ訖て觀音堂にて頭家よりの仕出しを板弘む板間に米俵の菰をしき兩頭男女をはじめ供乗のもの皆着座すと献あり初穂献(こほひせり)こ餅酢和芋)二献粽三献煎餅四献串柿五献密柑六献梅干七献栗醴酒舊例なり。

同十一日(御神事下頭勸也)

此日神事も昨日の如く次第にて頭人の交代するまでなり觀音

年の頭人下山せずといふ古例なり。跡をみす戸を引立作り置十五日にこほちて社領地に焼捨る。

同十四日

當年の兩頭人と來年の兩頭人と一同に參詣する是は來年の頭人何某へ譲り申との祝詞のよし來年の頭人別とにて行ふ事前年の如し。

是をもつて神火たえざるの大祭と申也

同十五日

朝上頭家大拂の事但精進家を崩し社領地において焼捨る也下頭家は夕方なり。

御朱印之寫

讚岐國那珂郡小松庄金毘羅權現社領同郡五條村の内百參拾四石八斗餘苗田村の内五十石木徳村の内貳拾參石五斗社中七拾參石五斗都合三百三拾石事山林竹木諸役等免除永不可有相違者也專神事祭禮可抽國家安全の懇祈者也仍如件

慶安元年二月廿四日御朱印

金光院

十月十一日御神事の終て觀音堂にて兩頭人のすはりたる膳具箸を堂の椽よりなけ捨るを限りに諸人一統下山して方丈門前神馬堂の前に結階をなしこの夜は一人も當山せず此兩頭人の捨たる箸を御山の守護神其夜中に捨ひ集め箸洗ひ谷にて洗ひ何所へやらんはこひ玉ふと云傳ふ此箸をひらへは幸福ありと

堂の饗宴濟て神輿御幸あり。是を行道廻りといふ則兩頭人輿の供奉す其行列兩頭人草鞋杖鞆(比鞆牛の皮剝取七日の内を用ゆ依て臭氣有といへ共舊例なれば是を用ゆ神祕あるにや是は六日の指合神事の印頭家へ出たる榎井村の内荒井の穢多か造る處なり)上頭人かくの如なして各山梨の木を以て作る杵四本をかたけ下頭人同花桶花籠をかたけ此桶の瓶の由宇野忠春考にはこしきにあらず白なりへし上頭人は杵なり)花籠はいかきの類なるべし御神事中に用し道具を神輿に供する心なるへき影下文にて考へし山百姓五人兩頭人に付同御幸の供奉をする。鉞(四本)茶刀(四枚)上敷(四枚)味噌漉(四)杓子(四本)草履(四足はなをなし)染布一端(上頭人よりいたし)白布一端(下頭人より出せり)

すべて神の枝にかけ山百姓共是れを以て御供す(忠春考に山百姓といふは上古は尋常の民にては非ざるへけれと家係もな今に至りては至極貧賤の凡民なり。神助あれかしとおもふなり)

同日晚

別當代僧並頭家附の修驗者指圖にて小豆の握飯七十五膳出來糎十五六枚に入る事も有修驗者神樂を奏して代僧建幣を卸て焚きはらへり。右御神事濟て頭司精進家にて魚を焼く。是日頭人頭屋にて精進をとき又火を改て三日參の神齋に入る。但來年の頭人の極さる時は神前の祝詞すまといふ義にて當

て翌朝參詣して心かくれともそのはしみえず一ヶ年中に御本社へ人の上らざるは此一夜斗なり其餘晝夜共參詣人絶間なし阿州箸谷箸倉寺にも此夜は登山せず翌日登山して拜するに右箸膳具谷中にあつまり有と也例年の通り御箸はこひ御座有しと箸倉寺より象頭山へ使僧來るたより毎歲かくの如し奇妙の御神祭なり。

高札寫

當山より諸國へ開帳はいふにおよはす奉加勸進に出す事なし所により勸進願ひ來るといへともかたくゆるさず金毘羅權現は日本に一社の神此山にかきり然るにまきはしき神跡開帳いたし並に札守出すいはり者あるによりてかくしるす者也。

○靈寶 毘沙門天尊像(金毘羅大權現の御神作) 金剛坊自筆(二幅) 鈴五鈷(同所持) 貝石不動(房州平郡府天神山浦の砂中より出現なり記相添) 植髮三尊彌陀(中將姫御作) 藥師如來(智澄大師の作) 不動明王木像(弘法大法師作) 妙見菩薩木像(聖徳太子の御作) 鈴五鈷(智證大師御所持) 弘法大師自筆(十一幅) 血不動御影(智證大師筆入唐の時の御誓願に依て當社に納む) 不動尊種子(覺曉上人の筆) 阿彌陀御影(慧正僧都筆) 不動明王御影(巨勢金岡筆) 三十六哥仙額(御歌門跡及堂上方畫狩野探幽尙信安信也源英公御寄附) 粟田口吉光短刀(細川頼之朝臣の寄附) 眞太刀(仙石權兵衛尉秀

久の寄附)眞御太刀(源英公御寄附)雲澤薙刀(同御寄附)眞太刀(國君中將賴豐公御寄附)甲冑三領(阿部伊勢守殿松平越前守殿水野美濃守殿並御寄附)蘇武別李陵團一幅(贊淳南商汝頭目佳陵王晋氏)三山支大年(至正癸卯三月望日仲穆)と記しあり)唐畫觀音一幅(上に天大將軍身右に參議左近中將十三歳左に海老名所望書之義政將軍花押)一休自畫贊(眞珠庵宗玄極相添)山水畫一幅(古法眼之信の筆永眞證焉印)岩木畫二幅(陸治筆)龍畫横物(陳所翁筆外顯探幽安信常信極狀及箱書附)牡丹蝶畫並贊(董其昌の筆外顯探幽古筆極漆)茄子瓜畫(牧溪筆裏書曰牧溪淡墨茄子石此畫者讚州龍雲院殿御秘藏也而最勝院殿へ被召也其後付與保團良輔也越智通金とあり。

右之外化像花畫佛器諸畫等數多ありといへとも一々あくるにいとをあなす當靈寶目錄をよみてしるへし。

○象頭山十二境

左右櫻陣

前南禪雲外東竺題

地靈春物絶塵氛爽路山櫻園十分一段風光轉迷望左邊如雪右

邊貫後前竹園

前天龍文禮題

前是淇園後渭川、千竿園繞帶風烟、更無向背令人俗不許斯中栖七賢

前池躍魚

肯相國芳諸題

度往來人

五百長市

前眞如大林良梅題

鄰居五百氣雄哉、陳々風生街裏埃、匪甯市聲響午枕、行商絡繹去還回

万濃曲流

源頭活水古今均、曲々流過放海濱、廣灌公田助農力、何唯恩澤幾千人

同詩六首想像後境、做着題體弘文院林學士(名恕字春齋號稱峯)左右櫻陣

吳隊二姬笑、對宮千騎粧、花顏誇國色、列對護春王

後前竹園

移得渭川畝、湘孫貽厥多、百千竿翠密、本末葉森羅

前池濯魚

同隊泳共樂、自無香餌投、饒巖縱所往、活潑圍洋候

裏谷遊鹿

林鹿撫子唱、山口對玉川眠、凹處登音少、呦々慶々連

群嶺松雪

尋常晉蓋傾、頃刻玉龍橫、棲鶴失其色、滿山白髮生

幽軒梅月

起指霽光閃、坐看疎影回、高低同一色、知否有香來

雲林洪鐘

左六境拾乃父餘吟

那珂郡

象嶺巖前貯碧流、圓波動處戲魚浮、從容相逐自知樂、深趣正思蒙叟遊

裏谷遊鹿

香雪 遼草

披毛戴角亦堪儔、院後谷深群鹿遊、不許虞人來網住、秋風得意自呦々

群嶺松雪

前臨川中山題

群嶺峻憎風色寒、喬松戴雪聳雲端、天然景趣無人會、白髮老僧闔戶着

幽軒梅月

前臨川湛月心題

月映梅花珠的皜、梅隱月色影橫斜、黃昏殊覺幽軒好、疑是孤山處士家

雲林洪鐘

福源月坡題

百斛洪鐘百鍊堂、音如雷震動雲林、象頭梵境盈人耳、朝杵昏庭闌古今

石淵新浴

前福澤宗達題

綠水盤旋不次淵、青山掩映九重天、祭時新浴秋風爽、莫使神龍驚晏眠

箸洗清漣

掬月野納令研題

山靈岩竇貯靈湫、千古淙々鴨綠浮、七筋誰知投遠寺、神明呵護又焉履

橋廊複道

識廬野納永集題

廊腰縷達淨無塵、複道行空疑到秦、八幅能功得其一、普蒙濟

近似萬車轟、遠如小磬鳴、風傳朝午晚、雲樹無含聲

石淵新浴

石淵風浴新、知有詠歸人、能使箇心潔、臨流欲賽神

箸洗清漣

一飽有餘清、波漣源口亨、漱流頻下箸、喚起子荆情

橋廊複道

人攀西嶽去、水向北溟流、風力推無運、始知不是舟

五百長市

半千長市塵、高下巧成隣、無意弄烟景、沽諸待價人

万農曲流

清泓泛喬岑、長流早則霖、弘仁餘帝澤、一缺當千金

寬文辛亥臘月中旬

整字林子(名慧字春常春齋次子)

降神維嶽鬱嶂嶸、萬國香花日爛盈、是威靈覃海外、岨岐爭得有夷行(西清商船劉雲臺獻彼土文治書降神觀扁額)

同

海外歸依靈顯然、况余近接五雲前、時過紙馬堂中見、剪髮賽酬幾百千

同 二首

遙望象峰色、半天積翠斜、那知積翠裏、豪旅有千家

同

山麓復山巔、雕巖相接連、白雲處々起、一半是人烟

同 藤荷筒(東讚人號漆谷)

爽蹊雲猶鬱成圍、宮殿達翠漱、請見降神觀三字、大清天子仰靈威

調象頭山金毘羅廟 僧海量(淡海人)

象頭山色鬱蒼々、半腹高閃古道場、長海潮流當繡戶、孤峯烟起饒雕梁、行攀石燈臨懸岸、俯擁朱欄倚上方、知是靈威施萬國、獻燈無限照宮牆

●題清暉亭在象頭山 故讚岐守源朝臣頼桓

田疇寥潤。青山四圍、天未海遙、遠波望微。登于北亭。使人忘歸

●題松尾寺 久家暢齋

探奇來倚石欄干。老樹交枝積翠寒。一望前村秋十里。飯山便做假出看

●遊獅子窟山莊 久家暢齋

山色蒼深爽氣澄。好風烟裏畫欄憑。目忙却是無詩句。如許珍樓遊未會

●夜登象頭山 日柳柳東

巖壓人以勢欲傾。滿山靈氣不堪清。夜深天狗來休翼。十丈老杉搖有聲

●象山春興原五 久保蘿谷

佐屋橋西別有春。阿誰携妓賽山神。香風吹散櫻花雨。一傘同行跼字人

●謁琴平神社 水越成章

松杉深掩古祠庭。碧蘚吹香雨氣冥。爲是神威多呵護。青山也自有精靈

●門

水越成章

清姬碑畔午烟颺。竹榻蘆簾別有鄉。倩得織織如雪手。一杯先薦白櫻湯

●象山十二詠 巖谷一六

象山新月

新月似磨牙。斜懸象頭樹。記得謝春星。千秋傳妙句。

龜奥山遠霞

龜奥山遠籠霞。一半夕陽赤。鷗鷺似相爭。飛々帆影白。

櫻節春祠

春風祠事盛。來賽人無斷。滿山櫻亂開。紅雪撰衣暖。

楓時秋禊

秋水淨無塵。好慈修禊事。霜楓錦成屏。斜陽江滿地。

後林采葦

采之又采之。采々香盈把。夕陽紅來沈。且慰長松下。

前市納涼

夜熱尙依然。出門前市去。水晶燈影涼。借榻賣冰處。

復道彩虹

不霽是何虹。半空橫復道。緬想太初時。嶽神之所造。

狹川白雨

狹川水正枯。白雨沛然至。秧田綠忽蘇。出藻魚兒戲。

鼓樓松翠

老松森蔽空。屹爾譙樓立。方知報午時。嵐翠鼓聲濕。

燈閣鶻聲

缺月已收光。殘燈猶照閣。瞥見曉鶻過。一聲如裂帛。

●豪頭山 少松庄に在り海拔二千二百尺丸龜より望めは象の如し宮殿其頭に當る故に名つく一々曰く天竺に象頭山あり金毘羅神の宅する所因て其名を取ると云ふ。

象頭山 水越耕南

萬籟無聲樹木蒼。櫻臺明滅帶斜陽。山容眞個象頭似。捲起白雲峯鼻長。

●金毘羅大權現 山の中腹にあり祭神は摩訶羅神日本に素盞鳴尊と稱す曰役小角始て此山を開く中興弘法大師古錢眞言宗松尾寺金光院別當たり附屬寺院、眞光院、萬福院、尊勝院、神護院、普門院、(今皆廢す)

本宮は長保三年藤原實秋勅を奉し創造し中比萬治三年英公舊觀を改め之を新にす壯麗南國に冠たり。此神甚靈應あり。名聲海内の振く歳十月十日祭祀す五日市あり之を大會と稱す。三月十日亦之の如し之花會と云ひ來賽者毎年五十万人を下らず。禱者終釋として絶へず。

社領田三百三十石五條、苗田、木徳村に在正保四年源英公幕府に請ひ其券を給す。

●金刀比羅宮 明治元年六月神祭とし更に事比羅神社と改稱し

祭神は大物主命と判明し相殿に崇徳天皇を祀る。明治四年六月國幣小社列せられ同十一年社殿を營造す同十八年五月國幣中社に進めらる同二十二年七月事比羅を金刀比羅の文字に改めらる。

大祭 毎年十月九日十日十一日の三日間神輿石淵の行宮に渡御ありて行はる○中祭一月十日三月十日○小祭六月十日、八月二十六日、九月十日○櫻花祭紅葉祭臨時。境内にあり諸攝社及建物の重なるもの左の如し。崇教講社本部 阪の上り口にあり。

●清少納言古墳 鼓樓の傍にあり。塚碑文は高松の和學者友安三冬の撰せしものなり。

●櫻の馬場 大門を上り兩側に櫻樹數百株燈籠數百と相並ぶ所春時櫻花爛漫たり。

●黒門 此門内の建物は千疊敷と唱ふる大玄院あり豊太閤の建つる所なりと云ふ。

一神籬大門琴平山の三字の扇額は有栖川職仁親王の御筆なり。慶安二年の再營なり。

一神馬舍例年大祭の時神輿の先驅に供する神馬三頭を飼ふ。

一社務所 昔時の別當金光院の館なり今社務所に改む本社國寶社藏寶物はこの所に保管せり其の品目等は下文に詳にせり。

一木馬舍 元國主松平讚岐守頼重公より木馬寄附。

一祓戸社 祭神は瀬織津姫命、速秋津姫命、氣吹戸主命、速佐

- 須良姫命、
- 一 火雷神 祭神は火産靈命
- 一 旭社 祭神は天之御中主命外八神を合祀すこの社殿の構造二層の入母屋造りにして廣大なり其高さ六丈一尺餘桁行六丈梁間も亦五丈なり銅の瓦椽の木材にて四面の枳料戸扉に至るまで花卉禽獸人物を彫刻す皆良工の精作にて美術家の歎賞措かざるものなり。
- 一 賢木門 天正十二年長曾我部元親建立せしものにて舊は二天門と稱し持國天多門天を安置せしと云。
- 一 遙拜所 四方拜及大祭遙拜の場なり。
- 一 眞須賀神社 祭社は建速須佐之男命、奇稻田姫命にて正殿祭神の御祖神なり。
- 一 御年神社 祭神は大年神、御年神、若年神の三座にて正殿祭神の御親族の神なり。
- 一 事知神社 祭神は八重事代主命、味鋺高彦根命、加夜鳴海命の三座にて正殿祭神の御子神なり。
- 一 本宮 祭神は大物主命御相殿崇徳天皇。明治十一年新營せり一樂殿 奏樂殿なり。
- 一 嚴魂神社 祭神は嚴彦命。一説金光院第四世宥盛を祭ると云
- 一 睦魂神社 祭神は大國主命、少彦名命の三座にて正殿祭神の御別名と御義兄弟の神となり。
- 一 神庫、神輿庫 神寶神具神輿を藏む。

- 一 三穂津姫社 御別宮とも稱す祭神は正殿大物主命の後宮三穂津姫命なりこの社殿は所謂皇子造りにして其の結構本宮に次きて壯觀なり。
- 一 祓舎 昇殿して拜を望むものに身潔除を爲さしむる所。
- 一 常磐神社 祭神は武雷命、譽多和氣命
- 一 菅原神社 祭神は菅公
- 一 齋所 神職齋戒する所
- 一 繪馬堂二棟 天明九年の再建にかゝる扇額中名家の手に成るもの多し。
- 一 大山祇神社 大山祇命を祀る。
- 國寶 明治三十四年内務省の告示に依り社藏中紙本着色こゝに竹物語、壹卷、紙本墨畫瀑布及山水の圓應舉筆卅三枚、竹林七、賢圖(同筆)十六枚、紙本墨畫遊唐圖(同畫)廿四枚紙本墨畫幅鶴圖(同筆)十七枚、絹本著色辨財天十五童子像一幅
- 寶物館 躑躅岡にあり。明治三十八年七月落成し社寶を陳列縦覽せしむ。
- 琴平公園 町の南丘山の上にあり明治三十一年三月縣告示六十號を以て公園と定められたり面積八町一反九畝七あまり山上の眺望絶好の所也。
- 圖書館 山上にあり此は東宮殿下御渡歐紀念の爲め建築せしものにて左の二期に分ち竣功せり。

第一期 大正十二年二月十一日開館

- 一 建坪百四十壹坪此建築費 壹万九千八百六十八圓
- 第二期 大正十年五月九日竣工
- 一 建坪貳拾三坪五合 此建築費貳万七千七百七十圓
- 二 口合貳百六十四坪五合
- 建築費二口合四万七千三拾八圓

かくて本館は内外の圖書數千を藏し廣く公衆に閱覽せしむ。昭和四年二月十一日文部省より選獎金交附ありたり。

一 燈籠 境内燈籠甚多し舊諸侯より奉獻せるものを始とし數百を以て數ふへし就中常夜燈の三字を大窪詩佛の書せしもの名あり。

金銀水は境内藥師堂から六丁登ると大巖窟がある當山の奥の院で觀音を祀り弘法大師が求聞持法を修した。遺蹟で其下から湧き出つる水で上は少しく赤味を帯び下は清水にて遠近より汲に來る。

現今の金刀比羅宮祭の典表

歲旦祭	一月一日	元始祭	一月三日
恒例大神事	一月五日六日七日	末社嚴魂神社大祭	一月六日
一月祭	一月十日	紀元節祭	二月十一日
祈年祭	二月十八日	三月祭	三月十日
櫻花祭	四月十日	御田植祭	四月十五日
六月祭	六月十日	大祓道饗祭鎮火祭	六月三十日

- 八月祭 八月廿六日 攝社白峯神社大祭八月廿六日
- 天長節祭 八月卅一日 汐川神事 九月八日
- 九月祭 九月十日 氏子祭 十月一日
- 大祭 十月九日、十日、十一日 紅葉祭 十一月十日
- 新嘗祭 十一月廿四日 除夜祭大祓道饗祭鎮火祭 十二月卅一日

月並祭 毎月一日十日、廿六日

特に大祭は天下無比と稱せられ八小女舞大和舞の奉奏奉幣使參向神輿に御等ありわけて十月大祭には夜をこめて川上山下不夜城と化し其壯觀まことに筆舌につくし難い程である。縣の内外より其盛儀を觀んとて集る者數万人と註せらる。

● 金刀比羅宮 潮川神事。金刀比羅宮は八日山籠神事場で潮川神事を行ふ此祭典は十月大祭の準備祭であつて當日から關係者何れも潔齋に掛かるのであつて午後四時神職祭員伶人巫女神人社務所に參集し行列を整て神事場に參向又當年上次の頭人は數十名の從者を隨へて榎井及神野の頭舎から參集し祝ひ式場で古式あり。次に潮川に臨み修する當日は例年夏祭のお仕舞として多數參拜し市立行はれ賑ふも大宮橋畔を飾る。

- 大鳥居 名古屋金明講から金刀比羅宮へ奉納した大鳥居の奉納式は大正十四年三月十三四五の三日間舉行した。
- 金倉川 源を滿濃池に發し琴平町をすぎ北流して海に入る。
- 琴平高燈籠 琴平山を距る正東十丁にありて安政年間の建設

にして高さ拾三間餘あり。

○鞘橋 東琴平街道にあり。金藏川に架せる橋にして舊反橋なりしが近年之を神事場の傍に移し普通の平橋と架け更へたり
○神事場 町の南端にありて一境別す石淵川此間を流れ開け山光水色盡くか如し毎年十月十日の大祭に與るもの九月八日に身禊を行ふ所なり。

○石淵 毎年十月九日十日十一日の三日に亘り神輿は石淵の行宮へ渡御ありて祭典を行はるなり。

○琴平停車場 神明町にあり。高松起點より二十七哩明治廿二年五月廿三日より開設。

○金毘羅街道松ケ端の仇討 寛政七年十月廿五日原田村の郷士高島勘三衛門なるもの元大垣藩士江崎文之進の一子宇平太に殺害さる因て勘三衛門の子は八郎(其時十六歳)種々苦心の末享和三年十月廿五日父の仇宇平太を此處にて打取りたり。世に之を松ケ端の仇討と云ふ。

琴平參宮電鐵 昭和三年三月廿日阪出迄延長竣工し琴平を起點とし善通寺に於て分岐し多度津に至るものと阪出に至る二線あり。分毎に發車す。

琴陵宮司銅像 神苑内朝日ヶ丘にあり昭和四年四月十三日除幕式を舉行した。

此銅像は高さ廿一尺工費四万七千圓を投じたものである。琴陵宥常(篤行家)は幼名を篤丸と呼び通稱は繁之助又盛定

へ一命終るとも拜奉りたくとて押て洞中へ入しと也。御洞といふは洞の口へ内陣を建かけし御社にて御洞の上は一丁四方ほと堀切をなし垣結ひ廻し有て此垣より内へは人々恐て入る事なき故松柏繁茂して遍々樵夫過て此垣へ手を指入落葉にても拾ふやいな。即座に御罪を蒙る故大いに恐れ垣の邊りへさへよるものなし別て奇妙なるは山上諸木はへ繁り諸鳥飛行するといへども此かきより内へは小鳥一羽も入る事なく堀切の上空中一丁四方はかり程の間は諸鳥飛かふ事もなく猪鹿の類さへも寄付す生あるものは鳥獸たるも如此誠に慎恐るべき事共也。さるほとに宥常はほとなく出來りさて難有事なり願望如此洞中へ入拜し奉御告を背く上は我命終るへしと弟子を連て拜殿を下るとひとしく暴風起りて黒雲覆ひ院主を雲の中へまきあけうせ玉ふ人々大に驚きさはきけるに御山の南手愛宕山のまつに院主をひきさきかけ置たりゆゑに宥常松と名付しなり。

○清少納言塚 鼓樓下にあり。

享保十五年五月に墓の傍なる松の枯たれば里人此根をほらんとせしとき此墓を掘出せしか中に古器かすく有て何器なる事を知る人なし爰に大野右中孝信と云者此日たま〜二玉門の傍に眠りて居たりしか女きたりて歌をよみける。
うつとなき跡のしるしを誰にかはとはれむなれとありてし
もかな

とも稱せり宥常は落飾後の法名にして南海とも號す宇和島藩士山下與右衛門の二男なり。幼時金毘羅大權現の社人山下周磨の養子となり年十一の時佛門に入り金光院宥常の附弟子となり安政四年十月金毘羅大權現別當職を拜して金光院に入り權大僧都法師に任せらる。明治元年別當職を廢するに當り復飾して琴陵氏を稱し金刀比羅宮司となれり在職中許多の金員を献納し軍費を資け又水難救濟會を設け博愛仁慈の道を講ずる等事蹟顯著なるを以て明治廿二年黄綬褒賞を賜ふ明治二十五年二月十五日没す。年五十三餘技として和歌を能くす令閨保子和歌を能くす明治四十四年十二月歿す。年五十八。

長女瑞枝子光熙君の令室なり琴曲茶道插花裁縫等の手藝に達し殊に和歌を能くす大正十三年二月十三日没す。年四十八。琴陵缶鑑氏は光熙氏の養嗣子にして夙に文學士となり兎に進んで帝國大學院に入り國史研鑽の功を積みつゝありしが惜哉大正八年八月廿二日僅かに三十二歳を一期として逝けり。

●經藏銅碑 番神堂の傍にあり。本碑は寛文二年三月高松大本寺日省上人の撰文あり。

○宥常松 山中にあり往古の松は枯てのちにうへたり。

往古當山の別當宥常法印と申せし院主願望を起し昔より御本社内陣の御洞中へ入しものなしといへとも當山の別當たるもの御洞へ入拜せる事幾多しとてひたすら誓願ありしにある夜夢告有もし洞の中へ入て拜せは忽命終るへしと有然れ共たと

といひ早々見えすなりけり故にかの靈のよみしならむと世の人云傳へたり。藤井高尙大人の後文集に碑祠出たり事長ければ爰に略すかねて碑銘を建んと院主宥權律師壽命に依て高尙是を作るといへともゆゑありて碑銘を刻せず。天保年中高松の住人友安三冬をして高尙の碑銘を參考なさせし新碑を建て不朽に備ふ蓋し三冬は高尙の門下たるに依てなり。年山紀聞に契沖翁曰古説に清少納言は老後四國の邊にてさすらへたる由有慥なる出所ある事にや續千載和歌集新の中に老の後籠り居てありけるを人の尋てまふて來りければ。

とふ人にありとはえてそいひ出ぬ我や我とおとろかれつゝ此の言葉書に依れば都のかたほとりに籠り居りけるなるへしまたあけほの抄に四國の方へ落なれしと有山城國誓願寺の縁記に讃岐國に死せし事有りといへり。又閑田料筆には讃岐象頭山の鐘樓の傍に石の誌ありて清少納言の古墳といひ傳ふいこのころとかや。此墳を他へ移さんとせしに金光院と云住院の夢に一婦人來りてうつゝなきの歌を唱ふと見てさめぬさては誠に清女の墓なるへしとおもひてもとのまゝにさし置たりとそ又同國白鳥といふ處の鏡が峯といふにも京の女郎と云墓ありて清女なりといへとも慥ならず又阿波國里の海士にも清女入水せるを埋たるといふ墓あれ共ます〜信じ難しとなん云々。

○金光院 同所にあり。社僧眞言宗象頭山松尾寺。

持佛堂（兩界曼荼羅。地藏尊、安彌陀作、毘沙門天、運慶作舍利塔）

當寺は往古より當山の社僧なり任僧は山下家氏族より必相續す代々權僧正に任せらる國祖君源英公深き尊慮あらせられ慶安元年三月。將軍家御朱印となし玉ひ然りといへとも住職は高松の命によれり將軍家御代替及入院御禮等江府に行申上る是例なり塔頭五ヶ所次に出す。

●金光院 象頭山上にあり。金田比羅別當、昔は普通寺未派なりしか大權現威徳昌になるにつれ此寺亦昌盛を極めりと云ふ寺院五あり眞光院、万福院、神護院、尊勝院、普門院、明治元年皆廢し時の金光院は還俗し琴陵宥常と名乗り當宮の神宮となれり。

○眞光院 同所にあり。塔頭

尊勝院、同所にあり、同所塔頭

○萬福院 同所にあり。同所塔頭

神護院 同所にあり。同所塔頭

○圓光林 同所にあり。法然上人此地に來りしとき法を談せし所なり。

○普門院 同所にあり。同所塔頭。

○多聞院 小坂にあり。

當院は土佐國人にて慶長年中此地に來り後寶永八年再ひ此地に止り修驗者となれり元祖片岡民部少輔の所持せし武器等今

しか不思議なるかな掃部か寵愛の娘七才なりしか一夜中に髪筋石疊の如く組合て有乳母驚き周章て掃部か前に連來りてしかの様子を語る掃部是を見るに頭髮一筋も残さず組合せいつれより解へき方便なし掃部頓智の人なれば早く金毘羅の神罰と心付て急使を遣して鞍太夫に祈謝を頼ける來る事遅ければ城の矢櫓に上りて見れば急き來るもの有是なるへしと沐浴して新衣を着し禮服を着して相待處に鞍太夫來ければ掃部禮を厚して此程の神の咎を深く謝して小女を連來りて見せければ鞍太夫つくつく見ていかさまは神の御罰にて候半いさ解て參らせんとて左右の髪を三度つゝ撫るといなや組し髪はばらりと解たり。居合はす人々あつとばかりに感涙を流しける掃部も神威を恐怖して神明の靈驗は兼て存せし事ながら國民の爲と私智を以て神意に違ひし事返すも恐奉る此上我家此國にあらんかきりは十月神祭に馬をひき進すべし又國中へ觸し事は早速改べしと此段をよく祈謝したまへとて厚く禮して鞍太夫をかへしける菊地武賢の記に宇多津人藤太夫といふ者微賤にして貌も醜陋にして一眼眇せり勿論一字をも知らずといへとも性質正直にして人を愛し金毘羅神の憑託を得て吉凶禍福を告る事龜鑑の如し貴賤の老少集りて是を乞ふゆゑに其家大に富て侍女あり珍蓋前に滿て繁榮なりし寛永の末まで長生して壽百餘歳なりしといふ（下略）前に云ふ鞍太夫者此藤太夫の事ならん。今子孫修驗者となりて備後國竹原に住

尙藏せり委敷ことは家記に見えこれは爰に略す。

松尾寺 琴平にあり。眞言宗金剛峯寺末寺

○金毘羅名物 餛豆腐皮、生姜柚べし彫刻盆並名品

●五條八幡宮 小松庄にあり。小祠なり。金光院に屬す。

●熊谷墓 小松庄にあり。相傳ふ熊谷次郎直實薙髮して蓮生房と號し法然上人に従ひ來り承元二年九月此地に没すと。

●本庄城 小松庄にあり。能勢大藏之に居たり文明中泉州人和田小太郎正利（和田和泉守正則の子）此邦に來り大の藏嗣となる天文中入道して寺を建て祐善坊と云ふ。

○鞍太夫之話 或云世に神明憑談して吉凶を告人をのりくらくと云祈りは祝詞などの祈りにて詞にして告くるを云くらは高御座などのくらくらにて其をり所を云されはのりくらは神明の事を告賜ふに御座所となしたまふ。そこなり鞍太夫の鞍も座の事なるを鞍の字くらくと訓かりてかけるなるへし。

慶長年中に鞍太夫といふ者あり（居所は今の普門院の地なり）人となり。質直にして神の訛を請て諸人の吉凶禍福を告る事龜卜の事とて遠近其事を傳聞て群集せり。生駒家の老臣に佐藤掃部といふ人丸龜の城代にて西部の事を取治めける十月は秋穀の取納め麥作の仕付農業の肝要の時なれば百姓共老若不殘金毘羅へ詣る麥は百姓の糧食第一なれば其暇をかきてはよろしからず神がいつも在れば麥の時とも仕舞て參詣すべく市立堅く別禁と申し觸しかは衆人は是に恐て一人も參る人なかり

すと云。

又近頃仙臺家中に櫻井織衛と云者あり文政十年霜月三日の夜より病氣指起り翌四日の朝にいたり手足一向に動かす俄の夜病にて九死一生の境なり數多の醫療をつくすと雖も業功さらになく日に指重り醫術も極りすてに落命と見えければ同國住吉の新町といふ所に金毘羅大權現勸請してありけるを妻會女大願をなし夜毎に歩をはこひ夫か助命をいのり。尙病人全快致しなは早速讃岐國象頭山に御禮參に登り奉んといのりしか其年も暮れて翌十一年正月十日の夜病氣常よりも重く壽命今宵かぎりかとなりて親類は只臨終ならんと思ふ折から妻か一心の祈願神感じまし／＼けん病る夫不思議に靈夢を蒙りぬ枕元に御聲あり予は讃州象頭山より來れりとなんじが病既にあやうし信心深きに依て爰に來れり此上に臥べしとて御袖より大成羽團を出させ玉ひけるに手足不自由にて身体少も不動事成となけきければこは有難も御神靈の御手にてたきあけ玉ひかの羽團の上にせ玉ひしと思ひしか惣身あたゝまり手あしとのひ身体自由に成しかは夢心に難有つかれの苦も打忘れけると覺へて夢さめたりければ元の如く手足いたみ惣身動かされとも氣分宜しく成りぬ直さま枕もとに御神酒を備へ象頭山の御神へ奉ると祈念して在けるかかの御神酒のかをり誠に宜しく香ひければ妻に命じて其御神酒いたゞきしに其味美にして戴く毎に惣身動くやうに覺え日増に快成しかは手かゝりの醫

者も打驚き此様子ならば快氣は致すへしとあれと助命たりとも足はたゞざるへしといひければ親子四人共彌信心怠らさりける其の程神も應護まし／＼けん三年の内に手足惣身元の如く平癒せり是に依て恐多も夢中じげんの御神靈を額面にうつし御室前に奉らんとて天保六年六月廿六日親子四人髪を切り白衣を着し國を出て同七年七月四日讃州丸龜に着岸なし即日御山に登り御寶前に拜し奉り翌五日より八月七日迄三十三日參をなし悦ひいさみて國元に歸りけりとぞ

其餘の神變不思議の御神德にて御蔭を蒙る者多しと雖も一々記すに違あらず委しく世人の知る所也故に爰に略せり。

○琉球人難船の話 寛政八年の事なるが琉球人來朝して京都に貢せんとせし折海上にて難風に逢ひ既に破船にもおよぶべきほどの事なりしかは船頭加子の面々種々様々と方術を盡し働けと風は益強くなり波は高く船は虚空へ舞上り山嶋遠達たる洋中何地に泊すへき方もなく船頭もいかんともすへからず最早人力に及ばざるを歎き皆々覺悟あれと在ければ元より柔弱の國風なれば船中の者皆泣悲しみ或は大にさけひ目も當られぬ有様なり。船頭風と思ひ付兼々聞及ぶ金毘羅神はかゝる危難の折信を取て是を祈らは哀愍納受ありて必御加護を蒙ると聞き皆身命を擲てお祈りあれと云しかは船中残らず力を得て皆一同に神號を稱へ助け給へと泣々祈願するより外とてなし外國の人の律義一編に御利益を願ひ奉りしを神も哀に思召且

は我朝へ貢せんと來れるの事なれば神慮に叶ひまし／＼て哀愍納受のしるしにや不思議なる哉暴風は俄に納りてさかまく波も次第に鎮り空晴渡りしかは居合す人々神德の炳焉たるを感し信心瞻に銘しあふ有難の神德やと嬉し泣にそ泣たりける其以後國に歸り聯貳枚額等を奉納せり(神德の有難く神恩を浴し奉る。語は圖上に見えたり)其後、唐山の來諸人程赤城劉雲基徐荷舟等も奇瑞を蒙り各聯額をも奉納せり。見ぬ唐土及外國人すら斯の如く崇信なす。當社の事なれば遠國邊鄙の人なりとも崇信して一心に參詣の願望あれば神慮に叶ひ不思議に參詣ありし人數多あり皆世の知る所なり。

○琴平尋常高等小學校

○琴平の人物

○石原淮南 名微字后琴通稱直介號淮南以飯龍寶曆八年琴平阿波町に生る。牧詩牛の分家なり年十五京に入り淇園に學び詩書を能す晚年専ら法書を修む文化十一年十二月三日歿す。年五十七

○石原篁軒 名鹽字士憲通稱正七號篁軒淮南の子琴平人、父の志を繼ぎ務て書を學ひ詩を茶山山陽に學ぶ文政七年二月歿す年三十三、墓表は山陽撰並書す。

○牧驥 字德稱棲碧山人と號す家は胡麻溪にあるを以て又自ら麻溪詩人と號す文化頃の詩人也

○金陵 金光院の住職獨角又は獅子窟と號す池大雅の畫風を慕

ひ雅致あり詩文に達し又俳歌を能くす弘化元年十二月廿日寂す。年六十

●大原東塾 名は氏聲字は子樂大和奈良の人大阪に住し後ち琴平に來り藤楓に住す山水花鳥人物畫悉く巧みなり。天保十一年七月廿三日歿す。年七十

●玉尾退藏 松尾の人佐藤一齊の門人琴平山下にありし費舎の司教安政頃の人。

●荒川栗園 諱英政字德郷通稱澗吉郎、三井雪航に學て詩文を能くし兼て畫を作る陽明學の風を慕ひ慷慨氣節あり燕石の友人なり

●美馬援造 名は諧字は和南初め土佛戲號驚物と稱し後君田又櫻水と號す阿波國重清村の僧徒たり安政元年還俗し姓を美馬と稱へ後琴平に來り燕石の徒と交り且四方に歴游し天下の形勢を察す安政四年米船の浦賀に來るや尊攘の説を唱へ同志の義徒を鼓舞する事歳より後幕府の驚疑に觸れ獄に繋が明治の初年赦され此地に於て育英に従事しつゝありしが明治七年七月廿七日病を以て没す。享年六十三。明治三十六年十一月十三日正五位を賜ふ。君田詩文書、畫、和歌、俳句等能くせざるなし往々燕石の爲に代筆の勞を執りし事ありと云。

●片岡琵琶 名は光範又章範通稱民部銘山と號す琴平多聞院の主なり當時諸名家の琴平に來り遊ぶ者あれば概ね文酒往來し書畫を以て樂しむと云明治九年二月廿三日歿す。

●合桑文山 名は秦通稱直次郎信州上田の人後ち琴平に來り住す田能村竹田に學ひ山水人物花鳥を能くす安政四年四月十三日歿す。年六十一

●合葉快堂 初め文岳と號す文山の嗣子なり畫山水を能くす明治廿六年七月廿六日没す。年六十二

●松原竹里 名は質通稱半藏金光院の儒學にして畫を能すと云ふ。

●松原竹秋 名は山宗字士功通稱良助琴平人曾て昌平黌に入り一時詩文を以て名あり又畫を能くすと云ふ明治卅五年六月廿六日歿す。年七十五

○錦部刀良 續日本紀日慶雲四年五月癸亥讚岐國那珂郡錦部刀良陸奥國信太郡壬生五百足筑後國山門郡許勢部形見等各賜衣一襲及鹽穀初救百濟國也宣軍未利刀良等被唐兵盧浚作宦戶歷四十餘年乃免刀良至是遇我使粟田真人等隨而歸朝憐其勒苦有此賜也

古今讚岐國名勝圖繪 卷之九終

多度郡

上古は多度國といへるかしか名もみえたり、西南は三野郡に接し北は海に瀕し東は那珂郡なり。

郷名○生野(生野村、大麻村、以上二村此郷に屬す)吉田(和名鈔作良田。上吉田村、下吉田村、稻木村)葛原(葛原村、南加茂村、北加茂村、堀江村、道福寺村)三井(三井村、青木村、庄村、東白瀉村、西白瀉村、多度津)吉原(吉原村、樋毀村)廣田(和名鈔作弘田。廣田村、山階村、奥白方村)中村(中村、伏見村、在岡村、東善通寺村、西善通寺村)土産○金剛砂(白方村)傳五餅(多度津)陶器(同所)日本紀畧曰弘仁九年秋七月乙酉讚岐國多度郡有牛產犢一身二頭 本郡は維新前迄は丸龜藩と多度津藩とに別て治めたり左に村名別を示す

●丸龜藩領 生野郷、生野、大麻、良田郷、上吉田、下吉田、稻木吉原郷、吉原

弘田郷、弘田

仲村郷、中村、善通寺

●多度津藩領

三井郷 多度津、三井、莊、青木、東白石、西白方、奥白方

吉原郷 碑殿、山階

葛原郷 葛原、道福寺、南鴨、北鴨、堀江、新町

多度郡(明治廿三年二月より合併改稱す)

多度津町 多度津村、新町村

白方村 西白方村、東白方村、奥白方村

四箇村 山階村、庄村、三井村、青木村

吉原村 吉原村、碑殿村

筆岡村 中村、弘田村

善通寺町 善通寺村、麻野村、吉田村

豊原村 南鴨村、北鴨村、堀江村、道福寺村、葛原村

○多度津 丸龜へ貳拾丁善通寺へ貳里金毘羅へ三里半彌谷寺へ

一里半。此地上古より海船の集る濱をみえて足利義滿將軍嚴

島詣のかへりにも此所より船上りして鵜足津まで歩行にて有

し記見えたり又細川の被官香川氏此處に居たり天正の頃まで

あり今は丸龜の分家京極壹岐侯の陣屋あり其時も人家多く繁

昌の地なり近き頃大莊なるたんぼ出來能きみなと故西國より金毘羅へ詣る人多く爰に至る。

多度津町

東豊原、南四箇、西白方村に界し、北瀬戸内海に面して居る明治二十三年多度津及新町の二村を合併町制を施行した面積○、〇八九里 昭和二年末人口七千五百二十八戸數一千七百十本町は郡の北端に位し舊藩時代に於ては四國九州の船舶輻輳し商業殷盛特に金刀比羅及善通寺賽客の乗降場であつたが高松築港の完成と共に貨客を吸集された。此の頽勢を挽回すべく時の町長鹽田政之助氏は町會に諮り一大築港を企て明治三十八年起工同四十四年完成したが其經費殆んど四十萬圓を要した之が爲め海運に便益を與へ諸般の市況を恢復したのである。

●社寺

●天満神社(村社)新町に在り菅原大神を祀る。往古堀江村に在つたが寛永十二年九月此地に遷したものである。

○多聞院 同所にあり、眞言宗寶塔山善福寺道隆寺末寺。

本尊多聞天(湛慶作。大日如來)太子堂

當寺開基未詳貞享元年十月毘沙門天入佛供養あり。

相傳ふ元慶七年八月聖寶尊師の草創なり香川家の歸依寺にて其の末裔西谷藤兵衛夫妻の石塔並肖像等ありと云ふ。

多度郡

○摩尼院 同所にあり、立明山十輪寺。眞言宗道隆寺末寺。

本尊地藏菩薩(弘法大師作)

○寶性寺(同所にあり、神龍山廣嚴院、眞言宗道隆寺末寺。寺領山林四反貳畝。

本尊藥師如來(行基作)庚申堂鎮守社(春日大明神)

○西方寺 同所にあり。神峯山寶樹院、眞言宗道隆寺末寺、寺領一反六畝

本尊阿彌陀如來(十一面觀音古佛成雲像)鎮守社(訶利帝母八幡大神宮)

當寺開基未詳貞享元年七月觀音堂再興開眼供養あり。

○法輪寺 同所にあり、聖光山利生院。眞言宗道隆寺末寺。

本尊焰魔大王(湛慶作)脇堂(大日如來、十一面觀音弘法大師作、古佛)三日月社(境内にあり)

○光嚴寺 同所にあり。摩尼山地藏院。眞言宗同時末庵

本尊 地藏尊(古佛)當庵

○十王堂並庵室 同所町内にあり。多聞院支配、本尊地藏尊

道隆寺舊記曰寛永十四年二月十六日多度津焰魔堂入佛導師は

道隆寺有遍僧正たりとそ。

○觀音堂 同所にあり。摩尼院支配。本尊 聖觀音。

此地は道隆寺普門院の舊跡なり。

道隆寺舊記曰天正十四年三月十九日普門院觀音堂入佛供養導

師道隆寺良田法印たり。慶安二年六月十二日觀音堂入佛供養

導師は同院朝瓊たり。

●寶壽院 眞言宗醍醐三寶院末寺寛永年間の草創で一時衰頽せんとしたが明治十二年改宗古澤養碩高松に再建し後今の地に移した。

●勝林寺 定惠山と號し禪宗普興昌寺と稱し妙心寺末であつたが久しく中絶して居つた天保五年常住寺之を再興名を勝林寺と改めた。

●觀音院 同所にあり、眞言宗小幡山、伊福寺と號す。道隆寺末寺。

當寺は元慶八年七月聖寶尊師の開基である。

○即往寺 同所にあり。入江山大善院、一向宗本願寺末寺。

當寺は延寶五年僧賢乘の改宗したもので元眞言宗大善院と號す。

○湛然寺 同所にあり。入江山大善坊と號す。本願寺末。

本尊 阿彌岐如來(古佛)

當寺開基未詳境内に和氣道隆の墳なりしといふたき五輪有により和氣氏の所以によりて入江山といふ初は眞言宗なりしか應永元年時の住僧俗稱三宅修理太夫大善坊と云人本願寺蓮如上人に歸依して今の宗に改む。

○和氣道隆墓 境内に六基あり。蓋し和氣氏族の墓ならん。

寶物○天座寶劍(和氣道隆所持今所在を失す。

○桑園 同所にあり。或は姫江とも云、和氣道隆か舊跡なり。

○和氣道隆事蹟 道隆者綾十一世原田戸主和氣道善か弟なり天平年間堀江の里に遷住す堀江の里の園に千株の桑を植時の人桑園公と云天平勝寶元年六月に桑樹の上に光を放つこと三四夜あり道隆怪しみ弓矢執つて射るに絃に應じて斃る者あり。樹下に行て見れば家母なり道隆驚き深く哀みて彼桑樹にて自ら藥師の像を刻して祈りける像成て後家母蘇生して其矢の傷もみえず聞者歎異しける道隆是より世の務を謝して一正に善念善業怠る事なく天平神護二年七月十五日五輪の塔婆を掌上に安き彌勒三昧に逝す壽九十九歳又十一世善義か女あり珠妙尼と云幼年より剃髮して一生の間勤行精進怠らず御善經萬部を誦し一千部を書寫す和銅五年三月十五日父兄に先て逝す年三十三歳

○史蹟 多度津城趾 多度津背後の山丘(本多山に在り)貞治二年香川刑部太輔景則始めて此所に城を築き其裔相繼ぎ天正年間に至る迄二百有餘年之れに居つたが文政年間に至り丸龜藩主京極高或の弟高澄分封せられ天保元年之に移つたが明治維新に至り撤去した、
○人物 多度津の人物に 僧通玄、森長見(國史家) 林良齋(陽明學者)小倉東溪(畫家) 草薙篁齋(畫家) などがある。
○雨霧城跡 多度津城とも云三野郡彌谷山上にありて二郡に跨る峯高くして雲霧常に覆ふか故に名とす。香川刑部太輔景則是に居たり。景則是鎌倉權五郎景政か後裔にて下總國より出

三八〇坪○建物七三坪四七

明德圖書館。

設立年月日 大正四年七月七日

藏書數 六千〇四冊

●四國水力電氣株式會社 四國も大きくなつたもので最近の現に貳千七百拾壹名にして燈數三十三萬八百二十三燈にして此の燈の外に左の輸入あり。

電車運輸 拾貳万四千六百七拾貳圓餘

高松工場 四萬壹千參百六拾參圓餘

丸龜工場 壹萬貳千五百貳拾七圓餘

化學工場 四萬壹千壹百七拾壹圓餘

●多度津尋常高等小學校

●白方村

東四箇、南吉原、西及南大見村に界し北瀬戸内海に望む明治二十三年二月西白方、東白方奥白方の三村を合併したものの面積〇、四四八方里 昭和二年末人口二千九百二十一戸數六百九

熊手八幡宮 西白方村にあり、社僧佛母院、供僧西方寺、寶

光院、上生寺、社人對馬袖次人祭禮八月十五日

東西白方、奥白方、庄村、青木村、多度津、六村氏神

本地堂(阿彌陀如來)土佛(弘法大師作、本地佛ならん)釋

て細川氏に従ひ當國に來り西讃の渠師詮問某を撃亡して三野多度豊田三郡を領す細川の守護代四家の一なり。香川肥前守元景(或景明に作る後信景と改む)の時に至り天文の頃細川家漸く衰て元景備後の毛利元就へ返款してありける此時讃の諸將は皆阿州三好豊前守義賢實休入道に隨ひし故十河一存是を三好家に告て三好義賢大に怒て天文廿一年九月廿五日兵一萬八千人を率て當國に至り善通寺に陣して香川元景か罪を問ふ。香川か先鋒、大平、伊賀、國清、財田、和泉、齋藤師郷香川伊勢、香川山城、香川左馬助、三野菊右衛門榮久、太田右兵衛、葛西太郎左衛門、秋山十郎右衛門等兵六千集りて未戰して和になりて十二月廿日三好義賢兵を率て國に歸る其夜善通寺焼たり。其後天正七年に至り土佐長曾我部元親元景が舍弟觀音寺城は香川景全か老臣香川備前守へ大西上野介齋藤下總守を以て申通しければ元景も元親と返款し元親か次男五郎次郎を養て我女に配しける是より香川家殊に繁昌す同十三年豊臣大開、四國を征伐あり元親も降りて土佐國を賜ひ伊豫讃岐阿波を收公せらる其時はより先に元親に従ひし地傳は皆舊領を沒收せられし故信景父子も牢人して土佐國へ行て東小野に居住して城遂に廢す。

●多度津測候所 多度津町大字新町にあり。明治二十五年八月一日廳舎建築竣功に付移轉執務せり。

大正八年五月十四日香川縣立多度津測候所と改稱せり○敷地

迦堂舊跡（境内にあり）

○熊手八幡神社（郷社）當社は弘仁十年弘法大師勸請なり釋迦の尊像を安置して本地佛とす帝是を嘉して勅額をたまひ供僧四十八字宮仕巫女數十人あり白方青木庄村を以て社領とす延久五年道隆寺禪和尚修理す文明十三年八月修理造營す迂宮導師は道隆寺秀任法印なり永仁七年十二月十三日大般若經を奉納す願主は道隆寺廿七世秀延和尚なり。箱願主は雨霧城主平朝臣清景なり道隆寺住持良田と云者常に當社御神跡の破壊を歎せしか文祿五年白方屏風浦の海中に大木流れ來り。毎夜奇光をはなつ後濱邊に流れよれり其形蛇の横はるに似たり故に人多蛇檀木と名付く則彼木を以て自ら尊像八軀を彫刻し開眼供養して宮中に安置す蓋往古大師神軀を安置せしにならへり寛文十一年八月修理迂宮あり。

或書云いつの時か宇佐より飛來りたまへり白方村の山に夜毎に光有土人あやしみて往いて見れば松に熊手かゝり彌恐て僧を集て誦經しけるに少僧に託して云朕は宇佐八幡宮也此地に檀者誕生あるべきによりて來れりと有ければ即ち其地に祠を立て祭る果して空海此地に誕生あり後に空海高野山開きたまへるときの熊手亦高野山に飛往て松にかゝれり。今に高野山に有二間斗の柿の熊手俗に入長押にかけ其下に檀をかまへて行人のまつれる者也依て白方には其代の熊手を作りて祭る後今の地にうつせり。今の地は多度津より往還の北の山路の傍

縁起之寫

夫有非常之人然後有非常之事有非常之事然後立非常之功人也不爲常無焉事也不爲常有焉我日域粹然尙矣自異邦之教風遠扇而降西唱東和世々偉人不乏邦々靈區寔多載籍之所傳耳目之所接也我大師遍照金剛高駕願隆生誕建其德其少也高山絕岨孤岸迷原遠尋獨向淹留修歷嚴冬被藤衣顯精進之道炎夏斷穀漿願大道之奧懇篤達天勅命早蒙跨鯨波之嶮危接迹於絕域尋明師而學秘教歸本朝而立宗旨國界嚮鳳動恒化德是非常之人而立非常之功者乎當寺故老口碑云此所正是稱屏風浦大師出化之地也大師生産後多怪異村人等不知其所以大忌爲不詳依之父母懷赤子遷居於仙遊原其遺照此地有大師産水井並産鹽等種々靈驗然尙世渝人移不彷彿者可痛絕矣爲此境也前則廣野掩觀疆綺布高峯遠重烟霞常起石彌谷天霧峻極送翠西則蒼嶺相襲右大松繁蔚清幽渙葦心東則川流不舍晝夜而通海北則瀆漫水相連定云蒼山海之神秀者於是乎了見焉大師並察靈驗立伽藍初託母胎時見天笠僧來故以迦毘羅衛名院迦毘羅衛者中天竺之國名或云迦維衛國則釋尊降誕之國也寺傍海故號海岸寺大師四十二歲禮刻自影安于此而謀給厥尤大師之遺葦故以太師之僧爲本尊當初玉臺寶臺星辰之田金碧彫彩究梵風有寺院四十餘字門牆相接雲烟遠達禪講之精衆爲林夫物之隆弊有數理不常存事更易移此寺此爰而歷數花之年所與廢無寄以所知近天正年中土佐霍亂燬撤堂宇法具悉

にありもとの社地の山を御山といふ又今馬場と云其社の馬場也馬場は白方より南一本松越の道なり高野山巡寺八幡宮記曰此神は大師の産土神にして往昔讃州多度郡白方村に鎮座し玉ふ其神異と稱し奉るは神功皇后三韓御征伐の御簇及御簇卒中差の御矢也とそそのかみ蒙古襲來の時神威によつて夷賊盡滅して後御簇海を渡り紀河を沂り伊都郡山崎村涼の森の松梢に掛り玉ふ（此松供水に流れしとそ今は同郡見井村の淵上にあり）即神勅にしたかひ當山に迎へ奉るといふ。大師と御誓約に曰聖と吾とは影と形との如し聖のおはするところは吾必行むとのたまへりとなん東寺東大寺にも大師の在し時御影向ありしかは今に神祠あり（年中精祈至て嚴密なり）蓋旗直に拜せん事を恐れて元和中奏聞をふる所仁和寺覺親法親王に勅して銅管に納め勅封をくはへ玉ふと云。

○横尾時蔭墓 同所にあり、古は此地も屏風浦といひしとそ。○海岸寺 西白方にあり。經納山迦毘羅衛院眞言宗道隆寺末寺寺領貳町五反餘其餘山林生駒家より玉ふ。文書今存す本尊 弘法大師御影○不動明王、愛染明王、産鹽堂（弘法大師御影並産鹽有）鎮守社（八王子大明神）當寺開基未詳（大同年間の創立と云）天正廿年六月十五日大師堂入佛供養導師は道隆寺良田法印たり元和六年四月廿六日大師堂入佛（導師良田）寛永八年六月十五日同入佛（導師有遍）經納山より近頃土佛多く掘出すと云。

亡香燭既絶夜月空冷禮誦人少苦齋露繁村人等聞古撫迹不能無憾漸縛卯奉安大師之尊像雖遇此廢絶而夷未亡質境内東西十町斗三四町斗不爲世人被侵掠大古松不知幾斗來見之人無不感其遺美焉東六町斗有有八尊祠是云大師氏神當云佛母院即大師母堂平居之家也寺内有東之宮中之宮西之宮三神祠西有號番浦佛谷逢着經瓦船石等數所不可悉記焉又有云寺尾古昔寺地也其佗云有家千餘今唯舊墟也

遊海岸寺途中作 藤荷簡 東讚人號漆谷

○長福寺 白方村にあり。眞言宗朝日山醫王院、道隆寺末寺。寺領山林壹町一反。

○三角寺 同所にあり。眞言宗 八幡山佛母院、道隆寺末寺。本尊 大日如來（弘法大師作）三角屋敷大師堂。本尊（弘法大師御童形御影）

當寺三角屋敷は弘法大師御母堂阿刀氏の草創する所也と云り

○天神社、地神社、虚空藏堂並回所にあり。

○上生寺 同所にあり。長尾山阿彌陀院、眞言宗道隆寺末寺。

寺領山林壹町
本尊 十一面觀音運慶作（不動明王毘沙門天弘法大師御影）
地藏堂、舩取觀音堂（並同所にあり）

○藥王寺 同所にあり。長尾山寶光院、眞言宗道隆寺末寺。

本尊 藥師如來（牧溪作）脇士（日光、月光。○十二神將多聞天弘法大師御影）鎮守社（辨財天、往古は龜山島にあり）
相傳ふ空海入唐の時此觀音に祈りて風波の難を免る歸朝の後

與白方に祭れり堂舎破壊により此寺に移す（西）

○弘田川 源を善通寺町に發し白方村大字東白方に至り海に入る長さ三里。

●白方尋常高等小學校

○金剛砂 西白方村の内見立といふ處の浦にあり其地は浦しまといふ濱手の山の北の岸より五六間斗海中に岩有其岩のあたりに有なり潮干たるときならては取かたしそのあたりの砂金色なりて光れり金剛石を其地の者は鐵炮の玉といふ丸金剛石出る所彼是あり寒川郡津田天神山にもあれども赤土の塊りたる如くにてもろし其餘の産は未見此地の産は鐵色にして堅く他と大に殊れり又此地冬向大浪にて岸崩るゝ時出る砂あり。カマクラ砂と云いろ黒くして金色あり。右二品共得てもてりさて此地の人往來する所ゆへ金剛石を捨て取者多かりければ

一旦金剛石取へからすの旨禁札を建られ其所在明かなる故中く取る者初にまされり依て札を止らるゝとそ。

●横尾時蔭墓 白方村にあり爰に時蔭にまつはるゝの哀話がある。

京都南朝方に豊原將監兼秋なる人ありしが元弘三年後醍醐天皇の詔を奉て伊與國河野備後守通治が許に下りぬ歸路兼秋脚氣に罹り船にて歸り登りけるに既に讃岐國屏風浦に至る頃は八月十五日頃山岸の下に船を泊め明月を眺め兼て携へたる琴を取り出し一曲を彈し居たるが絃の一根斷へたるを見て是れ盜賊か誰れか曲を偷み聴く者あらんと岸に登り搜らんとせしに忽に岸上に人聲有て船中の人々騒ぎ給ふな某は盜賊刺客の類に非らず横尾時蔭と申し元大阪天王寺に居りしが三十年前所縁に便て此國に下り淺間しき活計はなせども音樂の道は故實など覺えて居り候と申す兼秋云足下の如く音を知る人有て我琴の甲斐も有へし此以後結ひて兄弟となり足下の傳はられし事も聞我傳へし故宛も語りて再び家を興すへき計をなさんと互に心を傾けて兄弟の契を結び何れ來年は再び此處に來り面會すべきを約して訣かれしが實に光陰は矢の如く早や約束の仲秋の節が來りたれば兼秋は時蔭が事を忘れず公に暫の暇を申て四國の何某が送り舟の歸るを頼みて順風滞なく建武元年八月十五日に屏風浦に着し去年時蔭に逢し所かと思しき處に船を着て待ち受け居しも彼の來りし様も見へされば不得已

翌日船より上かり彼の住家を尋ねしに老翁出て來り彼は數月以後に身まかりぬ答へかば兼秋これを聞て卒倒せしが稍や暫らくして回復し時蔭臨終の模様を訊ねしに老翁の言へるには我子臨終の時死後必ず屏風浦に葬り玉へ我兼秋に會せんと云約ある共言葉を違へじと思ふなり遺言に任せ足下の來り玉へる小路の傍へ一丘新墓あるは則時蔭か塚にて今日が百零の忌也然らば墓所に詣んと老翁と共に元來りし道に至れば新丘あり兼秋衣冠を着し墳前に拜をなし從事に持せし琴を取出し涙と共に彈し終て曰く某所存あれは一度都に參り萬取したゝめ程なく罷下り時蔭に成更り兩親の終りを見届け奉らん其故は主上御位に後し玉ひてより假初の御遊に琴琵琶等々と彈しさせ玉ふにも並なる曲のみ造らんと望み玉ひて事繁き世を治め玉ふへき君にあらす是古より傳へ云桑間漢上の音起りて國亡ひしと云も此心也久しからすして都も又一變すへし我も二君に仕んより早く身を潛み天年を樂むへき所存なりと翁に辭して其儘に都に登りしか彼是につけ日を送る内果して兵革起りしかばされはこそと四國に下り山階村に至り老人夫婦に仕へ時蔭に更りその終を送り兼秋も子供を農人となし其身は入道して世を見限り四國南朝心腹の國なれば道の通路も自由にて折節は吉野の皇居へも參りけるとそ。

四 箇 村

東豊原、南筆岡吉原、西白方、北多度津に界す明治二十三年二月山階、庄村、三井青木の四箇村を合併村制を施行せしもの面積〇、三二〇方里昭和三年末人口三千二百八十一戸數六百三十七

○八幡宮 三井村にあり。社僧多聞院、社人宮武氏祭禮八月十五日、社領二反六畝

○八幡神社（村社）祭神應神天皇外三神
本社 幣殿、拜殿、鳥居

當社は延久五年八月道隆寺祐善法印詔奉して五ヶ所に勸請せし其一なり康平五年奥州安倍貞任宗任を征伐の時諸國に詔して造營し放生會を初むと云り其後文明十三年八月修理造營す近宮導師は道隆寺秀任法師是をつとむ貞享元年修理造營す。

○加茂大明神 同所にあり。社僧多聞院、社地一反一畝
本社 拜殿、鳥居

當社肇祀未詳慶安三年九月十六日修理迂宮あり。導師は道隆寺朝護法印なり。當村は昔源三位頼政の領地にて子孫今尙存すと云先封生駒家の時其子孫大庄屋となし須藤氏と云て相續せり矢留松あり源三位古領なり。

○春日大明神 祭禮九月九日山階村にあり
當社（村社）祭神天兒屋根命、肇祀未詳應永廿一年八月修理造營す迂宮導師道隆寺賢秀法師是をつとむ。

○圓光寺 三井に在り。香林山蓮花院と號し眞宗興正寺末明應

九年の草創である。法然上人舊跡。

○蓮忍寺 同所にあり。高貴山成就坊一向宗京都東本願寺末寺本尊 阿彌陀佛

當寺は元眞言宗弘法大師弟子信我開基なりしか慶長十九年賢了なる者當家に改む。

●四箇尋常高等小學校

吉原村

東筆岡、南普通寺及三豊郡上高潮、西大見村、北白方四箇村に界す明治二十三年吉原、碑殿の二村を合併せしもの面積

○、四五二方里 昭昭二年末人口二千三百六十九戸數四百八十五

●社寺

○菅原神社(村社)碑殿に在り菅魂大神を祀る。

○鷺井神社(村社)鷺井に在り少名彦命外十神を祀る。

○水分神社(村社)水分に在り水別神外七神を祀る。

○東西神社(村社)吉原村にあり。社僧萬福寺。祭禮九月十九日祭神大己貴命外二神

○七佛薬師 大池の堤にあり。

○大池 同所にあり、此池丸龜領地を築きし初なりと云傳ふ。

○清瀧權現 同所にあり。別當萬福寺祭禮十月十九日。片葉芦有弘法大師作石鳥居あり。

られし也境内方二町あり天文年中兵火に罹りける後深草天皇繪旨今存す。

文祿年中生駒家の家老三野四郎左衛門榮政縁ありて方二丈の堂を造り大日如來の像を安置す榮政佛像を造らしめんと備前岡山の佛師を招く佛師の云今春僧來りて云速に大日の像を造れ今秋來り迎ふへしとて則其像あり使者驚て迎へ歸る遠近此事を聞て來り拜する入市の如し貞亨九年住持宥盛本堂を修造す。

○西行笠掛松 同所にあり。

まんだらしの行道ところへのほるはよの大事にて手をたてたるやうなり大師の御經かきてうつますおはしました。願山嶺なりたるこそとは一丈はかりなるたんつきてたてられたり。それへ日毎にのほらすおはしまして行道おはしましたけりと申傳へたりめぐり行爲すへきやうにたんも二重につきみたされたりのほるほとのあるへきことに大事なりかまへしたひますたりつきて

みくりあはむことの想ひたのしきたひしき山のちかひみるにも

水葦岡 曼荼羅寺の傍にあり。西行法師の舊跡又山里庵と云曼陀羅寺を西に趾る五六丁に松岡某の別墅あり其庭園は即ち西行法師が四國行脚の際一時草庵を結びて假寓した水葦の岡の舊跡である。

本社 拜殿、當社は弘法大師勸請なり。

○萬福寺 同所に在。眞言宗普通寺末寺。獅子山舎那院と號す本尊 聖觀音、馬頭觀音

當寺は開山行基本尊大作と云昔本村にあり正徳元年今の所に移す。

○正覺寺 同所にあり。一向宗大平山京都西本願寺末寺。本尊 阿彌陀佛

當寺は大平伊賀守國祐三男圓教と號し其天文年中僧となり開基なりと云。

○覺善寺 同所にあり。一向宗雨務山京都東本願寺末寺。本尊 阿彌陀佛

當寺は天正十九年藤目城主齋藤國重の子出家して淨林坊と稱し眞言宗に入り一寺草創す寛永十三年當宗に改む。

○曼荼羅寺 同所にあり。我拜師山延命院眞言宗普通寺末寺。四國八十八ヶ所の一七十二番札所是より出釋迦寺へ三丁。

本尊大日如來(坐像貳尺五寸、弘法大師作)御詠歌(われくるもまんだらならむひとはたふたひみたひかへらさらましわづかにもまんだらおがむひとはふたゝびみたびかへらごらまし。

當寺は弘法大師普通寺を造る後此寺に金泥兩部の曼荼羅を敷き土を以て是を封て其上に堂を建て自ら七佛薬師像を安置してける此寺に元果仁海成尊等の請願徳寓せられ密乘を稱揚せ

万葉集

天霧相日方吹羅之水葦之岡水門爾波立渡

文祿五年毎日一首中

中納言爲家

家集

水葦の岡のみなとの浪よりやふての海りてふ名にいたちけむ

草庵集

水くきのをかの湊のもしほ草かくともつきしはかりおもひそ

家集

みつくきの岡のみなとの浪のうへにかりかきすてゝかへる雁かね

家集

おもふ事かきもつくさし水葦のおかのみなとのあまの夕空

御集

水くきのをかのみなとにたつ波のふかきそこをはくみてし

六帖題

権僧正公朝

ひかたふくおとそさひしき水くきの岡のみなとのかのしほ
かせ

御集

後九條内大臣

月影のやとれは氷る水くきの岡のみなとに秋風そふく

家 隆

六百首和歌

かきつらね遠かりかねの源にや色まさり行水葦のをか

平 家 知

修永和歌集

水くきのをか邊のすすき打なひき露おきあへす秋風そふく

定 家

みつぐきのをかのまくすを海士の住里のしると秋風そ吹

水葦岡西行庵

西 行

新勅撰集

やまさとは秋の末とそおもひしか悲しかりけり風のつな

西行菴古松

三木篤(本藩士號半郎)

翠葦重々知幾祇攫聖偃蹇萬枝攀會得當年上人意情陰不改至

今榮

○出釋迦寺 同所にあり。求聞持院と號す。眞言宗善通寺末寺

四國八十八ヶ所の一七十三番札所號甲山寺へ三丁。

本尊 釋迦如來(弘法大師作秘佛)御詠歌まよひぬる六道衆

生すくはんとたふとき山にいつる釋迦寺。

當寺は弘法大師の草創なり初め我拜師山にあり相傳ふ曼荼羅
寺の奥院なり、釋迦如來及虚空藏菩薩を安置すむかし弘法大
師修造の時釋迦の出現せし奇瑞あり又大師大乘經を寫し此山
に埋め寺を山上に建しとて遺跡今猶あり麓より十八丁山の上
我拜師山なり。

○多度屋敷 同所にあり。

雨霧城主香川信景の臣山地主水の屋敷趾なり今多度屋敷とい
ふは多度を領してゐたる故なるか其他に雨零合戦の時主水か
討とりし首十三を納めて供養したる塚あり、供やら塚と云又
主水の塚も有居蹟の北にし貴の毘沙門を勸請し丑寅の方には
貴船明神を勸請したり(昔主水の祖楠正成河内の屋敷より右
の方角に其社ありしかたを意て此にもまつれるなり。
又此貴船の社の相殿に主水の兄山地正寛を祀れり此正寛に朝
鮮亂妨の中に加りて往てかへらす其出行日命三月三日貴船の
祭なるを以てなり。

○常住寺 碑殿村にあり。鎮渡山と號す。禪宗京都妙心寺末寺

本尊 如意輪觀音(天笠佛金紫銅像佐々木高綱念持佛)觀音
木像(赤松圓心念持佛)

鎮守社 妙見攝社(龍野大權現)

當寺は元祿五年丸龜玄要寺第五世沙門因良和尚草創なり因良
は後京都妙心寺に住して紫衣を賜ひて剛峰大和尚と云
○牛額寺 同所にあり。遍照院と號す。眞言宗、善通寺末寺。

○雲氣神社 郷社弘田にあり。社人秋山氏延喜式廿四座の一祭

禮三月九日廿一日

祭神(天御中主命又村雲寶劍或云水波女命又龍處)本社幣殿
拜殿、鳥居。

三代實錄曰貞觀元年正月七日甲子讚岐國從五位下雲氣神社列
官社

當社肇祀未詳、讚州古記曰今琴平宮なり邦内廿四社詣記

坂上道 啓

立よればいとかしこしささかへの雲氣の神のあけの玉垣

○矢塚 同所にあり。源三位頼政の矢を埋めし所なりと云り

○春日明神 同所にあり。祭禮九月廿五日。

○春日神社(村社) 布津奴津命外十神を祀る。

○本熊野神社(郷社) 速玉男命外四神を祀る弘仁年間弘法大師

の勸請なりと傳へられる。

○圓通寺 弘田にあり、一向宗寶雲山京都興正寺末寺。

本尊 無量壽佛

相傳ふ當寺 香川の一族正貫なる者入道して西心と云ふ者天

和二年創建すと云。

○甲山寺 廣田村にあり。醫王山多寶院眞言宗善通寺末寺。四

國八十八ヶ所の一七十四番札所是より善通寺へ十町此間大師
遺跡多し。

本尊 藥師如來(坐像貳尺五寸、弘法大師作靈驗新也)御詠

本尊 藥師如來

當寺は長和年間僧仁海の草創なり。

人面石(同所にあり)

人物 月照 は忍向又忍海又忍鑑と稱し文化十年吉原村下所
に生れた。月照は鼎齋の子で幼名を久丸と呼んだ十歳にして
佛門に入り牛額密寺藏海の法弟となり。二十餘歳京師に上り
清水寺成就院の住職となり後辭して職を信海に譲り勤王に盡
瘁する處あり爲めに幕府の忌む處なり捕はれんとし難を薩摩
に避けたが遁るゝに途なきを察し安政五年十一月十六日夜南
州と俱に薩海に投して死んだ年四十六明治二十四年十二月正
四位を贈られた。

信海 月照の弟で文政四年に生れ幼名長丸又綱五郎と稱した
九歳佛門に入り藏海の法弟となり後高野に上り研學逸に兄の
跡を繼ぎ成就院の住職となつた。信海又兄に劣らぬ勤王家で
遂に幕府に捕へられ安政六年三月十八日獄中に歿した年三十
九明治二十四年十二月十七日從四位を贈られた。

●吉原尋常高等小學校

●筆岡村

東及南善通寺西吉原村、北四箇、豊原村に界す明治二十三年
二月中村及弘田二村を合併村制を施行せしもの面積〇、二五
六方里昭和二年末人口二千七百二十二戸數五百五十八

歌(十二神みかたにことてるいくさにはおのれと心かへと山かな)

當寺は弘仁中空海の草創にて昔は大伽藍の山の形宛に似たるよつて名付たり。

朝比奈義秀塚(境内にあり相傳建久二年五月三日和田義盛が軍敗れて朝比奈富目に渡らんとするとき悪風吹て此所に漂着し遂に此地に止り死せしと云疑へし朝鮮釜山海に朝比奈義秀か靈を祀る社あり蓋し此塚は義秀にはあらず朝比奈姓の人の塚なるへし後の考をまつ

○甲山寺城跡 同所にあり。

傳云朝比奈義秀是に居て寄手軍勢百九十人即時に討取と云其時の長丸龜藩中畑與左衛門所持すと云此事前にも云る如く義秀にはあらず其後裔なるへし何故に寄手の來るよしを知す。乾壽庵(醫)同與門(壽庵の子醫)同百内號松翁皇漢字詩歌俳句音楽挿花等の道に達せり明治廿四年二月没七十五歳。

●モダン役場新築落成祝賀會 筆岡村では昭和御大典記念事業として一萬五千餘圓を投じて役場廳舎を新築したが昭和四年十月三十一日午後一時から坪井知事以下附近町村長有力者百餘名を招待して盛大なる落成祝賀會を催す。新廳舎は建坪約百坪和洋折衷のモダン式で村としては縣下第一の稱がある。

●筆岡尋常高等小學校

○屬風浦 中村にあり。

弘法大師の産する所なり五岳山あり其形屏風に似たり故に名付く三角堂と云あり大師の尊像を安す又山の西側に石あり白の如し土人大師産盤と云清泉あり此所より北海なり。

弘法大師京師より古郷にに歸り給ひて此所を初て屏風浦と名付玉ふとなん

山家集

西行法師

屏風には心をたてておもひけむ行者はかへり兒はとまりぬ藻鹽草

立かける屏風かうらのはるかすみ世にあふ坂の關はこさしと

○印の松 同所にありといへとも今は枯れて其枯木を海岸寺奥の院に移して湯手掛の松といふ。

弘法大師生れさせ玉ひたる所とてめぐりしみすしてその印の松たてりけるを見て

西行法師

あはれなりおなし野山にたてる木のかゝるしるしの契ありけり

●善通寺町

東與北、象郷、南琴平及三豊郡麻村西同勝間、上高瀬西、北吉原、北筆岡村に界す明治二十三年二月善通寺、大麻、生野

上吉田、下吉田、稻木の六村を併せ善通寺村としたが明治三十四年十月町制を施行した歩兵第四十三聯隊及特科隊の所在地たり且つ巨利善通寺の所在地で來往者並に賽者絶へず。昭和二年末人口一万六千九百五十九戸數三千三百六十五本郡中の都會である面積は一方里二七四を有する。

●八幡神社(村社)息長足比賣命外二神を祀る。

●木熊野神社(村社)瓦谷にあり伊邪美命外四神を祀る。

●御館神社(村社)宮尾に在り同上外七神を祀る。

●木熊野神社 善通寺生野字原、西岡、大字善通寺字伏見の三社あり。伊邪那美命、速玉男之命、事解男之命を奉齋せり。

十二社權現と稱し弘仁年間弘法大師紀伊國熊野より之を勸請せりといふ。

○善通寺 町の西方香色山の東麓にあり。四國八十八ヶ所の一七十五番札所五岳山誕生院眞言宗京都北野隨心院末寺。寺領六十三石高松侯より五石外に山林略す。金倉寺へ貳十町多度津へ貳里金毘羅へ壹里半丸龜へ、金堂(七間四面二階堂)本尊藥師如來(弘法大師作土佛丈六坐像御胸に納む但し御作の土佛は兵火の時損したるを集めて今の尊像の御胸に納む)御詠歌(我すまいよもきえはてし善通寺深き誓ひののこり)ともし火)五重大塔(高廿五間、三間四面五智如來を安置す桃園院勅願御再興繪旨今尙存す。天保十一年子十二月十七日燒失常行堂(釋迦如來坐像左右十六羅漢像)後嵯峨院龜山院後宇

西行法師

多院(御靈碑を安置す御三帝の勅願にて不所光明眞言並春秋二季理趣三昧等の道場也亦御遺勅にて御三帝の御爪髪を納め石の寶塔を建てさせ玉ふ。則境内の中遍照院の舊跡に現存す遍照院は廣澤寛朝僧正當寺の別當に下らせ玉お時の御住所なり。五社大明神社(大乘大明神大麻大明神雲氣大明神權津大明神廣瀆大明神相殿也弘法大師勸請ありて氏神とす)善女龍王社、一切經藏、天滿宮、羅漢堂、法然上人送修塔足利尊氏利生塔(伽藍巽の隅にあり供養の導師は宥遍僧正の鐘樓、南大門、東門、西門、大樹の楠手水鉢、大勸進所、奥院、御影堂(三間四面)禮堂(八間四面)隣目大師御影(大師眞筆事は寶物の所へ委く出す)大師童形の尊像(並) 四天王像(大師伯父佐伯通長作)前立大師木像(道範上人作)八祖畫像(眞如親王御筆)多聞天吉祥天(大師當伽藍建立の砌御祈の爲手つから御彫刻の尊像なり)額(弘法大師誕生の場一條關白忠良公御筆)二王門(左右金剛力士運慶作)額(遍照金剛閣五字、本尊觀智院僧正筆)護摩堂(不動明王弘法大師作)焰魔堂、拂蓋閣(歡喜天大師作)鐘樓池(御鑑の池と云)茶堂位牌堂阿伽井(或は玉の井と云、此所は岩高くたゞめり如法經を納め七重の石塔あり)額(玉井二字三條公修卿御筆)回廊寶庫 佐伯八幡宮(奥の院の西にあり)祭神(仲哀天皇神功皇后應仁天皇玉依姬、大師御双親の像並に相殿皆弘法大師作)

家集

岩にせく阿伽井の水のわりなきは心すめともやとる月哉
當寺は弘法大師誕生の靈場なり父を佐伯宿禰田公といふ官に
住して京師の左京職に移貫し其居館の跡を寺となして唐の青
龍寺の伽藍を模し天笠八塔のちをちらして十八宇の大伽藍を
建立し大同貳年より始り同四年に落成せり父の名を寺號とな
して善通寺と云是東本朝眞言宗の權輿根最初の道場なり與院
は即大師御誕生の所也後に五岳列立して屏風を立たる如し故
に此遺を屏風浦と云往古は五岳の麓迄入海にて潮滿來れり世
々の帝當寺を神崇信なし玉ふ事論旨院宣等に見えたり皆世人
の知る所なれば是に贅せず就中智證聖寶觀賢有範等の大德皆
此國の人なれば當寺を按行し大に伽藍を修補せり西行法師も
此地に來り草庵を結び住せしこと次に見えたり今舊跡尙存せ
り。

法然上人の記曰當國の靈地を順禮て玉ふ時當寺に詣て善通寺
と云寺は弘法大師父の爲に建られたる寺なりけり此寺の記文
に一度詣て玉ん人は必一佛淨土の友たるへしと此度おもひ出
此事なりと悦ひ玉ふと也委くは當寺に納る所の青蓮院門跡の
●眞筆法然上人記にみえたり。

南海流浪記曰仁治四年(癸卯改之寛也)三月廿一日善通寺に詣
て聖跡を巡禮す金堂は二階七間也青龍寺の金堂を被模とて二
階に各々今少引入是あるか故打見れば四階大伽藍にて大師三

頂寶篋印等陀羅尼滿眼所及海生山獸等益生にあり如來影現事
貴曰出覺

鷲の山常に住なり夜半の月來りて照す峯にそ有ける十月の頃
兩大門を出當方名山等眺望南大門の前路弘さ三丈五尺長八町
左右卒頭婆多立之其門東脇大松あり寺僧云昔西行此松下に七
日七夜籠居して

ひさをへてわか後の世をとへよ松あとしのふへき人もなき身
そと詠するによりて此松を西行松と申すなりと申をきいて。

契おきて西行ける跡に來てわれも終をまつの下風

寛元二年甲辰正月の頃當寺の童舞裝束被調事並會日發願文事
同六月十五日夜多度郡田所入道(號城院入道隨佛)梵想云御誕
生所石壇南邊大蓮承生華長六尺許大衆合評初蒼漸開玄色其香
美甚妙也諸人集會後拜見之隨佛作寄特の想間云何蓮花如是大
妙人答曰是高野上人御房蓮花云云合掌瞻得夢覺了

同八月の頃淡路國人許修行者使文遺狀此離山三年になり在國
兩歲なる事本山戀慕羈旅艱難定同心朝抑其淡路嶋は高野山大
門まてちかくと見へ侍れば其國にても南山はさはくと見
るらん浦山しきこそとて

君はなほ見てやなくさむはなれぬる高野の山の峯のしら雪を
扱又此居所は大師御誕生の聖跡御建立の伽藍に今少々現存す
就中大師御眞筆御影常に拜見す是愁中の善なる由申て
世に出てみづからとむる影よりも入るゝ月のかたちをもみる

尊四天王像皆埋佛後の壁又藥師三尊半土に埋たり。七間講堂
は破壊す後今新に造營五間常寶同新造大師御建立二重寶塔は
現存す本五間今修理の間加前廣廂一間云云於此内奉安置御筆
御影此御影は大師御入唐の時自圖の奉預の母儀云云同等自像
云云大方様如普通御影但於左の松山上釋迦如來影現形像有之
云云凡此善通寺四面各二町其内種々堂舍寶塔灌頂院護摩堂嚴
置今は皆破壊して纔に礎石斗在し御筆額二枚在皆善通の寺と
遊されたり。其外大寶樓閣陀羅尼遊たる額二枚在り皆破損云
云抑善通寺大師御先祖俗名即寺爲寺號云云破壊の間大師修造
建立の時不被改本號朝金堂の西有一直路一丁七尺許者即自寺
中參御誕生所の路者則參詣拜之正誕生所石高疊今如法教奉納
の七重石塔有之大樹少々拜見し間戀慕恭殿催淚折瞻。

高野山岩のむろ戸に澄月のこそ麓よりいて願さは此御誕生
所西の方に五岳といふ五佛の高山在其麓也同日午刻於講堂有
法承講大師御報恩云云其後有童舞云云其日及曉景不能還回則
通夜御影堂翌日鶴足津歸る。
寛元一年九月十五日善通寺に移住寺僧等圓大師御生所傍菴室
構建玉へり。同月廿一日大師到御行道所卅號卅坂參詣其路險
岨峨々老骨難忍只人に扶られて登いたる此行道の路于今草不
生清淨寂寛たり南北は諸國皆見眺望疲眼此行行道所五岳中我拜
子山西岫也大師此處觀念經行の間青巖綠松の上釋迦如來乘雲
來臨影現たり。大師拜之給故謂我拜師山也此行行道所數刻大佛

淡路の人のかへしに

高野山峯の白雪跡たへてむなしき空に雨そこほるゝ寛元三年
十一月廿一日出雲の配覺圓房阿闍梨法性影延死門の命誓以廿
一日爲閉眼の刻は大師引攝炳然朝(同年十二月十六日高野淨
若提院阿闍梨尙旅覺禪房去廿五日逝の由下畧)寶治二年戊申
四月之頃依高野二品親王仰奉模當寺御影此事去年雖被下御使
當國無佛師之由依申上今年被下佛師成祐奉模寫之所諸佛師四
月五日出京九日下山着堀江仁律同十一日當寺參詣同十三日作
紙形當日於御影堂佛師授梵網十戒其後始紙形自同十四日圖繪
同十八日終其功所奉模之影其御影形色毫釐無違御影云々同依
寺僧評議今此佛師彼押本御影の裏加御修理云云此間不出御影
堂佛師下着の時(院主治一也)三昧各淺黄一切給之凡此御影者
當寺の古老相傳云大師御入唐の時爲御母儀自模置我影像給云
云此御影上洛事承元三年隱岐院御時立佐大臣殿當國司の間依
院宣奉迎寺僧再三日上古不奉出御影堂の由雖令言上子細數度
依被仰下寺僧等頂戴の上洛御拜見の後被奉模之繪師御下向の
時生野六町免田寄進云云嘉祿元年九條禪閣殿下攝祿御時奉拜
也又模寫の御下向の時免田上町寄進云云
同年六月二日頃御上洛四十五日高野參善良御拜見御觀喜云云
同十八日御報書御影無爲奉渡事返悅入候宿善開發及落洩心中
不被察候云云下略

誕生院緣起の事

右當所者弘法大師御誕生處也昔定而有精舍宛如釋迦如來淨飯王宮處塔而五百餘回星霜相遷之間唯遺基路尙無礎石于茲行運上人者寬元三年木像御影建立の時即與寺僧共評議於此御誕生所建立一堂可安置之云云因茲勵自力或唱勸進以今年建長元年正月十日手斧始同二月二日棟上大公阿彌陀佛同年五月八日(戊申)寅時有鎮壇阿闍梨道範

以我功德力。大師加持力。及以法界力。願我成吉祥。今此一伽藍。奉慈氏下生。興隆諸佛法。利益諸衆生。

大勸進阿闍梨道範

宥範僧正は延慶二年(巳酉)二月より始て嘉曆年中にて十八年の間數度上洛して安祥寺の一流を底を拂て傳授し玉ふ。爰に善通寺の衆徒寺の破壊を敷きて招請しける彼寺は弘法大師の聖跡中法流第一の源なれば此寺に涉て興隆あれかしといへとも再三拜辭せられるか新伽藍を敷建せんよりは舊伽藍を修造するにしかず殊に大師御誕生の遺跡なれば報恩謝徳の勤なるへしと領承して元徳元年七月廿八日此寺の東北院に移りて元弘年中より造營を初めたまひ建武年中に誕生院に移給ひて曆應年末より善通寺五重塔婆並諸堂四面大門四方垣地以下悉く造り訖努(阿波切島寺塔婆供養此塔婆者錦小路殿藤左兵衛督兼相摸守源朝臣直義御影於六十六ヶ國六十六臺隨一最初造興塔婆也)

曆應二年三月廿六日日本第二番供養之時阿闍梨を勤め權大僧

の縁ありて彼國へ下向の時道を行に相具したる使鬼神火を灯したりけるか善通寺の前を通る時に火を打けて後出來れり清明勘發しければ此寺の額は四天王守護し玉ふが故に恐をなして道替たりとそ申ける(下畧)

東寺定額僧縁美といふ人讃州善通寺の別當になりて下向の時當寺にて大師の御筆を感得したりけるに其文に曰卜居於高野樹下遊神於兜率雲上不闕日々影向檢知所遺跡云云かくの玉へは大師日々の影向を欠玉はす結縁増進の輩には必利生の眉を開て現當二世の求願満足せしむる事疑惑すへからすと云々。

天文廿一年十二月廿日阿波の三好豊前守義賢兵を率て天霧の城主香川元景を攻んと當寺に陣を張るの時和談なりて阿波勢皆歸る其後火起りて諸堂回祿す其後再興永祿元年十月又回祿す生駒雅樂頭近規朝臣當寺の荒廢を歎き玉び大に御修造ありて天正十六年正月寺領廿八石御寄附あり同年七月男一正朝臣より高三十五石を賜ひ合せて六十三石今尙領せり其後高松侯及京極家より免田山林等を御寄附なし玉ふ。元祿元年十月廿日回祿す其後再興天明八年十一月五重塔落慶せしかと天保十一年十二月十七日夜又燒失す。

備後國尾道西國寺の記曰永保元年西六月西國寺再興あり翌年三月伽藍落成して讚岐國善通寺の七佛藥師の像一軀を請て本堂に安置す。

寶物○弘法大師自寫肖像(世に目動大師といふ大師唐の御時

都法印大和尚位に任す(願文責秘密の道義屈法印大和尚位權大僧都とあり)

同三年二月十七日於善通寺御影堂爲後嵯峨院御菩提毎年理趣三昧を勤行せし時宥範御導師にてありし護摩堂より火起りて火焰四方に延て坊史中へ焼移諸人集りて是を救ふ宥範は禮盤の上に坐せしまゝにて騒たまはず秘密の加持をして其後灑れしたまふ時彼堂半分ばかり焼ける炎焰消へて水をかくる如く次第に消滅しける(其爐今にあり)其後衆徒御影堂へ参りて見れば宥範は初の座に加持讀經して居られける衆徒火の消し事共語りければ夫は不思議と斗いはれける(時人智證大師の灑水にて唐青龍寺の火災を救しに比す)

觀應三年正月十一日造營を始られ六月廿一日功畢りて同廿五日より病に罹り七月一日卯時に寂す行年八十三歳。

應安四年三月十五日贈僧正賜宣命(權小僧都宥源奏請)鎌倉の妙祥上人弟子に是呼房といふ人上人の最後まで常に從ひし人也ける上人の遺言を受けて此國へ來り當流の疏を他事なく學ひ此人時に三拾五卷の妙印抄再治の事を勤め申けり依て思ひ立八十卷妙印抄を造りたまへり此草稿(高松無量壽院にあり)中書清書一草に功を遂たり當寺の妙印抄の正本は是呼房の書也。

行狀記曰大師御生所讚岐國屏風浦に善通寺曼荼羅院にして大師結初の伽藍あり彼寺の額は大師則書玉へり書陰陽師清明事

御母阿刀氏の需に應して此圖を寫したまへり其後承元三己年天皇勅ありて住僧此幅を京師に護送しける觀覽の後繪師に模寫せしめて七幅同裝に仕立て住僧を呼出して此中の眞筆を撰取るべしと勅あり。住僧も心迷ひければ目を閉て默禱し良久して眼開き見れば不思議や眞筆の肖像御自動きける故こそとて撰出しける天皇を初め奉り公卿等驚き何ゆへ是を辨識せしと問玉ふ。住僧隱さすありのまゝに奏聞せしかはいよく其像の靈なるも感玉ひ御崇信厚かりし是より世に此奇瑞を傳へて目動大師と申傳ふ。近くは靈驗新なることいはんかたなし) 惠果相承二十五條袈裟一副載綸旨、錫杖(閻浮檀金三國傳來八組相承)鉢(金紫銅八組相承)水瓶(金紫銅八組相承)五色佛舍利一粒(八組相承八十粒の一なり此一粒は母君結縁の爲に残し玉ひ今現存す以上五種は惠果和尚より附屬) 一宇一佛法齋經(八卷文字は弘法大師筆佛像是母君阿刀氏筆なり) 泥土多寶塔(大師幼雅の時の作中に釋迦多寶二佛あり以上七種は多度禁裡御所へ觀覽に備ふ物なり) 觀佛三昧經(傳教大師筆) 法華經(龜山法皇宸翰) 理趣經(小野道風筆) 聖德太子像(弘法大師筆) 彌讚淨土經(中將姫筆) 當寺伽藍圖(土佐畫) 法華經(寺僧頂觀日本行脚の時毎夜執筆數年にしてなる) 妙印抄八十卷(是呼房筆) 承元嘉祿寛喜賓治建長正嘉弘部建治弘安永仁嘉元徳治正和建武曆應貞和應永享文明等院宜應宜及古文書等數通一に擧るに違あなす其餘宸翰名師御名將

の古筆古畫古黒等數多ありと雖も是に略す。當寺寶物中明治三十四年三月國寶と定められたもの左の通りである。

甲種四等繪畫紙本淡彩一字一佛妙法蓮華經序品 一卷

同 彫刻木像地藏菩薩立像 一軀

同 彫刻木像吉祥天立像 一軀

同 三等美術工藝金銅錫杖 傳空海將來一本

右の外寺寶の重なるもの

一、弘法大師筆大方廣佛華嚴經第七十六卷 一卷

一、同 大師筆鼠跡心經 一卷

一、同 大師筆聖德太子御影 一軸

一、普賢院舊藏本大孔雀明王經 三卷

一、傳教大師筆觀佛三昧經第五第六卷 一卷

一、牛庵筆稱讚淨土佛攝受經 一卷

一、弘安三年公文職隨心院門跡下知狀 一通

外嘉祿元年廳宣一通、承元三年廳宣一通、建治二年祈禱狀

一通、建長四年五年文書二通、弘長三年文書零本一通、明

徳長祿永和寛正文書等五通、細川頼之文書一通などがある

教士善通寺にてよみ傳りける

沙彌宗縁

新古今集

高野山その曉を契來てこゝにもおなし月やすむらん

○十善坊 境内にあり。眞言宗同末寺、觀智院と號す。本尊 十一面觀音なり。

○花藏坊 同所にあり。同末寺。花藏院と云。本尊 毘沙門天なり

○院主坊 同所にあり。維新の際廢寺。

○玉泉坊 同所にあり。坊名を廢して今は玉泉院と云西行庵とも云。

本尊 阿彌陀如來(西行上人住庵傳來)西行木像(頓阿法師筆)同小像(山崎宗鑑一刀三禮作)小堂(西行像田子の浦の石を以て作る)庵額(久の松三字花山院愛德卿御筆)同(猶松庵三字相國寺大典長老の書)同(喬松亭三字京極家 公御筆)堂の額(高隱二字葛城慈雲和尚書)門の額(玉泉二字坊城俊親卿筆)久の松(境内にあり)

當坊は壽永年中西行上人此所に庵を結びて暫く住けるにより西行庵といふ撰集抄を著せしは此所なる撰集抄に曰壽永三年むつきの下弓はりに讚州善通寺の方丈の庵にしてし終りぬとあり。此寺は西行法師の舊跡なる故に詩歌等數多あり左の通なり

新古今集

西行法師

山里は人こさせしと思はねと問るゝこともうとく成行數ならぬ身をも心の持顔にうかれ書ては又歸り來にけり

多度郡にかたのことく庵を結びて侍りしにかく

山家集

山さとにうきよいとむ友もかなくやくし過し昔かたらん

庵の前に松のたてりけるを見て

ひさにへて我後の世をとへよ松跡しのふへき人もなき身を

土佐のかたへまからましと思ひ立事の侍りしに

こゝも又我すみうくてもうかれぬ松はひとりにならんとす

らむ

おなし國に大師のおはしましける御あたりの山に庵を

むすひて住けるに月いとなくかくて海のかたくもりなく

見えたれば

曇りなき山にそ海の月みればしまそ水のたえ間なりけり

住けるまゝに庵いとあはれに覺て

今よりはいと命あれば社かゝる住居の知をもしけれ

雪のふりけるに

松の戸は雪ふる折の急なれやみな白妙にみゆる山ちに雪つ

みて木も分す咲花なれはときは松も見えぬなりけり花と

見る梢の雪に月さえてたとへんかたそなき心地する

まかふ色梅とのみ見て過行に雪の花には香そなかりける

折しもあれうれしく雲のうつむ候

中々に谷の細道うつめ雪ありとて人のかよふへきかは

たにの庵に玉のすたれをかけましやすかるたるひの軒をと

ちすは

●皇太子殿下行啓御手植の松 善通寺にあり大正十一年十一月十九日 今上陛下未だ東宮に御座せしとき特別大演習參加軍隊を御親閱あらせられ分列式後善通寺に御立寄あらせられ名僧弘法大師の遺蹟を追懷遊ばされ尙記念の爲庭前に御手植ありたり。

●佐伯祖廟堂 本堂は善通寺の西方香色山の東麓八幡山の頂にあり。本尊佐伯善通像を安置す。附近老松參差四時の眺め最も佳なり。

●觀智院 善通寺本堂より伽藍中門に至る南側にあり。眞言宗小野派別格本山善通寺の末寺にして。本尊十一面觀音を安置す。古老の口碑に依れば 古へ十善坊と稱へたりしが中古の院號に改めたりと云ふ。大正二年四月本堂より火を發し堂宇盡く烏有に歸し其後再建せしものなり。

●華藏院 善通寺本堂より伽藍中門に至る北側にあり。本尊毘沙門天を安置す。

●三帝御寶塔 善通寺大師堂門前より練兵場に通ずる路傍に在り。寶塔を掩ふ老松數株圍むに土塀を以てす。寺傳によれば後嵯峨、龜山、後宇多三帝の御遺詔を奉じて其の御爪髮を納らし所なりといふ。

●法然上人逆修塔 善通寺伽藍内の南東五重塔の東にあり。足利尊氏利生塔と並立せる高さ凡四尺の五重石塔なり。建永二

年法然上人此寺に禮拜せし時善男善女の冥福を祈らんとために建立せしものなり。

●西行庵 善通寺の末寺にして、伽藍の南方に在り。壽永年間西行法師數年間居住せしを以て西行庵といひ、清泉玉ノ井あるを以て玉泉院の稱あり、老松久ノ松有名なれども枯死せしは惜むべし。

●久の松 善通寺伽藍の南方玉泉院(西行庵)の前庭にあり、崇高なる老松にして下の小堂に西行法師の石像を安置せり、松は今僅かに幹のみ留むるも依然として有りし昔を偲ばしむ。
●椈樟 善通寺伽藍内南方の所にあり。千古の名木にして。枝葉益々繁茂し、永久に弘法大師の偉徳を顯彰すへき天然の表木と云ふべし。

●仙遊ヶ原と遊塚 弘法大師幼少の時此處に遊戯せられし時、神仙の downward して之を擁護したるに依り此名ありといふ、其の遺址第十一師團練兵場の北部筆岡村に通ずる道路近傍に在り此處に孤立せる古き石塔あり。世に之を犬塚と稱す。弘法大師の愛飼せる犬の屍を埋めたる塚なりと。

●花満いらをけるをりしもをしきにあられのふりかゝりければしきみおくあかのをしきにふちなくは何にあられの玉とすらし

○西行菴記

讚岐國屏風浦善通寺相傳以爲空海大師生長之處其側有茅庵西

行上人嘗置之上人初名義清藤原秀郷之裔而左衛門尉康清之子也世以武稱義清文武兼通最名于歌詞資性恬淡寡欲胸襟瀟灑仕鳥羽上皇爲左兵衛尉厚蒙恩顧而無意于進取焉保延六年棄官爲僧改名曰圓位時年二十三廻歷游諸州旁探名勝足跡殆遍海內壽永中來居此念誦之暇詠言自娛無幾去游士佐庵中安上人像蓋釋頓阿所鑄前有古松上人所爰其歌曰久耳徑天吾後世乎弔與松跡忍別岐人裳無身序跡今六百二十年枝葉繁茂未嘗凋殘有井曰玉泉大同中空海所汲以供佛也四方佳景來而獻吟者拜師筆山香色飯山天霧獅子大麻象頭皆近境之名山也臣故風人驢客至是者未嘗不游觀焉星移物換屋宇敗壞無復有修葺者阿波足利氏世臣武衛賴雄深慕上人之爲人痛其佳路之廢乃釋服來居號曰松岫々々素與善通寺住持權僧正寬充善遂同心相謀終復舊觀矣死而有知上人之喜可知也今茲季春因前刑部權大輔藤原請余記余以在職不能就而觀之爲書其構以與云爾

享和三年癸亥三月望

清岡殿

式部權大輔兼文章博士菅原長親撰並書

讚岐國屏風浦善通寺の久の松は西行上人の舊跡なり久に經て我後の世をとよみおき玉ひし松なむ云もとせの歳霜を經て朽せぬ上人の御名とともにさかえたりとそ爰に阿波國足利の館につかへし香々軒左右翁といへるは風雅の舟士そのかみの庵のあれてあともなきをなけきあらたにいほりを結ひて詩歌連俳の道にあそぶ葉のこの葉をあつめてこゝにとゝめんこ

いさゝか好事の爲に中古以來普く人のしれる方々の詩歌發句の一二を左にしるす。

鷺尾前大納言隆建

今も世にちりうせすしてさかへ行名さへ久しき浦の松かえ

芝山 前宰相持豊

宿なからこゝろをやりてひさの松久にくちせぬかけ安ふく哉

櫻井 三位 供 敦

敷島の道を種とや今も猶みとりを深きひさのまつか枝

七條河内權介隆則

いくとしかおなしみとりにしけるらん其名さへ久の松の木高さ

芝山 宮内 少輔國豊

古寺の庭に久しき久の松の猶もさかえん千代やいく千代

西洞院 入道 時名

跡とへと残すかたみのことのはをあふくも久の松高きかけ

足 利 源 義 根

残しおくそのことの葉をゑにしにて猶しのふ世も久の松か枝

同 義 豊

敷うせぬこと葉の種を植置て今も榮ゆる久のまつか枝

吉備中山細谷川瑞雄

植置し昔しのふのひさの松はやもとせをむかひへぬれば

藤井 但馬守 高久

とをねかふ寛充權僧正又其こゝろさしをたすけて募縁の序をつくりて其道々の輩のことのはをもてちからをそへむことをすゝむしかあるのみならず阿州別駕藤公緒紳の輩に此松の影よまむことをあつらへやつかれ父子も其數にかそへいたまひぬ松のちもはんをもやさしけれと蜂腰に口をふさくのみ實に金玉の中の瓦石ありて益なしはやく丙丁につけたまへかしなほ左右翁のすゝめいたり居也冠免より市井草庵にをとめ得て此庵にきたしくなりゆかは松はひとりとならんとする舞とら出ならめをき玉ひし上人の御たまも嬉しく見そなはしたまひ年々にあつめて松のはの數うせず正木のかつらなく傳はらんことをこれ翁のこゝろさしに感して屋つかれのいさゝか其たすけをおもふものならし。

久のまつの木陰に千々のことの葉もいく世をかけて都をも所半まし

芝山殿

前參議 持 豊 判

芝山前宰相草作被送候間入見參候以右之記後世屏風浦久の松可爲名所候彼卿當時天爾紫 御傳授有之歌道之達者候間以彼詞書代所貳拾被頼候不可有違背候此旨宣影御沙汰候也

七條殿

正五位下行河内權介

寬政五年二月二十五日

隆則朱印

かゝる奇跡なる故に古より好事の人々には其跡を探り來り或は人つてに聞慕ふて詩歌連詠を贈り來れる事其數を知らず今

今も世にのちのかたみと久に経てのこることはの松そふりせぬ

藤井小膳高尙

法の師のをしへわすれぬ見えてうへも名におふ久の松か枝

香川 景柄

後の世をとへと契りし松さへもしのはるゝ名を久にふりぬる

同 景範

久に経てしのはぬ人もなきあとを松にとのみやとひ置つる

西行庵法橋松崑

久にふる松のことの葉幾世にもかきて傳へむ筆の山もと

西行の衣ぬれけんまつにつゆ

はせを

松を見て身をしるはるの若葉かな

まつを見てなき人戀し秋のくれ

鳴立澤三千風

問へよとの言葉はきこえず松の雪

宗因 梅翁

忍はしき世の佛そまつのはな

雪中庵完來

あはれ世やふりしあと見る松のゆき

東都坂昌成

名も久に猶千代つもれまつ雪

同 廣瀬渡

靈根曾托古香場尙識千秋遺愛長重蓋四塵含寶雨寒條北嚮犯

嚴霜屏風浦畔濤傳響圓位龍前日借光爲是四方饒賦詠菁葱添得

玉泉傍

薩州 錦水 源天錫

古より今にいたりて詩歌連詠に遊ぶ輩西上人の跡をしのひて

爰に詣ふて、懷舊の詠吟多しといへも逸々しるすにいとまあらず。

○仙遊原 伽藍の北にあり。

天應元年大師八歳の時此所に堂を造り泥土を以て佛像を作る是を禮して遊ひ給ひし時養民司此國に下りて都郷を巡見あり村吏路を拂ふて儀式甚壯觀なり勅使馬より下りて大師を拜す師自若として拜を受けはむ色なし遙に過て勅使從者を顧て彼兒は神童也四天王蓋を捧て擁護せり是を以て拜せしといふ勅使還る此事を傳へ神童と稱す。

○香色山 五岳山の一其隨一にして普通寺の後方に並せり。現

今は稻荷は佐伯八幡山へ移す林光亭は取除けり今は無絶頂に佐伯の神廟あり。不動愛染の石像(京極家御寄附)半腹に稻荷社林光亭あり。四國八十八ヶ所本尊石像山を巡りて安置す麓に五佛の石像阿伽井茶堂あり五岳山は各弘法大師七寶を納めて國家の鎮護となし玉ふ事御廣傳に出たり古き文に五岳を五佛の山と云南の象頭山を普賢の山といふ。北の獅子居山を文珠の山と云實に三地の菩薩降誕の砌なれば人法おのつから相叶ものなら舞。

○中山 五岳山の一也

○我拜師山 五岳山の一なり。

山嶮にして絶頂に至る者稀なり出釋迦寺舊跡弘安院宣了曰普通照金剛親しく生身の釋迦を拜す因てみつから犬乘經を書

寫して此所に埋む捨身か岡とも云大師求法利生の願あり將に捨身せんとす山半腹に至て物喜て掬て擧ぐ時に山上に生身の釋迦出現すと云。

○火上山 (五岳山の一也)海神此所に燈火を挑と云。

○筆の山 (吉原村にあり。五岳山の一なり)山の形筆に似たり依て名付く

山家集曰上略やかてそれか上は大師の御師にあひまいらせおはしましたる嶺也はかはいし仕とその山をはゆ也その邊の人はわかいとそ申ならひたる山も今はすてに申さす又ふての山ともなつたりとほくて見ればふてに似て まろくくと山の嶺のしさきのとかりたるやうなるを中ならはしたるなめり

○權五郎屋敷(同所にあり)筆の山かきのほりても見へる哉苒の下なるいはのけしきを相傳鎌倉權五郎景政是に居たりしとそ其傍に池の鮒皆片目魚なりといふ(景政の當國に住すること其明證を見す)

○大麻神社 大麻村に在社人珀久氏延喜式廿四座の一祭禮九月十日 祭神(天照大神宮或云大玉命)本社、幣殿、拜殿、鳥居祭神三體古造隨神双古作、獅頭古作

○三代實錄云貞觀七年十月九日丁巳讚岐國從五位下大麻神授從五位上

當社は弘法大師勸請なり中古兵火にかゝり社殿燒失ありしを

京極佐渡守高知主再興なしたまふ○本社尊像二軀國寶となれり。

邦内廿四社詣の記

坂上 道 啓

諸人のあふさざるさに手向らん春に行手の花の大ぬさ

○智光院 普照山と號し淨土宗壽覺院末元丸龜横町に在つたが延享二年此地に遷した。

○淨源寺 稻木村にあり、瑞光山一向宗京都興正寺末寺、

當寺開基香川信景の末孫是徹延寶年中に建立す。

○西光寺 上吉田村にあり。一向宗京都興正寺末寺。寶臺山と號く。本尊 阿彌陀佛

當寺は慶長七年三好長慶臣松田主殿入道慶明と云後慶順と改めて草創し寺號を許さる。

○皇子權現 同所にあり。社僧普通寺。祭禮

本社、幣殿、拜殿、鳥井

當社は弘法大師勸請なり

○八幡神社 下吉田村にあり。社僧同上社領四石祭禮八月十五日。

祭神足彦大神外四神

本社 幣殿、拜殿、鳥井、隨身門

當社は弘法大師の勸請なり。

○養念寺 同所にあり。正樂山一向宗京都興正寺末寺。

本尊、阿彌陀佛

本尊、阿彌陀佛

本尊、阿彌陀佛

本尊、阿彌陀佛

當社は寛永八年香川信景四世孫景春入道春月建立正樂寺と云
永録二年今の寺號に改む。

○石神社 同所にあり。祭禮

此神體初小石なりしか諸人多く崇信せしかは追々重大になり
て今は獨にて動し難と云。

○柚樹清水 同所にあり。名水也往來の眞中にあり、讚州第二
清水の一。

●王墓山古墳 王墓山は古來より古墳として聞ゆ、大字善通寺
大池の東方に在りて現狀山林を爲せり。形体寸法等三段より
成り前方後圓墳にして西方面に向つて作られたり。周圍一千
三百五十に達せりと云ふ。善通寺町より大日越に向ふ道路の
南方第一師團衛戍病院より西方に通ずる道路の北方に在り。

●智光寺 淨土宗に屬し、本尊阿彌陀如來を安置す、町の中部
鶴ヶ峰の東麓に在り。境内一大櫻樹あり、花時遊人の杖を曳
くもの多し。

●日露出征記念松 練兵場北隅にあり。明治三十七年我第十
一師團が、征露の途に上りし時の記念樹にして。當時の師團長
土屋中將の植られしものなり。

●衣掛松 大麻山支脈の東に突出せる岩崎にあり。鐵道に沿ひ
て一個の屹立せる巨巖上に一株の老松あり。往時清少納言が
老後當國に遊ひし時茲に憩ひて其衣を掛けしと云ふ。是より
衣掛松の名あり。先年落雷の爲め上部龜裂して枯損せりと

氏族)の輩が衣服の原料である麻を植附た際天太玉命(三天神
の一である神皇產靈命の御子)を此地に祭りて大麻神と尊稱
せしものであつて地名も是から起つたものである貞觀七年に
は此神社を從五位の下に其後延喜十年に從四位の下に永徳元
年には正一位に昇つて居る祭神天太玉命は天照皇大神が石窟
に閉居されし時天兒屋根命と共に偉大の功績あり又天孫瓊々
杵尊の天照皇大神から豊葦原瑞穗國(日本)を御任しあつた際
供奉した三十二神の内の一神であつて忌部氏の祖神である其
鎮童久遠であつて詳らかにないも神武天皇御代に國々に忌部
の社を建給ふた時祭つたと相傳へられて居る。

人皇十二代景行天皇の御代に讃岐に惡魚(海賊のこと)あつて
災するので天皇は神櫛皇子に命じて討伐させ給ふ皇子討伐の
時大麻神は此國を平定守護の神であるから祭つた所驗あつた
ので益々尊崇したと傳へらる其後同社に勅使あつて穂積恩山
彦根現(社司白玖武壽民の祖であつて其靈舎今尙同社境内に
ある)社殿を修營して玉串を納め厚く祭祀をした夫から後天
武天皇白鳳十一年に恩山彦根裔穂積鴉鷹をして天津彦々火瓊
々杵尊及供奉三十二神の神像を作り祀た今尙同社に安置され
て居る。

其内瓊々杵尊と天太玉命の御神像は九鬼隆一氏の鑑定により
明治三十四年國寶に編入された又朱雀天皇天慶四年神主穂積
志岐、門守神狗形朽損した故各作りて現今迄神門に安置して

雖も尙ほ僅に數枝を存する所に其の昔を語るか如し。

●内山城趾 大麻山東支脈内山にあり。大川小太郎平政時の居
城なりと宇中土居に大川の祠あり。大川政時を祀る。

●葵瀧 大麻山の半腹にあり。古記に「葵瀧及屏風瀧と云ふ直
流十五間」とありて崩巖牆壁の如く屹立す。現今金刀比羅宮
水道の水源地として、貯槽を瀧基に設く。

●大麻山城趾 大麻山麓、中土居の地に古城と云ふ所ありて岩
崎修理介或は土井山城或は矢野但後の居城とせり又た山下に
土居と云ふ地あり。大川政時の臣飛田官平治橋光延の居城な
りしと云ふ。

●遠藤塚 大字生野摺白山上にあり。寛政年間土を採らんと此
の山を掘りしに一個の石棺を發見せり。骸骨は朱にて光填し
ありて何人の墓なるか分明ならざれども地方の人々は此山に
居城せし遠藤氏の墓なりと傳ふ。されど考古學者萩田氏は弘
法大師祖先の墓ならんと鑑定せられたり。

●遊園地 佐伯廟八幡山と香色山麓とを開拓し老松、櫻、紅葉
躑躅樹等の參差たる雅致の間に逍遙の便を興し散策の設備を
爲せり。本園は人工的の美なしと雖も幽趣に富み遐邇の眺望に
適する天然の遊園地にして一度園内に杖を曳しば鹽飽諸島に
隱映せる去來の白帆或は讃岐富士、大麻山、五岳の眺め等意
に隨つて其の眼を樂ましめ心氣を爽快ならしむべき佳境たり
○大麻神社 大麻神社の由緒の概要は往古忌部氏(祭器を作る

ある其後神威益著明となりて古書に段々とされて居る程我國
に稀なる舊社である又往古は官庫の奉幣厚かつた社であつた
が中古兵火に罹り社燒失したのを國司京極佐渡守高道再興し
後京極氏代々尊崇されて居つた其後白河天皇永曆四年視部等
神事を穢したにより祟あり神祇官龜卜によつて朝廷勅使を立
て中祓を科して祓清めたこともあり中古兵亂打續いて社殿度
々炎上あつたが神像は一体も未だ火災に罹つたこともなく寶
物數多く保管しある希代の舊社である。

同社の舊跡は和銅二年の神託により社の南にあま水が朝出る
ので夫で朝の神饌に奉り社に北から水が夕に出るので夫で
夕の神饌を焚奉りあつた其後木竹生へて水悪くなつたから氏
子達は石鉢を掘つた其石鉢現存して居る又器具洗ひ清めの堀
は鳥居南十間の所にあり供物の平釜杯等を洗ふ所身を洗ひ清
めの堀は鐵道の東手にあり國司奉幣の時役人と社司等身を清
める堀である神馬洗ひ清めの堀は馬場から北一丁程の所にあ
つて馬場出しと唱へて居る何れも神託によつて傳へられたが
今は形のみ遺しあり其他舊跡多かつたも兵亂の時大砂となつ
たと傳へられる現在の同社境内は舊跡は多く廢減となつたも
のが平地から一丁程上つて神々しい林中にあつて俯觀の眺望
良く馬場先には電車停留場あつて國道に沿ひ琴平町市街へは
南十町善通寺町市街へは北西三十町交通參拜に便利である。

郡内所在の私立中等學校は左の二校で從來多度津に在つた。工業學校は十一年度より縣立工藝學校に合併し更に中學校を設置された。

盡誠中學校(普通寺町)明治二十八年三月舎長大久保彦三郎四條に村私立盡誠舎を建て普通科を教育した之れ本校の前身で明治四十三年四月より中學校に則り改稱した。本校創立以來入學を修めしもの五千六百餘名の多きに達し中學校認可以來卒業生を出事現に七百二十二名に及べし。

- 普通寺高等女學校 明治三十九年六月私立靜修裁縫女學校を設立されたのが前身で同四十年四月私立靜修女學校と改稱本科三年專修科二年とした。同四十三年本科の修業年限を四ヶ年に延長同四十四年四月私立普通寺實科高等女學校と改稱大正九年四月より普通寺高等女學校と改稱校地三千六百八十五坪外に實習地四百七十七坪建物壹千三百拾叁坪職員二十二名
- 普通寺尋常高等小學校
- 普通寺第一尋常小學校
- 普通寺第二尋常小學校
- 普通寺第三尋常小學校

○人物 空海は多度郡の人佐伯直田公の子母は阿刀氏幼より穎悟年十五京師に上り宿禰大足に就き文書を習ひ書法に於て妙を得草聖と稱せられた年三十一歳で得度延暦二十三年入唐青龍寺の惠果に眞言を學び留學四年にして歸朝弘仁七年高野山

に居れり

○稱名寺城跡 大麻山にあり。

小川布伯及其子彌八郎是に居たりしなり。

○摺臼山(研麻山)城跡 普通寺の山にあり。遠巖山とも云山の頂曰の如き石あり依て名付く。遠藤左馬介爰に居たり。遠藤氏は何れの人なるそしらす山の半腹に石棺あり。近き頃土人誤りて堀かちしに平石の下に朱の如きせの澤山あり。其内より太刀鏡の類等ほり出させしかと人ありて是を止む依て元の如く埋め置しなり遠藤氏の墓ならむと云へり藝州記には阿野郡山内城を摺臼山に作る。今昔物語曰讚岐國多度郡の人名は不知源大夫と云者ありけり心極く猛くして殺生を以て業とす日夜朝暮に山野に行て荒鳥を狩り河海に臨て魚を捕る亦人の頭を切り手足を不折る日は少こそ有けれ亦因果を知すして三寶を信せず何そ況や法師と云む者をはことさらに忌て當りにも寄らざりけり此の如くして惡奇契き惡人にて有ければ國の人も皆忌こそ有ける然る間此人郎等四五人許を相具して鹿共多く取せて山より返る道に堂の有けるに人多く集りたるを見此は何事ぬる所そと問ければ郎等これは堂なり講を行ひこそ侍るめる講を行そと云は佛敎を供養する事也哀に貴く侍る事なりと云ひければ五位然る熊さるる者と鬘に時々聞ければとも此目近くは見さりつ何なる事を云そといさや聞かん暫く留れと云て馬より下ぬ然れば郎等共も皆下て此は何なる事をせん

を開き同十二年滿濃池(神野村)を築き同十四年東寺を賜つた天長七年大僧都に任し承和二年三月二十一日高野山に於て入寂した。年六十三延喜二十一年十月弘法大師と謚した。

眞雅 は空海の弟年十五京師に入り空海に眞言法を學び齊衡三年大僧都に任し貞觀元年法印大和尚位を受け十六年新建の精舎に額を賜ひ貞觀寺と號した元慶三年正月三日七十九歳で歿した。

眞然 は空海の甥で空海に従ひ密乘を學び眞雅の灌頂を受け傳つた空海入定に臨んで高野山に付屬して營造した故に高野山を眞然の内院と稱する寛平二年に僧正となり同三年九月十一日八十八歳で歿した。

○西行法師 俗の名は佐藤憲清一つに義清とも云つた弓術に長じ兵法に踐じ鳥羽上皇に愛せられ北面の侍となり從五位下に叙し左衛門尉に任せられたが遁世の志あり崇徳天皇の延保六年十月嵯峨に行き僧となつた時に年二十三法名を園位と號したが後西行と改め行脚に志し全國を周遊し到る處風詠を事として樂み文治五年京師に歸り東山雙林寺に庵を結び建久九年二月十六日入滅した享年七十三。

○大麻山城跡 内山にあり。岩崎修理是に居たりしなり其餘大麻村墨跡三ヶ所皆細川氏の被官なり或は大川小太郎平政晴是に居たりしか文明三年當城に戦ひ死す山下に土居と云ふ池あり其後玉田官平次橋光延是

するにかあらん講師なむ拔せ玉するにや不便の態かなと思ふ程に五位只歩み寄て堂に入を此講の庭に有る者共もかゝる惡人の出來れば何なる事せんするそか有むと思て騒く恐て出る者も有り五位並居る人を押分て入り風に靡く草の靡たる中を分け行て高坐の傍に居り講師に目を見合て云ふ講師は何なる事をい居たるそ我心に現にと思ゆ斗の事をい聞せよ然されは便なる者そと云て前に差たる刀を押し廻して居たり講師て不祥にも値ぬるなと恐て云ひつる事の始終も思はずして引き落されぬと思ひけるに智恵有ける者にて佛助け給へと念して答て曰此より西に多の世界を過て佛在ます阿彌陀佛と申す其佛心廣くして年來罪を造り積たる人なれとも思ひ返して一度阿彌陀佛と申つれば必其人を迎樂く微妙義困に思ふ事叶ふ身と生れて遂に佛となむ成ると五位此を聞て云其佛は人を戀ひ給ひては我をも恤に給はんや講師の云然なりと五位の云ふ然らば我れ其佛の名を呼ひ奉らむに答へ給ひてんやと講師の云それも實の心を置て呼ひ奉らば何か答へ給はらざらんやと五位の云ふ其佛は何なる人を者とは宜ふそと講師の云人の他人よりは子を哀れと思ふる如くに佛も誰をも惡しく思はざれとも御弟子に來たるを今少し思ひ給へと五位の云く何なるを弟子とは云そと講師の云今日の講師の様に頭を剃たる者は皆佛の御弟子也男も女も御弟子なれとも尙頭を剃れば増る事也と只今俄に何てか其御頭をは剃らむ更に思ぬ事ならば家に

返り妻子眷屬などに云合せて方を招て剃り給へと五位の云汝佛の御弟子と名乗て佛は虚言無しと云て御弟子に來たる人を哀と思すと云て何に忽に舌を返て後に剃れと云くいとあたらぬ事也と云て刀を抜て自ら髪を根際より切つかゝる悪人の傍にかく髪を切つれば何なる事出來ぬらむとて講師周章て物も云すは其庭に居たる者とも嗚合たり亦郎等此を聞て我君は何なる事の御すること太刀を抜き箭を番て走り入り來たり主此を見て大きに音を擧て郎等ともを靜めて曰く汝等は我々吉き身と成らんとゐるを何に思て妨げんと爲るぞ今朝迄は汝等か有る上にも尙人をもかなと思ひつれとも此より後は速に各行かんと思はん方に行き仕はれんと思はむ人そ仕はれて一人も我には聞へからすと郎等の云何にかゝる態をは俄に令め給へるそ直き心にてはかゝる事有さる物の説き給ひにけるこそ有けれと云て皆臥しまろひ泣く事限りなし主これを止て髪を切ては佛に奉て忽ち湯を涌して紐を解きて押して自ら頭を洗て講師に向てこれ剃れ剃らず悪かりなんと云へは實にかく計思ひたらん事を剃らずは悪くも有なん亦出家を妨げは其罪有なん旁に恐れ思ひて講師高坐より下て頭を剃て戒を授けつ郎等共涙を流して悲む事限りなし其後入道着たりける水千袴に布衣袈裟なとみつ持たる弓胡録などに金鼓を替へて衣袈裟直く着て金鼓を頸に掛て云く我は是より西に向て阿彌陀佛を呼び奉て金を叩て答へ給はむ所迄行かむとす答へ給はさらん限は

野山になれ海河になれ更に返さるまし只向らん方に行へき也と云て音を高く擧て阿彌陀佛よやをいゝと叩ひ行くを郎等共行むんと爲れば已等は我道妨げむと爲るこそ有けれと云てみんと爲れば皆留りぬかく西に向て阿彌陀佛を呼び奉て叩つゝ行に更に云つる様に深き水とても淺き所を求めすして高き峰とても通たる道を壽ねずして倒れまろひて向たるまゝに行のみ日暮に寺の有るに行き着ぬ其寺にある住持の僧に向て云我此思を發して西に向て行くに高きをみず況や後をみかへさすして此より西に高き峯を超て行かんとす今旨有て我あらん所を必尋て來れ草を結びつゝ行かんと爲るそれを見て注として參へし着喰へき物は有る夢斗約せしめよと云ければ干飯を取て與へたれば多と云を只少しく紙に糞て腰と膝と其坐を出て行ぬ住持既に夜に入ぬ夜斗は留まれと云て留むと云へ共きゝ入すして行ぬ其後住持彼の教の如く七日と云と退てゆく更に草を結びたる其を尋て高き峯を超て見るそ亦其よりも高く嶮しき峰有其峯に登てみれば西に海現に見ゆる所あり。其處に勝る木あり。其勝に入道登り居て金を叩て阿彌陀佛にをいゝと叩き居たり住持を見て喜て云く我尙此より西にも行て海にも入なむと思ひしかとも此にて阿彌陀佛の答へ給へば其れを呼び奉り居たるなりと住持これを聞て奇異しと思ひて何に答へるへりやと問へは然は呼び奉らん聞と云て阿彌陀佛よやをいゝ何こゝ御ますと叩へは海の中微妙の御音

有て此に有と答へ給ひければ入道かゝれは聞やと云住持此御音を聞て悲て貴くして臥しまろひ泣く事限りなし。入道も涙を流して云汝速に返すへし今七日有て來て我有様を見忌ぬ物や欲きと思て干飯を取て持たりきと云へは更に物欲しき事無くして有と住持見ればげに有し如くにて腰に挟みてありかく

て後の世の事を契置て住持は返ぬ其後亦七日有て行て見れば前の如く木の勝に西に向て此度は死て居たり見れば口より微妙の鮮なる蓮華一葉生たり住持これを見て泣き悲ひて口に生たる蓮花を折り取つ引も隠さましと思ひけれともかゝる人をはかくて置て鳥獸にも噉れむと思ひけんと思て動かすして泣く返にけり其後何にか來にけん知さりけん住持も正く阿彌陀佛の御音を聞き奉り口より生出たる蓮花を取てけるは定て罪人には非すとおほゆ其蓮華は何にか來にけむ知らす昔の此の事なるへし世の末なれとも實の心を發せば此貴き事も有也けりとなむ語り傳へたるや。

(一)説香川伊賀守の居城なりしと

○佐伯山遊園地 善通寺

○大池 善通寺町にあり。周圍一里二十町

善通寺境内の樟 甲乙二種あり

(甲) 根元の周圍(地面より三尺三寸)三丈九尺地面より四尺八寸の高さにして周圍(瘤を含む)三丈九尺三寸。地上より六尺六寸の高さにして周圍三丈一尺

(乙) 根元の周圍(地面より四尺九寸の高さ)三丈六尺地上より六尺三寸の高さにして(三丈三尺)

右二種とも大正十三年三月天然記念物に指定さる。

●豊原村

東丸龜南善通寺西四箇及多度津に界し北瀬戸内海に蒞む明治二十三年二月南鴨北鴨、堀江、道福寺、葛原の五村を合併せしもの面積〇二七八方里

○弘濱八幡神社(村社)堀江に在り神功皇后外二神を祀る。

○加茂大明神 南鴨村にあり。社僧觀音院、祭禮九月九日。社領三反二畝。

○加茂神社(村社)祭神別雷神外三神當社勸請年月未詳元暦元年十一月源義經朝臣平家追討の命を蒙り西海へ赴く時暴風に逢て御舟まさに覆んとす此時武藏坊辨慶當社に祈りて驗あり依て御舟堀江濱に漂着す直に當社に詣て願文を書す翌年歸國の後軍旅の士將を聚めて大般若經を各揮筆して漸く事成て當社に納む其後三井村なる須藤源四郎氏政と云者社殿を修造す氏政は源三位頼政の後裔なり天正十年四月廿七日修理造營す文祿五年六月八日修理近宮あり正保二年九月廿八日修理遷宮あり其後度々修造を加ふ。

○寶物 大般若經全部(武藏坊辨慶及源家の諸將揮筆)願文(辨慶筆右の寶物ありといへどもみだりに見る事をゆるさず故に

眞偽をしらす)等あり。

○多々洲社 同所にあり。社僧同上只洲又糺とも書す祭禮本社、拜殿、鳥居

當社肇未詳天正十六年九月五日修理を加ふ近宮導師は道隆寺良田法印也

○八幡神社(村社)葛原村にあり、社僧神宮寺同所並道福寺氏神祠官秋山但馬祭神品陀別大神外二神。

當社は延久五年八月道隆寺祐善訶を奉して五ヶ所に勸請せし其一也康平五年奥州夷安倍貞任宗任征伐の時諸國に詔して神社を造營し放生會を初むと云り其後至徳元年修理造營す遷導師は道隆寺良秀たり。天正十八年十月廿一日修理近宮あり慶長十二年八月十三日修理近宮あり其後度々修造あり此境内大樹繁茂して實に齒圍の地なり。

○淨蓮寺 同所にあり。圓融山願樂院一向宗京都興正寺末寺。本尊 阿彌陀佛

當寺開基赤松則祐の遠孫田中可貞

○神宮寺 同村にあり。八幡山寶藏寺と號く眞言宗明王院末寺本尊毘沙門空海の作(今廢す)

○高福寺 道福寺村にあり。瑞連山と號す。一向宗本願寺末寺本尊 阿彌陀佛

當寺は往古眞言宗道福寺の基趾なり初多度津山の麓に有り天正年中兵火にかゝり住僧本尊を荷負して逃走り葛原村に隠れ

述へしとありしかは空海和尚に事の故を語る大師是を聞いてみづから藥師の大像を彫刻ありて舊の小像を胎中にをさめられ延暦十三年正月十五日弘法大師堂宇修理の事を大に催促なせしかば爰において朝祐先祖の家産田園財寶をすて、方四町を限りて堂宇を造營し藥師堂彌勒堂寶塔二王門鐘樓等完備せり國中第一の壯觀なり桑多山道隆寺と名つく世人は桑園乙長寺或桑多寺とも云妙見の社をたて、鎮護とす同年朝祐結縁灌頂を空海和尚に請ふ明年灌頂の壇を道隆寺に築く冬十月十六日灌頂入壇あり四方より來る人還沓す(三日)此此時に僧坊十餘宇を造りける朝祐法橋位に任して院主を奏請す天長六年巳酉七月六日朝祐病患に罹り氏族を集ていふ空海の弟子の中知行兼備の人を請て住持せしむへしと遺言なして十九日寂す壽七十九歳同年癸丑七月に眞雅を道隆寺の院主に補せらる是より伽藍を紹隆し密法を弘揚す和尚自ら牛皮に不動明王五大明王を畫かきて眞雅に玉ふ(當寺今存)同月十一日當寺に至り乘金院(院主坊號)に居て坊舎十二宇を監造す(此時入江氏族並下司人等寄新田四拾六町供僧料とす)承和元年甲寅五月諸堂の定額僧を定め妙見祠六口藥師堂三口彌勒堂三口寶塔を兼ぬ此後眞雅は高野山にかへる仁壽二年辛未六月圓珍當寺に來り不動明王を彫刻して(今護摩堂本尊坐像是なり)彩畫不動明王像と坊舎一字を道隆寺の境内に造りて安置す是を明王院と云七月十五日法華堂並鐘樓門を造りて法華會を如め毎年恒例と

居て後この宗に改む(或は玄清なる者改宗)

○季瓊日録曰寛正二年三月十三日讚岐國道福寺詳東首坐越後國普濟寺令譽首坐公御判被遊也。

道隆寺舊記永正十五年十二月十日道福寺領内田八反を眞鍋庄修理亮家久道隆寺に寄附せしと見えたり。

○法泉寺 北鴨村に在り。琉璃山藥師院、眞言宗道隆寺末庵本尊 藥師如來(行基作)

○道隆寺 北鴨村にあり。眞言宗。京都大覺寺末寺往古七談議所の一なり。三月五日農具市桑多山明王院と號く四國八十八ヶ所の一七十七番札所是より鶴足津道場寺へ一里半。天平神護二年和氣道隆の草創。

金堂藥師如來(立像貳尺八寸)日光月光四天王(並弘法大師作)御詠歌(年かひをは佛道隆にいれはてゝぼたいのつきを見まくなしに)道隆祠堂、鐘樓、樓待所、明王院本堂、觀世音

(弘法大師作)護摩堂(不動明王智證大師作)持佛堂大日如來(同作)潛徳院殿御墓(金堂の傍にあり前多度津候目を病る者此御墓に祈て驗あり)

○鎮守社 妙見城山長者三妙見の一 本堂額琉璃殿程赤城筆温古録と云御記あり。

當寺是那珂郡原田戸主和氣道隆が草創ありし小堂なりしを其後裔朝祐と云者或夜の夢に空海和尚に遇々出家し受戒せむ祖先の刻むころの藥師の因縁(事は桑園の條下に見えたり)を

す其後貞觀六年四月三日當寺の供僧僧正に訴て云當寺と道善寺と交參して郡密教相紛濫し諸堂の法事制冊を犯し寺僧律儀邪路に向ふ依て道隆寺衆徒眞雅に訴へて智行兼備の院主を乞ふ僧正疑慮を避けて同年六月七日聖寶知尙院主に補せられて奏請して勅願寺となりて寶祚悠久を祈る九月坐像の不動を彫刻して寶祚祈願の本尊とす同七年乙酉七月十五日恒規法華會を開き聖寶講坐に登りて龍學の碩才皆服す(今年坊舎十六宇増造る)元慶八年甲辰十一月十六日結縁灌頂壇をひらき寺宗僧侶地方縉素徳に懷て往來絶えず。此時那珂多度三野各半郡及鹽飽島の寺院皆當寺の法流に従ふ然るに郡密の當寺動もすれば優劣を嗷訴して止す聖寶其羣塵を避て鹽飽島正覺院に移り住す仁和二年正月國守菅原道眞卿深く聖寶和尚を信して封戸を寄す那珂郡中府村寛平元年巳酉聖寶和尚眞觀寺の坐主に任して寵過隆盛にして郷に還るにいとまなし寶壽坊を住持とす乘金院に移り院主となる聖寶奏して那珂多度三野三郡の寺社總務職とす是より後郡密精衆遊息教導日々勤行怠る事なく法談絶さる事百七十餘年貞元元年丙子數月地大に震て寶塔大門頽破れける(寶塔の礎大門の基跡今傍近の田間に稱あり)康平三年庚子十二月廿日寺中大半回祿長寛二年三月 崇徳院黃金及水晶の念珠を當寺に給ひて御願を祈らしむ。建保四年癸酉大風暴雨堂舍廢壞して住侶離散して衰耗また二百年はかり(自天喜至建長)寶治二年戊申冬住持證祐(鴨地頭堀江某後胤

南の坊に住す。常に密法の廢を歎し堂塔の破壊を恨みしか此時に高野山正智院の道範といへる僧覺鑿の徒と確執にて當國へ謫せられ明王院に居て密教を講習し力を盡して堂塔を補修し興隆を旨として稍舊に害せしか建長元年五日赦に逢て高野山にかへる弘安元年戊寅四月廿八日多聞坊院主と成る(地頭堀江某か裔呼名中納言)永仁二年甲午十二月廿五日信慶大僧都(洞林坊移住)院主と成る數代を経て懇志を請して修造すれども其後争亂の世となり互に侵掠を事として佛を信する人稀にして民もまた常の産なく奈何ともすべからず天正の比に至りては誠に衰亂の極と申すべし信慶僧都より以來師資稟承法脉今に至る慶長八年二月廿四日生駒一正朝臣より寺中竹木免許狀を賜ふ是より先近規朝臣の御時奥白方村山林九町を給ふ寛文十二年今の本尊に隸す寶永二年金堂再興す享保十九年京極家より堂塔修理料を玉ふ。大師九百年御忌に依てなり往古は毎年三月上旬花會と稱して恒例大會式あり。日記今尙存す同三月五日大饗と云て鴨村南北諸民其事を經營するなり又閑田耕筆に當寺を中の關白道隆公の造立に造るは大なる誤也寶物引導地藏尊(靈驗著し)鼠突不動明王(智證大師作)牛皮不動明王(弘法大師作淨穢不二)康永延文康安永和應永永正文

慶長等文書數通今尙存せり其餘佛像佛畫數多ありといへども一々擧るに違あらず。末寺廿四ヶ寺其所へ出す。興憲は豊原村道隆寺の僧都にして修驗道に達し天曆元年二月勅命を奉し萬農池、地鎮の祈を爲せし人也

○八幡宮 堀江村にあり、社僧觀音院、同村新町氏神祭禮社領一町。

本社 幣殿、鳥居、樓社、牛頭天皇、荒神二坐、天滿宮、稻荷社。

當社は延久五年八月道隆寺祐善法印詔を奉して五ヶ所に勸請其一也康平五年奥州夷安倍貞任宗任征伐の時諸國に詔して神社を造營し放生會を初玉ふと云り其後貞治六年八月修理造營す。迂宮導師は道隆寺良廣法印是をつとむ慶長六年五月十四日修理造營す。元和二年修理造營其後度々修造あり。

○春日大明神 同所にあり、社僧同上。祭禮社領三畝本社、拜殿、鳥居

當社肇祀未詳貞治六年八月修理造營す迂宮導師は道隆寺良廣法印是をつとむ。天正十七年九月十七日修理迂宮あり其後度々修造あり。

今古讚岐國名勝圖繪

卷之十終

今古讚岐國名勝圖繪

卷之十一

三野郡

西北は海に瀕し南は豊田郡に接し東は多度郡河の二郡なり。三豊郡昭和二年末人口十二萬五千八百三十五戸數二萬五千七百九十九

郷名○大見(大見、竹田、松崎、以上三村此郷に屬す以下同し)高瀬(上高瀬、下高瀬、田井、乙田、新名、片上、打上原、井上)詫間(詫間、吉津、香田、家浦、仁保、曾保、大濱、箱浦、庄内、生里、積浦)比地(比地中村、大村、友信勝間(上勝間村、下勝間村、首山、加茂)高野(武田、上高野、下高野)神田(或作、長瀬、神田、佐文、黒崎、佐服、羽方、上麻村、下麻村、河田、首山、原内、東嶺、柏谷、二村、六石、田ノ口)財田(和名抄、上ノ村、中ノ村、西ノ村野田、長瀬、原作、熊岡、石野、荒戸、黒川大野路、長野)本山(六坪、本山、岡本、上大野、下大野、大野、寺家村)○土産、煎茶(土佐より多く仁尾村に出)醬油(仁保村)鯛(大濱村)鹽(詫間村)海雲(同所)熨斗子(仁尾浦)金剛砂(彌谷山西峰)

續日本後記曰承和二年七月乙卯賜讚岐國三野郡空閑地百餘町時子内親王

三代實錄曰貞觀七年五月讚岐三野郡置主政一員

大見村

東仲多度郡白方、吉原村南及西本郡下高瀬村に界し北瀬戸内海に望む古へ高瀬郷下六村の内であつたが明治二十三年二月獨立の一村となつた。面積〇、五六四方里昭和二年末人口三千三百八十一戸數六百八十九

社寺

○日枝神社(郷社)宮脇に在り大山咋命を祀る。

○正八幡神社(村社)深尾に在り祭神仲哀天皇外四神。

○津嶋大明神 同村海中鼠嶋にあり、社人藤田加賀祭禮六月廿四日、社僧寶珠院。

當社は寶永三年五月富山安兵衛と云者建立なり初元祿三年六月神女降りて此嶋にて歌舞あり村民是を怪しみて怖ける大見村の巫女に神託ありて我は津島の明神なり此嶋を鎮護して星霜を経たり祠を建て祭祀せは祥を降すへしもし我を信せば樹を植へしといふ。聞者怪ける其後牛馬の疫流行して隣村に弊

る事二百八疋なり此村は一疋も死せずとなり其後六月廿五日近郷の人牛を率て祠を拜するに必禍を免ると云。

●津島の宮大祭 子供の息災守りの神として靈顯あらたかに遠近に莫大な氏子を有する三豊郡大見村字久保谷の海上に鎮座せる津島の宮神社大祭を七月三十。三十一日。即ち舊六月廿四、五日の兩日に執行三十日には煙火の催し三十一日には押寄する群衆で頗る雑踏を極むるなるべく鐵道省では當日津島の宮假驛を開始し三十日には臨時列車數回を運轉して賽客の便をはかると。

○山王權現 大見村に在。社僧寶誠院社領山林五反、祭禮 社人藤田加賀。

○八幡宮 同所に在、社僧多聞寺。

當社肇祀未詳正和元年八月修理造營す遷宮大導師は多度郡道隆寺圓信法印是をつとむ。

○大見城跡 大見六郎景利居、大見六郎綾景利是に居れり南海治亂紀に曰景利は香西家資か子也元和三年父資忠死せり時に景利の兄五郎年幼により其臣泉坊藤井等相謀りて資忠の弟資邦を立んとす五郎の母詮間氏從はさりしかは其年九月間賊あり五郎を殺す詮間氏泉坊藤井等の所爲と思ひ怒りて自殺す。時に景利年僅に三歳其舅詮間氏に寄託せしに年長して後詮間氏此地を割て移り居らしむ。

○多聞寺 貴峯山寶城院と號す。眞言宗多度郡普通寺末寺。本

に三百餘騎を差添成島家より芥川善五郎、田源二郎、二百餘騎を差添都合三千五百餘騎夜を日に繼て馳行けるか土州勢後詰あらん事を知て押よするより唯平攻に息をも繼かず攻ければ吉繼無念に思ひけれ共兵糧の用意も少く矢種は盡ぬ敵は目に餘る多勢なれば終に三日の内に落城して吉繼も自害し城を焼拂ふて土佐勢引取よし中途にて告來りしかは來援の皆々用意相違して手を空く歸りけり。

或人云鳥坂は大見村にありて雨霧山の麓なり此頃かゝる人の來り領する處にあらず疑くは豊田郡養浦なる鳥越を傳へ誤りしにもやあらんと後の考を待つ。

○彌谷寺 舊八國寺と云、同所にあり、四國八十八ヶ所の一第七十一番札所劍五山千手院眞言宗善通寺末寺是より曼荼羅寺へ一里白方へ出れば山越道あり、山最も奇絶にして巖石數十町悉佛菩薩及諸の梵字を鑿うりゆゑに仙山仙谷の稱あり屏風浦よりのほれば三十六折にして絶頂にいたる。

尊(仙石家より寄附の由有)

○貴峯山城跡 同所に在 天霧城、香川氏の要城にある。

○鳥坂 俗にとつ坂といふ彌谷寺南麓伊豫往來の道筋なり。

○人面石 同所往來より南山林に入る事四五町谷間にある大石まことに人面耳目口鼻自然に備り奇といふべし。

○花立碑 同所と下高瀬村巷にあり當村の何某彌谷寺本尊を深く信じて日參をなさんと心に思ふといへとも道はしくして老足のこしかたきを以て此碑を建て日毎に花を此處に立て遙拜なせしとなり、安永年中に此碑を建てたりと云)

○頼政屋敷跡 源三位頼政の母、此處にいたりしとなり今も藪あり頼政化鳥を射たりし時此處の竹を以て箭となして射けるといひ傳へり。

○鳥坂城跡 村上河内守吉繼是に居たり。豫陽盛衰記曰永祿年中土州幡多郡一條右中將阿波守房基は先年禪正少弼河野道直と合戦に辛き命を遁れて收軍の鬱憤やみかたくして度々勢を出して此敵を攻惱し先村上河内守吉繼か讚岐國鳥坂城を不日に責屠り便よくは此夏中伊豫まで攻入るべしと其勢七千餘騎にて發向す。此由先に聞へければ吉繼羽檄を飛して晴通に加勢を請ふ。是を救はん爲に得居入道通知津田右衛門尉、寺野業濃守通廣正岡丹後守經貞家臣山崎藤右衛門尉經安等に三千餘騎を添らる村上家より。柳原宗二郎赤畝加賀守三河助太夫馬越右京介其外財滿末長木谷生口白井等

る所也)

當寺は天平寶字年中聖武天皇の勅願に依て行基菩薩の草創なり行基諸國修行して此麓を過けるとき峻嶺の上に奇き雲あり神仙の隱るゝ所諸佛利生の靈場なりと直に山に登り見渡せば半天の雲腰を繞り四望心晴て八國の境眼下にあり是則正法久住の神嶽なりと此地に就て彌陀釋迦の二像を造り東西の峯に梵字を構へて二佛を安置し蓮花山八國寺と號す聖武天皇勅を下して寶塔を建立なし玉ひ莊嚴田許多を恩賜して當地の郷と名附く三論法相を兼學し鎮護國家の梵刹として如説修行の精藍たり其後大同二年弘法大師未だ早年の時此山に來り樹下の石上に座して經行禮佛の苦行を盡して弘法利生の誓願を發し泉州檳尾寺に於て不二の秘要を得得して入唐留學の綸命に應し大同二年本朝に歸り後再び此山に登り手づから巖を穿て道場となし即求開持の秘法を修しけるに五柄の利劍空より降り全山金色の光をなして金剛藏王大神忿怒威猛の形を現し大師に談話して宣ふよう此山は三世の如來説法の地觀在薩埵度生の砌也願は千手大慈の尊像を造り伽藍を再興して最上乘の法室を開き普く無福の群生を救へ我また法味を嘗て鎮守護神たらんと大師則神詞を諾して自ら千手觀音の尊像並脇士の天仙等を造立し新に精舎を營て安置し神王顯現の形像を彫刻し中央の峯を照して搖扉を開き寶劍を安置して劍玉山と號し更に一院を建て大唐より請成し玉ふ處の秘密の靈寶を安置す大悲

の尊號に擬して千手院と號し行狀記に所謂劍山八國寺とは即此山なり大師再興在しより始て諭伽の道場となり秘密の傳燈斷る事なし開持峯には兩部の大日四方如來地藏尊の尊容を石面に彫刻して即護聞持の本佛とし玉ふ又寶珠二顆あり是虛空藏尊の三形にして大師持念の成就物也。又阿彌陀如來の尊像並慈母阿刀氏の肖像各軀を造して以て兩親に準へ大師ともてに連産し古よりは是を石峯の三親佛と稱す又一區の石室を設て不動明王等の尊像を安置し大師自瑜伽護摩の秘法を修して殊に鎮護國家の道場となし玉ふ。大曆年中に沙門西定此山に閑居して當山は觀音大士遊化の淨土なりとの告を蒙りて讚仰彌増進し三尊來迎の當面に於て門に不同の偈を彫刻し未來の衆生に結縁の深益を勸め玉ふなり其後道範阿闍梨此國に配流の時高祖の遺蹤を慕ふて累に修法し自形像を彫して是の峯に殘し修法の爐壇今に存せり又嶮崖崔嵬たる所に彌陀の三尊及ひ寶號五行を大師自ら彫付玉ふ。是則九品の淨刹に擬かゆゑに國俗此處を九品の淨土と號す左の石面に一の劍形あり。彼是の降劍のしなしあり銘辭ありしといへとも湮滅して明かならず又巖の穴より流出るは大師加持の靈水なり炎旱にもたゆる事なし側に東棟の梵文あり大師の書なり。開持峯の北の巖も二基の寶塔の形あり。是又兩部法身の三摩耶形瑜伽瑜祇の甚極を表ぜり凡て一山所有の怪岩奇石悉く皆五輪佛像にして高峯深谷所として在さずと云事なし權化の所爲にあらずんは

孰れか斯くの如く神工をなさんや爰に是諸佛都會の靈場なり佛谷佛山の號祿すへからず。又彌谷寺と號することは何れの世よりかいふ事を知らず蓋し八國の音訓彌谷に近きかゆゑに自然と是の如くなる歟寶治年中道範阿闍梨の撰はして行法肝要抄に彌谷の上人勸進に因て記し玉ふかゆゑに彌谷寺と號するとも己に久遠なり。其後經藏鐘樓中門、山門及境内、門徒の僧坊六宇有て日々に金輪の寶旅を祝し四海太平を禱る事行經ある事なし近くは當郡の守將香川氏隣嶽雨霧に在城するか故に殊に祈願を託して數項の田を喜捨し繁榮往古に恥すと雖時移り世更り兵革屢起りて國土穩ならず天正年中雨霧の城兵火のとき余炎寺に及ひて堂宇灰燼して狐兔の栖となりしを生駒雅樂頭近規公此國の守となり。舊跡巡覽ありて本尊の灰燼中に残りしを不思議に思召て假堂御建立ありて僧坊一宇を構へ伽藍再興の事を阿野郡白峯寺の別名法印を兼帶仰ありて再興の企あり寛永十八年山崎甲斐守家治公丸龜の城主となり當寺の舊跡なるに寺領もく無縁地なることを開玉ひ彼の山の麓にて場所を見立開發して修覆すへしと郡奉行谷田矢助と云者へ仰あり畑六反三畝開發有て當寺に賜ふ。寛文五年今の本寺に屬せしなり其のち京極高豊公より田畠一町五反開發の地を玉ふ。享保五年三月二十六日又火災に罹り其後再興せり塔頭十二坊ありしかと今みな廢せり。

● 詫間村

東吉津南仁尾、西莊内村に界し北瀬戸内海に臨む明治二十三年詫間香田浦松崎の三村を併せ村制を施行せしもの面積〇、八五八方里昭和二年末人口八千三百九十七戸數一千七百六十八詫間灣は詫間村一帶海灣の總稱で其前面に粟島、志々島、龜笠島、岩島など羅列し水深六十尺天然の良港で往古太閤征韓の際大船の寄港せしことあり近く日露戰役以降軍馬の輸送港として巨舶の碇繋されしこと數々ありと云。

● 社寺
● 小島神社(村社)松崎に在り天照皇太神外二神を祀る。

● 寶善坊 香田浦に在り眞言宗圓明院末寺。

● 龍光寺 眞言宗威徳院末七寶山善性院と號す。

● 史蹟 尊澄親王舊趾 王屋敷と云街道より二丁餘距てたる處にあり明和九年二月石を建て標とした。尊澄親王は後宗色親王と稱し後醍醐天皇第八の皇子で正慶元年三月讃岐に謫せられ給ひ此所に三年の間留まらされたが、建武元年六月當國の兵を率ひて京師に歸り給ふたのである。

● 詫間浦 諸國より商船多く來り。繁榮の地なり往古は山の邊まで鹽入の地にして人家稀なり元弘年中妙法院二品親王此地に流され玉ふの時迄漁夫の住家斗なりしか、寛文年中山城甚右衛門領主の命を請て新田を築き(一名古濱)延寶年其亦其子

院殿の御寄附其餘御紋附の幕地打敷有)生駒一正公御證文二通(慶長五年に別名法印に玉ふ)添翰(三野四郎左衛門判有)京極家御證文。

○香川家代々墓 同所にあり。天霧城主也。直輪數基めり。

○生駒家墓 玉龍院殿安岫宗泰大居士慶長十五年庚戌三月十八日逝去生駒一生公。

○山崎家墓 (三ヶ所にあり) 寛昭院殿岳譽妙榮大姉(寛永十四年丁丑六月廿四日没志摩守祖母) 興源院殿靈泉瑞覺大居士(慶安四年辛卯四月廿六日没山崎志摩守俊家) 春岳宗雪居士(慶安四年辛卯十月廿六日殉死。大宮四郎左衛門)

● 大見尋常高等小學校

讚岐三野郡劍五山彌谷寺行基菩薩之開闢、而吏弘法大師之住跡也、萬治二年夏六月十有六日、入此谷於求聞持修行、岩屋前住僧良音對話數刻、然後一拙偈信筆書信筆書

紫岩默納天祐叟

劍五山名彌谷寺、怪岩奇石佛身多、基公先也海公後千歳、過來八百遍。

藤荷簡東讚之人號漆谷

惟品絶壁聳遙空、寺在穠藍蘸紫中、靈跡依然千載遼、法燈不滅禮高風。

○河上大明神 久保谷村にあり、社僧寶城院、祭禮、社人藤田加賀。

吉左衛門なる者領主より御世話あり出来せり新濱は元祿十六年に成功せしか寶永四年の大地震のとき堤崩れて海となりしを其裔孫重郎なる者。豪族松田吉右衛門と云者上に申其意遂けず其子英右衛門なる者天保六年より十一年にして稍落成し元祿のころよりも厚くなり南北長くして竈屋二十二軒あり。此村繁昌せり松田氏の家譜吉右衛門元重は依藤太秀郷の後裔にて秀郷九代の孫裔佐伯兵庫之介常教五世の孫備前國金川の城主にて松田權督或は左近將監元成と云。天正年中浮田直家と合戦なし遂に和睦をなし城を出て同國小串村の城に退き漸く八百石斗の地を領せり此時松田を改めて山城といふ其後豊太開朝鮮征伐の時浮田の後見となりて彼地に趣き大に戦功あり今岡山連成寺は浮田家より松田家菩提の爲に寺を建立せしと慶長五年九月關ヶ原の役に生駒一正に従ひ同家の臣三野四郎左衛門と共に石田三成の士大將島左近の猛勢を打破り大に勝利を得たり其後生駒家に従ひ當國に來り香川郡香西村堀の内といへる所へ移居す今竈明神の社地是なり、慶長年中舍弟山城守傳内今の鶴市横松田清助の家也を彼所に殘して此地に來り世々爰に移居すと云也。

○太神宮 同家の裏あり。祭禮九月

當社は松田氏か世々鎮守の神也

○鹽竈明神社 詫間村濱邊にあり。社人加藤氏祭禮九月十八日

○波打八幡神社(郷社)宮下にあり。社僧寶城院、神宮寺、祭神

いとそめてうき人ゆりのながら道同し宿りと聞そうれしさ
とあるを見て又みるへき事はしらねそと云そへ侍りしすま
てもおなし宿りの道ならば我いきたしと思はましやは太平記
曰(上略)同日妙法院二品親王をも長井左近太夫將監高廣を御
警固にて讃岐國へと流し奉る昨日は主上御遷行のよしを承り
今日は一の宮流されさせ玉ぬと聞召御心傷しめ玉ひけりうき
名も更らす同じ道にしも別れて赴き玉ふ御心のうちに悲し
けれ初のほとこそ別れくにて御下りありけるか十一日の暮
ほとは一の宮も妙法院も諸共に兵庫に着せ玉ひたりければ一
の宮は是より御舟にめして土佐の畑へ御下りあるへき由聞へ
ければ御文を參らせたまひけるに
今迄はおなし宿りを尋きてあとなき波と聞そ悲き
一の宮御返事

あすよりは跡なき波に迷ふとも通ふ心ぞしるべともなれ
又天正本太平記に妙法院も兵庫に着せ玉ひければ御悅有て互
に御音信ありけるに一の宮かくそ遊しける。いとせめてうき
人ゆりの道なからおなし泊と聞そうれしき。妙法院の宮御返
事こまくと遊して其おくにあすよりは跡なき波に云々上略妙
法院は是より引別て備前國までは陸路を経て兒島のふき上よ
り船に召て讃岐の詫間に着せ玉ふ是も海邊近き所なれば毒霧
御身を侵して瘴海の氣すさましく漁歌牧笛の夕部のこゑ嶺雲
海月の秋のいろ總て耳に觸れ目に遮る事意を催し御涙を添る

譽田天皇、仲哀天皇、神功皇后、應神天皇、祭禮八月十五日
社人加藤氏

當社は延久五年詫間某勸請なり勸請導師は多度郡道隆寺祈善
法印なり至徳元年修理造營す迂宮導師は道隆寺良秀法印たり
別當も古は令旨ありしや別當を詫間の檢校といふ或は社僧を
檢校といふ事むかし妙法院二品法親王流され玉ひしとき此浦
邊に御徒然を慰め奉るへき人もなく此社僧のみめされけるよ
し其時檢校寺と召れけるによりて今に其寺の名となりたるよ
しいひ傳へしなり。

○神宮寺 同所にあり福龜山寶壽院寶城院と號す。本尊大日如
來。田中弘教作。眞言宗嵯峨大學寺末寺。

○詫間牧 今廢せり今同所栗しまなる八幡宮を馬木といへると
ぞ往古の地是ならんか。

文徳實錄曰貞觀七年十二月九日停讚岐國託磨牧

○王屋敷 同所西田乃中に有尊證法親王謫居の跡なり。碑を建
て方二間斗の地を殘し廻りに堀をなして圍となせり。又傍に
流れても朽ちぬ昔や月の船。新葉集曰元弘二年三月遠き方に
趣ん程もたゞけふあすはかりに成りはへりしに雨さへ降くら
していと心細きこともたくひなく覺えはへりしかは。

うき程はさのみ涙のあらはにてわか袖ぬらせよその村雨打出
といふ所に留り侍りしに尊長親王よべ此處にしも留りけるよ
し聞に何となく傍なる壁を見れば供なりける爲明聊か筆にて

媒とならずといふ事なし。

○古城跡 同所にあり、往來の傍小山也、山の裾に外堀の跡池
となれり。詫間三郎と云者或彈正此地を領せしか建武の後細
川顯氏か老に香川美作守と云者詫間氏を撃亡して其地を奪ひ
雨霧の城に居ると云或云宅間兵庫頭代々是に居たり。其裔彈
正某の代に至り延文年に没落すと云又香西家資か二子景利と
いふ者詫間の家を奪ひ大見村に住て大見六郎景利といふなり
とも何れか是なるや。

○山地城跡 同所にあり。山地右京之進是に居たり。此城廢せ
しを生駒近規公修造を加ふと云遺跡今尙存す。山地右京之進
は三野多度豊田三郡の旗頭なりしか後香川山城守三郡の旗頭
となりしかは山地九郎右衛門と云者の代に至り三木郡池戸城
主となり。彼の地に移ると云。

○三野壘跡 同所にあり。三野某是に居たり。生駒家の老臣三
野四郎左衛門の祖先なりと也。

○善性寺 同所に有、眞言宗威徳院末寺、本尊不動明王、十王堂
○寶林寺 同所にあり。七寶山と號す。眞言宗同末寺。

本尊 如意輪觀音。

○天満宮 同所天神山にあり。祭禮

○御渡石 同所三山と云農夫貞平の裏にあり。土人おはた石と
云妙法院二品法親王遊ひ玉ふの舊跡なりとて七五三を張て恭
敬せり小兒の物覺のあしき者祈りてしるしあり近き頃備中國

陶山か一族愛子四書の素讀をなし難きを其母此事を聞て深く祈りしに其後小兒の夢に白衣の老人來り素讀を教へ玉ふとみて夢さめたり夫より殊の外能覺たりとて此事を父母にかたりしかは大きに驚き急き爰に來り家内殘らず賽をなすといへり又女の長血に苦しむもの祈てしるし有といふ。

○龍王社 須田と大濱との境に在り、此邊濱邊長くして絶景也祭禮。

●詫間尋常高等小學校

○圓明寺 松崎村にあり。長壽院と號す。眞言宗善通寺末寺。本尊(阿彌陀行基作)昔中谷に在りしと云。

○五社大幡宮 祭禮八月十五日 藤島、諏訪、三島、天満、唐島 陸を去十丁人家少し。

●攝政宮 大正十一年十一月十六日午前十時詫間村須田へ御上陸直に辨天山御野立場に向はせらる。

●辨天山御野立場 攝政宮殿下には大正十一年十一月十六日三豊郡詫間村辨天山御野立場にて大演習御統監あらせらる。

●松崎 今詫間驛のある處にして松崎鹽田及松崎沖鹽田の兩會社が設置され昔に比較すると殷盛を極めてゐる。

●大櫨 香田荒神宮内に左の大櫨あり。地上五尺の處周圍一丈高さ十間外に周圍七尺のものあり。

●高瀬川 源を麻村大字上麻に發し。詫間村大字松崎に至り海に入る長さ五里。

●松崎尋常小學校

仁尾町

北詫間、莊内、東吉津、比地二、南桑山、高室村に接し西瀬戸内海を隅て、遠く伊豫の今治に對して居る明治二十三年二月仁尾、家浦の二村を併せ村制を施行せしもの面積一方里〇二八昭和二年末人口七千五百九十九戸數一千六百十四

●社寺

●加茂神社(郷社)別雷神外九神を祀る。

●八幡神社(村社)息長帶姫命外六神を祀る。

●日技神社(村社)大山咋命外七神を祀る。

●仁保浦 或は仁尾に作る富商多くして人家千余の一都會なり西は海なり伊豫の山に見え絶景なることばいはん方なし前に平石あり土佐の國より茶多く爰に出る此處より諸國へ送れり故に仁保茶といひ傳今を去る事七百年前大浪來りて人家を海中へ引込天神山をもゆり込み今天神の崎と云海中に至り晴天に底を望めるに十間ばかり下に山の形あり〴〵みえけるとなり今の磯菜天神山は其後古の山に準へ天満宮を勸請せしなりと又天神の崎より半尋斗沖に梶の崎といふ所あり是も底に物あり且説あり按に右は知らず是大岩なるへし此邊より觀音寺濱邊まで石最も多し是を以て考へし鹽濱は天保五年に開發し同九年に成る東西貳百間南北百六十間なり。

○平石 同所海中にあり。長六間横六間廣三丈二尺余沖の石と

もいふ或は舞石ともいふ石の面平らなり生駒登岐守正俊公の石の上を舞臺となし踊を催し玉ふゆゑに其名あり。

○平石 其大さ東西九間、南北七間、面積六十餘坪、其の上平かにして裕に二百の人を立たしむる事が出來て南側は低くして船を捨て、上るに適す。附近に大狙石、小狙石、狗石、瓶石、墓石、二見石、家石、帽子岩等の名も世に出て平石の名と共に人に知られんとして居る。

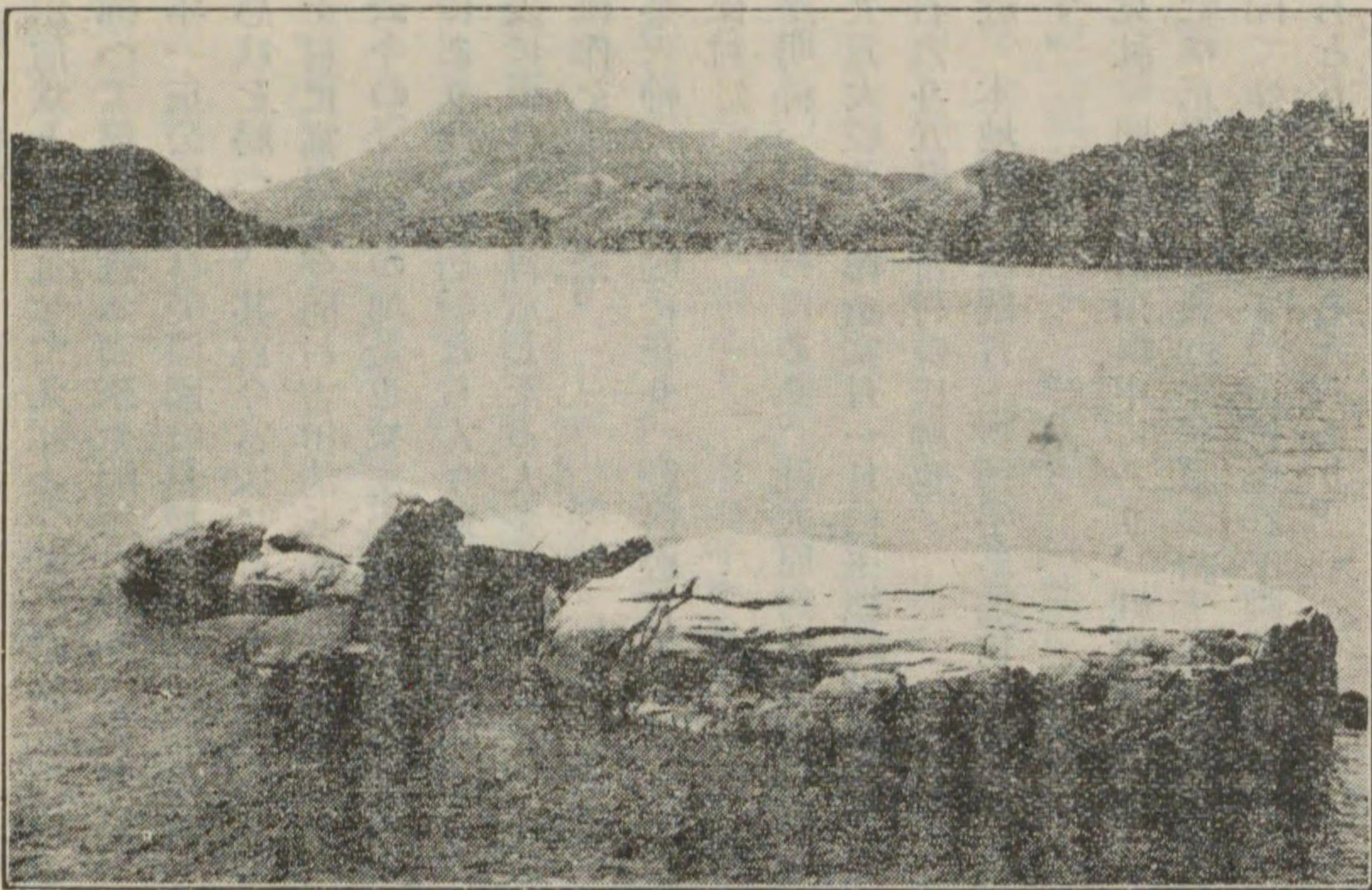
○立石、臺所石、狼石 並同所海中にあり。其余石の名多し。

○津田嶋 同所にあり、一名蔦嶋、風景殊によるし。

○宮の浦 同所前嶋なり、加茂明神願向の地にて小社あり、其海中魚の群なす處なれば漁船も多く此所に集る然に毎年七月十五日より八月一日迄漁をとめ置八月一日網を下して多く魚を取頭申を定む是舊例なり。

○天神山 同所北にあり。

○天神城跡 同所にあり。吉田佐兵衛兼近是に居たり、兼近は當地の勇士にて香川信景の幕下たりしか天正年土兵長曾我部元親當國に亂入の時屢戰功あり且兼近か弟川田隱岐守兼一は天正七年八月多度郡坂出に於て土佐の先陣津野藏人執行加賀の隨兵平岡某を討取高名あり。且兼近か嫡男吉田彈正宗久は土佐の兵信景か本城藤目城を攻むる時光富と云者と戰ふて首一級を得たり。其後中内三右衛門の父を討取土坂合戰の時土兵の先手と戰ひ兩腹を鐵砲にて打貫れ當城へ籠り居れり其時



石平の尾仁

弟助左衛門兼清兄を助て戦功あり。山田郡十川城主三好存保香川信景と兵を合せて元親と合戦の時宗久土佐より来る間者を捕へて信景に送る爾來生駒家に仕へて祿七百石を賜ふ慶長五年一正公に従ひ美濃國岐阜城に向ひ武功を顯し東照神君より感狀を賜へり。其寫今當家に存せり生駒家退轉の後那珂郡七ヶ村に寓居す今同村吉田清兵衛は其後裔なり。

或云今の覺城院の地是也城主不詳往古草木庄司といへる者此地にあり此人の居城ならん今此山を開き田甫となしたれと日中爰に至れば甲冑着したる人多く見ゆるといふ故に人恐れて其耕作を嫌ふと云。

○磯菜天神 天神嶋に在り。社僧神宮寺。額 (大通寺南谷筆) 仁保村

○加茂明神 仁保村にあり。社人原對嶋社僧神宮寺神子壹人正五九月大般若經轉讀當月一日仁王經轉讀祭禮九月十五日社領壹石六斗五升、當村の氏神也
本社 本地堂、聖觀音 寶徳年萬嶋にあるを觀應元年茲に遷座す。

○妙見社 同所北山頂巖中にあり、社僧吉祥院。

當社は正保二年再興近年多數參詣す此山道險峻なりしかば道を開て參詣の便とす絶頂に至れば眺望殊によし此流に爪石茄子石と五六丈斗なる大石あり。

○山伏塚 同所南にあり、土人七人塚といふ。往古三宅久兵衛

高逋刑部 藤原國近 草木莊 日證御坊へ

○吉祥院 同所にあり。七寶寺十波羅寺院、室號摩尼光院、眞言宗京都大覺寺末寺。

本尊虚空藏菩薩 本尊は奇体の虚像にて是を祈れば福徳智慧をあたへ有懐化益し玉ふ虚像なり星霜を経て尊像砂壤に及を正徳四年佛師定朝をして修補す。脇士(毘沙門天吉祥天女)護摩堂(高祖大師、不動明王、藥師如來、地藏尊)仁王門(仁王運慶作)○鎮守社(青瀧大權現粟島大明神子日大權現)

當寺は行基菩薩草創なり。康永年中日證上人の再興其後慶長年中乗遍上人修造を加ふ其後寛政年中又修造す。

○普門院 同所にあり、七寶山慈眼寺。眞言宗吉祥院末寺。本尊觀世音。(古佛)鎮守社。三寶荒神

當院は元龜年中當村の人辻藤十郎當明といふ者建立なり。初新御堂といふ後今の寺號に改む其地を新御堂前辻氏の子孫菊屋庄兵衛の宅是なり。

七寶山 ○道明寺 同所にあり、眞言宗吉祥院末寺。

本尊藥師如來 脇士(日光月光十二神將)御影堂(祖師大師像)

○不動護國寺 大寧山覺城院と號し眞言宗仁和寺末弘仁十年空海の開基である本寺寶物中木像聖觀音像は國寶に編入されて

義夜と云ふ浪士居りしが或時山伏七人來て宿を乞ふ故有て七人山伏久兵衛か爲に落命す。其故を知らず其後塚を築けりと云其地七畝余あり。往古より久兵衛免とて地坪あり。猶久兵衛の子孫今存せり。

○履脱八幡宮 同所にあり。社僧吉祥院社領十石。祭禮八月十五日。土人履脱宮と云當村氏神也。

當社は仁治四年三月四日地頭藤原政證勸請なり康永二年四月其裔高逋刑部藤原國近修造を加ふ其後康安、明德、永享、寶徳年度に修理造營あり。文書數多存せり慶長年中乗遍上人再興棟札今尙存す氏神此地に垂跡し玉ふのとき御履を下し玉ふによりてしかいへり依て毎年祭禮の日神輿脊形の餅を備て後別當及神人頭人へも分配せり是例なり。因に曰脊形の餅は古例なり土人其所謂を知らずかく附會せしなるべし。

寶物、古文書 表通享徳二年高逋某書明徳年中刑部國近書三通あり其餘略す。 文書寫

爲後證書遺事

鎮守八幡宮社宇先祖政證奉勸請所及び御懷今茲我等が修覆爲武運長久子孫繁昌正五九仁王般若經無怠慢御勵行希者也依て供米料令寄進事 康永二庚年四月

ある。

○羽大明神 同所に在社僧吉祥院。荒神十社(同院支配)

○瑜伽權現 同所にあり。

○大水上大明神 同所にあり。土人俗に瘡神といふ疾瘡の人祈てしるし有。

○牛頭天皇 南草木に有社僧吉祥院。

當社勸請年月未詳万治二年再興迂宮導師は同院有仙法印たり

仁保村落 金光寺

細川頼弘墓

○神宮寺 多聞寺、瑞徳院蓮乘寺、廣岩院。

○覺城院 同所にあり、大寧山不動護國寺寺領一石山林一反七畝三野郡五ヶ院の一なり。眞言宗京都仁和寺末寺往古の仁保城跡なり。

本尊千年觀音(慈覺大師作)地藏堂 護摩堂、歡喜天堂、寶藏

鎮守社(金毘羅、天滿宮、祇園青龍權現、秋葉宮)

當院は舊西山下市中傍にあり。享保十六年今の地へ移す末寺五ヶ寺次へ出す往古は廿三ヶ寺あり今わつかに存せり

●妙觀寺跡 同所にあり、惠日山と號す。禪宗常徳寺の支配。本尊聖觀音佛作なり何の年廢せしや不詳今地名に残れり。

●蓮花寺跡 同所にあり。鎮海山と號た。今竹庵存せり、本尊藥師如來 (行基大士作)日光月光(並同作)

當寺は聖賢和尚の草創なり。曆應三年地頭藤原某の免許狀及應永文治の文書數多存せり廢せて年月未詳。

●寶幢坊跡 同所にあり。眞言宗堂光寺末寺。

當坊退轉年月未詳本尊地藏尊は行基菩薩の御作なり。文珠菩薩今金光寺に安置せり。

●北の坊跡 同所にあり。眞言宗金光寺末寺。

當坊退轉年月未詳往昔の本尊千手觀音及三十四躰の觀音毘沙門天地藏尊各佛作也就中觀音卅四躰は佛師増運の作にて先年大火の時此尊像白鳥に乘し火をふせき玉ふといふ。此時同坊及觀音堂焼残りし靈驗あらたにして、毎度火災のなんをすくひ玉ふ事は世の人のしる所なりと云。

○三寶荒神社 大北にあり。昭和四年九月廿六日改築落成。

●神馬塚 相傳八幡宮神馬時々出て野を荒す浦人之を殺せり。其人俄に心亂狂人と成れり依て其骨をこゝに祀ると云。

○箱崎八幡宮 仲哀帝譽田帝。

●蛭子社 相傳五郎右衛門なる者正月三日未明に成子岩の上に現はれ玉ふ事を其弟源八其を知りてこゝに齋せ奉る云。

●惣社大明神 大已貴命、香藏寺、九月八日。

大寶山

○香藏寺 地藏院、眞言三昧院末。地藏行基 不動大日 肇祀未詳、中興有性。

●稻荷社 古門前といふ地にあり。

實延年中住僧信心をこらし社殿を造營し崇信しけるによりて祟りなしと云社前に大樹あり土人權現御持の松と云傳へり。

○瑞雲院 同所にあり。寂光山蓮乘寺。眞言宗覺城院末寺。本尊釋迦如來(阿彌陀如來、地藏尊弘法大師作)鎮守社稻荷大明神。

○中上館跡 同所小山にあり往古草木莊司藤原政澄と云者居る所數代地頭たり依て仁尾村古名を草木の莊といへり天正の頃天神ヶ城と共に落城す。遺跡今尙存す大きな石塔數基所にあり其子孫今尙存すと云。

○神宮寺 同所にあり。七寶山眞言宗同寺末寺。本尊阿彌陀三尊

○地藏堂 並同所にあり、吉祥院支配。

○多聞寺 同所にあり、補讀路山と號す、眞言宗同寺末寺。

本尊毘沙門天(行基大士作)

○常徳寺 同所にあり、寺領田四町大安山と號す。禪宗京都妙心寺末寺。

本尊 觀世音 秘佛千手觀音右將軍家御三代尊氏を安置す。四天王左領主代々の尊將を安置す。禪室、持佛堂、鎮守社、妙見大土吉祥天八大龍王多聞天、稻荷宮。クハン子ラ門平墓境内にあり。門平は長崎の人にて其時同所に小袖組といへる俠客ありて其組の頭分也又當寺の中興碧門和尚も同國の人にても同組の頭分なりしか元祿のはしめ和尚俗体のとき口論をなし人を殺し夫より發心して同國禪林寺にて剃髮なし遍く

●山王社 會保浦の氏神なり。金光院支配其余庵室三ヶ所地藏堂、觀音堂、大師堂、當浦にあり同院支配

●金光寺 仁尾原山にあり。眞言宗覺城院末寺。

本尊 聖觀音、護摩堂。鎮守社(清瀧權現)細川家古墳(五輪の石塔、境内にあり裏に永祿十年卯十月三日とあり。細川土佐守源弘公墓と記せり。

當寺は行基菩薩の草創なり。中古比地中村、大村、仁尾四村を寺領に玉ふと云、細川家代々の菩提寺なりとて過去帳に大心院殿、細川政元公、同裔高國公同頼弘公とあり。天正年中土佐兵亂入の時坊舎寶物舊記等焼失す其後再興せり。

寶物○陣貝古細川家の寄附なり毎年正月十六日此貝を吹事例なり當村の漁者常に網を引に貝を吹て相圖とす然に毎年正月此貝を吹かざる内漁者の貝吹く事ならず。古館 同家の寄附今所在を失す。

●廣嚴院 同所にあり眞言宗瑠璃山同寺末寺。

本尊藥師如來。十二神將、弘法大師作毎月十二日人多く參詣す 脇士 持國天運慶作、持佛地藏尊、立像行基菩薩作靈驗新にして土人香古地藏といふ。聖觀音 弘法大師作毎月十八日蟲干開帳あり奇体の靈像也、大聖觀喜天 毎月十六日人多く參詣す。當院はむかし藏玉權現の御社あり。吉野藏玉權現の御瀧をうつして三瀧坊といふ。其後社地を合して今の境内となすと已來權現の御出家によりて寺僧代々難病短命なり。

諸國を修行なし遂に此地に來り。當寺の住持となり行濟せしを彼門平開及ひ尋ね來り食客となり後に剃髮し染衣の身となり深く佛道の修行者となりしといふ。

門平の墓の傍に大樹あり。今其墓を當寺の墓所に移して大樹のみ舊跡に存せり。

當寺開基未詳應永年中の棟札今尙存せり。明德二年今の寺號に改めり。境内免許の文書明德應永永享年號數通今尙存せり寶物○唐畫涅槃像(顏輝筆といひ傳ふ)

七寶山

極樂寺 仁尾上家の浦にあり。寺領五畝淨土宗播州綱干大覺寺末寺。本尊阿彌陀

○圓妙院 同所にあり。眞言宗京都仁和寺末寺。本尊。

此地は人跡絶たる山寺なり稍もすればかゝる山寺には身に法衣を着なから慈悲を知らざる其慙の僧徒多くして旅客等山中に迷ひ迷惑せし者有と雖も知らず顔なし救はざる僧ありといふ現世人の難義をすら救はざる輩何そ未來の助をなすへき此地を領する國君はかゝる邊土の山寺を守らしむるには心ある僧を撰玉ふべき事也。

人物 三等和上 諱は三等字は哲眞房、南月堂と號し父は高島氏母は飯田氏三木大郡町村に生れ幼にして高松無量壽院に薙染し壯年の比高野山に遊ひ秘密の大法悉曇等を東都靈雲寺の淨嚴和上又實詮大徳に稟受業成り歸國實永四年十二月三十

七歳にして覺城院に移り本寺の荒廢を回復今の地に移し中興した師は漢學詩文を能くし著書數部あり延亨三年六月六十九歳で寂した。

辻子禮 諱言恭、仁保浦の人其父を源助と云ふた安永三年京師に至り柴野栗山の門に入り經史を學び旁ら福井大車に醫を學び刻苦勵學した後疾を獲安永四年九月二十四歳で歿した。

栗山の編した雜字類編の如き子禮の校したものである。

右の外本村の人物に眞鍋彌太夫(里正にして事業家)僧包山、

遠紫嶂畫家、鴨田遊石畫家、山地花曉(畫家)などがある。

○仁尾町の模造眞珠は技工最も巧妙にして其製品は歐米各國就

中ワシントン、ロンドン方面へは殊に多量に輸出さる。

○會保は西讃蜜柑の名産地で年産額十萬圓を輸出す海拔四百五十

米の七寶山巒の頂まで開拓して盛に柑橘を栽培してゐる。

●仁尾尋常高等小學校

●下高瀬村

東及南上高瀬、西吉津、北大見村に界す舊高瀬郷下六村の一であつながら明治二十三年二月獨立の一村となつた。面積〇、

二四一方里昭和二年末人口二千二百二十一戸數四百三十七

○下高瀬村 當地は廣々たる平原にて眼界の及ぶ所一松樹もなし

往古は沙入の地にて鹽はまなともありしや。今皆田甫となりて砂糖等數多植えたり今北の堤の元に大成水門二ヶ所残り

讚岐介として住み玉ふ舊地あり庶民其墳を犯す事なく森たり(則泰忠所持の内也)此林中に竹庵を結び止住す後醍醐帝の御宇正中二年に寺院を造營し高永山本門寺と稱す今の法華寺是なり己來細川右京大夫勝元公寺法の式目を下さる慶安年中本門寺を改て法華寺と稱す西國三十一ヶ國法華頭領たる定公を給ふ。

開基日照上人は日蓮聖人の直弟白蓮阿闍梨日興上人の直弟讚

岐阿闍梨百貫坊と云(百貫坊といふは祖師より玉ふ靈名なり)

當村は皆法花宗にて秋山の子孫世々住持たり毎年十月十三日

法花市として四方より雲集して雜劇あり(戲場小屋竹領主より

近村十ヶ村に命して年々玉ふ是例也)寺中八ヶ寺次に出す。

寶物○管御影(或云鏡御影)曼茶羅(日蓮上人眞筆秋山光季甲

斐國より持來る處也)祖師消息(富木三郎右衛門尉宛)曼茶羅

(祖師及再興眞筆百貫坊同仙に授與すとあり) 御書御影二幅

(祖師及日興上人御影祖師の仰に依て大藏卿是を畫くゆゑに

口書の御影といふ) 管御影寫(承應三年狩野常信十九歳の筆

表具繪絹大猷院殿より玉ふ) 曼茶羅(日興上人筆) 曼茶羅及消

息(日仙上人筆)其餘古華等數多ありと雖是に略す。

三面大黒天繪贊(祖師眞筆)

三寶三面の大黒天神は傳教大師比叡の峯にて勸請あり然に

戒定惠の三學を兼備へ受持法華名者福不可童所謂貧者富潤

短命は壽長愚者智與へ惡魔に不襲也

三野郡

六八〇

鹽入の舊跡尙存せり高瀬は川に依て負る名なるへし。

○八幡宮 下高瀬村に在上高瀬村の氏神也 祭禮八月十五日

社人林八右衛門吉田氏支配。

傳いふ正中二年法花寺を今の地へ移しける時今の三位卿の墓

地傍より神躰を掘出せり色々奇瑞ありといへとも當村の人日

蓮宗多くして是を信せず依て神石を高瀬川へなけ入誓て曰神

なれば上へ流るへしとて諸人おそれをなし社殿を建て齋きま

つる今の神体是なり。

○八幡神社(村社)八幡に在り八幡大神を祀る。

○法華寺 同所にあり高永山久遠院寺領八石四斗京極家より高

坊と云十月十三日市の境内方一町。

本尊 十界勸請曼茶羅 本堂 古本堂 祖師堂 寶藏 鎮守

神社 當社は秋山土佐守泰忠を勸請する所の國中六ヶ所の第一なり。

當寺は正應二年甲斐國人秋山左衛尉光季(法名阿願)二男孫二

郎泰忠(後土佐守といふ)と共に所領に附て此國に來り那珂郡

田村に法花堂を建立して同仙上人を住せしめ本門寺といふ。

南無妙法蓮華經

弘安二年卯九月四日

○三位實蔭卿墓 同所境内にあり。

寺記に云壽永年中轉法輪三條實蔭卿當國の守として此國に來

り遂に當國に於て薨し玉ひしや往古より御墓あり土人三位大

明神といふ或は居館の地なりといふ當寺を爰にうつしときは

樹木繁茂して森々たる椈原にて色々奇瑞あり牛馬牧童も近寄

ることなし正中二年寺を今の地に移せしより祭禮忌らさりけ

る近き比痛所ある者此の御墓に祈りてしるしありといふ寺記

にかく記せとも轉法輪殿實蔭卿と申奉る御方なし壽永元年二

月五日轉法輪三條實房卿正二位權大納言たりしを正に轉し玉

ふ事諸家傳に見えたり且實房卿御父公教公東殿上人たりし時

元永二年正月貳拾四日讚岐權介を兼玉ふ事有壽永は元永の誤

實蔭卿は公教公の誤ならん併此時公教公は從五位上待從にて

十七歳になり玉ひ保安二年六月廿六日十九歳に成玉ふのとき

藏人に補せられ玉とみれば當國に來り玉ふ事疑し蓋寺記の書

誤なるへし又云正親町三條殿御家に實蔭卿あり此卿參議從三

位にて仁治三年五月五日四十三才にて薨し玉ふとあり。初殿

上人たりしとき遠江權介又相摸介を兼玉ひ後參議從三位右中

將にて備中權介を兼玉ふとあり讚岐介及守に任し玉ふ事なし

土人三位大明神と稱奉り且寺記を三位實蔭卿の墓なりと記し

たれば此卿の御事に似たれとも年號及補號も相違せり尙後人

の考をまつ 西の坊大福坊 法善坊奥坊泉要坊並同所塔頭西門前にあり。

法華寺 高永山久遠院と號し法華宗富士本門寺末沙門日仙應二年の開山で屬院中の坊、奥の坊、西の坊、法善坊泉要坊は村内に上の坊、西山坊、寶光坊は上高瀬村にある。

○新良大明神 同所にあり。社人吉田氏祭禮九月十五日

當社は弘安年中秋山左兵衛尉光季當國に來るの年勸請なり。秋山泰忠は甲斐國人にて祖父秋山太郎公朝は同因眞嶋に住して世の弓取也新良三郎六世の孫秋山佐兵衛尉光季の時弘安年中所領に附て當國に來り高瀬郷及多度郡宗繩(今云葛原)那珂郡柞原香川郡山田郡寒川郡等に住せり光季は入道して阿願といふ阿願の男孫二郎泰忠正應二年寺を今の地に移して法花寺といふ泰忠十一世の孫、秋山卒之進一忠の時天正十三年仙石權兵衛尉當國を領し入部の後國中諸士の食邑を多く沒收せらる。然りと雖管領細川詮文及高國の感壯長會我部元親か書簡等今尙當所に存せり子孫數多に別れ連綿たり同村醫師秋山仁碩及本藩士秋山氏は其裔なり。

○中の坊 同所川の西にあり、同寺塔頭。

本尊 十界勸請曼荼羅 祖師像、百貫坊墓境内にあり。

當坊は本寺開基百貫坊隱居所にて塔頭といへとも余の坊とは格別なり依て末寺に準し毎年正月七日本末の僧徒墓參をなし供養おこたる事なし。

新名村

○寶光坊 新名村にあり。寺領畠八畝往古は本典寺と云。法華宗法華寺末寺。

本尊 十界勸請曼荼羅 祖師像。

當寺は正中三年本寺を今の地へ移す時の草創也高松本典寺舊跡

○土居城跡 同所にあり。三野四郎左衛門是に居れり。

○上坊 往古は本延寺と號す。法華宗大勢寺末寺。本尊日蓮本尊十界勸請曼荼羅、祖師像

當坊は正中二年本寺を今の地に移すの時草創なり。

○西山坊 同所にあり往古は本蓮寺と云、寺領畑二反歩法華宗法華寺末寺。

本尊十界勸請曼荼羅 祖師像

當坊正中二年本寺を今の地へ移すの時草創なり。

●柳川成興 竹堂と號す上高瀬村の漢學者なり初め秋山に學び後豊後日後日田に至り廣瀬の成宜園に學成り國に歸りて徒に授く幕府の末期に際し勤王論を鼓吹せり王政維新後一意育英に従事しつゝありしが不幸病魔の犯す所となり明治三十二年八月十一日没す。享年五十九

●柳川竹堂記念碑 上高瀬村字音田にあり大正十四年十一月十九日除幕式舉行

●立正寺 上の坊の北東にあり住職十鳥慧明師が近年獨立建立

○千満石 同所南の山にあり。潮満れは温ひ干る時はかはけり依てかく名付く。

●下高瀬尋常高等小學校

●上高瀬村

東仲多度郡善通寺町南本郡勝間村、西吉津比地二、北下高瀬村に界す古へ高瀬郷下六村の内であつた。明治二十三年二月上高瀬、新名の二村を合併村制を施行せしもので面積一方里

○九昭和二年末人口三千九百二十二戸數七百八十五

○横山大明神 手力雄命九月十九日

相傳近郷に祭れる。玉串を此社納祀故勸請殿曰舊は石を祀りしか後大石となり今社後に在り人形石云。

○新田大明神 同所にあり、社人吉田氏。祭神新田義貞同義興同義宗祭禮九月九日 社領三石

社記曰新田氏を輔佐して伊豫の國より安藤衛門三郎と云者此地に來り住み因て是を祭れり後故ありて安藤氏吉田と改むる是世々の祠官なり。

○産巢日神社(村社)高皇産靈命外一神を祀る。

○龜山神社(村社)歸來に在り祭神大己貴命外二神。

○寶光寺 東岳山上高瀬村にあり、眞言宗威徳院末寺寺領貳石本尊地藏菩薩 開基不詳中興行寛 西山坊本蓮寺と號し高瀬大坊の末寺

したもので約十戸の檀徒を提げて大本山富士大石寺の末寺となつた。

●上高瀬尋常高等小學校

●勝間村

東麻村、南二宮、西北地大、比地二、北上高瀬村に界す舊勝間郷下七村の内であつた明治二十三年二月上勝間下勝間の二村を合併村制を施行せしもので面積〇、五九四方里昭和二年末人口三千二百八十一戸數六百四十七

社寺

●月枝神社(郷社)上勝間に在り大山咋命外二神を奉祀す。

●天満神社(村社)鳴谷に在り大山津見神外一神を祀る。

●日枝神社(村社)西脇に在り大山咋命を祀る。

●勝造寺 下勝間に在り七寶山威徳院と號し眞言宗大覺寺末開基不詳。

●柞原寺 下勝間に在り眞言宗勝造寺末寺。

史蹟

●勝間城 三野大領世々之に居つたのであるが三野氏は物部守屋の裔で古より此地に住んだ。三野菊右衛門(香川氏元老)は其後である。

○寶珠悲願院 地藏寺 上勝間村にあり寺領一反三畝眞言宗威徳院末寺。本尊 地藏尊。

○光照寺跡 福井にあり今を其地光照寺といへり。

○大門庵 同所にあり、往古大門の跡なり。

○山王權現 同所にあり、社人吉田氏大已貴命祭禮九月未申の日。

○土佐大明神 同所にあり、祭禮同上、言主命元親の祭る所舊矢の岡に有るを某こゝに移す。

○諏訪大明神 同所にあり、祭禮七月廿七日

○八幡宮 同所にあり、祭禮八月十五日 地王堂(同所に在佛供田二畝 日吉山王權現 同所西の脇にあり。祭禮五月後未申日。

○妙見宮 同所にあり。祭禮九月三日 觀音堂 同所首山にあり。此堂は元山寺草創の殘材木を以て造るといふ。今梵字の瓦多し。

○阿彌陀堂 弘法大師修行の遺跡也

此邊に寶善坊大見村西林坊西ノ坊赤皿池坊今一坊の七今地の名に残れりこゝは寶善坊のあとにてあみたの本尊文龜年二月八日權律師良鏡の再建云良鏡は慶長年死刑に行はれ廢せり寛永年高松公二條修驗大乘院有通に再興なされ其後絶たり。

上勝間村
石塔記
讚州三野郡勝間村埜中有石塔其層都十六級高二丈有七尺古碑有永和四年三月六日八字其餘皆凡稽創建當後圓融院御

宇征夷將軍源義滿公治世之日土人不知所以爲何而造立之惜哉不今遺書：鼓人耳夫塔名功德聚幢號與願即以是知爲二世安樂矣維時太守朝散大夫源性京極氏高豊公恐其湮滅命宰臣千田氏興義依之便集塔碑之散告其補其畧山本氏友直爲奉行修復之如初斯日十塔日所集之月日亦滿二三百數呼天哉茲同村威德院法印宥宣敬感兩寄而不已、終引繼徒具頌葉落供養真是興廢之德昭々焉仍刻著于石而已

石門子史愚

延寶六戊午季孟夏六日
如記云歲霜依及數百年、塔石亂散過其半我君命補牧於有宰臣部奉行終其功當修覆之時併記二百三十有字雖刻之石遭冒雨露不歷年而泯絕故爲後世書其記於副楮爲一軸寄附之威德院

貞享二乙巳九月淑日

山本權右衛門尉友直

威德院舊記曰下勝間村加茂の郷野中に石の塔あり此來歷を傳へ聞に人皇一百代後圓融院の御宇若狹の國八百比丘尼とやらんいふ人あり心に立る願ありて四國に行脚し玉ひ此地にて中供養せんとて誓を立て白瀉屏風か浦にて石を集めてづから造り立けれと思議成かな一夜に此所に運ひ建てしとかや塔の高さ二丈六尺石段十六重前に大日如來の梵字脇に年號永和四年戊午五月六日と記す此比丘尼十七歳の姿にて長生在しとかや塔の開眼加茂檢校修行せられし由巡國滿願の後は此處に草

庵を結び命終りしとも又本國若狹に歸任すとも兩説明ならず

塔の西に墳墓あり里人は是を比丘尼塚と云星霜を経しことなれば決しかたく其後大地震にて蓋の石を動き落し折から御領主も山崎甲斐守家治公、丸龜新城を築き玉ひ、御巡在のとき此石を御覽し御城内手水鉢に仰付られ、數人をかけ車にのせ新川といふ所までは容易に行けるか。是より先へは一步も進まず。あとへもとせは安く動く此趣を言上せしかは左もあるへしと然はあとへ戻すべしと羽高重三郎といふ力士に命せられて羽高承りて何の苦もなくの塔頂にあけしと申傳ひ侍る。

○比丘尼塚 同所傍にあり文字あるといへともまめつしてよめかたし。

○威德院 下勝間村なり七寶山勝藏寺三野郡五ヶ院の一なり。眞言宗京都大覺寺末寺、寺領二十石世の人勝門大坊といふ。本尊 十一面觀音(行基大士作)持佛堂(大威德明王)鎮守社三輪大明神

當寺開基未詳天正年中兵火にかゝり寶物寺記等悉く燒失す其後生駒一正朝臣寺領二十石を玉ふ寶曆年中周峯法印丸山といふ地に堂宇建立す今の奥の院是なり。往古は末寺拾貳ヶ寺あり。今僅かに二ヶ寺存す其所へ出す。

下勝間

○壺ノ内大明神 同所にあり。社人吉田氏兼健御名方命祭禮九月中酉日當社は當郷の人戸嶋某の宅地の壺の内に勸請せし鎮

三野郡

守の神也依てしかいへり云々。

○柞原寺 下勝間にあり、寺領貳石眞言宗同寺末寺、本尊千手觀音。

○王子權現社 同所にあり、祭禮五月

○坪内大明神

○勝間城跡 同所にあり。城山といへり何人の居たりしや不詳なりと山頂に家あり。今は埋れて井縁のみのこれり。或云慶郷の城と世人云。

○豊姫大明神 上高野村にあり。社僧延命院社人熊本氏祭禮八月十五日 豊姫左右三女八幡宮合祭す云。

當社は勸請年月未詳生駒讚岐守正俊朝臣深く崇信し玉ふといふ。

○權現宮 同所にあり。社僧延命院。

○辨財天社 同所にあり。喜社僧延命院。

○天照大神宮 同所にあり。祭禮八月十一日社人熊本氏別當延命院社僧寶積院、祭禮八月十一日。

○延命院 同所にあり。七寶山と號す勝樂寺。寺領島二反三野郡五ヶ院の一也眞言宗京都大覺寺末寺。

本尊釋迦如來(弘法大師作)護摩堂不動(自作)毘沙門堂(本尊運慶作)三重寶塔當院開基(空海云未詳)細川伊豫守祈願所也天正年中兵火にかゝり其後延寶八年庚申寺を今の地に移す往古は末寺四十九ヶ寺あり。今僅に四ヶ寺其所へ出す。

- 寶物寺領書翰 天正年中秋山本之進孫四郎の名あり。
- 塚穴 同所境内にあり、不動尊安置す。尙他に數あり略之。
- 七寶山
- 寶積院 同所にあり。眞言宗延命院末寺。本尊阿彌陀(春日作)空海開基。
- 寶珠山
- 誓源寺 同所にあり。一向宗京都西本願寺末寺 本尊
- 勝間尋常高等小學校

●吉津村

- 東下高瀬南比地二、西仁尾、北詔間村に界す古へ詔間郷下十二村の一であつたが明治二十三年二月獨立の一村となつた面積〇、四三六方里昭二二年末人口二千八百八十二戸數五百八十一
- 社寺
- 伊豫神社(村社)津之前に在り伊豫津日古神外一神を祀る。
- 八柱神社(村社)正本に在り田心比賣命外七神を祭る。
- 高津神社(村社)宗古に在り大雀命外一神を祭る。
- 荒魂神社(村社)汐木に在り祭神大物主命外一神。
- 一宮社 素盞鳴命、土佐國より遷し奉る仁保の山地某の祀る處なり。
- 吉津村

- 吉祥寺 七寶山藥師院。眞言宗威徳院末寺。本尊藥師如來慶長年正珍の開基。
- 起圓寺 好月山相傳天正年石山奉願寺紀州鷲の森へ相落るの時某に此地に遁れ來り僧となり。立西と稱し此寺を創す。本尊阿彌陀
- 粟嶋大明神 同所にあり社僧吉祥寺、祭禮
- 塚穴 脇ノ谷片山民部墓。
- 願成寺跡 同所にあり。眞言宗多度郡道隆寺末寺なりしかいつの頃より廢せしや今草庵斗存せり。
- 吉津尋常高等小學校

●莊内村

- 郡の西北端に位して瀬戸内海に突出し東詔間仁尾村に接し他は海に面して居る明治二十三年二月大濱浦、箱浦、積浦、生里浦の各村を併せ村制を施行せしもの面積〇、八四八方里昭和二年末人口四千五百七十五戸數一千三十三
- 社寺
- 八幡神社(郷社)大濱に在り中哀天皇外二神を祀る。
- 木村神社(村社)木花咲耶姫命を祀る。
- 香田浦
- 浦上明神 圓明院秋山氏 事代主成務天皇元年の祭始云。
- 七寶山 寶善坊、眞言日の院末寺 藥師開山

- 長曾我部馬墓 久保にあり。
- 船積寺跡 つむ浦にあり往古の本尊聖觀音、積浦村十輪寺に存すといふ。庄内の本尊と云。天正の兵火の後諸の本尊十輪寺に傳ふと云。
- 木村大明神 大濱浦庄内にあり。社人十輪寺。祭禮八月十五日大濱
- 船越八幡宮 同所にあり、大林中にて此地に珍敷諸堂軒を並へ大社也祭禮八月十五日、祭神譽田仲哀天皇 香川の崇拜する所なり。
- 安養寺 積浦にあり、肇祀未詳明應七年災在、永正年修覆せり、眞言宗高野山金剛三昧院末寺、本尊○阿彌陀、藥師弘法。
- 香藏寺 箱浦にあり。眞言宗同寺末寺、
- 七寶山神宮寺 神正院 生里にあり眞言宗同末寺。本尊如意輪觀音。

- 御崎宮の別當なり此境内に印塔あり七寶を埋しといへり其中琴彈山稻積生里三ヶ所には十三重の石塔あり往古修驗者某の築きしといふ。
- 神宮寺大明神 同所にあり社僧神正院。大己貴命、當社勸請年月未詳文保二年八月修理造營す遷宮導師は多度郡道隆寺圓信是を勤む。
- 御崎明神 同所にあり社僧神正院祭神大己貴命祭禮六月土月中。

當地は讃岐國中西へ指出たる端なり當社百年目に開帳あり其時多くの鯨海邊に來ると古老云傳ふと雖皆人は是を信せざりしに天保年中開帳の間古老の云し如く鯨數多當濱に群り來れり神徳の驗し是を以てしるへし。

○御幸石 同所海中にあり。明神臨幸の地なりといふ土人おしいゝといふ明神社と此石の間船通路なり然共穢ある族はむかしより此間をとをらすもし誤りて通る者あれば鱻たちまちに出て追かけるといひ傳ふ是を土人にとへは近きころに度々しかありしといへり。

- 積浦
- 三嶋大明神 大山祇命。
- 講社大明神 陶山氏の所崇 大日靈神
- 花御前社 倉稻息命。
- 六月八日十二月八日に七十五膳を供へ二月初午四月卯月六月十八日神樂、末社五社
- 七寶山十輪院 安樂坊 眞言田明院末、地藏尊聖觀音
- 芭蕉塚 すゝしや直に野まつの枝の形
- 大濱
- 天神社 柿の大樹あり、高五丈圍一丈八尺。

○秋葉山 古松樹あり、目付の松といふ。
○七寶山壽命院 藥師寺眞言同明院末、藥師妹、開基行基
○藥師堂 銀杏大樹あり。圍三丈。
奥の院

○障子嶋 距陸二丁。
○辨天嶋 二十間

●大濱尋常高等小學校
●箱浦尋常高等小學校

粟島村

詫間莊内の正北に位し北佐柳島を望む東西二里餘南北二十四丁周圍五里東に屬島志々島あり明治十八年以前は各獨立村であつたが明治二十三年併合して一村となつた面積〇、三二四方里昭和二年末人口二千六百三十戸數五百五十一。
縣立粟島航海學校の所在地である。

社寺

●八幡神社(村社)志々島に在り應神天皇外二神を祀る。

●八幡神社(村社)粟島に在り中哀天皇外二神を祀る。

○粟嶋 同所須田の向ふ嶋也人家千斗あり。無類の大濱にて繁昌の地なり大船六七百艘も泊る事あり中國第一と稱す南風にはあしきか商賣多くて一都會なり。

行者山町鍵屋嘉兵衛方に奉公し十四五歳の時西陣の高機を見て工風し遂に我が朝に於て綴の錦を織り出せり夫より古郷に歸りてます。綴の錦を織出せしとなり今京師祇園會十四日役行者山に掛る所の水引唐子遊の模様なる綴の錦は則此勘十郎か文化八年六月迄に織り落しなり親しく見る所古渡りの綴に似て新渡にまさる事遙に上也尙増補し祇園會細記十四日役行者山の條下に見えたり。

○惠比須社 姪子社又は市杵鳴姫命。
相傳此神の氏は昔より水難に遇せし人なしと。

志々島

○利益院 志々島にあり福壽山東林寺、眞言宗明王院末寺、本尊聖觀音、藥師地藏不動毘沙門、鎮守社、清瀧權現。

○八幡宮 同所にあり社僧寶光院祠官秋山氏祭神態神天皇 祭禮八月十五日

當社勸請年月未詳貞享三年三月十日修理造營あり導師は道隆寺惠觀法印なり。

○荒神社○五所大明神○姪子社並同所にあり。以上多度郡寶藏院支配。

●志々島の樟 志々島字楠谷にあり根本の周圍三丈三尺地面を二尺と三尺の高さして分枝す。
所有者利益院
右大正十三年三月天然記念物に指定さる。

○梵音寺 同所にあり滿濤山松壽院聖德太子、開山理源眞言宗多度郡道隆寺末寺。

本尊聖德太子(御自作と云傳)鎮守社荒神。

當寺開基は理源大師相傳此地雉と土龍とを生ぜず元和三年八月九日太子入佛供養あり導師は道隆寺良田法印なり貞享二年七月觀音新開眼あり導師は多度津多開院惠願なり寛永十五年六月五日入佛供養あり寶物威德明王像(弘法筆)弘法の像
○粟嶋大明神 粟嶋にあり社僧梵音寺神子一人祭神少彦名命或は四所明神九月九日。

當社勸請年月未詳慶長十二年二月十二日修理造營あり迂宮導師は多度郡道隆寺良田法印是を勤む寛文元年八月六日修理迂宮あり。

馬木

○馬木八幡宮 同所にあり社僧同上八月十三日祭神 神功皇后應神天皇 日本武尊

當社は昔文明十四年二月修理造營あり導師は多度郡道隆寺秀任たり又元和三年八月九日修理造營迂宮導師は道隆寺良田法印なり又其後正保三年九月十三日修理造營あり迂宮導師は多度郡多開院秀印なり。

○草庵二ヶ所 同所にあり。

○地織綴錦由來 當郡粟嶋といふ處に西山勘十郎といふ者あり天性機織の業を好みけるに幼年より京師に出て室町三條上所

●箱浦岬 は一に三崎と云ふ西北海中に突出する七里餘讚岐極西部の一大岬角にして備前國六口島に面す其海は即ち燈洋なり

○粟島城跡 城山といへり相傳香川氏の出城にて八倉彈正是を守り天正年中兵火にかゝり廢せりといふ。

○海崎城跡 宮浦にあり海崎備前守元村是に居れり應安元年正月七日其子大隅守元高と共に長尾西の城に移り氏を長尾と改む。

●縣立粟島航海學校 明治三十年五月一日村立として開校同三十一年四月三豊郡各町村組合立に變更修業年限二ヶ年を三ヶ年に改めた明治三十二年七月三豊郡立に改め甲種程度とし香川縣粟島航海學校と改稱した。又同年九月機關科の教科を設置した。明治三十九年四月縣立に移管香川縣立粟島航海學校と改稱した。

笠田村

東勝間、二宮、南上高野、西桑山、北比地大村に界す明治二十三年二月笠岡竹田の二村を併せ村制を施行せしもの面積〇、二八三方里昭和二年末人口二千三百十八戸數四百五十六

●忌部神社(村社)竹田に在り手置帆負の命外三神を祀る。

○笠岡村 神代に笠縫のもの住せし故名つくと云。

○長林寺 笠岡村にあり、七寶山地藏眞言宗延命院末寺、本尊地藏芥、(智證大師作)

○宇賀大明神 同所にあり社僧長林寺別當延命院祠官吉田祭禮九月十九日 祭神倉稻貴命、

○天満宮 同所天神山にあり。

○道音寺跡 同所にあり天平年中兵火にかゝり今は道音免といふ田地あり。

○觀音堂 本尊釋迦 彌勒 地藏。

○石神祠 石神にあり神石とて圍り二丈八尺高さ六尺丸き石なり地神の神を齋きたるや春秋の社日を以て祭日とす。

○五社大明神 竹田村にあり。社僧延命院社人熊本氏。祭神天神大神手置帆負命。彦狹知命。天の目一つ神○天日鷲神。祭禮九月十一日。

○當社勸請年月末祥此里は當國忌部の莊とて殊勝の地なり往昔篋竿八百本つゝ貢せしに今其竹枯れて田地となりゆえに竹田村といふ釋迦堂屋敷といふ舊跡なり。

○七義士神社 寛延二年十月より同三年正月十六日迄の間に丸龜多度津兩藩領内の百姓徒黨をし藩吏の苛酷を訴へて救濟方を願ひ出で願意は聽許されしも左の七氏は強訴の首謀の罪名の下に同年七月廿八日金倉川原に於て斬罪に處せらる殊に權右衛門は妻子までも併せて刑場の露と消えぬ後三豊郡笠岡村

天神山に神社を建て七氏の靈を祀る權兵衛の辭世に此世をば泡とみて來し我心民に代りて今日も嬉しき即ち七氏は左の如し。

笠岡(笠田村の内)大西權兵衛、碑殿(吉原村の内)甚右衛門
帆山(十郷村の内)金右衛門、大野(財田大野原村の内)兵治郎
三井(四箇村の内)金右衛門、天神(笠田村の内)彌一郎
南(笠田村の内)嘉兵衛、
笠田尋常高等小學校

比地二村

東勝間南比地大。西仁尾、北上高瀬村に界す本村は舊比地郷下四村の内であつた比地、比地中の二村を合併明治二十三年二月村制を施行せしもので面積〇、四〇六方里昭和二年末人口二千七百九十八戸數五百八十九。

社寺
●森神社(村社)北郷に在り用明天皇を奉祀す。
●春日神社(村社)比地中にあり武甕槌命外二十五神を奉祀す。
●東光寺 臨濟宗東福寺末享保年間小山市兵衛の建立である。
●人物
本村の人物に岐陽、岐陽名は方秀姓は佐伯不二道人と號し正平十八年熊岡郷比地村に生れ幼時京師に至り詩書經書を學び大に宋學を傳へた應永三十一年二月六十二歳で入寂した。

○七寶山德成寺 比地村にあり眞言宗威徳院末寺、本尊千手觀音不動毘沙門。

○岩屋寺跡 同所にあり妙見の靈窟あり、昔は大伽藍なりしか今は小堂に觀音の像を安置す。比丘尼の住し所也、

○七寶山蓮基寺 比地中村にあり眞言宗威徳院末寺、本尊聖觀音、

○免上山 同所山の半腹にあり伊弉諾尊降臨の地なるゆゑ父神の略語ありといふ。又豊田郡木郷村に羽上山あり伊弉册尊降臨の地なる故母神山なりといふと神學者のいへり。

○大水上社 社傍に泉あり。大水上の地に入るを名に負へり。
○砦跡 同所にあり詫間彈正爰に居たり。天正年中落城せり麓に彈正及其臣堤三彌の墓あり。

○國市池 比地二村にあり周圍一里五町。

○石井晦逸 諱は文魯字梅卿通稱梅吉三豊郡比地中村前田の人雅昭の四子なり幼より學を好み初め吉良鶴山に學ひ後九州に遊ひ帆足萬里に従學し業成て歸郷し文久四年家熟(爺陽倉)を開き其郷翁山の南に於て子弟を教授せり。後作州勝山侯に招かれ賓師となり明治六年九月九日歿す。年四十三。

●翁神山の鈴石 比地二村大字比地中にあり所謂鈴地は山の南面の四國道に沿ひ風化閃綠岩中にあり。其範圍延長約百間幅十間乃至二十間上層は扇狀積地にて覆はる鈴石の發見は溪谷にして今日迄に採り盡したりと稱する溪谷三ヶ所あり現在

鈴石の出る所は本尊堂の境内なり。鈴石は中心に龜裂あり一部分離して振れば音を發す鈴石の名之れより起る大なるもの徑二寸五分乃至三寸あり。
右大正十三年三月天然記念物に指定さる。

比地大村

東勝間、笠田、南桑山、西仁尾、北比地二村に界す舊比地郷下四村の内であつた比地大村を明治二十三年二月獨立して村制を施行せしもので面積〇、二一〇方里比地大村昭和二年末人口一千六百三戸數三百三十七

社寺

●熊岡八幡神社(郷社)承平元年三月の勸請で息長足姬命外九神を祀る。

○實相坊 比地大村にあり、眞言宗威徳院末寺、寺領二反五畝本尊 藥師如來行來(行基作)

●萬福院 七寶山實相坊と號し眞言宗威徳院末寺。
○七寶山總宮寺 同所にあり。眞言宗同末寺 本尊藥師如來、承應二年創立せらる。

○勝田池 比地大村にあり、周圍一里六町。

●比地尋常高等小學校
●比地大尋常高等小學校

桑山村

東笠田、南本山、常盤、西高室、仁尾、北比地大村に界す。明治二十三年二月下高野。岡本の二村を合併村制を施行せしもので面積〇、四三五方里昭和二年末人口二千九百五戸數五百九十八。

社寺

- 八幡神社(村社)岡本にあり譽田別命外十六神を祀る。
- 國木八幡神社(村社)下高野に在り祭神譽田別命外十六神。
- 延壽寺 七寶山藥師院と號し眞言宗延命院末寺。
- 名勝 不動瀧 一名經ヶ瀧 岡本七寶連山の南面にあり懸崖より直下すること十五丈傍に不動明王の石像あり附近楓樹櫨樹多く秋色佳である。
- 當村從前は桃樹が多かつたが爰十餘年前から桃樹を抜き桑樹を栽培し遂に郡中の養蠶村となつた。忌部燒土管も此村にて製出され其販路は山陽山陰諸國と九州邊までも擴張されてゐる。
- 當村延壽寺の絲櫻が其昔の姿によみかへり植付てから僅かに十餘年にして早くも七十餘坪を抱擁するに至つた。
- 三豊農學校敷地一町一反一畝八歩 建坪四百六十三
- 桑山尋常高等小學校

本山村

年の後本山郷士足立奎助義武(或は遠親に作る)と云者田若干を喜捨し香花の料となす其後天正年中兵火に罹り其後再興あり宇野忠春記曰今寺領一石四斗四升承仕屋敷一反五畝四歩覺城院威徳院延命院持寶院伊舍那院を三野郡の五箇院と云て寶物寺領ありと。

- 當寺の奥の院は寺の乾方に當りて興隆寺と號す本尊藥師如來也東に當て巖窟あり内に五輪の塔數多あり悉く五字を彫刻す弘法大師の眞筆といへり大師此處に護摩修行せし地也とぞ。
- 五社權現 本山大村にあり、社僧本山寺、祭禮九月六日
- 高良大明神 同所にあり持寶院、祭禮八月十七日瀧本氏彌陀祭神武内宿禰。
- 經ヶ瀧 同所西にあり又不動ヶ瀧とも云三十餘丈あり。
- 八幡宮 岡本村にあり同所氏神なり。社僧本山寺祠官瀧本氏祭禮十月十五日 祭神 應神帝仲哀帝神功皇后
- 嘉永五年四月廿三日夜庫裡客殿一時に燒失し寶物古文書等の大部分を損失せり同年六月直に再再に着手し漸く庫く再裡を再建せしも時恰も維新に際し廢佛論者輩出せしかは再興易に其緒に就かざりしに明治廿三年頼富頼毅僧正當寺に錫を留め寢食を忘れ晝夜寺門の興隆に盡瘁せらる境内を廣め本坊の再積職改稱等より僅々二十餘ヶ年略ほ舊觀に復するに至らる本年二月王門は文安三年の建築なるか明治三十七年八月内務省告示第五十七號を以て特別保護建造物の資格あるものと指定

東上高野、南一ノ谷、西桑山、北笠田村に界す明治二十三年二月寺家及本大村の内川東を合併村制を施行したるもので面積〇、一五七方里昭和二年末人口一千七百六十七戸數三百四十四である。

社寺

- 高良神社(村社)寺家に在り玉無命外五神を祀る貞觀十四年田井式部なる者の勸請である。
- 今原神社同上大巳貴命を祀る。
- 人物 本村の人物として僧教存、僧敏、畫家小西松塙、同小西松琴同小西松籙などがある。
- 八幡宮 同所にあり祭禮八月十五日 社人熊匠社領八反二畝
- 元山郷寺家村
- 本山寺 同所にあり七寶山持寶院三野郡五ヶ院の一なり。寺領十石餘 眞言宗京都大覺寺末寺。四國八十八ヶ所の一第七十番札所是より彌谷寺へ三里。
- 本尊(座像二尺五寸弘法大師作)脇土(彌陀藥師同作)金剛胎藏兩界石塔婆。五輪堂後にあり何人の塚なる事をしらす或は云往古の足立氏の墓ならんと。大師堂。十王堂。鐘樓二王門、鎮守社五所權現。
- 當寺は大同二年八幡神の神託に依て弘法大師の草創なり惠果和尚より付屬の七寶を此峰にをさめ其後平城天皇勅願所となし玉ふ諸堂四十八字坊舎百有餘あり。其後燒失ありて四百餘ある。
- 名稱本山寺八脚門
- 構造形式三間一尺八脚門根切喜造本瓦葺
- 小西松塙 通稱元四郎醫を業とす傍ら畫を學び妙境に至る弘化二年二月歿す年四十九〇同年松塙の子にして安政頃の子松籙名は元太郎父に襲きて業を能くす明治四十二年四月歿す年四十一。
- 本山尋常高等小學校

上高野村

東二宮、南財田大野、南及西本山、北笠田村に界す舊高野郷下二村の内であつたが明治二十三年二月獨立して一村を爲した面積〇、二一〇方里上高野村昭和二年末人口二千七十六戸數四百三十四である。

社寺

- 五十鈴神社(村社)片山に在り天照皇太神外一神を祀る。
- 勝樂寺 延命院と號し眞言宗大覺寺末空海の開基と稱せらる
- 妙音寺 寶積院と號し眞言宗延命院末寺空海の開基である。
- 誓源寺 寶珠山と號し眞言宗西本願寺末寺。
- 延壽堂 高野村にあり七寶山藥師院。眞言宗延命院末寺。本尊阿彌陀(智證作)

○興隆寺跡 同所にありむかしは大伽藍なりしか何年か破壊せしや今藥師堂有五輪石塔數百あり近郷の殊勝の地なり本山寺奥の院といふ。本尊藥師(空海作)山頭に岩屋あり。

下高野

○八幡宮 社僧延命院社人宮本神子一人祭禮九月十五日 神功譽田三女

○上高野尋常高等小學校

●一宮村

東麻、東及南神田、南財田大野、西上高野、笠田、北勝間村に界す明治二十三年二月佐股羽方の二村を併せ村制を施行せしもの面積〇、九四二方里昭和二年末人口二千六百五十五戸數五百十七を有する。

○丸池 二の宮村にあり周圍二十一町。

○大水上神社 羽方村にあり延喜式廿四社の一也社僧龍華寺社人吉田氏祭禮二月八日百手祭九月十五日 土人二の宮と云陶山氏又篠原氏ともいへり、祭神 八幡大神大水上明神、宗像大明神、石殿、本地堂彌爾阿陀釋迦弘法大師作、地藏石像と云ひ傳ふ。末社平家四社宮。

三代實錄曰貞觀七年十月九日丁巳讚岐國大水上神授正五位下同十七年五月廿七日戊申讚岐國正五位下大水上神授正五位上云云。

て二の宮三社といふ公の家に藤樹あり公より此藤大に繁茂して種々の花を影せり依て主人正光を藤樹公といふ此藤雪中にも落葉せされは常盤の藤といふ其後正光か子孫當社の司となり三野守或は但馬守といふ爰に石清水の清き流あり其流の元に大成池あり龍神住玉ふといか成早魃にも水涸る事なし此龍神白黄赤の三色に變するとそ依て三島龍王といふ天正年中長宗我部元親當國亂入の時此三神色と奇瑞を顯し玉ふと社記にしろせとも如何や虚談に近きが故に今とらず。

源氏願書付矢御神納之事

一爰有惡臣、惱日本六十餘州、奪取數國、恣逸行迹、誠以前代未聞之惡逆也、上獲天子中尊公卿大臣之位、下苦諸氏誰不惡哉、非其而已、保元亡爲義爲朝源氏之一屬平治誅伐義朝一家、剩奪其領寄已一門、大極榮花、實暴惡之至也、然有靈驗着明之尊神奉號八幡大神以直祈之則感應不虛、今所祈者、下冥罪於平家惠勝利於源氏倏雪會稽之耻辱、永調頻繁之敬禮者也、依而願文敬白。

一奉獻上上指之矢二十一本

- 八幡大神 大水上大明神 三島龍神
- 蒲御曹司源 範 賴
- 九郎大夫判官源 義 經
- 畠山庄司次郎 重 忠
- 和田小太郎 義 盛

當社勸請年月未詳祭神道主貴比女を祭る天照大神荒鬼の神也といふ。高野山に於て社記曰當國造武敏王も當社を深く歸依し王ひ多度郡を社領になし玉ふとなん。延暦二十三年五月十八日空海當社に詣て法經あり和歌を奉る神感應ましまし御返歌を給し事社記にありされと其の偽をしらす後人の作りたる事明なり依て是をとらす空海翠琴彈八幡宮に詣て入唐せりと記せり嘉永年中源平合戦の時兩家の大将當社に捧し願文あり次に出す。

棟札之寫

大願主沙彌寂阿

二宮大水上大明神敬白上棟建長六(甲寅)年戊亥八月四日 大工額田國弘

應永卅四年八月廿日夜俄に大風吹て大樹社殿に伏掛り大破に及ひしかは同廿九日三神假殿へ遷宮なし正長元年七月廿日縫殿頭安倍有留奉て御造營あり永享五年七月十二日夜半假殿鳴動(同三月晦日修理に依て假殿に遷せしなり)同十一年九月十日二宮但馬守國茂奉て社殿造營す時の守護香川上野介安信筑後守鳥目百五拾貫文を調進すといふ。當社の記録は高松三郎頼重の末葉正春といふ者の筆跡なりしか天正年中の兵火にかゝり焼失せり今存するは其寫ならん。

同書曰八幡大神は爰に垂跡し玉ふの時當村の領主近藤正光公に奇瑞あり依て我家に請し奉て後大水上神三島龍神を合祭り

- 梶原 平三 景時
- 同 源太 景季
- 佐々木三郎 盛綱
- 同 四郎 高綱
- 那須 十郎 亮宗
- 同 與市 宗高
- 平山武者所 季重
- 田代 冠者 信綱
- 猪股金平六 則章
- 佐藤三郎兵衛尉 嗣信
- 同四郎兵衛尉 忠信
- 鈴木 三郎 重家
- 龜井 六郎 重清
- 西塔武藏坊 辨慶
- 駿河 次郎 清重
- 伊勢 三郎 吉盛
- 片岡 八郎 常春

矢一筋宛

壽永三年二月廿五日

平家願書敬白御立願狀

抑此度我君開利運者、遷當社於聖谷都郷奉崇氏神若又无神力之功者、幡國家成四海魔王報怨、仍願文如件

干時壽永三年二月十五日

平中	納言	教盛
大夫		經盛
三位	中將	資盛
少輔		有盛

祈精者

神田治部少輔 貞家

社記に曰藤樹翁代々相續て近藤但州藤原朝臣國茂まで禁裏に仕ふ叔壽永曆の戦の時源平兩家より着願有則神田治部少輔貞家御湯立仕兩家の御願の趣を宣玉ふ三社十二三の乙女に移らせ玉ひて御詫宣有其詞に神は非禮を不受祈心正からされは修身を裂骨を挫くといへども爭其驗あらんや若又正直慈悲の心なれば不祈とても神や守らん也とかやうに神言有て乙女絶入其後五體を震ひ持たる鈴を鳴らしめて人は城人は石垣人は地情は味方は仇は大敵と宣ふ扱は神の乙女に移せし玉ふにや賤き乙女の何としてかく尊音を吐へきやとて人々大いに驚嘆せり夫より彼女不圖席を立て神前の御幣を振拜殿を三度巡り内陳へ飛入諸人を招て云く天の時は地の利に不如地の利に不如地の利は人の和に不如人の恨深き方軍に負け人の悦多き方必勝利を得へし力を以て利を得んとせば必利なき也是則古來より軍に勝へき法なりと兩家へ神答如此と云々乙女は則内陣に三日の間閉籠り其後御戸を開き一七日絶食八日にあたれば朝

粥を好て少し用ひければ唯漠として狂人の如くありとかや誠に三社の御神賤き乙女に移らせ給ひ靈驗を顯し給へる事不思議なり。邦内二十四社詣記。

天つちの久しき代より跡たれし此みなかみにけふそまわりぬ(坂上道啓)

○十五百玉皇子社 同所にあり。

祭神 伊弉諾尊、伊弉册尊

當社傍に往古の石燈籠の破殘二基あり爰を以て古き神社成るをしるへし。

○鰻淵龍王 同所にあり方一間計の淵なり。清き谷水の流に續き清淨の地也、當村干魃の時是を占ふ村民此淵を汲ほして供物をさへけ法經なしける内黑白の鰻必砂中に顯れ出るとなり黒き鰻出れば日ならずして雨ふる白き鰻出れば降らざるを知て其用をなす往古より其吉凶を知る事一も違ふことなししか成干魃たりと雖此淵水潤る事なし。

○十三塚 同所黒島にあり寒川郡條下に見えたり。

○おたらひの宮 同所おたらひにあり。祭禮八月十五日

○孝塚 同所長谷にあり

孝塚碑

むかし此里に八郎といふ者有家貧成故に松尾の里に人の僕となり貞實世に類なく勤めけるか夜毎に人靜て後密に立けるを主人怪み其故を問ふに在所の老父此頃病めり食藥など進め度

暇をもこはで夜の内往來せし也事偏に許し給はれと佗ければ主人もその孝心に感じけるとそ孝成哉實に孝成哉松尾と在所と三里斗の所を主家の勤も濟して在所へ行き曉前にかへり主家にてはたらしかも人に勝れて勤ける事我はいとけなき時父より承り猶よきたくひをも仰ぎねかはん爲と石にゑりつけ侍る。

寛政四年壬子三月吉日

森 在 久 誌

●二宮尋常高等小學校

●麻 村

北仲多度郡善通寺、東琴平町に接し南神田、勝間村に界す明治二十三年二月佐股羽方の二村を合併村制を施行せしもの昭和二年末人口三千二百九十七戸數六百五十二。

社寺

●池八幡神社(村社)下麻にあり祭神譽田別命外二十三神。

●麻部神社(村社)上麻にあり祭神天日鷲命外二十七神。

●法華寺 僧頭山歡喜院と號し眞言宗善通寺末寺道雄なる者の開基である。

○岩瀬池 麻村にあり周圍一里九町。

○法照寺 佐股村にあり一向宗京都興正寺末寺。

本尊阿彌陀如來。

當寺開基未詳初那珂郡生間村に有天保年中故有て爰にうつす

○光照寺麻村 朝日山專教院舊天臺宗松浦教重の嗣子成光在住して本宗に改む。一向宗本願寺末寺。本尊阿彌陀如來

○善納寺庵 同所にあり觀音堂あり。多度郡末庵。

○東日山旭樹院 同所にあり舊天臺宗宗悅と云者蓮如上人に歸依し寛永五年本宗に歸す。

○佛巖寺 一向宗本願寺末寺 本尊

○有光山法蓮寺 同所にあり相傳山佐秀助の後藤村藤四郎なる者出家し貞岸と改め開基し高瀬に居其响子寛永年こゝに轉住

○源宗寺 一向宗京都本願寺末寺。本尊阿彌陀

○僧頭山觀喜院 下麻村にあり、法蓮寺と號す。土人麻の大坊と云。眞言宗多度郡善通寺末寺、本尊阿彌陀(空海作)

下麻村

○池の宮八幡宮 同所にあり。社僧觀喜院、祭禮八月十五日社

人遠山氏 祭神應神天皇。

上麻村

○諏訪大明神 同所にあり 社人遠山氏 祭禮九月九日 土人

象頭宮といふ。健御名方命少彦名命、八坂入姫命、天穗日命帆負命とも云。

○首塚 毎年十二月九日麻の首を諏訪の神に奉りしを埋むる所といふ。

○古塚 世々野田長者の墓といふ。小社あり京女郎といふ。

○古城跡 同所にあり近藤出羽守國久是に居たり。天正年中戦
○敗れて谷に落入り横死せり。今其處を横死谷といふ其時用ひ
○たりし銘鐘諏訪社に納國重とあり世人麻殿といふ。國久は大
平伊賀守國祐弟也天正五年長曾我部元親阿州大西へ發行の時
大西の領主覺用に内通の義申遣しけるに同心あり人質を出し
けるか其後又三好家となりければ元親大西へ打入ける覺用は
相川橋詰に出向て拒戦しかと大西の者皆敵方へ内通しける故
覺用かなはずして此城に逃れ來れりといへり。

又大西京園は近藤出雲守天用と號て京師より阿波國三好郡白
地村に來り居れり同郡泰井莊と讃岐國豊田郡粟井村とを領せ
り頼武の覺用天正元年美馬郡清重の城を攻め城主重清豊後守
を滅し遂に其城を取て移り居れりさるを豊後守の一族伊澤權
之進兵を發して來り圍む覺用戰ひ敗れて三好郡晝間村に走り
願成寺に入て自殺す。弟長頼讚岐に走り三野郡麻の城に居れ
り時に大西孫二郎といふ者有元親に攻められ逃來りて共に居
れり家人深川孫太夫謀反して敵方に内通し敗れ走りて下勝間
戸慶郷の城にて兄弟共に自殺すといへり。

又一本大西京園と小笠原左衛門武重といふ者應永廿九年九月阿
波國に下り叛人三浦荒左衛門を討て功あり故を以て阿波伊豫
二國の間にて所領を賜り白地に居れり武重四世の孫上總介武
俊にいたり始て氏を大西と改む武俊の子伊勢守支出雲守出雲
守覺養と相嗣りとあり末何れを是なるかを知らず。

○天満大明神 同所勢坂にあり、祭禮九月七日 祭神少彦名命

○大日堂

○御手洗社 祭神瀬織津姫命、傳曰山口好久。

○高松皇子權現 並に同所土井に有祭禮八月十五日。

祭神大己貴命、其餘小社十八。並略之

○龍華寺 慈氏山と號す。眞言宗延命院末寺。本尊不動明王

(弘法大師作)

當寺は大同元年弘法大師草創なりといひ傳へり中古兵火にか

り寺記等焼失せり

○十三塚 昔國主住して十三郡外の十三塚とは異也。

●神田常高等小學校

●財田村

東仲多度郡十郷村。南徳島縣三好郡、西本郡河内及財田大野
北神田村に界す明治二十三年二月財田上、財田中の二村を併
せ村制を施行せしもの面積三方面○七八昭和二年末人口六千
七十三戸數一千百六十六

○財田村 此村に希代の田地あり往古大旱にて諸國とも五穀實
たる事ありしに此田はかり嘉穀を出して京都へ進獻せし故穀
感のあまり財田といふ號を玉ふ世澆季に及けるや其しるし今
はわずかに残る其地には用水求むる事もなく又養をかるに不
及して穀よく實るなり財田上の村石野山といふ所等其徴を殘

●神田村

東仲多度郡十郷村、南本郡財田、西財田大野、二宮北麻村に
界す本村は舊勝間郷七村の内であつたが明治二十三年二月獨
立の一村となつた。面積○、七九七方里昭和二年末人口一千
七百三十五戸數三百四十八

●十二神社(村社)地蔵にあり天照皇太神宮を祀る。

●神田神社櫻祭 箕浦の絶勝たる神田神社馬場先の櫻樹數百株
はさき出で四月九十兩日櫻祭を執行する。

○立石大明神 神田村にあり、祭禮 社僧社人宮崎大和。

○當社は大西備中守入道角養城内鎮守社也今子孫武八と云者有
矢の根脇指等數十腰兜の鉢等今尙所持せり。

○石佛山 同村にあり。

○光明山寺跡 同所にあり寺跡なり今釋迦の石像あり。乳不自
由の人祈るとしるし有。

○知行寺山寺跡 同所にありて寺跡なり、文化年中村民石の五
輪を掘出せり今山の頂に建る所則是なり。

○長峯大明神 同所長峯にあり社人吉田氏祭禮九月五日社僧龍
華寺。

祭神瓊々杵尊、此社は伊吹島より干魚を持參供する例あり氏
子云。

す先年より村中に神佛の料にあつ少しつといへとも遙に遠
き所にて玉ひしはふかき慮ある事にや。

○龍王社 財田中村にあり。社僧伊舍那院祭禮六月十八日社領
貳石六斗。

當社は人里を去る事五十町に及ふ山中にあり谷の口奥の内と
いふ所に財田といへる所ある事は前にしるす此龍王社の由來
を尋るに往古は上の村福池といふ所に有。今龍王淵といふ所
あり此所を田とすれば崇あり、永正年中當村北地といふ所に
觀音堂あり善入といへる法師信心堅固にして常に普聞品を唱
念し光明三昧懈怠なく務めけるか或時龍王此善入が夢に告て
曰吾住所川下にして流不淨也願は此川上に紫竹生たる所あり
其地に宮を移すへしとあり善入夢さめて其水上を尋ぬれば紫
竹の繁茂せし嶽あり(此淵今は埋め田地となり紫竹丘と云)此
處に宮を遷ける其後又善入に告たまふ我社一度移すといへと
も川上に人家あり流水清情ならず此水源に九十九谷を経て紫
竹と芭蕉の生せし處あるへし其地へ社を移すへしとなり善入
等は御告の趣人に告くるとも正しき證なければ人は是を疑ひ申
へし奇瑞をあらはし玉へと申と思ひて夢覺たり翌朝しのゝめ
のころ龍女庵の戸にたゝすみ玉ふ善入告てかゝる御姿にては
人いよゝあやしみ中へし只其儘の御姿を拜み奉らんと請ひ
ければ龍女曰汝眞像を見んとならば七日潔齋してと仰あり是
より齋居して七日目の曉に庵の前なる喬木の上に雲烟かゝり

纒に其一手を見せ玉ふ善入信心肝に銘して禮拜し御告の事を請かひ是より谷をかそへて行も知れずまた谷道といふ方の流に添ふてわけ入て尋るに九十九谷の數是りて其元に紫竹と芭蕉の生ひ繁りたる所ありて下に深淵ありて水藍の如し(瀧有高二丈あまり上を雄瀧下を雌瀧と云)誠に深邃絶塵の境なり善入歡て此事を時の領主に祈へて此處へ石壇を築き社を建て遷宮せしなり夫より此地早損の憂なし早年は雨を祈に應あり(俗に我郷といふ龍王の神徳也)其後數年を経て觀音堂に榮慈坊といふ僧あり彼僧曰潤月ある年は觀音寺海中より一門の光明かゝやき鞠の如くなるもの川筋空中を飛行て龍王谷と思ふ處へ星の如く流下る(龍燈なり)昔萬福寺清通是を見たり正徳の頃如雲といふ老人其外ともみしもの有ていひ傳へたり時尅はいつれも子亡の尅なり月日は極なし龍燈木とて楓の大木有り寛永十七年生駒家の老臣三野四郎右衛門巡見のをり此奇瑞を聞て祭田貳石六斗を寄附す伊舍那院預りにて毎年六月十八日祭禮あり上村役人蒸飯を持參する昔は拜殿等もありしか盜賊なと來りて止宿するゆゑ今はなし雨乞の節は假家を建て參籠す祭齋踊(又幸祭踊といふ)此踊を催せば雨降らすといふ事なし古代の本式にすれば費用多き故畧して石野と云在所の者傳へ來りて興行あり大般若百萬遍修行には此地觀音堂にて是を勤む本尊は聖觀音石像なり。龍王の本地といひ傳ふ。

○大河内城跡 同所本篠を去る事西八丁斗なり。大河内十郎左

衛門貴隆祖是に居たり。
○西村城跡 二處あり何人の居たりしや不詳。大平伊賀守出城なりといへり。
○雨宮大明神 同所にあり社領三斗七升八合祠僧宮祠官宮本氏祭禮八月十二日 社神水波女命。
○寶光寺 同所にあり嚴島光と號す。一向宗京都興正寺末寺。本尊
相傳永正年中安藝嚴島の社人其神を背負て此地に來り齋奉り後本宗に歸し開基すと云。
又一説天正事嚴島神土佐伊豆守道雄の開基である。
○西正寺 同所にあり一向宗同寺末寺、本尊
○善教寺 同所にあり一向宗丸法山同末寺寬光寺末寺。本尊
相傳香西伊賀守弟清繼亂を避け此地に來り薙髮してこゝに清潤居り其後本寺を開基す。
○正善寺 同所にあり金頭山一向宗興正寺末寺、本尊阿彌陀
舊大口村西園寺と云て天臺宗なりしか兵災の後此所に轉し此宗に歸すと云中興聖寶。
○品福寺 同所上の村にあり、相傳香川應二郎父子天正年に戦死し其子一向宗同末寺。孫薙髮して數山云近江に居後歸て此に來り此寺開基す。
○北甲山如意輪寺 伊舍那院 中の村にあり。喜多山如意輪寺

真言宗大覺寺末。

本尊如意輪觀音毘沙門天。

開基聖徳太子藥師十二神將不動並に御作と云中興聖寶。

中の村

○龍王社 同所境内に在り祭田貳石六斗 墓三基矢野元明左衛門國秀同一基久米行馬境内にあり。

當寺は聖寶僧正の草創にて三野郡五ヶ院の一後破壊に及しを矢野元明と云者興復したり天正年中兵火にかゝり堂宇舊記等悉く焼失す。往古は未寺二十四ヶ寺ありしも今僅に三ヶ寺あり次へ出す當寺初如意福寺と申せしや其時の鰐口今阿波國美馬郡祖谷久保名本宮三所權現の社殿に存せり元應二と斗の銘あり。

社寺

- 雨宮神社(村社)財田中にあり祭神高靈神外九神。
- 鉾八幡神社(郷社)財田上にあり祭神大輅別命外二十一神。
- 萬福寺 殊勝山と號し真言宗伊舍那院末寺空海の開基である
- 品福寺 教國山と號し真言興正寺末元和年間沙門教山の草創である。
- 正善寺金頭山と號し真言興正寺末寺寶光寺四代の僧覺圓の再興せしものである。
- 名勝 鮎返ノ瀧 濕流豪莊雄大四時詠觀に能く詩人墨客の曳杖するもの尠くない。

宇賀神社

上村にあり椋の大樹あり。

○阿彌陀院 同所にあり光明山藥王寺真言宗仁和寺末寺。本尊阿彌陀如來。

○光顯寺 同所にあり法輪山と號す。一向宗西本願寺末寺、本尊。

○養林寺 同所にあり香谷山と號す。一向宗、本尊

相傳土佐國人宮武八左衛門廣綱と云者此地に來り居り二子有り兄は又左衛門清次を四郎左衛門と云長享元年蓮如上人を歸依し直筆の名號を玉ひ四郎左衛門並又右衛門の子徳三郎とも天文十年薙髮し各一字堂を創立せり該二寺是也。

○若宮大明神 同所にあり

○津峯大明神 同所にあり、

○花岡山城跡 同所にあり、何人の居たりしや不詳

○本篠城跡 同所中村にあり初秋山甲斐守是に居たりしか和泉守常久といふ者此城を守るといふ。天正六年長宗我部元親か兵五千餘人來りて城を圍む此の地は阿波の大西村に隣り山河の固めよければ元親兼てよりは是を得て阿波より讃岐に通ふ路を開く便りをはからんと望みしかと篠頭香川信景か武名世にかくれなければ必ずこれか後詰せんことを恐れ漸く時を待居る所藤目の城を攻めし時香川氏の來り救はさりしは我に心を寄せけるやはた我軍を恐れしにやいかにも訝かしき事なりしか今は心をおくへきならずして攻めとるへしと押寄して常久

人となり勇猛にして能く戦ふといへども城兵終に二百人にて防之和泉常久城を出て戦ふ土佐の兵横山源兵衛か爲に撃れて死す城兵秋山主水といふ者横山を討取て常久か仇を報せしか横山か子十八歳にて父の仇なりと秋山主水を追て討取り提首にて營に歸る城主なければ残兵守りかたく落失たり土佐の部將中内藤左衛門從兵を率て城を守り居りしか同十年に城を棄て土佐にかへる。

●世の中櫻 財田上にあり數百年を経たる老樹にして里櫻花は金瓣にして樹勢旺盛四月上旬花容を爲す地上五尺以上周圍壹丈貳尺三寸樹高四間に達す。

●猪ノ鼻隧道 土讃鐵道線猪ノ鼻大隧道は延長二哩六分で日本三位の隧道であるが大正十二年八月起工し二年十一月の後大正十五年六月廿二日貫通した。

●土讃北線 歳月を閱する七年海拔二千尺の高峯を貫きて總工費八百萬圓。

●本線は大正十一年十月工事に着手し昭和四年四月竣工六年六月月延長九哩一分海拔一千七百七十六尺猪鼻の峻嶮を貫きて吉野川右岸に出て一大橋梁を涉つて徳島縣辻町に入り右轉して徳島街道を横斷し佃信號所に於て徳島線に連絡するものにて此間九ヶ所のトンネルを設け中でも國境猪鼻トンネルの如き其延長實に約一里に達し此れが通過には八分間を要する。

●財田驛 昭和四年五月三日開通。

●戸川 一名を砥川とも云附近に鮎返し之瀧がある瀑流豪壯雄大にして來觀者絶へず往古空海上人が本山寺を創建する際に用材を此の山林に採り時々斧を此の瀑下の岩片にて磨かいたので此地を砥川と稱するとの傳説がある。

●中蓮寺峯 阿波に跨る高峯にして四國新道その東を通し阿波の池田に達す此道路開鑿に専ら力を盡しは久保謙之丞氏なり。

●人物

●大久保謙之丞 財田上の人嘉永二年八月十六日生れ夙に殖産興業に意を用ひ殊に四國新道開鑿に當り盡瘁すること長年月遂に目的を達したるも家産を傾けた明治二十四年十二月縣會開會中疾を得四十三歳で歿した。

●大久保彦三郎 謙之丞の弟で幼より穎悟學を好み後京都及東都に學び明治二十八年盡誠舎を開き育英事業に盡したが明治四十年七月四十七歳で病歿した。

●石崎近潔 字は子高青岡と號す。通稱は與八郎三豊郡財田上村の人にして日柳燕石實母の弟なり幼より學を好み業成るの後邸宅の東面に私塾を開き附近の子弟を教育せりと燕石の如きも十七八歳の頃までは此人の薫育を受けたりと云ふ。

●伊藤一郎 嘉永三年三豊郡貸田村に生る楓堂と號し幼より學を好み長じて和漢の學に達し兼て佛典及印度哲學も兼ね能く

●社人

●祇園社 同所にあり社僧阿彌陀院祠官眞屋氏祭禮六月七日右二社並殿傳言祇園社は昔此地山城國祇園宮の神田なりしと之に因て祭れる事著し神田十石社林五町下略。

●西野村

●天満宮 寶蓮寺。宮本氏八月廿五日。

●是郎内の總社と稱し三十三年毎に開扉あり生駒記に菅公會遊の所にて今に聖廟云る是なり。

●大平祠 大平伊賀守を祭る。

●宗蓮寺 約石山千手院眞言宗地藏院末 本尊聖觀音菩薩、菅公の念持佛云開基山下市右衛門盛久法名則寺號也

●今原大明神

●天満宮 肇祀未詳、宗蓮寺千手院、開基未詳

●中野村

●常覺院 本姓高橋、當山の修驗にて三寶院末。

●鱸塚 黒川にあり

●相傳鱸淵之處鱸住て人を害す一時或人を害す其里人之を屠らんとして山脇峯に來れり時に一僧食を乞て粟飯を與へ夫より其淵に至り鱸を漁りけるに腹に粟飯あり。奇異の思をなして此地に埋たり此時鱸の血流れて水黒くなれり故に黒川と云。

●大平國秀墓 從五位下左衛門尉親國盛自賴朝廷久年領土佐國云。

●財田大野村

●す明治十六年本縣々會議員に擧げられしも就任せず板垣伯の愛國公黨を組織するに當り盡力する所あり明治二十三年衆議院議員に撰ばれ後居を善通寺に移し佛教會に盡す處あり大正四年四月廿五日歿す年六十六。

●財田上尋常高等小學校

●財田中尋常高等小學校

●東神田東南財田、南河内、西辻、本山上高野、二宮村に界す明治二十三年二月大野財田西村の二村を合併村制を施行せしもの面積、三四〇方里昭和二年末人口二千九百九十五戸數四百六十二を算する。

●社寺

●八幡神社(郷社)大野に在り品陀別命外一神を祀る。

●天満神社(村社)財田西に在り菅公外二神を祀る。

●密藏寺 瑠璃山と號し眞言宗伊舍那院末寺。

●光顯寺 大野にあり眞宗東本願寺末法輪山と號し天文十年沙門了源の草創。

●養林寺 同上香谷山と號し眞宗東本願寺末天文十年沙門祐了の草創。

●八幡宮 大野村にあり社領二町九反廿一步 祭禮八月十五日

尊

○藥師坊 同所にあり密藏寺と號す。眞言宗伊舍那院末寺。本
○八幡宮 同所にあり社僧宮の坊祭禮八月十五日 社人宮崎大
和

當社は勸請年月未詳左兵衛國秀渡邊河内再興す伊舍那院住僧
月照上人迂宮導師たり委敷は社内の棟札にあり。

○宮の坊 同所にあり。七尾山成龍院 神宮寺と號す 眞言宗
伊舍那院末寺。本尊阿彌陀佛如來

○萬福寺 上の村にあり。七尾殊勝山と號す。眞言宗末寺
本尊毘沙門天、空海作

○大野尋常高等小學校

○刈田安雄同氏雄同今雄

三代實錄曰貞觀四年四月庚辰讚岐國刈田郡人直講從六位上刈
田首安雄散位從七位上刈田首氏雄阿波博士從八位刈田首今等
三人改有居隸左京職

○丸部明曆

續日本紀曰

承和十五年十月丁亥、讚岐國言、三野郡人從四位上、丸部明
曆、年三十、戶主外從八位上、己酉成男也齡十八歲、入都從
官、遂功勞績被任當郡大領即讓己職拾己自守子道孝養二親、
己酉成老致任、親母亦著各別宅、相去十里、明曆朝夕往還、

舌轉無盡藏、法輪左轉右轉橫轉豎轉自由、自在金無、巴鼻佛
召大衆云、要識取主父子麼吾無隱干爾、初曉在杭州北虜入境
曉耀虛鐵一心念觀音忽穴悲印像、在肩上曉心負焉以故免刑携歸
奉持見今在塔所其居東福一冬無帽、倚僧曰師盍買帽、曉曰無費
僧日乞報知事、曉曰一帽幾直僧曰半千曉曰半千、者可助我香
積四分之一、不可、水仁五年十二月二十五日化、栗棘庵、書
傷別衆曰、來也如是、更問如何如、是如是論佛照禪師。

○綾高準 島田寺の過去帳に曰朱雀院天慶年中藤原純友伊豫國
に在て關東の相馬將門に通款し叛亂をなす帝諸州の吏史に詔
して以て是を討しむ此時に當つて豫州諸郡の大領及讚州三野
大領綾高準等純友に組して兵を構へしかは帝國司吏務をして
反逆の罪を糾正せしむ爰に於て高準叛臣に黨せしを悔てみつ
から葬衣を服し六道錢を首に掛けて洛に至り其罪を陳謝す帝其
情を憐て死刑を宥して信州小縣に配流し上田邑を賜ふ故に世
々其所に住居す邑名を以て氏となし六文錢を以て家の紋とす
これ日本武尊の遠裔綾君之嫡流也下略。

定省年久眷其孝行、在昔曾參不可獨賢望請准據法式以被貴舉
者、勅宜叙爵三階終身免戶内田租。

○丸部臣豊棟

續日本紀曰

寶龜元年三月戊午朔讚岐國三野郡人丸部臣豊棟各以私物養窮
民二十人已上賜爵二級

○櫻井田部連豊貞

三代實錄曰、貞觀十五年、十二癸巳、讚岐國三野郡人、右近
衛將監正六位上、櫻井田部連、豊貞等、並改本居貫右京六條
一坊。

○釋慧曉傳

本朝高僧傳曰慧曉字白雲讚岐國三野郡人幼上叡山學臺教更衣
聽律於泉涌不幾謁爾公、於慧日服勤者數稔矣、又泛舶入宋國
旋二浙、晚依曇希叟於瑞岩、一日室中學百文、撥火公、案言
下有省適、附商舶、而歸、痛自韜理學徒空閑寂漠之濱者多、
正應五年承大亟相釣主東福一香記爾師之乳也。其冬夜小參曰
胡地抽右笋京師出大黃達磨失巴鼻納僧沒商量呼當頭霜夜月
任運落、前溪謝乘拂上堂猶有敵血之功、虎有起屍之用且問主
父子有什麼功用我有四種、妙用其第一節放大光明顯示無上道
甚深微妙、超有無不住中、道第一義、其第二節現大神變、宣
說摩訶、衍法離四句絕百非言詔不可思議、其第三節々具大手
段把須彌筆劈虛空紙、寫一篇章文赤彬々、其第四節々出廣長

讚留玉神靈記曰讚州三野大領綾高準所節を以て當國大廳官綾
大夫高親に賜て世々三野の大領とす三野を以て氏とし天正年
中迄相續せり豊臣氏の世と成て家祿を没し生駒氏に仕ふ云々
三野四郎左衛門は其裔也云。

宗像井上二社記

萩原村の祠官眞鍋氏の處する處なり也粟作る里粟井麻作る里
麻村曰大麻の大畠村麻績み麻野綿作る里を綿村又曰姫郷を今
木郷と云爰に忌部の神を竹田村云今に忌部の社あり笠縫の居
處を笠岡と云箋作の里を箋浦云郡名豊田郡を舊神田那云郷を
姫卿と云是姫神御座處なる故なり是諸の神寶奉納せる國故爾
云々。

古今讚岐國名勝圖繪

卷之十終

古蹟岐國名勝圖繪

卷之十一初

豊田郡

西は海に瀕し東北は三野郡に接し南は阿波伊豫の兩國に隣る和名抄に刈田郡三代實録に神田に作る後今の郡名となる。郷名、山本(辻村、川内、新田池尾中代、古川、原村、山本以上六村此卿に屬す)高屋(西高屋、東高屋、室木、流岡、北岡、村黒吉岡、上土井、下土井)坂本(飯屋浦、上市村、下市村、伊吹島、坂本、觀音寺、中淵、植田、出作、似上九村)柞田(黒淵山田尻、田井、北岡村、大富、八町、柞田、山王、以上八ヶ村姫(和名抄作、中姫、粟井、姫江、丸井、青岡、大野原、福田原、木卿、和田濱、紀伊、萩原、井關、海老流、田野、箕浦以上十五ヶ村)姫薄(姫濱 土産操烟草(吹上村)綿唐饅頭(並和田濱)糍(望木村)信夫石(或作同所九十九威)作垣衣山麓に有江浦草山)松露(有明のはま)小魚(染川)小判石(箕浦)綿(和田濱姫濱)醬油(觀音寺村)

觀音寺町

東常盤、南柞田、北高室村に界し西瀬戸内海に面す西讃の一都會で郡衙所在地である舊坂本郷の一部で觀音寺村と稱し明治十八年一月本村と伊吹島聯合で戸長役場を置いたが。明治二十三年二月合併して觀音寺町と改めた。面積〇、四六一方里一和二年末人口一万四千五百四十五戸數三千九百九十四

○觀音寺村 寺に依て名を得たり、一都會にて人家二千三百あり富人大商多し旅舎あり豫州往來にて繁榮の地なり。金毘羅參詣の輩多く爰に来る故に殊の外賑しし川あり、染川或は琴川と云橋あり。名を三架橋(長さ四十間)といふ。清水流れて海に至る是より豫州へ行の道あり海濱なり。

○琴彈八幡宮 琴彈山にあり、社僧神惠院供像立坊村人秋山氏祭禮八月十五日、樂頭富原氏神子三人神合一人承任一人神人三人是より觀音寺へ二町此地三面後に持滿播磨諸州を觀望し無比壯觀右は有明の濱左は川湊なり

神樂堂。神馬堂。隨神門。勅額(權中納言藤原實秋卿筆勅に依て之を書すと云)攝社(住吉大明神、高良大明神、若宮小社七十五社あり)本地堂、阿彌陀如來(秘佛四國八十八ヶ所の一第六十八番札所)

社記に曰大寶三年秋八月に西の方より雲氣朦朧として日月の

古今云

いつからかしらへの聲の絶にけん琴ひきの山の章きこゑぬ

讀人不知

境内に住吉神社武内神社を初め末社十五社あり、寶物の重なるものは、後陽成院御震翰神號一軸尊證親王彼筆額面及藤原實明作の緣記足利義持花押等あり。三大祭祈年祭は二月二十日例祭は十月十五日、新嘗祭は十一月二十三日に執行し別に春季臨時祭を行ふ。

彈琴山

江村宗珉 全庵京師人

海畔雲山登覽寛。巍然靈廟稱琴彈。神功絃似虞妃調。竹谷風生湘浦瀾。(承應二年作)

登彈琴山

僧海量 淡海人

彈葉山上一登臨。古廟高憑西海濤。備北岸連朝霧遠。豫南天送晚雲陰。水遊誰抱鵬鯤志。浪跡獨憐兵壑心。何嘆客中相識少。相逢勝景是知音。

彈琴八幅

後藤漆谷 東讃人

儼然神廟碧山巔。傑閣長廊臨海懸。最是清風明月夜。万松聲似操琴弦。

○昭和三年九月二十二日縣社に昇格す。

琴山

物集高見

つどひ来て天つ乙女やひきにけん

七〇七

夫木集

松風に波のしらふる琴の浦はかもめか遊ふ所なりけり

中納言 忠正

豊田郡

光を見ざる事三日諸人はあやしむ海濱を見れば、あやしき船の中に琴を弾する老翁あり。梧桐宗權化の僧日證といふ何所の人やと問答ていふ朕は應神帝なり築紫の宇佐に在事久し今京都に遷んと日證奇契の思ひをなし奏曰凡僧のかゝる神明に見ゆる事最去なから世の人救ひ多ければ願ひ奉るは示現したまふ御不思議をと云ひければ忽快晴するや海邊十領頃綠篋を生し甚繁りて篋をなす青松數百株生して綠の帷を覆ふ是を見る人靈現に驚き童男の無慾なるを數百人聚めて竹溪より其御船を山の上に挽上て宮殿を造り琴と船を廟中に納て永く爾現の重跡とし琴彈八幡宮と仰き奉る。其後元文元年三月七日天災あり其時寶物の船板焼失す。

道範阿闍梨

松風にむかしのしらべ通ひ来て今にあとふる琴彈の山

夫木集

松風に波のしらふる琴の浦はかもめか遊ふ所なりけり

中納言 忠正

豊田郡

松風すさぶ琴弾の山

○象が鼻巖 琴弾神社の北西山角にある巨巖なり。其の形状恰も象の頭鼻に似たるを以て名あり。浴日館、有明濱の鏡形、グラウンドを瞰下し、東西南北眺望絶佳天下有数の勝景なりとの定評あり。

●筆の海 同所の傍にあり。

弘安百首

後九條内大臣

ながらへて身にそしらるゝ筆の海かくまでかくはけにいとまなし

●龍石 琴弾山の峯にあり、二つとも高さ五六丈土人大崎山の龍石といふ又龍木といふあり龍神社有此所にて雨を祈る。

●有明の濱 風景比類なし白砂地に満て眞に月夜に看るによし遠境の人此砂を求めて庭砌に敷く人多しといふ。

或人有明の濱の月日貝をえさせしを芝山中納言殿へ参らするとて甲斐守正範

月も日の貝を拾ひてしる人や有明の濱といひはしめけん芝山中納言持豊卿返し

そへしこと葉の玉の月貝光りえならぬ有明の空

●有明濱 空の海雲の浪間に日も月もかねてぞ仰ぐ有明の濱

●清泉 同所にあり。弘法大師の堀玉ふ所なりと云海岸の井なれと名水なり。

○琴弾公園小傘松 形状及現状小松の生する所は公園山地の部

點畫圖等の観るべきもの數多あり境内伽藍壯大閑雅にして櫻あり萩あり楓樹あり四時賽者絶ゆることなし。

●古鏡形(寛永通寶) 有明濱白砂の上に描き出されたる一奇觀なり昔丸龜藩主當地に來遊の際地方の人之を歡び迎へ急速鐵を執て作り一興を供せしものなりと云ふ。

●觀音寺舊墟 香川景全此城に居たり、世人觀音寺殿と云ふ景全は細川家老香川信景か弟なり。天正七年土佐の長曾我部元親なり國分寺の西坊を使として景全を味方にまわし此事兄信景と量り應し信景女子あり男無元親の末子を養んと契約調ひ香川山城守、川田七兵衛、河田彌三郎、三野菊右衛門四人の侍を土佐へ質として交受させ其後信景も土佐へ出仕せり元親悦び馳走あり此年の暮五郎次郎を迎へて婚姻あり本城を渡して信景は隠居せり天正十三年元親か切取たる伊豫讃岐阿波三ヶ國を召上土佐一國となりければ土佐より來り居たる侍は歸り伊豫讃岐の侍長曾我部に從ひし者は彼國へ行者もありまた他國に行くもあり皆所領を失ひ庶人となりたり。

丸龜南條町百歳翁教西か話に生駒家の御時寛永の頃まで御家老上坂勘解由様一万石の格にて城御預り有しと云。

●奥昌寺 七寶山と號す、寺領六石六斗山林方四丁京都東福寺末寺。

禪堂本尊釋迦如來。本堂阿彌陀如來。

當寺は東福寺聖國師の直弟無際禪師の草創也末寺十ヶ寺其所

分約四万七千坪にして三坪に一本とすれば一万五千六百本の割合なり小松の多くは赤松にして所謂傘松をなす幹の太さ最も大なるものは根元に於て周圍二尺八寸最も、小なるもの根元に於て周圍六寸樹の高きもの一丈六尺最も低きもの三尺三寸。右大正十三年三月天然記念物に指定さる。

○琴弾山根上り松 琴弾山兎谷にあり。

甲 幹は根元に於て周圍六尺五寸幹の高さ約一丈

乙 幹は根元に於て周圍五尺一寸幹の高さ約一丈五尺

右大正十三年三月天然記念物に指定さる。

●神惠院 七寶山觀音寺、眞言宗上市浦にあり、四國八十八ヶ

所の一六十九番札所、是より、本山村へ壹里。

本尊正觀音(座像貳尺五寸弘法大師作)金堂樂師如來(四天王

並同作)大師堂額微雲管三字(朝鮮國梅書書)法塔石塔四十九

(兜卒四十九重山)八葉蓮又秘穴金胎不二表配(種々の設あり)

庫裏門額神惠院(三字横朝鮮國、正々齋書)

當寺往時は神宮寺とて法相宗の寺なり日證成は日化といふ上

人此寺にありしとき八幡宮示現の事前に記すか如し或はいふ

和銅二年の草創と其後空海來往し眞言となりし也。

境内に弘法大師創立する所の四十九基の石塔中今尙ほ存する

もの一あり。奇古賞すべし寶物中繪畫絹本着色不動二童子像

一幅絹本着色琴彈八幡宮繪緣起一幅絹本着色琴彈八幡本地佛

像一幅彫則涅槃像一軀は國寶と指定せられ其の他國寶候補八

へ出す。

往昔弘法大師の創立せる所たりしが。今を去る六百五十有餘

年前東福開山聖一國師の直弟無際禪海法源の開山に據り禪林

となる。本尊は無量壽佛にして佛像佛畫數點を藏し又禪寺十

二景の偏額を存す蓋し今を去る。二百四十有餘年前のものな

り境内高燥閑雅にして幽趣あり背後の山中に新四國、新西國

並不動尊の堂宇あり靈驗顯にして順拜者常に絶へず又山頂に

穴居の跡あり。

●一夜庵 同所境内にあり、山崎宗鑑爰に居りしと云。宗鑑の

木像(古物)

宗鑑は近江國の人なり六角家の支流にて初は支那彌三郎範重

といふ延徳年間將軍義尚公六角高頼を征伐ありし時高頼山中

に遁れ幾程もなく義尚公も薨せられしかは範重浮世の夢幼な

るを悟りて薙髮して尼ヶ崎に隠れ居たりしか後に山崎に徙り

住す故に山崎宗鑑といふ連歌を好て風月を翫ひ書を能して人

是を賞す常に油筒を別て是を業とす。十錢を得れば一日の糧

に充つ庵中に茶瓶の外他物なし明國人其書を稱して瑠璃盆中

佛を置如しといへり元和二年此地に移り竹庵を結ひて

上はいぬ中は日くらし下は夜まで一夜まとりは下々の客

依りて一夜庵と名つく或年二月二十日童子一人來りて書を乞

ふ。まん丸くいてもなりき春日かな。其後童子梅花一枝を持

來りて句を進む植種や一粒万梅花童子大に歡ひ此詠を以て賓

客を會せん願は半日子か手をからん筆を執事なかれといふ其後童子來りて一卷の書を出ししめす宗鑑是を見れば自書也。童子曰怪む事なかれ汝か勞に報するに汝か書を蓄ふ家は火災なからしめんと遂に去て見えすと興昌寺に存する勸進帳は宗鑑か筆也。

寶物 古瓦硯、宗鑑所持銘あり。莫言此石規模少一寸玄與万解水衣冠三品蓋社情製

○佛證寺 護念山と號し眞宗興正寺末寺元和年中合田左近なる者難髮して善阿彌と號し粟井村に坊舎を構へ後周尊に至り寛文中此地に移つた。

○光明寺 普照山と號し眞宗興正寺末寺。

○一心寺 持名山と號し眞宗興正寺末寺。

○盛福寺 上市浦に在り妙嚴山と號し、禪宗興昌寺末僧無底の開山である。

○専念寺 下市浦に在り福聚山普門院と號し 淨土宗專修寺末寺

○藥師寺 醫王山と號し禪宗興昌寺末僧寶山の開基である。

●高丸城跡 字酒屋町にあり今田浦となれり、相傳ふ高坂丹波守これに居れり。豊臣公與力にて一万石を領せり。元和年生駒家よりこれを没收したまへりその邊り殿町などの名のこれり。

徒定員四百名と定め。大正八年四月一日五百名に増した。明治三十七年度より昭和二年度迄の卒業生一千四百九十二人に達して居る

●縣立三豊高等女學校、明治四十年五月の開校で元三豊實業女學校と稱し徒弟學校規程に依つて設立されたのであるか明治四十四年四月實業高等女學校と改稱大正十年度より更に組織を改め高等女學校とし同十一年度より縣立に移管された。明治四十年以降昭和二年度迄の卒業者千九百五十六名である。

●大正十二年三月十五日商業學校設置認可。大正十四年三月廿七日新築校舎移轉

○財田川は那珂郡轟及釜淵等の諸瀑布に發源し本山に至り本山川と云ひ飯屋浦に至り海に入る長さ八里余其下流を染川と云ふ。

○柞田川は阿豫國境曼陀峯に發し井關池に注ぎ溢れて川となり飯屋の南に至り海に入る直流三里十二町あり。

○伊吹島 は觀音寺町を西北に距る約三里の地點にあつて往昔は西井島と稱してゐたが島の西浦に當る海はいつも泡をふかして居るので之は海が息を吹て居るのだと云つて息吹をと云教ふのを略して伊吹と改稱しなどの傳説がある島は南北五町周圍四十町三十八間周圍約一里九丁南北が東西より稍長く島の大半は野山で畑も百町歩位あり麥甘藷高黍野菜等を産するが山は岩石多く地味も良好でない、人家は密集して斜面の所

●坂本村城跡 高坂丹波守爰に居れり。豊太閣の時落城廢す。●専念寺 下市に在福聚山普門院、淨土井戸村專修寺に隸す、本尊阿彌陀(春日定朝作)觀音勢至。●蘆峯寺 同處高照山禪宗興昌寺末。本尊阿彌陀佛、梅谷の開基。

●三架橋 數度かけ掛あり、長四十間。

●大西角田墓 下市に在相傳角田は阿波の三好郡天神山の城主大西覺養の弟天正の亂に其族を率ひてこゝに來り歿云村民七右衛門方に於て自殺す。

●中州浦 二百三十七戸。

●乘蓮寺 中州に在普門山、禪宗興昌寺と隸。本尊釋迦、開基月秋、境内に觀音樂師の二堂あり。

●西光寺 飯屋に在景雲山禪宗興昌寺と隸す。本尊無量壽佛不動地藏(並空海作)開基佛智中興寶山。

●藥師寺 飯屋に在醫王山禪宗興昌寺末、本尊藥師、開基は寶山なり。

●踊躍寺 鍛冶分に在妙喜山禪宗興昌寺末。本尊觀世音(行基作)貞治六年一清の開基なりと云。

●縣立三豊中學校明治三十三年四月一日縣立丸龜中學校三豊分校として創設生徒の定員三百人とし觀音寺町設琴陽館(公會堂)を校舎として開校した同三十五年三月二十九日新築校舎落成移轉同三十六年四月一日縣立三豊中學校と改稱獨立し生

に敷石を列べた道路が幾線もあつて市街を形作り平家建多いも何れも瓦葺である。戸數は五百人口貳千五百と注され島民の營業は八分迄漁業で二分は農業者である其祖先は阿藩の小藩主三好中司之丞源義兼で清和源氏の裔である。

行政區畫は觀音寺町に屬し村町會議員三人を出してゐる。學校は伊吹尋常高等小學校あつて四百余の兒童を收容してゐる。

●宗教は全部眞言宗にして七寶山泉藏院がある。泉藏院 宗教を總へて司つて爲め置ある所。

●伊吹尋常高等小學校

高室村

東桑山、南觀音寺、北仁尾村に界し西瀬戸内海に面す明治二十三年二月高室村室本浦を合併村制を施行せしもので面積〇、四三八方里昭和二年末人口二千九百二十七 戸數五百六十八を算する。

○皇太子神社(村社)室本に在り彦火々出見命を祀る。

●羅漢寺 高室に在七寶山蓮光院、眞言宗寶珠寺に隸す。五百羅漢を安置す。

●高屋神社(郷社)高屋にある。社僧寶珠寺 土人稻積社といふ三社あり。祭禮九月十三日、延喜式廿四座の一也上は山頂也其餘稻積は麓也。

祭神 木花咲耶姬命或云保食神稻荷大明神
三代實録曰貞觀九年五月十七日乙卯讚岐國正六位上高屋神授
從五位下云云。

當社肇祀不詳大伊那祇神社を祀ると云當高屋村室本流岡吉岡
五ヶ村の氏神なり豊作をいのりてしるし有依て近年參詣多し
邦内廿四社詣記

代々の春この花咲くやひめもすにみつゝ立よるあけの玉垣

●龍王社 項にあり。

坂上 道啓

●寶光寺 舍那院、眞言宗多度郡普通寺末寺。本尊

●十三塚 傳云天正年中伊豫守細川氏政の妻子十三人土兵に殺
されしを土人塚を築て追福すと云ふ。傳説あれども左にあら
ず説は察川○の條下委し出せり其余所々あまたあり。

●塚穴居跡 西高屋村に二處あり文化年中室本村谷屋忠四郎と
いふ者の畑中にありしをこぼちて壺及連環の類數多出たり高
さ方二間斗ありしといへり。

●寶珠寺 高室にあり七寶山護國院、眞言宗地藏院末寺。本尊
阿彌陀如來(惠心作)釋迦佛法。

●室本村糶 名産の糶屋數戸あるによつて村名を得たり。細川
左馬頭頼之公の糶免許の文書所持する者あり次に見ゆ。

●王太子神社、社僧蓮臺寺祭禮九月九日。
生駒記曰彦火々出見尊を祭ると云此村の氏神也高屋の郷の惣

當社肇祀未詳植田村生土神なり土人加茂良と唱來る或略して

加茂の宮といふ。

邦内廿四座詣記
神代より今に傳へて流れ岡名に流しこしてそかしこき

坂上 道啓

●立專寺 七寶山 眞宗京都本願寺末寺、
慶長の頃沙門正祐の開基なり。

●西蓮寺 流岡に在寶地山、眞宗本願寺末寺。
相傳小西行長の子與助備の岡山にひそみ居り後こゝに來り入
道して正珍と稱し此地に一字を建て當寺を開基す。

●小西正珍塚 西蓮寺内に在。

●植田松 此地菅公の舊跡にして當時手自植たると云世人植田
の松と云遠近の人多く爰に來りて之を賞せり其下に石あり菅
公腰掛石と云。菅神社社頭にあり植田松三字額。中納言言長
卿筆。

○植田天神松 常盤村大字植田菅原神社境内にあり昔菅公讚岐
に主たりし時此地に遊びて之を植へ給へりと云ふ老幹圍一丈
八尺高五丈周圍約五十一間面積百五十五間を蔽ひ四尺乃至九
尺の支柱二百本を以て之を支へ頗る奇觀を呈す傍に天神祠及
菅公腰掛石あり。

一ノ谷村

氏神は高屋の神社として瓊々杵尊木花咲耶姬を祀れり境内に
室本の御子彦火々出見尊難有事其ならん此村大稻祇の神にて
あらん古より稻を以て糶を造りて醸を造りて神を祭るに蓋を
用ゆ珠敷舊例也。

●九十九城跡 或江角薬山と云細川伊豫守氏政爰に居たり土兵
の爲に改落され氏政も落行しか坂本村にて戦死すといふ今城
跡に井あり此地は海にさしかゝる。小山なり信夫石此處より
出て名産とす。

●高室尋常高等小學校

常盤村

東一ノ谷、豊田、南紀伊、柞田、西觀音寺北桑山、高室に界
す明治二十二年二月植田、出作、流岡、村黒の四村を合併村
制を施行せしもので面積〇、三二〇方里昭和二年末人口二千
九百八十四戸數五百九十五を有する。

○社寺

○若宮神社(村社)出作に在り仁徳天皇外一神を祀る。

○加茂神社(村社)植田に在り瓊々杵命外九神を祀る承平中の勸
請。

●加麻良神社 流岡にあり延喜式廿四座の一社人富原祭禮、社
僧寶珠寺ミコ壹人

祭神(大山咋乃命或大口貴命又少彦名命)五所權現。

東本山南辻、豊田、西常盤北桑山村に界す明治二十三年二月
吉岡、古川、中田井村及本田村の一部を合併村制を施行せし
もので面積〇、二六六方里昭和二年末人：二千三百二十六戸
數四百八十三を有する。

○社寺

○五柱神社(村社)天之穗日命外五神を祀る。

○天神社(村社)中田井に在り菅原道眞公を祀る。

○荒魂神社(村社)古川に在り素盞鳴命外二神を祀る。

○吉岡神社(村社)吉岡に在り帶比賣命外二神を祀る。

●御衣八幡宮 吉岡に在り社僧西蓮寺。祭禮八月十五日

●袖茂知岐社 舊琴彈宮旅所村人こゝに祭らんと神躰を奪ひ合
本村は衣、土井は袖をとり各之を祀云。

○一ノ谷池 一ノ谷村にあり周圍二十五町。

辻村

東北財田大野、東南河内、南粟井、西豊田、北本山、一ノ谷
村に界す舊山本郷の一村であつたが明治二十三年二月獨立の
一村として村制をいたもので面積〇、三二三方里昭和二年末
人口二千三百九戸數五百八十六である。

●菅生神社(郷社)邇々杵命外五神を祀る。

●玉泉寺 宇西光寺に在り天臺宗園城寺末天平年中行基の草創
で天文年中九満房の再興したものである。

●大法寺 字大辻にあり日蓮宗大本山光長寺末明治十八年六月の草創である。

○辻村 舊山本今地名に残れり。

○八幡宮 同所氏神薬王寺、眞屋筑前相傳高井下總守の鎮守云祭禮八月十五日。祭神應神天皇神功皇后玉依姫命。

○大興寺 小松尾山四國八十八ヶ所の第一六十一番札處、眞言宗地藏院末寺是より琴彈山へ二里。

本尊薬師如來(座像二尺五寸空海作)脇士(不動明王毘沙門天並同作)十二神將弘法大師像(並湛慶作)天臺大師像(醍醐勝覺造背面に記有)鎮守社(熊野大權現)額(從三位藤原經朝書)本堂額瑠璃殿(三字横錢塘王蘭谷書)

當寺は弘仁十三年空海師の開基の大伽藍にて臺密二教を講して四方の學徒雲集する靈場なり其後今の如く衰微せしなり。

○高井城跡 大辻にあり。高井下總守是に居たり。

河内村

東財田村、南徳島縣三好郡、西栗井村、北財田大野及辻村に界して居る舊山本郷下の一村であつたが明治二十三年二月獨立の一村とし村制を布いた面積〇、六八九方里昭和二年末人口一千百三十四戸數二百二十一である。

●河内神社(村社)坪屋にあり。天都彦根命を祀る。

●國修神社(村社)裏口に在り大國主命を祀る。

○原村 傳云茸野原なるを開き野田の原村云其人は田中半左衛門笹艸一覺の二人と云。

○三寶荒神 字野田に在り、社僧大通寺、社人眞屋筑前辨天社。在青塚 清少納言此處に來り之を祭り始云。

○大通寺 東面山と號す、天臺宗。本尊釋迦多寶左に不動右に愛染舊法。華宗延曆寺末僧、開山口通高井下總守建立。

池尻村

○心光院 號寶珠山禪宗妙心寺に隸す、開山天寧云此寺舊坂本村に在廢寺なるを興す。

○三部大明神 薬王寺、川崎出雲、神子一人、九月十五日。天津彦根命。

○山野池 十四丁漑田卅七町七反餘。

○口無池 十丁十三間漑田卅一町餘。

○新田村 西山九郎右衛門と云者開墾す。

○金安神社 眞屋筑前八意思兼命を祀る。

傳云村民又兵衛重病に罹り患るに或時巫人曰坤隅に神埋ると則堀見れば楠一本並鏡玉石等を得たり是延寶五年村民共に謀りて氏宮と崇奉云。

栗井村

東河内、南徳島縣三好郡、西五郷紀伊、北豊田、辻村に界す舊紀伊郷下の一村であつたが明治二十三年二月獨立の一村と

●薬王寺 靈寶山東福坊と號し眞言宗地藏院末寺。

豊田村

東辻村、南栗井、西紀伊、常盤北一の谷村に界す明治二十三年二月新田、原、池尻の三村を合併村制の施行せしもの面積〇、三二二方里昭和二年末人口二千九百六十五戸數五百九十八を算する。

●社寺

●黒島神社(郷社)池の尻に在り祭神闇山祇神外十五神延喜式内讚岐二十四社の一である。

●荒魂神社(村社)栗屋に在り大物主荒魂神を祀る。

○仁池 豊田村にあり周圍一里十町。

○黒島神社 池尻村にあり延喜式廿四座の一祭禮九月九日社人川波氏、祭神 黒雷神或云圓山祇佐次良姫命又水波女命と。

●肇祀不詳

明和年間當社の祠官出雲は性直にして常に國君に拜賀をなさん事を祈りけるに神靈君公の夢中に告ぐ夫よりして年毎に目見へを許容ありし云云、松尾より西に當りて甚幽谷の地なり邦内廿四社詣記

春ふかみ松の葉宮も黒島の神垣ちかく立さかへけり 坂上道啓

○地藏院跡 同所にあり。

なり村制を施行した面積〇、八四七方里昭和二年末人口二千二百六十九戸數四百四十三。

●大圓坊 寶樹山西光院と號し眞言宗地藏院末寺。

●徳賢寺 金界山と號し眞宗興正末寺文祿の頃合田與左衛門常清薙髮して念西と稱し此地に草庵を結び寛永八年寺號を許されたものである。

●藤目城跡 紀伊村字丸井と栗井村との間に在り齋藤下總守師郷の居城であつた。

●栗井神社 延喜式廿四座一名神大刈田大明神と稱す。社人宮本越後社僧大圓坊神子一人祭禮九月九日。二百八十五座の一祭神(太玉命或云保食神)末社(杉野大明神牛頭天皇)。

續日本後紀曰承和九年十一月乙卯讚岐國栗井神預之名神三代實錄曰貞觀六年十月十五日讚岐國正六位上栗井神授從五位下云云。

●日本紀略曰延喜六年二月七日讚岐國刈田神置從五位下。

相傳曰此命は天神地祇を祭る神道を修行して諸神の棟梁たり其齊部に大功あるゆゑ當郡を神佛料に充行よし神田郡の名あり又神供の稻を刈し義にて刈田といふ豊田と轉す其所由豊は大の義褒美の詞か昔は世俗の忌れはなりと。

邦内二十四座詣記

春に今なはしる祭る秋の田のかり田の社たのみわたらん

坂上道啓

○飛羅岐御前社跡 在鳴山字奥谷にあり。太玉命
 ○與禮神社跡 奥谷に此舊跡あり、太玉命阿波國忌部より當國
 へ遷玉ふ時國人出迎ひ餉の器をひらきし處を飛羅岐といひ又
 御よりと願ひし所を興禮といひ兩神共に太玉命を祀しといふ
 ○於神社 在上野延喜式廿四座の一也、祭禮八月十五日。

祭神(或云應神天皇又若宮とも云)
 當社肇祀不詳今村民九郎右衛門なる者田地の内にあり地頭よ
 り鳥井を寄附せらる。
 邦内廿四座詣記
 やすらげく我世をうへの神かきにはこふあゆみを
 あはれみそなへ

坂上道啓

紀伊村

東粟井、南五郷、西萩原、中姫、柞田、北常盤、豊田村に界
 して居る明治二十三年二月丸井青岡木郷福田原の四村を合併
 村制を布いたもので面積〇、五八五方里昭和二年末人口二千
 六百二十四戸數五百二十四。

- 雨之宮神社(村社)丸井に在り祭神天照皇太神外六神。
- 項懸神社(村社)福田原に在り大國主命外四神を祀る。
- 千尋神社(村社)木ノ郷に在り伊邪那岐命外五神を祀る。
- 十輪寺 丸井に在り平寧山瑞泉院と號し眞言宗地藏院末寺。

ありて多くに伊豫の地に在りしと。

寶物乾陀絨袈裟(大師將來)寶部五鈿、劍五鈿、鈴杵、大檀五種
 (細川勝元寄附)急就章(弘法大師書五色絹なり、嵯峨天皇に
 奉る草稿なり。大通寺南谷譯文一卷。

○松井神社 土人磐の神といふ、祭禮

三代實錄曰元慶元年松井神授從五位下云々。松井神社を上宮
 と唱へ井上大明神といふ祀る所二座岡象女命少彦命(拜殿)宗
 像神社思姫命孝德天皇御宇豐前國岡嶋宮より鎮座したまふ來
 歷あり天照大神宮の姫御子にて御座します。傳記あり萩原村
 の氏神なり村中二社ありて一村の民氏神と崇る。

五郷村

東紀伊、粟井、南徳島縣三好郡及愛媛縣宇摩郡、西和田、北
 大野原に界す明治二十三年二月井關、田野々、海老濟、内野
 々、有木の五村を合併村制を施行したもので面積一方里九七
 六昭和二年末人口一千四百五戸數二百六十六である。

- 瀧宮神社(村社)井關に在り須佐男命外三神を祀る。
- 鎌倉神社(村社)田野々に在り大物主命外五神を祀る。
- 三部神社(村社)内野々に在り天津彦根命外一神を祀る。
- 三都神社(村社)有木に在り天津彦根命外一神を祀る。
- 法真寺 最勝山と號し眞宗興正寺末沙門淨信の草創である。

●福泉寺 同上摩尼山と號し眞宗興正寺末正保元年僧了通の開
 基である。

●東園寺 母神山谷之坊と號し眞言宗地藏院末寺。
 ●妙願寺 眞宗興正寺末天正年間兵火に罹り中絶して居つたが
 明治十六年再興したものである。

○本園坊 母神山谷之坊則姫の郷也、眞言宗地藏院末寺、本尊
 宗坊と云村中にあり寛文年今の此地に轉す。
 ○大池 紀伊村にあり周圍十九町。

萩原村

東紀伊、南五郷、西和田、豊濱、北大野原中姫に界す舊姫郷
 下に在つたあ村を獨立して村制を布いにもので面積〇、二九
 六方里昭和二年末人口一千八百七十七戸數三百五十六。

- 井上神社(村社)岡ノ山に在り天照皇太神外九神を祀る。
- 大谷池 萩原村にあり周圍二十四町。
- 地藏院 巨鼈山、雲邊寺、往古七談議所の一なり、眞言宗京
 都大覺寺末寺。
 本尊地藏井、空海作傳曰空海地藏と千手の二像を作る。地藏
 は本院に安置し千手は山上の雲邊寺に鎮守し奥院といふ。
 當院は行基菩薩の草創なり其後弘法大師修造して末寺もあま
 たあり色々沿革して細川勝元公此寺の眞惠を歸依し繁昌せし
 といふ、今末寺四十院残り舊阿豫讚三州の末寺二百八十寺

●雲邊寺 雲邊山の頂に在り巨鼈山と號し四國六十六番の札所
 で空海の創立である。

○葉神社 有木村にあり社人祭禮、姫の城跡とも云、
 祭神 素盞鳴命

當社肇祀不詳むかし源平亂の時平有盛此處にかくれ居たりと
 云傳ふ其佩たまへる太刀を社に籠て今に有慶長年中の守護生
 駒一生朝臣此事を聞て高松の城へ取寄て見られるに度々怪
 異の事有て故の如く還納ありしと云。

○井關池 五郷村にあり周圍二十六町。

●雲邊山は曼陀峯の東南に屹立し阿波に跨る讚岐第一の高山な
 り。

●曼茶羅ヶ峯 五郷村阿波伊豫讚岐の三國に跨る地點にして此
 處に善根院と稱する佛堂がある。此地は徳島縣三好那佐間地
 大字佐野に在つて一足外へ足を踏めば讚岐と伊豫との土地で
 ある。

●自生の南天 五郷村海濟砥川の溪谷に沿ひ雜木中に散在し大
 なるもの高さ三四尺のものあり元來南天は我國南部の産なれ
 ども多くは庭園の觀賞物となり野生のもの甚だ少し五郷村の
 如きは稀に見る南天の自生地なり。

右大正十三年三月天然記念物に指定さる。
 ●温泉旅館 字砥川に瀧あり上の瀧を雄瀧下の瀧を雌瀧と云ひ
 又温泉旅行を長生館と云ふ此は昭和三年六月三日元田香川縣

知事が同所に宿泊した際命稱したものである。

●和田村

東萩原、五郷、南愛媛宇掌郡、北豊濱、萩原村に界し西瀬戸内海に面して遠く今治に相對して居る明治二十三年二月和田箕浦の二村を合併村制を施行したもので面積〇、九〇方里昭和二年末人口四千四百四十二戸數八百四十三。

社寺

●五十鈴神社(村社)寺山に在り祭神保養命外八神。

●神田神社(村社)箕浦に在り祭神大己貴命外七神。

○獅子か端城跡 大比羅伊賀守國祐是に居たりしなり。

南海治亂記曰國祐は香川信景か家老なり天正十三年豊臣家の命を受けて仙石權兵衛尉久秀此の國守護となりて大陽の氷雪を照す如く細川以來肩をいからせ近頃頃長宗我部か威をかりて民を惱せし者皆所領を失ひ他國へ走り或は庶人となりぬ此國祐も舊領の民家に寄食して日をわたる家に傳へる感狀など大切にすべしと遺言せしかは其家の老女いふ此地の若き者其一人として支體全き者なし吾子は戰死し夫は傷られ兵革の事は聞もおそろし皆是君の爲に如此なりその人を惱す惡業を子孫につたへ家の名譽としたまふいかなる御心そやと諫ければ國祐も悟りて誠に左こそおもふべし我子孫にかはり又家を興す者もあらは先祖の事見度思ふ者もあるへし我は面目も無け

に傳はりて誰知らぬものなく。今も孝子の名は郷土に生きて

苔むしたる墓上香花の絶ゆる事なく。青年學童皆孝子の徳を

追慕して已まず。和田村報徳社は孝子の碑を村費に建てとこ

しなへに孝子の徳を傳ふ。儒者龜井南冥、戊辰の夏年村に遊

びて孝子の美德に感じ、七言一律をのこしぬ。

讚陽巨孝字新藏。愛敬親園壽且孝。定省承歡忘夙夜。李張招

伴適溫涼。丘園玉都無妄。子昂孫薰陶自有方。見得具編傳不

朽。贊讓要道耀千霜。南溟陳人龜井魯。

一、父母を忘る、隙なし

新藏卅二にして別居し父母は兄の家に在りて隱居しけるを、日毎に朝とく起きて安否を伺ひ、農事に出づる毎に其日のあらましを告げ仕事を了へて家路につく毎に立寄り夕餐の後は亦其許に行て種々の物語りして父母を慰め、風雨の烈しき折は晝夜の別なく側に附添ひ、父母若し野に行事あらば之を見送り歸るさには之を迎へて家迄送りつくるを常とせり。妻子も亦之れに倣ひて日毎に起居を伺ひ。珍らしき物はいさゝかの物にても之れを先づ進め參らせ好めるものは遠きを厭はず求め來りて之を進め、雨降などには淋しき折は父母の好物を用意し置き。父母の氣に合たる人々を招きて父母を慰むるをこよなき樂しみとせり。母は生來雷を怖るゝ事限りなかりしかば雷鳴の折には孝子山に在りても野にありても必ず馳歸り母の側に奉仕して慰め奉ること一度も怠らず。母逝きて後も

れとも家運つきぬれば是非もなしと云々其夜海中へ飛入て捨身せしとなり後に父老共此事を申出して悲歎せしとなり今城跡寺と成て雲風山國祐寺といふ。

其子彌八郎國常母は香川元景の娘也年十八にて豊臣公に仕へ天正十五年豊後にて島津氏と戦ひ家人加地又五郎、合田助十郎共に戰死すと云。

又國祐寺縁記に土佐國吾川郡の城主大平伊賀守國祐は永録五年元親と戦ひ軍敗れて香川信景に縁を求め多度郡中村に來り居れり後姫郷を領て和田村に移れるといへり其後前に記せるが如し。

●孝子新藏除幕式

已記二十三日三豊郡和田村大正小學校に於て孝子新藏の建碑除幕式が行はれた。來賓として福家縣社會教育主事、大西郡視學等參列、村長、村會議員等參拜、型の如く除幕式は行はれたが碑の高さ六尺餘、臺石を加へて大約一丈校庭の一隅に建設され兒童教養上唯一の感化資料で和田村民は之を以て郷土の華として頗る誇りとして居る。

孝子横内新藏

田中 隆

明和の頃、讃岐國三豊郡和田村の百姓に新藏と云へる者あり父を彌平治と云ひ幼より孝心厚くよく父母に事へ、一言一行も其の意に違ひし事なく、一舉一動父母の心を勞せし事なかりせば、時の藩主京極侯はいたく其の篤行を鑑賞し、黄金白銀を賜ひ、且毎月米一俵宛を下し賜ひ。當時孝子の美名遠近

雷鳴あらば笠を携へて母の墓上を覆ひ。新藏此處に在りと恰も生ける人に仕ふるが如なりきと。

二、謙讓にして一家平隱なり。

新藏妻をめとりし後も兄と共に長らく一家に在りて兩親に仕へたり或日母は新藏の妻を助けて炊事をなし居たりし折、新藏塗屋より薪を下さんとし過ちて之を落として鍋を破りしかば、新藏大に驚き急ぎ下りて母に向ひて己れの罪を謝しければ、母は之を制して。いなゝ我置き所悪しかりしが爲にしてそなたの罪にはあらぬなりと云ひけるを聞きて。妻は馳せよりにて炊事は妾の引受居る業なるに、うかつにも此れを適當の場所に置き換ふる事に心付かざりし愚かさより出來し事なれば、妾の罪なれば何卒許され給へと詫ぬれば、父も馳來り母と共に夫婦二人のやさしき心根にいたく喜び、暫しうれし涙にかきくれしと、今も新藏の鍋割とて孝子美談として人口に膾炙す。

三、友愛交々至りて弟泣く。

新藏の弟に治郎右衛門と云へりしもの有りけり。家貧しきが上に子供幼くして家業も思ふ儘ならざりしかば。朝な夕な煙も立ちかぬる迄の不幸に沈みたり。新藏は父母のこれを憂へ給はんを氣づかひ己れの事を缺きて之に恵み或時も黄金廿兩の頼母子に加はり有しを一時に他人のもの迄譲り受けて弟に遣はしたり。然るに新藏とても富める身にしあらねば手元

大に不自由を感じ、之れを償ふにとやかくと心を勞し、八ヶ年の長月日を費し、が、此の間新藏の二子藤太郎、八次郎の三人は父の心をおしはかり、世の若ものにも似て力のかぎり家業に努めたりと、その心の殊勝なる此の親ありて此の子有と云ふ可く、弟の治郎右衛門は兄新藏の逝きて後迄も常に涙もて人にこれを物語りしとなむ。

四、夫婦相和して情を全ふす。

新藏の妻、或る年病にかゝりてなやみければ、新藏は厚く之をいたはりて看病に心を盡しつゝも、父母に此の事を知らせじと一入心をいためしが、母はいつしか之を知り新藏に言へる様、そなたも久しき介抱にさぞ疲れつらん。さるに之をおしてつとめなば、そなたの病の起らん事も有らんかと心もとなし。看病の事は治郎右衛門にまかし少し保養することよけれと云ひしに、新藏は母は心にそむくもと思ひ、ただ、母の手前をつくろひ猶も看病に心をつくしたり二子も父を助け孝養至らぬ事なかりしも、妻は遂に此世に無き人の數に入りけり。

五、父母の病に我身を忘る。

新藏妻を失ひて未だ涙もかはかぬ程に母は胸痛の病にかゝり打ち臥しければ、新藏大に驚き悲しみ、何事も打ち捨て、母の傍にありてなにくれとなく、力の及ぶかぎり懇に介抱し晝はひねもす夜はよもすがら。帯をも解かず看病に怠る事なかりけり。

新藏公に對しては其の法度を守り公儀よりの布令に逢へば直に馳て公役に勵み未だ人に後れ或は劣りを取りし事なしと、又年貢を納むるにも米質はもとより依に至るまでも選び毎年十一月に入れば日を限りて上納し。未だ一度も人に後れし事なしといふ。孝子は享和元年七月病の爲めに歿す。享年六十有六

○國祐寺 和田村にあり雲風山と號す。大比羅國祐か居城跡なり。法華宗本能寺に隸す。

本尊 中央題目左右多寶釋迦蓮師像(同堂異位)

舊眞言光明山毘盧遮那寺永祿五年土佐吾川郡の城主大平國祐元親との戦利あらすこゝに來る上に記すか如し其後此寺とはる開基の所以之を略せり。

○大の宮 ○清正公社(同上並國祐寺支配)

○觀音堂 傍にあり同寺末庵。

本尊觀世音、額觀世音菩薩(五字横、大清道光元年歲次辛己季冬供乍浦陸如金沐書)

○長洲松 箕浦にあり西行見返りの松といふ。此地に藤右衛門といへる舊家あり。西行法師諸國行脚の時來り此家に宿す。

其時嗣子の元服の日なりければ幸に西行に加冠を乞ければ藤の字を譲りて藤右衛門と付たり。今に世々藤右衛門といふ。南海流浪記曰寶治二年十一月十七日尾背寺に參詣、此寺は大師善通寺建立の時杣山と云、本堂三間四面、木佛の御作御影

りしかば、母は我子ながらも其孝養の厚きを喜ぶと共に若新藏の體に之がさはりてはとて氣づかはれ、病の少しく怠りぬる時にはことさら心地よげによそほひて、古き衣など取り出して之を繕ひなとなし、又今宵は餘程氣分もよければ、そなたも歸りて少しは寝るべし、蟲の音もいと高し夜も更けつらんなど云はるれば、新藏は歸りたるふりして物陰に立寄りて母の様子を伺ひて、暫しもそのあたりを去らず心をつくし、かど。天命にやありけん新藏の心盡くしの甲斐もなく翌年の冬孝子の志を空しくして冥土の客となりぬ。母の屍によりそひて悲歎の情に迫り殆ど人心を忘るゝ程なりしがかくてはと心取り直して、兄と共に厚く葬りぬ。父も亦年たゝぬ内にかりそめの病の爲めに身まかりければ、新藏は悲哀の極其の身も衰ふるばかりなりき、父母の身まかりし後は朝夕其の靈を祭、香花を手向け時々の果物又は生前に好みし品々を供へ、生ける時の如く物語りなどし又或る時は父母の遺物をなでみさすりみして、正しく父母に逢へる様をなし、且は喜び且は悲しみたりとなむ。

六、孝は萬善の基。

新藏人と交はるにも信實を盡し。殊に同情の心深かりしかば組内にて農事に後るゝ人ある時は二人の子を伴ひてこれを助け。又組内の赤貧者には米麥等を布の袋に入れて、日の暮るゝを待ち人知れず赤貧者に恵み分ちしとぞ。

堂、七祖人傳教大師の御影有之、同十八日還向、依路次、參詣禪名院、松林中有九品庵室、本堂五間、院主念々房、持佛堂、松間、池上、地形、殊勝、彼院主化行之間追送之。こゝの法の草の庵と見しほとにやがて蓮のうてななりけり九法の草のいほりもとめおきし心いさなへ海の西まで念々房かへし

むすひおく草の庵のかひあれは今は蓮のうてなとそきく九法の草の庵にとゝめけむ君かこゝろをたのむ我身を禪名院へ愚狀を三品房の許へ相送りたりける其返狀

善通寺御札拜見云々腰折述手向之心緒而已

いかにして君か御法のとほし火をくらす深山の庵にてらさん君かたの無寺のむかしの聖こそ此山里に住家しめけれきみならて誰かさたらん草庵やかて蓮のうてななりとは九品の蓮の露にやとりけん月の光をみぬそかなしきとゝめけん心の底をしるへにて此山里にすむ人もかな

●和田尋常高等小學校

●箕浦尋常小學校

●豊濱町

東萩原、南和田、北大野原村に接し西瀬戸内海に面して居る明治二十三年二月和田濱、姫濱の二村を合併町制を施行したもので面積〇、一六一方里昭和二年末人口四千四十三戸數九

百十三

●八幡神社(郷社)呼田濱に在り帶仲日子命外二神を祀る。
 ○和田濱 初め姫濱といふ伊豫海道にて人家三四百軒あり。大賈多く旅舎あり綿は此地の名産なれば諸國より來る舟多くて繁榮の地なり此邊西海をうけたる海邊なれば船を泊すに便なし依て明和年中當地の豪族藤村喜八郎と云者上に申して二百十餘間の石堤を築きて船を泊するの便とす其恩澤に浴するもの多しと云。

○蛭子社 ○三寶荒神社(同所にあり)並社僧滿願寺祭禮九月廿七日

○蛭子社 ○荒神社 ○金毘羅社 ○住吉社 ○松尾社 ○稻荷社 ○並宗林寺支配

○滿願寺 補陀洛山皇泉坊 眞言宗地藏寺末寺。本尊聖觀音(惠心作)多聞天持國天藥師(享保十三年田村神の社地に移す鎮守社 田村大明神 開基不詳中興貞周なりと云。

○宗林寺 無量山利益院。眞言宗同寺末寺、本尊阿彌陀佛、舊眞福寺云、

姫濱村
 ○一宮大明神 姫濱ならん社僧滿願寺祭禮九月十三日、社人神田筑後 巫女一人

○地藏堂 ○釋迦堂 ○藥師堂(並同所にあり並滿願寺支配)
 ○姫八幡宮 社僧宗林寺滿願寺、祭禮八月十五日、社人神田

讚の一隅に僻在すると自ら名聲を求めざりし結果たりと雖も紅毛遺言五冊燬下餘錄等の著を公にして世を益すること多かりしと。

○高村太平 小隱と號す本名橋正容三豊郡和田濱の勤王家なり文化十年六月十三日同村に生る少壯彫刻を業として頗ふる其技に達し或時一彫刻物を藩主京極侯に献せしかば其妙技を嘉賞し號を小隱と賜ひ苗字を許され傍ら文墨を弄し汎く知名の士と交遊す安政元年尊攘論の勃興するや燕右君田の諸士と氣脈を通じ國事に盡す所あり文久三年十月澤宣嘉卿の逃れて來るや庇護して伊豫に至らしめ慶應元年以來屢々長州に至り毛利公に謁し献策する處あり慶應三年同志を糾合し澤宣嘉に従行し奥州に出征し國事に盡瘁する事多し維新後居村の戸長を勤めしが後辭して専ら彫刻を業とし傍ら文墨を以て老後を樂しみ悠々自適せしか明治十年二月十七日齡六十三を以て逝けり三女重女常に父に隨行して勤王に盡せり。

○永徳屋政藏 は三豊郡和田濱の人ジンキ(綿繰)及砂糖製造業を爲す夙に讚岐及東豫に於ける勤王の士と交り深く又常に刀劍書畫を嗜み丸龜藩士と往來し或は中山左門阿州劍客に劍道を學ひたりして陰に勤王家を保護せし事多かりしと

危機一發宣嘉卿を助く
 會々文久三年澤宣嘉卿但馬生野に於て義兵を擧げしも武運拙なく一敗地に塗みれ四國の地を指して遁れ時恰も文久三年十

巫女一人

末社(祇園社)御供水(同所にあり)
 社記曰當社は孝徳天皇御宇豊前國岡嶋宮より遷座したまふ。南海流浪記曰寶治二年戊申十月廿七日伊豫國寒川郡地頭(小川六郎祐長)建立云々瑞津姫命市杵嶋姫命等を合祭すと云。又曰楠木乃本を阿彌陀佛に造り堂を覆へり其木の末は榮へて枯れすありと云。

●乾餿餛 従前より賣れ行はよかつたか近時山陽・山陰、伊豫九州、北陸、北海道等まで期待さる其金額は年に百萬圓を下らずと云ふ。

●合田新左衛門 豊濱の人で元祿の頃和田姫之江郷の荒蕪地を開墾し修築し溜池を作るなど私財を投して公益を圖つた。

●藤村墨雨 名は直弘字は毅順通稱音九郎澹濟、今是などの號がある畫を能くし俳歌に巧みであつたが安政二年十二月五十九歳で歿した。

○合田求吾 合田氏は西讃和田濱の人徳川の末期に於て醫術隆々時代の享保天保間に生を得て和漢の學に精しく術は西洋の最新術を學びて其奥秘を窮め望月三英富永獨嘯庵等の錚々たる人物と交際し其業日に月に妙域に達し治を乞ふもの門前市を爲し弟子益々進み關西に在りては刀圭界の巨擘として人々の尊敬を蒐めしもその姓氏の世人に喧傳せられざりしは居西

月十九日の夜從士高橋甲太郎を召連れ來りし時右兩人を綿倉へ潜ましめ種々手厚き庇護を加へ二氏を無事に伊豫蕪崎なる三木左三方へ脱れしめたり。其時卿は荷物かたぎに従者高橋か主人に變装しゐたり因に高橋は出石藩士にして後從五位を贈らる。

大野原村

●豊濱尋常高等小學校
 東中姫、萩原、南豊濱、北柞田村に果し西瀬戸内海に面して居る明治二十三年二月大野原、花稻の二村を合併村制を布いたもので面積〇、五二三方里昭和二年末人口六千六百二十八戸數一千三百五十。中姫村を本村に合同にす。

●三島神社(村社)花稻に在り祭神大山祇神外七神。
 ●八幡神社(郷社)大野原に在り足仲日子命外二神を祀る。寛永二十年の草創である。

○慈雲寺 正重山開山日慈正保二年、平田源助建之父正重法名慈雲云法華宗京都本國寺末寺。寺領三石三斗一升三合畝七反八畝歩。

○天満宮 祭禮六月廿五日右社内に在、末社金毘羅社
 ○雲邊寺 阿波國三好郡にあり巨龜山千手院四國八十八ヶ所の一第六十六番札所眞言宗京都大覺寺末寺日本第十八の高山其

山崔巍直上三百仞四州に跨り絶景の地なり。是より小松尾寺迄二里半。

本尊千手観音(座像三尺三寸岨法大師作)脇士(毘沙門天不動明王並同作)千佛堂大師堂○鐘樓二王門額(巨鼇山雲邊寺、並弘法大師筆)

當寺は弘法大師の草創なり當時四ヶ寺有四國坊といふ後廢して阿波坊残る故に阿波の修造なり境内四ヶ國の境なり堂中本尊の座する所讚岐の地なる故讚岐の札所の數に入れり相傳東は阿波南は土佐北は讚岐西は伊豫萬樹蕃茂して大さ速袍巨鼇最負するに似たり依て巨鼇山と號す。實に是諸佛都會の靈場たり寺記に曰く此地に米成といふ人あり狩獵を好み心暴戻にて日夜殺生を好て仁慈の心なし或とき狩して鹿を射るに鹿矢を負なから疾く走りて見失たり不思議に思ひ尋ねしに吾射たる矢の佛の背に立て血流あり米成驚きて感悟し吾人と生れて仁慈の道を知らず明暮漁獵に耽りて罪孽を造る事を悟らしめんため大悲大慈の方便にて鹿に化して教たまふを難有とて隨喜の涙にくれけるか是より郷黨の善人となり薙髮して佛乘に歸し臨終正念に終りける。舊は地藏院の奥院なり一時兩寺の僧侶爭論起りて公訴に及び終に一寺々々なりしといふ。

○八幡社 大野原八幡宮の社後椀貸穴の上に一説に或内なる於社なりと云いかゝ走手持。

○大野原村記

を獨立村制を布いたもので今年月日頃大野原村へ合同せる面積○、一二四方里昭和二年末人口一千三百十六戸數二百六十八

● 柞田村

東紀伊、南中姫、大野原、北觀音寺、常盤に界し西瀬戸内海に面す明治後黒淵、山田尻、北岡、大島の四村を合し柞田村と稱し明治十八年一月柞田村出作村聯合役場を設けたが二十三年二月柞田村は獨立の一村となり出作村は常盤村に合した面積○、四二四方里昭和二年末人口四千九十一戸數七百八十八

○神照寺跡 七寶山普門院と號す。

黒淵村

○山田神社 延喜式廿四座の一○社人横野飛彈ミコ一人 祭禮九月九日、土人黒淵神社と云。

祭神月讀命。素盞鳴命。大日貴命。

當社肇祀不詳むかしは豊の社といふ。

邦内廿四座詣記

こゝもまた山田の原とあふきみる春は朧の月よみの神

坂上道啓

○金剛寺 字大昌にあり眞如山、禪宗東本願寺末寺、開山寒山本尊(阿彌陀行基作)

相傳大野原といふ村なるを京鹿ヶ谷木屋與一左衛門大阪備中屋、三島屋等之を開拓せんと謀る又大阪松屋等にもがり官に請しに許容あり慶安二年二百三十六丁二反五畝を得たり時に井關池堤屢壞れ再築なし難く然るに明曆二年申十二月に至り與一右衛門取替出金七百廿一貫目を他の三人債ふことを得ず讓度と成其子與左衛門全家引越名を源助と更め此處に居す。

○塚穴十一と其塚説

相傳此地開拓の時百七十餘ある中今中の残るは柞貸平塚角塚豆塚。

傳曰椀塚は地主神を太子殿と稱へ穴へ入者なし村人椀を得んことを乞へは倍せり一時中姫人此塚上に在す應神祠に用あり食飯箸悉皆借て事足せり後に村人借て一箸を失せり夫より止と云當時開墾の時此穴に入る人あり神人告て曰く八幡を祭れと依て此穴を奥の院と云。

福田原

相傳正保年中米屋九郎兵衛開墾して此一村皆始田たるに正治四年平田源治に譲り安永年藤村喜八郎に譲云。

○藏王權現 十輪寺巫女一人九月九日、安閉天皇

○庚申堂 正面金剛 接の天皇寺より萬治年に移祭る。

● 中姫村

東紀伊、南萩原、西大野原、北柞田村に界す舊姫郷下の一村

○松林寺 眞如山禪宗寺末寺、本尊地藏開基天安

○正樂寺 海圓山山田尻村にあり、禪宗東本願寺末寺、本尊

(地藏空海作)開基は無際中興は棟揚也。

○聖麻 俗に天満宮を祭る跡と云又菅公當國の刺史たりし時の舊跡たりともいふ聖廟と稱するは是文宣王なり此地は往古卿學所にて聖廟残りたるを管神と誤り來る成るへし村を田井といふに井なとありて釋尊の禮行れしや弘法大師十二歳にて外舅朝散大夫阿刀大足に儒書を習ひし事見えたり十五歳郷里の塾を出て京師に遊學せしことまたあり郷學のありたる見るへし廿八歳郷里の儒傳云無詩左傳尙書を聞等の事郷學の殷しるへし又管家文章に詩の出たるもあり。

西野村

○宗運寺 眞言宗地藏院末寺、本尊

○天満宮 祭禮八月十五日社僧宗運寺

○柞田川 源を五郷村大字田野々に發し觀音寺町大字觀音寺に至り海に入長さ五里。

○高橋松齋 謙堂と號す三豊郡柞田村の醫師にして政治運動に關聯し明治十五年の頃より改進黨に入り始終一貫時に議政壇上に時弊を痛罵し縣議に地方の治に參し豫讃の連楸たる鐵道の開通の如きは期成同盟會長として盡す處多かりしか突然病を得て大正六年八月廿三日暮鐘と共に六十四才を一期として逝去せり。

發行所

高松愛媛印刷所

香川縣高松市(本町)

印刷所

高松愛媛印刷所

香川縣高松市(本町)

印刷所

高松愛媛印刷所

香川縣高松市(本町)

發行所

高松愛媛印刷所

香川縣高松市(本町)

昭和五年十月二十五日發行
昭和五年十月二十五日印刷

高松愛媛印刷所

610
35

